

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第99集

# 幡 羅 遺 跡 III

— 実務官衙域の調査(1)・道路跡の調査 —

---

2008.3

深谷市教育委員会



---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第99集

幡 羅 遺 跡 III

— 実務官衙域の調査(1)・道路跡の調査 —

---

2008.3

深谷市教育委員会



# 卷頭図版 1



幡羅遺跡遠景（南から）



第4次調査区

## 卷頭図版 2



第 24・25 号建物跡



第 34～36 号建物跡

卷頭図版 3



第 26 号竪穴建物内鍛冶炉



第 7 号溝

## 卷頭図版 4



第 21 次調査区 A 区



第 1 号道路跡

# 序

幡羅郡役所跡（幡羅遺跡）は、県内で2例目の古代郡役所跡として注目される遺跡です。これまでに、大型の倉庫跡や建物跡、鍛冶工房跡、道路跡などが、広大な敷地の中に配置されていたことが分かってきました。幡羅遺跡周辺は一面畠として残っており、遺跡の保存状態は非常に良好です。また、東には西別府廃寺跡、西別府祭祀遺跡もあり、古代郡役所跡の景観を非常に良く残しています。

大化の改新以降、様々な改革が行なわれ、約半世紀をかけて日本という国家が整えられていきます。幡羅遺跡はそうした時代の中で形成され、200年以上という非常に長期間にわたり幡羅郡の中心であり続けました。こうした地域史の中でも中核となる遺跡が、ほとんど無傷で残っている例は全国的に見ても稀であり、地域で誇れるものです。そのため、深谷市教育委員会では、幡羅遺跡範囲内容確認調査を行ない、この貴重な遺跡を末永く保存していく所存です。

今回の調査報告書は、郡役所の実務的な機能を持っていたと思われる区域の調査成果の一部と、道路跡の調査成果をまとめたものです。この成果を広く市民の皆様にご紹介することで、日本の歴史の中に息づく地域の歴史や文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

最後に、地権者の方々をはじめとして、発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして序にかえます。

平成20年3月

深谷市教育委員会

教育長 猪野幸男



## 例　　言

1. 本書は、埼玉県深谷市東方に所在する幡羅遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、重要遺跡の範囲内容確認調査であり、国庫補助金、県費補助金の交付を受け、深谷市教育委員会が実施した。
3. 調査にあたっては、文化庁文化財部記念物課、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会の指導を受けた。
4. 今回報告するのは、平成15～17・19年度に行った、第4・6・15・18・21次調査に関するものである。但し、第18次調査で確認された特殊土坑については、本書では報告しない。各調査区の地権者・地番・面積・調査担当者・調査期間は第1表の通りである。
5. 発掘調査及び出土遺物の整理、報告書の執筆は知久裕昭が担当した。
6. 遺跡の基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
7. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
8. 本遺跡における概要は一部公表されているが、本書をもって正報告とする。
9. 発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

文化庁 埼玉県生涯学習文化財課

青木克尚	赤熊浩一	浅野晴樹	新井 端	出浦 崇	出縄康行	井上尚明
今井 宏	江口 桂	大橋泰夫	大谷 徹	書上元博	金子正之	川原秀夫
木戸春夫	木下 良	木本雅康	栗岡真理子	小林 高	小宮 豪	小宮俊久
齋藤直美	齋藤欣延	酒井清治	坂井秀弥	坂爪久純	坂本和俊	佐藤 信
寺社下博	篠原英政	末木啓介	菅谷浩之	鈴木靖民	須田 勉	高島英之
高橋一夫	竹野谷俊夫	田中広明	田中弘志	辻 史郎	鳥羽政之	富田和夫
永井智教	中島広顕	中島 宏	中村太一	根本 靖	原 京子	平野 修
昼間孝志	深谷 昇	藤木 海	松田 哲	松本太郎	水口由紀子	宮瀧交二
宮本直樹	村木志伸	村松 篤	室伏 徹	山路直充	山中敏史	吉野智貴
吉野 健	渡辺 一	(敬称略)				

## 凡　例

1. 図面中の方位は、全て国家方眼座標の北を表示している。
2. 遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗り、灰釉陶器の断面を網掛けで表現した。また、釉のかかる範囲や赤彩部分については、適宜スクリーントーンで表した。
3. 遺物観察表の記載は、以下の通りである。
  - ・計測値の単位はcmである。
  - ・器径、器高で（）を付したものは推定値である。
  - ・種別は土師器をH、須恵器をS、口クロ土師器をR、灰釉陶器をKとした。
  - ・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。  
A…白色粒子、B…赤色粒子、C…黒色粒子、D…石英、E…角閃石、F…片岩  
G…白色針状物質、H…砂礫、I…雲母
4. 遺構の略号は、次の通りである。  
建物跡…S B、竪穴建物跡…S J、溝…S D、土坑…S K、特殊土坑…S X、道路跡…S F
5. 遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。
6. 土層説明中の色調については、『新版標準土色帖』によった。

年　度	調査区	調査期間	地権者	地　番	調査面積	調査通知	担当者
平成15	第4次	H15.9.10～ H16.2.10	持田高次郎 山崎松男 金子 寛	東方字辻3042、 3043、3045-1、	2,000m <sup>2</sup>	H15.8.26付深教生発第9181号 H15.11.10付深教生発第13205号	知久裕昭
平成16	第6次	H16.9.7～10.29	富田博一	東方字辻3070-1	200m <sup>2</sup>	H16.9.8付深教生発第9332号	知久裕昭
平成17	第15次	H17.5.16～6.1	富田博一 岡本卓雄	東方字辻3070-1、 3071-1	200m <sup>2</sup>	H17.5.11付深教生発第88号	知久裕昭
	第18次	H17.9.1～12.15	平川照次 富田俊行 山崎松男	東方字辻3026、 3040、3045-1	2,700m <sup>2</sup>	H17.7.28付深教生発第245号	知久裕昭
平成19	第21次	H19.4.11～6.29	富田佐波子	東方字辻3057-1	1,400m <sup>2</sup>	H19.4.4付深教生発第21号	知久裕昭

第1表　調査区一覧表

# 発掘調査の組織

発掘調査（平成15～17・19年度）、報告書刊行（平成19年度）

教育長	蜂須　栄	(平成15年度)
	青木　秀夫	(平成16・17年度)
	猪野　幸男	(平成19年度)
教育次長	古川　国康	(平成15～17年度)
	石田　文雄	(平成19年度)
次　長	大澤　芳正	(平成15～17年度)
	中村　信雄	(平成19年度)
事務局　深谷市教育委員会生涯学習課　課　長	吉村　善也	(平成15年度)
	山口　清	(平成16・17年度)
	澤出　晃越	(平成17・19年度)
主幹兼課長補佐	澤出　晃越	(平成17年度)
	武井　茂	(平成19年度)
課長補佐	田口　英夫	(平成15年度)
	原　常博	(平成16・17年度)
	猪野塚　昇	(平成16・17年度)
	萩原　昭一	(平成17年度)
	大谷　住雄	(平成19年度)
文化財保護係長	土屋　次雄	(平成15・16年度)
	青木　克尚	(平成17年度)
	古池　晋禄	(平成19年度)
主　查	森下昌市郎	(平成19年度)
	鳥羽　政之	(平成19年度)
	高村　敏則	(平成19年度)
主　任	古池　晋禄	(平成15年度)
	青木　克尚	(平成15・16年度)
	畦元　直大	(平成17年度)
	荻野　直美	(平成17・19年度)
	知久　裕昭	(平成17・19年度)

主 事 矢野 有紀（平成15年度）  
荻野 直美（平成16年度）  
知久 裕昭（平成15・16年度）  
主事補 幾島 審（平成19年度）  
臨時職員 永井 智教（平成16・17年度）  
栗原貴世実（平成19年度）

#### 調査参加者

阿部ルリ子	市川喜和子	伊藤 昌	江原佳与子	大木 良子
大澤 大美	大島 周子	小野寺和子	笠原 淑江	河合 詔子
久米 紀子	倉上多美子	栗原 知恵	小林 里枝	小沼 和子
島崎 祐子	砂田伊久子	関口由美子	高田 秀子	滝田 悅子
田中香代子	根岸 紀次	浜野 光子	藤浦 春枝	藤野ウメ子
丸山 和枝	棟安 祥子	本橋 玲子	森 光代	除村 敦子
横山 明美	吉野九の枝	吉野真由美	吉野みゆき	

# 目 次

序

例言

凡例

発掘調査の組織

I 発掘調査の経過 .....	1
1 調査に至る経過 .....	1
2 調査方法 .....	1
3 調査の経過 .....	1
II 遺跡の環境 .....	3
1 地理的環境 .....	3
2 歴史的環境 .....	4
III 遺構と遺物 .....	19
1 実務官衙域の調査（第4・18次調査） .....	19
a 概要 .....	19
b 石器 .....	19
c 建物跡 .....	20
d 墓跡 .....	26
e 壁穴建物跡 .....	33
f 土坑 .....	86
g 溝 .....	103
h 二重溝と土塁による区画 .....	107
2 道路跡の調査（第6・15・21次調査） .....	133
a 概要 .....	133
b 繩文時代の遺物 .....	133
c 道路跡 .....	133
d 壁穴建物跡 .....	136
e 溝 .....	155
IV 調査のまとめ .....	162

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第1図 グリッド分割図	2	第38図 第13号竪穴建物跡出土遺物（5）	41
第2図 埼玉県の地形図	3	第39図 第13号竪穴建物跡出土遺物（6）	42
第3図 舶羅遺跡周辺の遺跡	5	第40図 第14号竪穴建物跡	46
第4図 舶羅遺跡周辺の地籍図	6	第41図 第14号竪穴建物跡出土遺物	47
第5図 舶羅遺跡の範囲と周辺遺跡	7	第42図 第15号竪穴建物跡	48
第6図 舶羅遺跡全体測量図	8	第43図 第15号竪穴建物跡出土遺物	48
第7図 第4・18次調査区全体測量図（1）	9	第44図 第16号竪穴建物跡	49
第8図 第4・18次調査区全体測量図（2）	10	第45図 第16号竪穴建物跡出土遺物	50
第9図 第4・18次調査区全体測量図（3）	11	第46図 第17号竪穴建物跡出土遺物	51
第10図 第4・18次調査区全体測量図（4）	12	第47図 第18号竪穴建物跡出土遺物（1）	52
第11図 第4・18次調査区全体測量図（5）	13	第48図 第18号竪穴建物跡出土遺物（2）	53
第12図 第4・18次調査区全体測量図（6）	14	第49図 第21号竪穴建物跡出土遺物	56
第13図 第4・18次調査区全体測量図（7）	15	第50図 第23号竪穴建物跡	57
第14図 第4・18次調査区全体測量図（8）	16	第51図 第24号竪穴建物跡	58
第15図 第4・18次調査区全体測量図（9）	17	第52図 第20・22・24号竪穴建物跡出土遺物	59
第16図 第4・18次調査区全体測量図（10）	18	第53図 第25号竪穴建物跡	61
第17図 石器実測図	19	第54図 第25号竪穴建物跡出土遺物（1）	62
第18図 第24・25号建物跡、第70号土坑	21	第55図 第25号竪穴建物跡出土遺物（2）	63
第19図 第26号建物跡	22	第56図 第26号竪穴建物跡	65
第20図 第27号建物跡	23	第57図 第26号竪穴建物跡土層断面	66
第21図 第30号建物跡	23	第58図 第26号竪穴建物内鍛冶炉	67
第22図 第31号建物跡	24	第59図 第26号竪穴建物跡遺物出土状況	68
第23図 第34～36号建物跡	25	第60図 第26号竪穴建物跡鍛冶関連遺物出土状況	69
第24図 第37・38号建物跡	27	第61図 第26号竪穴建物跡出土遺物（1）	70
第25図 第39号建物跡	28	第62図 第26号竪穴建物跡出土遺物（2）	71
第26図 第40号建物跡	28	第63図 第26号竪穴建物跡出土遺物（3）	72
第27図 第1号 sondage跡	29	第64図 第27～29号竪穴建物跡	75
第28図 第2号 sondage跡	30	第65図 第27～29号竪穴建物跡土層断面	76
第29図 第3号 sondage跡	31	第66図 第28・29・31号竪穴建物跡出土遺物	77
第30図 建物跡・ sondage跡出土遺物	32	第67図 第65～68号竪穴建物跡出土遺物	79
第31図 第13号竪穴建物跡	34	第68図 第69号竪穴建物跡	80
第32図 第13号竪穴建物跡遺物出土状況（1）	35	第69図 第69号竪穴建物跡出土遺物	81
第33図 第13号竪穴建物跡遺物出土状況（2）	36	第70図 第73号竪穴建物跡、第38号溝	82
第34図 第13号竪穴建物跡出土遺物（1）	37	第71図 第70～72・75号竪穴建物跡出土遺物	83
第35図 第13号竪穴建物跡出土遺物（2）	38	第72図 第73・74・76号竪穴建物跡出土遺物	84
第36図 第13号竪穴建物跡出土遺物（3）	39	第73図 第75号土坑	86
第37図 第13号竪穴建物跡出土遺物（4）	40	第74図 第75号土坑遺物出土状況（1）	87

第75図 第75号土坑遺物出土状況（2）	88	第111図 縄文時代の遺物	133
第76図 第75号土坑遺物出土状況（3）	89	第112図 第6・15次調査区全体測量図	134
第77図 第75号土坑遺物出土状況（4）	90	第113図 第21次調査区全体測量図	135
第78図 第75号土坑出土遺物（1）	91	第114図 第14・15号溝（第6次調査区）	136
第79図 第75号土坑出土遺物（2）	92	第115図 第14号溝（第15次調査区）	137
第80図 第75号土坑出土遺物（3）	93	第116図 第1号道路跡（第21次調査区）	138
第81図 第75号土坑出土遺物（4）	94	第117図 第1号道路跡出土遺物	139
第82図 第75号土坑出土遺物（5）	95	第118図 第49号竪穴建物跡	140
第83図 第75号土坑出土遺物（6）	96	第119図 第49・64号竪穴建物跡出土遺物	141
第84図 第75号土坑出土遺物（7）	97	第120図 第118号竪穴建物跡	142
第85図 第75号土坑出土遺物（8）	98	第121図 第118号竪穴建物跡出土遺物	142
第86図 第94号土坑	103	第122図 第119・121・122号竪穴建物跡土層断面	143
第87図 第103号土坑	104	第123図 第119～122号竪穴建物跡	144
第88図 土坑出土遺物	105	第124図 第121・122号竪穴建物跡遺物出土状況	145
第89図 土坑・井戸出土遺物	106	第125図 第121号竪穴建物跡出土遺物（1）	146
第90図 第6・10号溝出土遺物	106	第126図 第121号竪穴建物跡出土遺物（2）	147
第91図 第10号溝	107	第127図 第123号竪穴建物跡	149
第92図 第7・11号溝（1）	108	第128図 第122～124・130号竪穴建物跡出土遺物	150
第93図 第7・11号溝土層断面（1）	109	第129図 第127号竪穴建物跡	151
第94図 第7・11号溝（2）	110	第130図 第127号竪穴建物跡遺物出土状況	152
第95図 第7・11号溝土層断面（2）	111	第131図 第127号竪穴建物跡出土遺物（1）	153
第96図 第8・9号溝（1）	112	第132図 第127号竪穴建物跡出土遺物（2）	154
第97図 第8・9号溝（2）	113	第133図 第13号溝	155
第98図 第8・9号溝土層断面	114	第134図 第54号溝（1）	156
第99図 第7号溝出土遺物（1）	115	第135図 第54号溝（2）	157
第100図 第7号溝出土遺物（2）	116	第136図 溝・土坑出土遺物	158
第101図 第8号溝出土遺物	118	第137図 第6・15・21次調査区出土遺物	159
第102図 第9号溝出土遺物（1）	119	第138図 金属製品集成	160
第103図 第9号溝出土遺物（2）	120	第139図 第4・18次調査区地形図	163
第104図 第9号溝出土遺物（3）	121	第140図 A期建物ブロック分布図	164
第105図 第11号溝出土遺物	123	第141図 B期建物ブロック分布図	165
第106図 第4次調査区出土遺物（1）	124	第142図 C期建物ブロック分布図	166
第107図 第4次調査区出土遺物（2）	125	第143図 輜羅遺跡周辺の交通網	168
第108図 第4次調査区出土遺物（3）	126	第144図 熊野・中宿遺跡の周辺	169
第109図 第4次調査区出土遺物（4）	127	第145図 熊野遺跡の道路跡	170
第110図 第18次調査区出土遺物	128	第146図 北島遺跡の道路跡	171

# 表 目 次

第1表 調査区一覧表	
第2表 建物跡・堀跡出土遺物観察表	32
第3表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)	42
第4表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)	43
第5表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(3)	44
第6表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(4)	45
第7表 第14号竪穴建物跡出土遺物観察表	47
第8表 第15号竪穴建物跡出土遺物観察表	49
第9表 第16号竪穴建物跡出土遺物観察表	50
第10表 第17号竪穴建物跡出土遺物観察表	51
第11表 第18号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)	54
第12表 第18号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)	55
第13表 第21号竪穴建物跡出土遺物観察表	57
第14表 第20・22・24号竪穴建物跡出土遺物観察表	58
第15表 第25号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)	63
第16表 第25号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)	64
第17表 第26号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)	73
第18表 第26号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)	74
第19表 第28・29・31号竪穴建物跡出土遺物観察表	78
第20表 第65～68号竪穴建物跡出土遺物観察表	79
第21表 第69号竪穴建物跡出土遺物観察表	81
第22表 第70号竪穴建物跡出土遺物観察表	84
第23表 第71～76号竪穴建物跡出土遺物観察表	85
第24表 第75号土坑出土遺物観察表(1)	98
第25表 第75号土坑出土遺物観察表(2)	99
第26表 第75号土坑出土遺物観察表(3)	100
第27表 第75号土坑出土遺物観察表(4)	101
第28表 第75号土坑出土遺物観察表(5)	102
第29表 土坑出土遺物観察表	104
第30表 土坑・井戸出土遺物観察表	106
第31表 第6・10号溝出土遺物観察表	106
第32表 第7号溝出土遺物観察表(1)	116
第33表 第7号溝出土遺物観察表(2)	117
第34表 第8号溝出土遺物観察表	117
第35表 第9号溝出土遺物観察表(1)	118
第36表 第9号溝出土遺物観察表(2)	120
第37表 第9号溝出土遺物観察表(3)	121
第38表 第9号溝出土遺物観察表(4)	122
第39表 第11号溝出土遺物観察表(1)	122
第40表 第11号溝出土遺物観察表(2)	123
第41表 第4次調査区出土遺物観察表(1)	129
第42表 第4次調査区出土遺物観察表(2)	130
第43表 第4次調査区出土遺物観察表(3)	131
第44表 第18次調査区出土遺物観察表	132
第45表 第1号道路跡出土遺物観察表	139
第46表 第49・64号竪穴建物跡出土遺物観察表	141
第47表 第118号竪穴建物跡出土遺物観察表	143
第48表 第121号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)	147
第49表 第121号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)	148
第50表 第122・123号竪穴建物跡出土遺物観察表	149
第51表 第124・130号竪穴建物跡出土遺物観察表	150
第52表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)	151
第53表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)	152
第54表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表(3)	154
第55表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表(4)	155
第56表 溝・土坑出土遺物観察表	158
第57表 第6・15・21次調査区出土遺物観察表	159
第58表 金属製品一覧表	161

# 図版目次

- 卷頭図版 1 幡羅遺跡遠景（南から） 第4次調査区  
卷頭図版 2 第24・25号建物跡 第34～36号建物跡  
卷頭図版 3 第26号竪穴建物内鍛冶炉 第7号溝  
卷頭図版 4 第21次調査区A区 第1号道路跡  
図版 1 第4次調査区A・B区 第4次調査区B区 第4次調査区C区  
図版 2 第4次調査区E区 第18次調査区A区（1） 第18次調査区A区（2）  
図版 3 第18次調査区B区 第18次調査区C区 第18次調査区E区  
図版 4 第24・25号建物跡 第26号建物跡 第27号建物跡  
図版 5 第34～36号建物跡 第34号建物跡 第35・36号建物跡  
図版 6 第18次調査区A区南西部（1） 第18次調査区A区南西部（2） 第39号建物跡  
図版 7 第40号建物跡 第2・3号塙跡 第3号塙跡  
図版 8 第24・25号建物跡A-A' 第24・25号建物跡B-B' 第26号建物跡B-B' 第26号建物跡A-A'  
第27号建物跡A-A' 第36号建物跡A-A' 第36号建物跡B-B' 第1号塙跡A-A'  
図版 9 第1号塙跡B-B' 第2号塙跡A-A' 第2号塙跡C-C' 第3号塙跡A-A' 第13号竪穴建物跡カマド2  
第21号竪穴建物跡遺物出土状況 第15号竪穴建物跡遺物出土状況 第15号竪穴建物跡  
図版10 第13号竪穴建物跡 第13号竪穴建物跡遺物出土状況 第13号竪穴建物跡カマド1  
図版11 第14号竪穴建物跡 第14号竪穴建物跡カマド 第16号竪穴建物跡  
図版12 第26号竪穴建物跡 第26号竪穴建物跡遺物出土状況（1） 第26号竪穴建物跡遺物出土状況（2）  
図版13 第26号竪穴建物内鍛冶炉 第20・21号竪穴建物跡 第25号竪穴建物跡  
図版14 第69号竪穴建物跡 第75号土坑 第75号土坑遺物出土状況  
図版15 第94号土坑 第10号溝 第49号溝（1）  
図版16 第49号溝（2） 第7号溝（4次A区西） 第7号溝（4次A区東）  
図版17 第8・9号溝（4次B区） 第9（a）号溝 第9号溝（18次E区）  
図版18 第8・9号溝（18次D区） 第8号溝（18次D区） 第9号溝（18次D区）  
図版19 第28・29号竪穴建物跡 第27・28号竪穴建物跡、第10号溝 第26号竪穴建物跡鉄鏃出土状況  
第70号土坑 第75号土坑 第7号溝（4次A区） 第11号溝（4次A区） 調査風景  
図版20 第6次調査区北部 第6次調査区東部 第13号溝（6次）  
図版21 第14号溝（6次）（1） 第14号溝（6次）（2） 第49号竪穴建物跡  
図版22 第15次調査区 第14号溝（15次） 第21次調査区A区  
図版23 第21次調査区 第1号道路跡（1） 第1号道路跡（2）  
図版24 第14号溝（21次） 第25号溝（21次） 第1号道路跡（3）  
図版25 第118号竪穴建物跡 第121号竪穴建物跡 第121号竪穴建物跡遺物出土状況  
図版26 第122号竪穴建物跡 第123号竪穴建物跡 第127号竪穴建物跡  
図版27 第127号竪穴建物跡遺物出土状況 第21次調査区B区 第21次調査区C区  
図版28 第54（a）号溝 第54（c）号溝 調査風景

- 図版29 第30図1 (S B24) 第30図4 (S B26) 第30図13 (S A2) 第34図1 (S J13)  
第34図2 (S J13) 第34図3 (S J13) 第34図5 (S J13) 第34図10 (S J13)  
第34図13 (S J13) 第34図15 (S J13) 第34図16 (S J13) 第34図17 (S J13)  
第34図21 (S J13) 第34図22 (S J13) 第34図29 (S J13) 第34図33 (S J13)  
第34図34 (S J13) 第34図35 (S J13)
- 図版30 第34図39 (S J13) 第35図43 (S J13) 第35図44 (S J13) 第35図48 (S J13)  
第35図49 (S J13) 第35図51 (S J13) 第35図52 (S J13) 第35図53 (S J13)  
第35図55 (S J13) 第35図56 (S J13) 第35図57 (S J13) 第35図59 (S J13)  
第35図63 (S J13) 第35図67 (S J13) 第35図69 (S J13) 第35図70 (S J13)  
第35図71 (S J13)
- 図版31 第35図72 (S J13) 第35図73 (S J13) 第35図74 (S J13) 第35図75 (S J13)  
第35図79 (S J13) 第35図81 (S J13) 第35図82 (S J13) 第36図83 (S J13)  
第36図84 (S J13) 第36図88 (S J13) 第36図89 (S J13) 第36図90 (S J13)  
第36図91 (S J13) 第36図92 (S J13) 第36図100 (S J13) 第36図96 (S J13)  
第36図97 (S J13)
- 図版32 第36図102 (S J13) 第36図104 (S J13) 第36図105 (S J13) 第36図106 (S J13)  
第36図107 (S J13) 第36図108 (S J13) 第36図112 (S J13) 第36図113 (S J13)  
第36図114 (S J13) 第36図116 (S J13) 第36図119 (S J13) 第37図120 (S J13)
- 図版33 第37図121 (S J13) 第37図122 (S J13) 第37図123 (S J13) 第38図126 (S J13)  
第38図127 (S J13) 第41図7 (S J14) 第41図2 (S J14) 第41図4 (S J14)  
第41図5 (S J14)
- 図版34 第43図1 (S J15) 第43図2 (S J15) 第47図3 (S J18) 第47図5 (S J18)  
第47図11 (S J18) 第49図3 (S J21) 第49図4 (S J21) 第49図8 (S J21)  
第49図9 (S J21) 第49図10 (S J21) 第49図15 (S J21)
- 図版35 第52図12 (S J24) 第54図2 (S J25) 第54図3 (S J25) 第54図8 (S J25)  
第54図9 (S J25) 第54図13 (S J25) 第54図19 (S J25) 第54図21 (S J25)  
第54図23 (S J25) 第54図24 (S J25) 第54図29 (S J25) 第54図31 (S J25)  
第54図32 (S J25) 第55図36 (S J25) 第61図10 (S J26) 第61図13 (S J26)  
第61図17 (S J26) 第61図18 (S J26)
- 図版36 第61図20 (S J26) 第61図23 (S J26) 第61図31 (S J26) 第62図41 (S J26)  
第66図4 (S J29) 第66図5 (S J29) 第66図6 (S J29) 第66図9 (S J29)  
第66図12 (S J29) 第67図20 (S J68) 第69図1 (S J69) 第72図2 (S J73)  
第72図3 (S J73) 第72図18 (S J76) 第72図21 (S J76)
- 図版37 第78図2 (SK75) 第78図3 (SK75) 第78図4 (SK75) 第78図6 (SK75)  
第78図7 (SK75) 第78図11 (SK75) 第78図12 (SK75) 第78図13 (SK75)  
第78図19 (SK75) 第78図23 (SK75) 第78図25 (SK75) 第78図31 (SK75)  
第78図34 (SK75) 第78図36 (SK75) 第78図42 (SK75) 第79図54 (SK75)  
第79図55 (SK75) 第79図56 (SK75)

- 図版38 第79図57 (S K75) 第79図61 (S K75) 第79図63 (S K75) 第79図70 (S K75)  
第79図71 (S K75) 第79図72 (S K75) 第79図73 (S K75) 第79図75 (S K75)  
第79図77 (S K75) 第79図81 (S K75) 第80図88 (S K75) 第80図89 (S K75)  
第80図90 (S K75) 第80図91 (S K75) 第80図96 (S K75)
- 図版39 第80図100 (S K75) 第80図102 (S K75) 第80図103 (S K75) 第80図104 (S K75)  
第80図106 (S K75) 第80図107 (S K75) 第80図110 (S K75) 第80図111 (S K75)  
第80図114 (S K75) 第81図118 (S K75) 第81図121 (S K75) 第81図123 (S K75)  
第81図124 (S K75) 第81図127 (S K75) 第81図129 (S K75)
- 図版40 第81図134 (S K75) 第81図136 (S K75) 第81図138 (S K75) 第81図139 (S K75)  
第81図140 (S K75) 第82図149 (S K75) 第82図150 (S K75) 第82図154 (S K75)  
第83図176 (S K75) 第84図179 (S K75) 第84図183 (S K75)
- 図版41 第84図184 (S K75) 第84図186 (S K75) 第85図193 (S K75) 第88図1 (S K70)  
第88図2 (S K70) 第99図4 (S D 7) 第99図6 (S D 7) 第99図33 (S D 7)  
第100図3 (S D 8) 第100図4 (S D 8) 第102図2 (S D 9) 第102図6 (S D 9)  
第102図10 (S D 9) 第102図11 (S D 9) 第102図12 (S D 9) 第102図29 (S D 9)
- 図版42 第105図1 (S D11) 第105図2 (S D11) 第105図12 (S D11) 第105図19 (S D11)  
第106図1 (第4次調査区) 第106図41 (第4次調査区) 第106図21 (第4次調査区)  
第106図22 (第4次調査区) 第108図1 (第4次調査区) 第108図3 (第4次調査区)  
第108図6 (第4次調査区) 第117図8 (S D14) 第119図6 (S J 49) 第119図8 (S J 49)  
第121図1 (S J 118) 第125図2 (S J 121) 第125図5 (S J 121)
- 図版43 第125図12 (S J 121) 第125図20 (S J 121) 第125図29 (S J 121) 第128図8 (S J 122)  
第128図1 (S J 122) 第128図10 (S J 123) 第131図1 (S J 127) 第131図2 (S J 127)  
第131図3 (S J 127) 第131図4 (S J 127) 第131図5 (S J 127) 第131図6 (S J 127)  
第131図7 (S J 127) 第131図8 (S J 127) 第131図9 (S J 127) 第131図10 (S J 127)
- 図版44 第136図7 (S K300) 第137図7 (第15次調査区) 第34図5 (S J 13) 第55図46 (S J 25)  
第63図49 (S J 26) 第63図54～56 (S J 26) 第63図57～78 (S J 26) 第62図48 (S J 26)  
第104図46～63 (S D 9)
- 図版45 金属製品 錢貨 瓦 第13号竪穴建物跡出土編物石 第16号竪穴建物跡出土編物石  
第121・127号竪穴建物跡出土編物石
- 図版46 第109図32～36 (第4次調査区) 第17図1・2 (第4次調査区)  
第17図3～5 (第4・18次調査区) 第111図3・4 (第21次調査区)  
第111図1・2 (第21次調査区)



# I 発掘調査の経過

## 1 調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年1月1日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58km<sup>2</sup>、人口約146,500人となった。当地は農業、工業ともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。

幡羅遺跡は、深谷市の北東部、熊谷市との境に位置する。幡羅遺跡に隣接する熊谷市西別府廃寺跡の地は、かねてより瓦が採集されることが知られており、寺院跡や窯跡の可能性が指摘されていた。しかし、長らくその詳細が明らかとされることなく、熊谷市教育委員会によって1990年に調査されるに至り、ようやく古代寺院跡であることが明らかとなった。

また、同様に隣接する西別府祭祀遺跡は、昭和38年に大場磐雄、小沢国平らによって調査され、馬形や櫛形等の滑石製模造品や土器等が採集された。遺跡は、台地下の湧水地点周辺にあり、水靈進行との関係が強いと考えられる。

西別府における古代寺院跡や祭祀跡の存在は、周辺に官衙遺跡の存在を想定させるものであった。しかし、その所在については、全く不明であった。平成13年1月、遺跡の北端部で開発が行なわれることが明らかとなり、事前の確認調査が実施された。この時点で、古墳の他に大型の倉庫跡が存在することが明らかとなる。立地や周辺の状況は、既に発見されていた榛沢郡家跡である中宿遺跡に似ており、幡羅郡家の正倉跡との見方が強まった。そのため市教育委員会は、事業主体者と、遺跡保存のための協議を行い、設計変更による現状保存をすることで同意した。翌13年度には、更に詳細な確認調査を実施し、2棟の正倉跡と正倉院区画溝を確認している（第1・2次調査）。

市教育委員会では、この成果を受け、遺跡の重要性を認識し、平成14年度から保存目的の範囲内容確認調査を開始した。調査は、休耕時に農地を借り上げ、調

査終了後は復旧する方針で行なった。平成14年度は第3次調査、15年度は第4次調査、16年度は第5～12・16次調査、17年度は第13～15・17・18次調査、18年度は第19・20次調査、19年度は第21～29次調査を実施した。今回の報告分は、この内、実務官衙域の一部と道路跡についてであり、その他については今後報告書を刊行する予定である。

## 2 調査方法

幡羅遺跡では、平成14年度に作成した、航空測量による地形図に基づいて区割りを行なっている（第1図）。範囲は南北600m、東西700mである。この範囲内に、100×100mの大グリッドを設定し、内部を5×5mの小グリッドに分割した。小グリッドは、北西隅から平行式に1～400と呼称した。

## 3 調査の経過

幡羅遺跡の範囲と構造を確認するため行なった調査の内、実務官衙域の一部及び道路跡の調査経過について、年度毎に説明する。

### 平成15年度：第4次調査

正倉院の東限或いは実務的な官衙施設を確認する目的で調査区を設定した。その結果、7世紀後半～末頃を中心とする竪穴建物跡や廃棄土坑、側柱式掘立柱建物跡等が確認され、遺跡南東部に実務的な官衙施設が配置されていることが明らかとなった。

確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡6棟、掘立柱塀跡1基、竪穴建物跡17棟、土坑3基、溝1条、二重溝と土壙による区画等である。

### 平成16年度：第6次調査

正倉院（南）の南方の状況を確認する目的で調査区を設定した。その結果、覆土中に硬化面を持つ溝が確認され、道路跡が存在する可能性が考えられた。

確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡1棟、溝3条等である。

#### 平成17年度：第15・18次調査

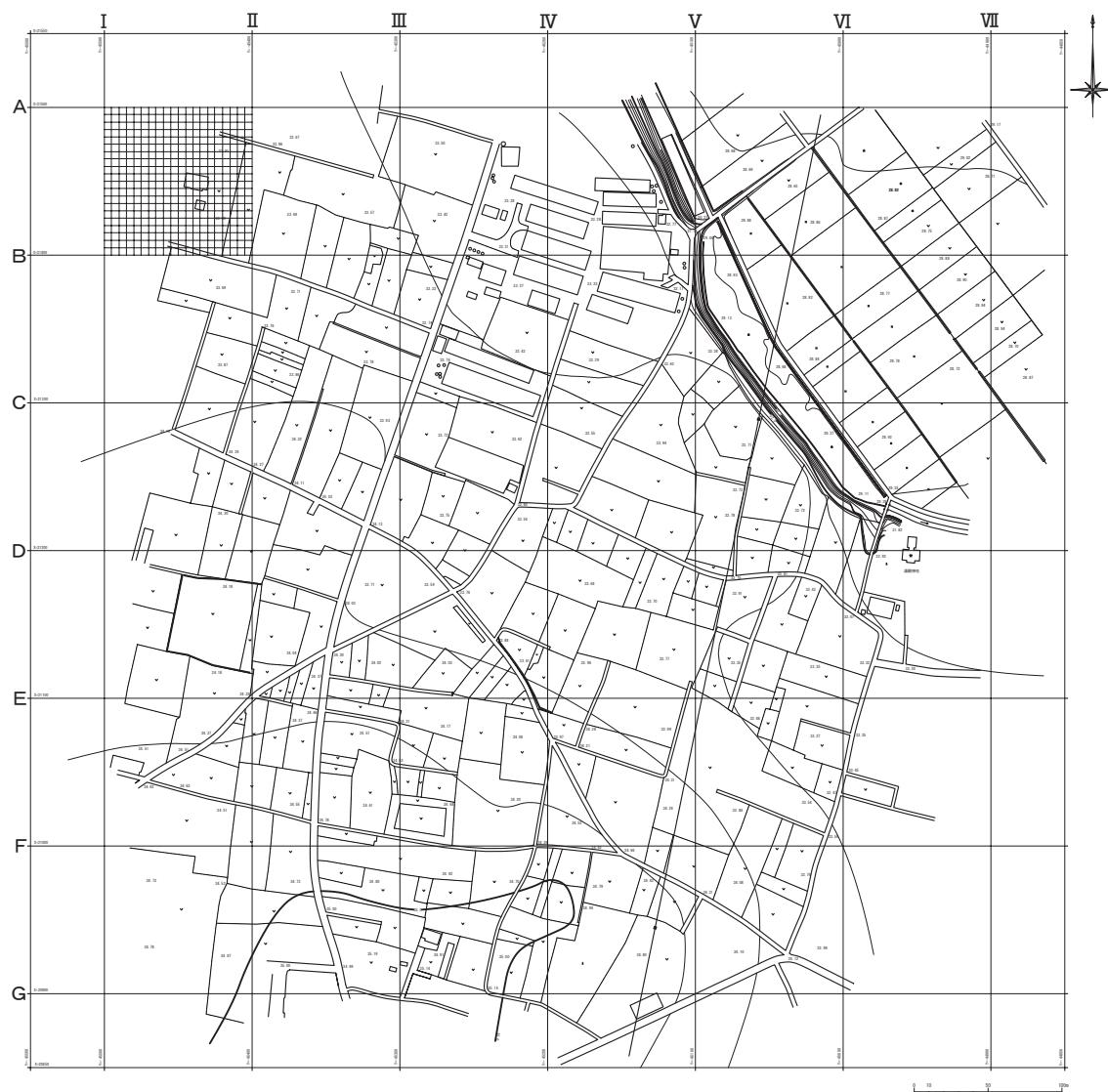
第15次調査区は、存在が想定される道路跡の状況を確認する目的で設定し、竪穴建物跡1棟、溝3条等が確認された。

第18次調査区は、郡庁の確認を目的として設定した。その確認には至らなかったものの、掘立柱建物跡の分布状況や二重溝と土壙による区画の南限を確認できた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡7

棟、掘立柱壙跡2基、竪穴建物跡14棟、溝1条、土坑7基、二重溝と土壙による区画等である。

#### 平成19年度：第21次調査

道路跡或いは郡庁の確認を目的として調査区を設定した。その結果、道路跡の存在は確実となり、側溝間の中心間距離約9mを測り、直線的に西別府祭祀遺跡の方向へ延びていることが確認された。また、正倉院(南)拡張後の区画溝も確認された。古代の主な遺構は、溝4条、竪穴建物跡14棟等である。



第1図 グリッド分割図

## II 遺跡の環境

### 1 地理的環境

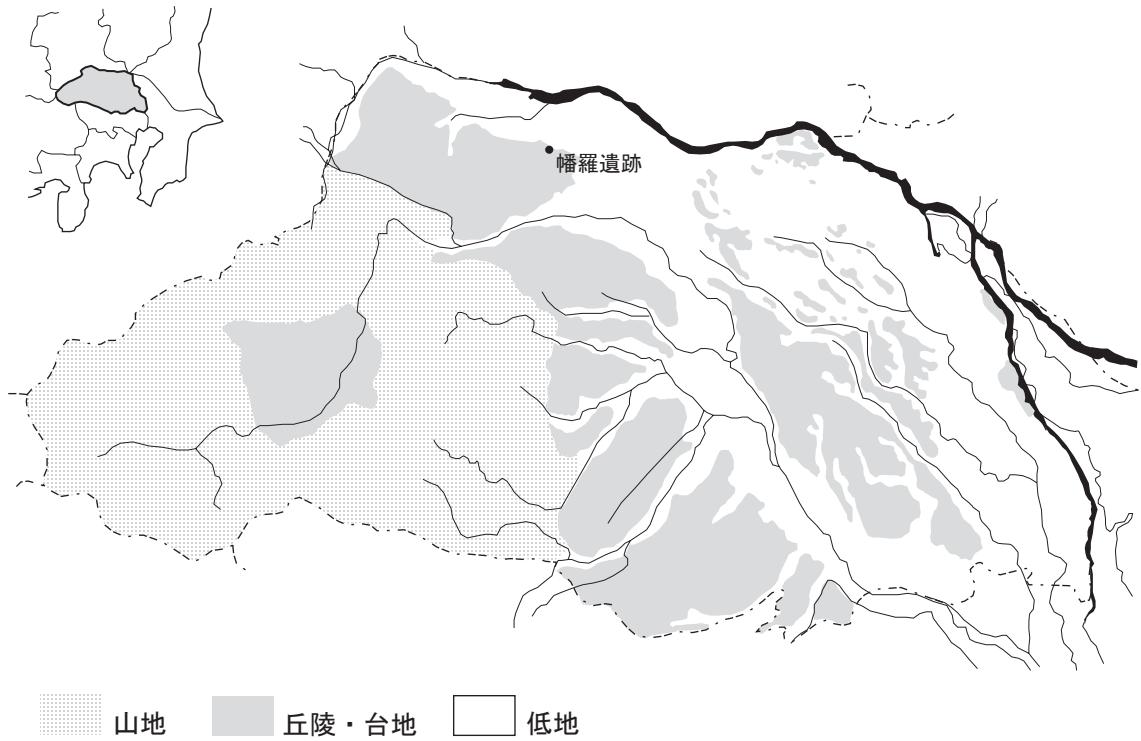
深谷市の地形は、JR高崎線付近を境として、南に櫛挽台地、北に妻沼低地が広がる。櫛挽台地は、荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は、構造的には北西側の武藏野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と南東側の立川面に比定される寄居面（御稜威ヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面はほぼJR高崎線沿いの崖線で比高差5～10mをもって妻沼低地と接しているが、寄居面は高崎線より北へ1.5～1.8km程延びていて、比高差2～5mをもって妻沼低地と接している。接線付近での標高は、櫛挽面が40～50m、寄居面が32～36m、妻沼低地が30～31mである。櫛挽面は標高70m付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川等が北流

していて、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅い谷が発達したものと考えられる。末端には所謂先端湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。妻沼低地は、現在ではほとんど平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷等により、自然堤防が発達しているものと考えられる。

幡羅遺跡は、櫛挽台地の先端に位置する。周辺一帯は畠地であり、遺跡の保存状況は非常に良好である。北側の低地部分は、崖の切り崩しや埋め立てを伴う耕地整理が行なわれているが、台地上は土地の改変は無く、明治時代初期の地籍図とほとんど変わらない（第4図参照）。北西の西別府祭祀遺跡には、昭和40年代頃まで湧水が豊富にあったが、台地上に工業団地が建



設されると、湧水が枯渇したようである。

## 2 歴史的環境

幡羅遺跡周辺には、数多くの遺跡が存在する。ここでは、郡家成立前の古墳時代後期から平安時代にかけて概観する（第3図）。

遺跡のほとんどは、低地から台地の縁辺部にかけて分布する。古墳時代後期には、低地域に集落、台地縁辺に古墳が築かれる場合が多い。6世紀代の集落は、上敷免遺跡周辺や城北遺跡周辺、一本木前遺跡等で爆発的に増加する。7世紀になると、それらの集落は規模を縮小させるものが多く、城北遺跡は継続しない。新屋敷東遺跡も同様に住居跡の数は減少するものの、7世紀後半或いは8世紀代と推定される大型倉庫跡が確認されており、特筆される。

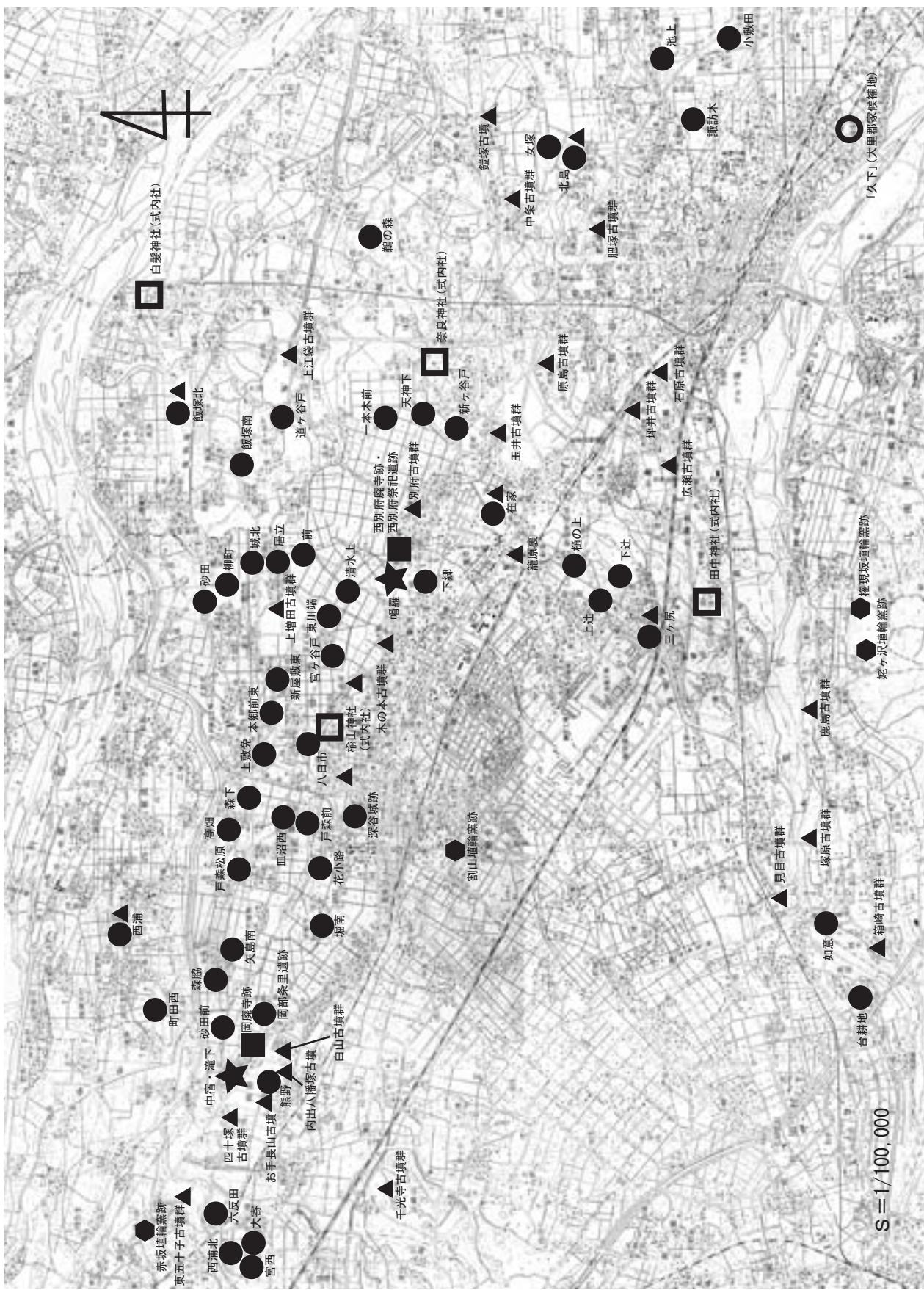
一方、宮ヶ谷戸遺跡、東川端遺跡等、7世紀に入って規模が大きくなる集落も認められる。両遺跡は、幡羅遺跡の成立時期と重なる7世紀後半に入ってから住居数は増加し、関連性が考えられる。西別府祭祀遺跡では、遅くともその頃から、湧水点における祭祀が行なわれるようになる。出土品は石製模造品や墨書き器等で、木製品は今のところ確認されていない。祭祀は11世紀頃まで継続するとされる。また、西別府廃寺跡は8世紀初頭に造営されたと考えられ、基壇建物跡や区画溝、多量の瓦等が出土している。寺院は9世紀後半頃までは確実に機能していたと考えられ、その後は集落化が進む。

次に郡家跡についてみていく。幡羅遺跡は7世紀後半に、それまで墓域であった台地縁辺に出現する。官衙域の南に広がる下郷遺跡は、その周辺に広がる官衙に関連する集落跡で、出現は幡羅遺跡と同時期である。幡羅遺跡が郡家として整備される7世紀末から8世紀になると、住居跡の数が増加する。榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡も同様に7世紀後半、それまでの墓域に出現する。熊野遺跡は初期評家の機能を有していたと考えられている。幡羅郡の東の埼玉郡家跡についてはまだ

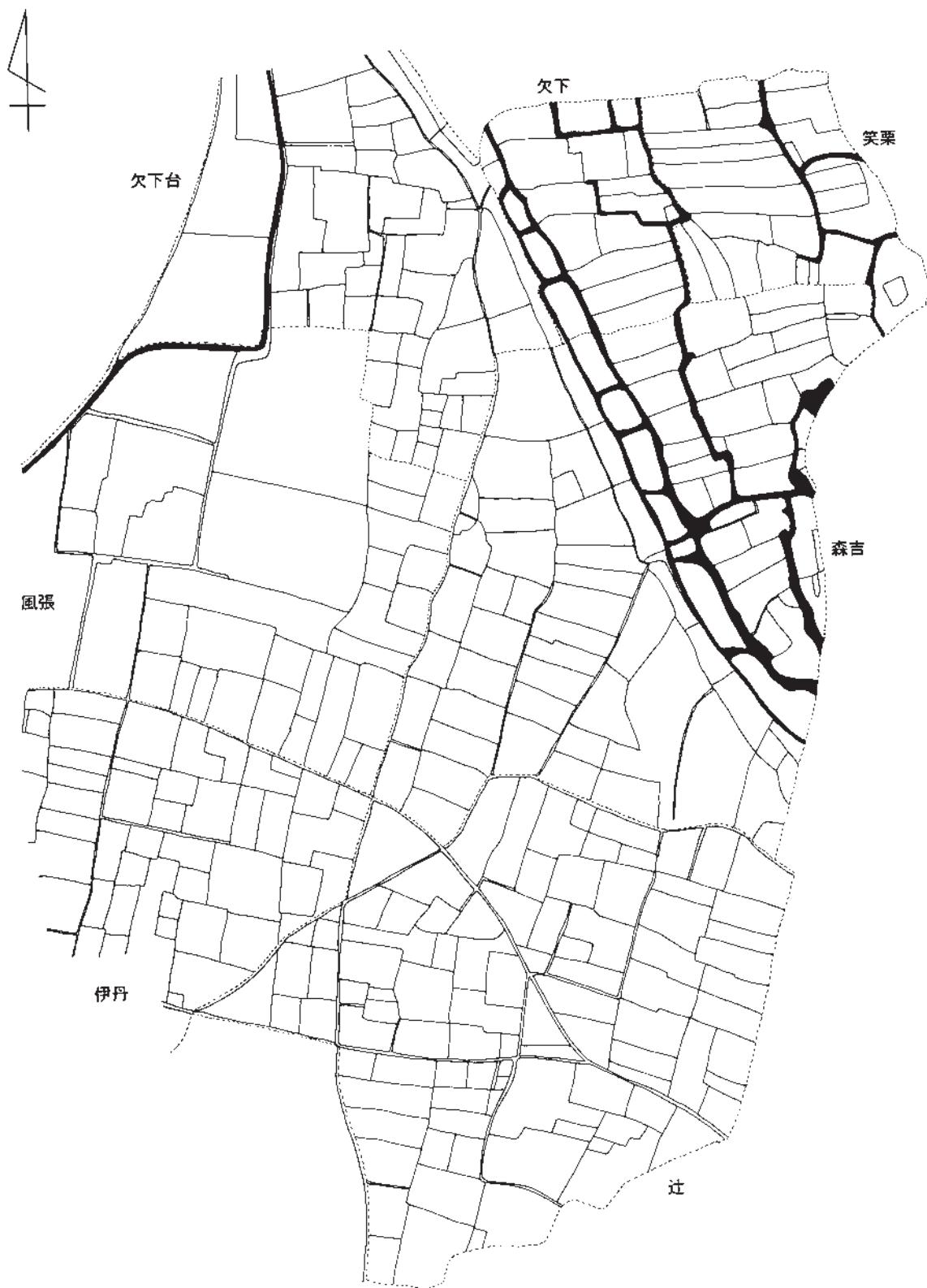
確認されていないが、整然と並ぶ掘立柱建物跡が出土した池上遺跡、出拳木簡が出土した小敷田遺跡、律令期の祭祀跡や9～10世紀の居宅跡が確認された諏訪木遺跡の周辺に想定される。東山道武藏路のルートは、この付近に推定される。これらの遺跡群のやや北西に位置する大集落である北島遺跡からは、東山道武藏路から分岐するとみられる道路跡が確認されている。また、幡羅遺跡と熊野遺跡からも道路跡が確認されており、これらを結ぶルートは伝路であった可能性がある。このルートが旧中山道と一部重なっている点は注目すべきであろう。

9世紀以降になると、集落は分散化する傾向があり、小規模な集落が数多く認められる。台地縁辺部に深谷城跡、花小路遺跡、堀南遺跡等の集落が進出するのもこの頃である。深谷城跡からは掘立柱建物跡や多量の土器が出土し、灰釉陶器も含まれる。花小路遺跡は、庇を持つ建物跡や、柱掘方の規模が大きい掘立柱建物跡が確認されている。また、飯塚北遺跡、北島遺跡、諏訪木遺跡等で、方一町程度の方形区画施設跡がみられるようになる。幡羅遺跡においても、ほぼ同規模の方形区画施設が9世紀後半或いは10世紀頃出現する。内部の建物跡が未確認のため、施設の性格は不明だが、それらの遺跡との関係から館の可能性が考えられる。

後期古墳は、東は別府古墳群から西は榆山神社付近まで、幾つかのまとまりをもちながら分布している。この地域の古墳群においては、現在のところ、前方後円墳等傑出した古墳は確認されていない。終末期古墳については、幡羅遺跡の南方約2kmにある籠原裏遺跡で、径20m未満の円墳群が確認されている。ここからは、鉄製鞘尻金具、銅製双脚金物等が出土しており、古墳群中の幾つかは、八角形墳とする見解もある。また、同じく南東約5kmにある広瀬古墳群中には、上円下方墳といわれる宮塚古墳（径約24m）がある。一方、榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡周辺では、6世紀後半から7世紀にかけての首長墓とみられる4基の古墳があり、その変遷が推定されている。



第3図 幡羅遺跡周辺の遺跡（古墳時代後期～平安時代）

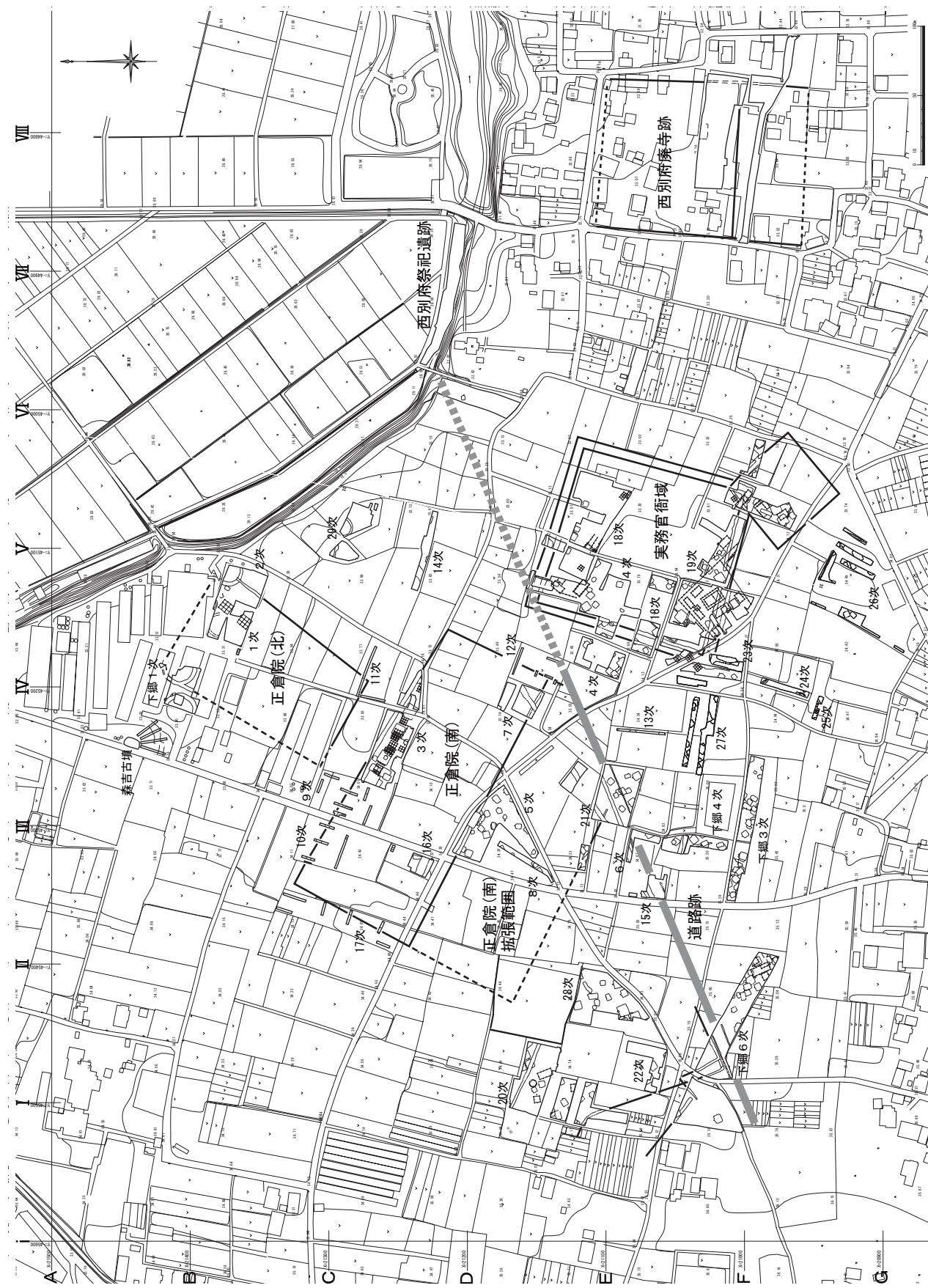


S = 1/5,000

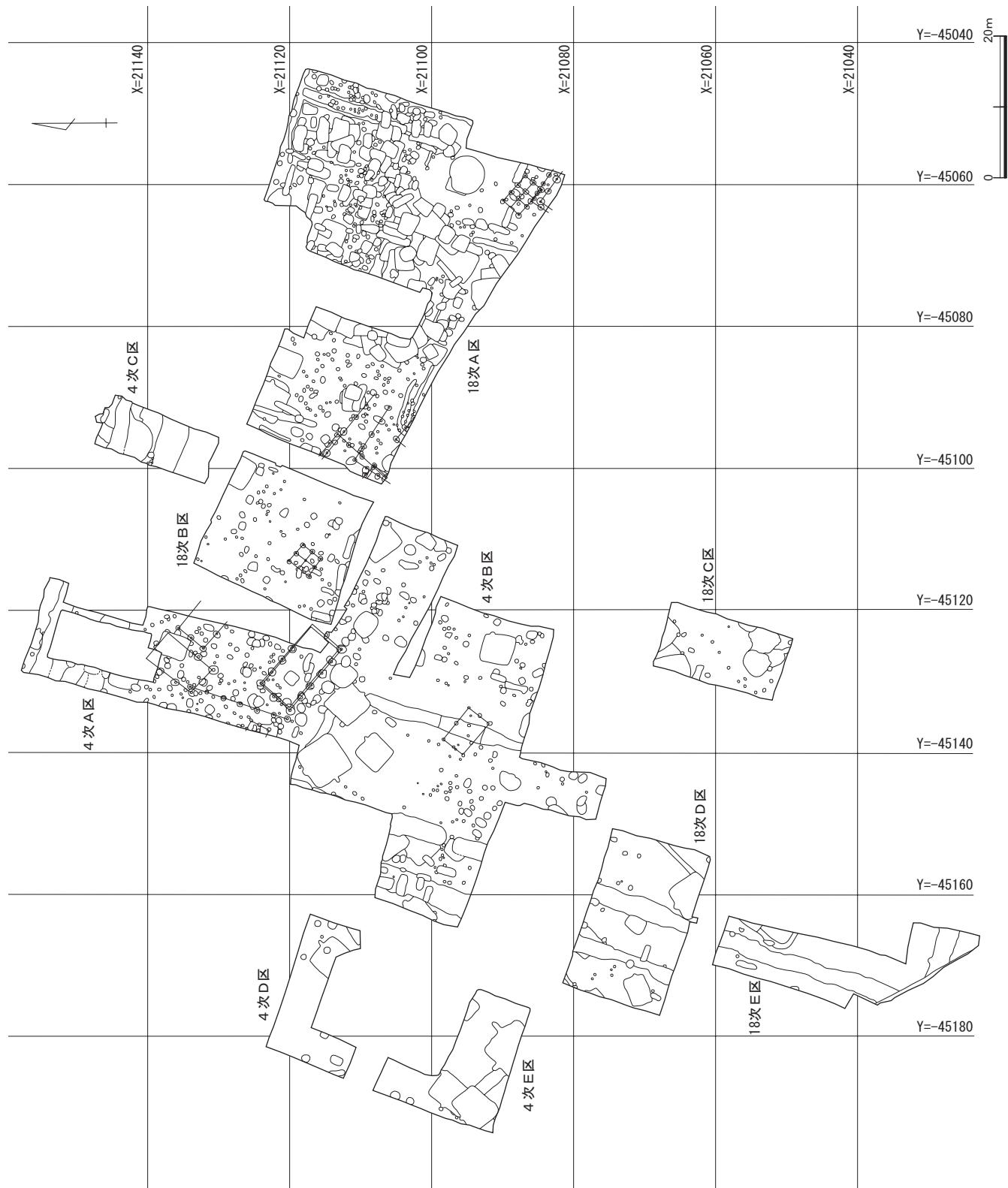
第4図 帛羅遺跡周辺の地籍図（明治時代の地籍図をもとに作成）



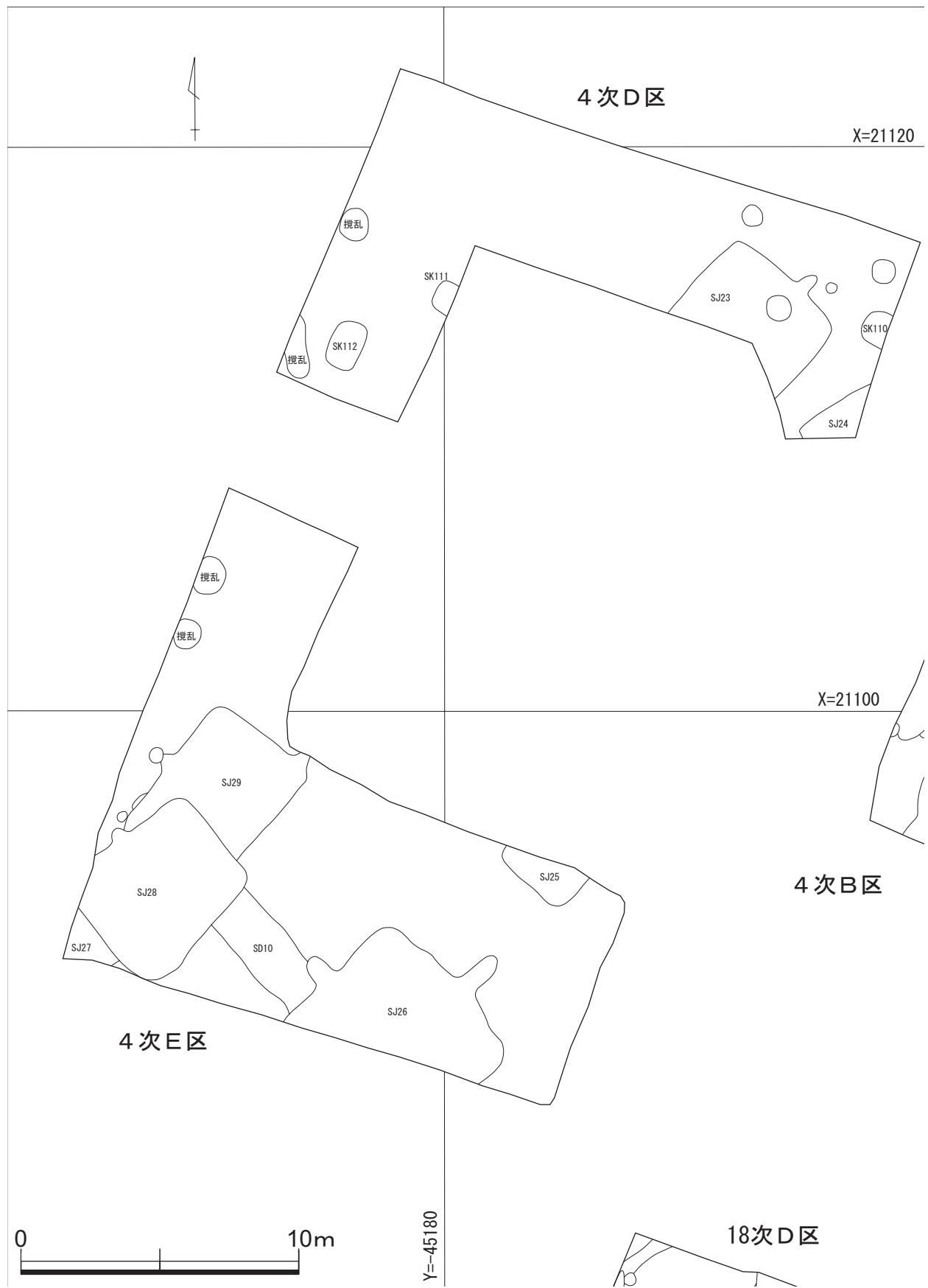
第5図 幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡



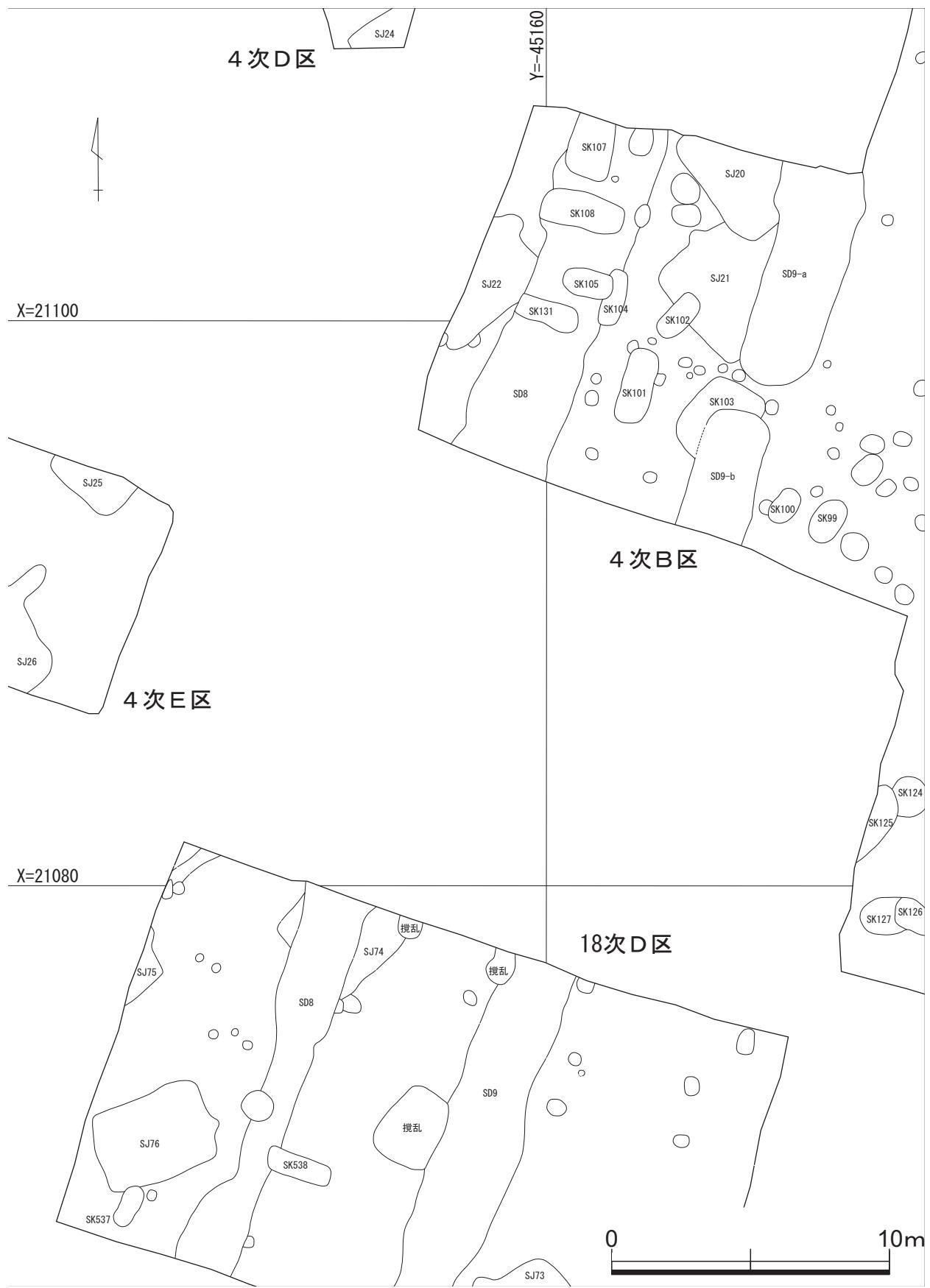
第6図 幡羅遺跡全体測量図



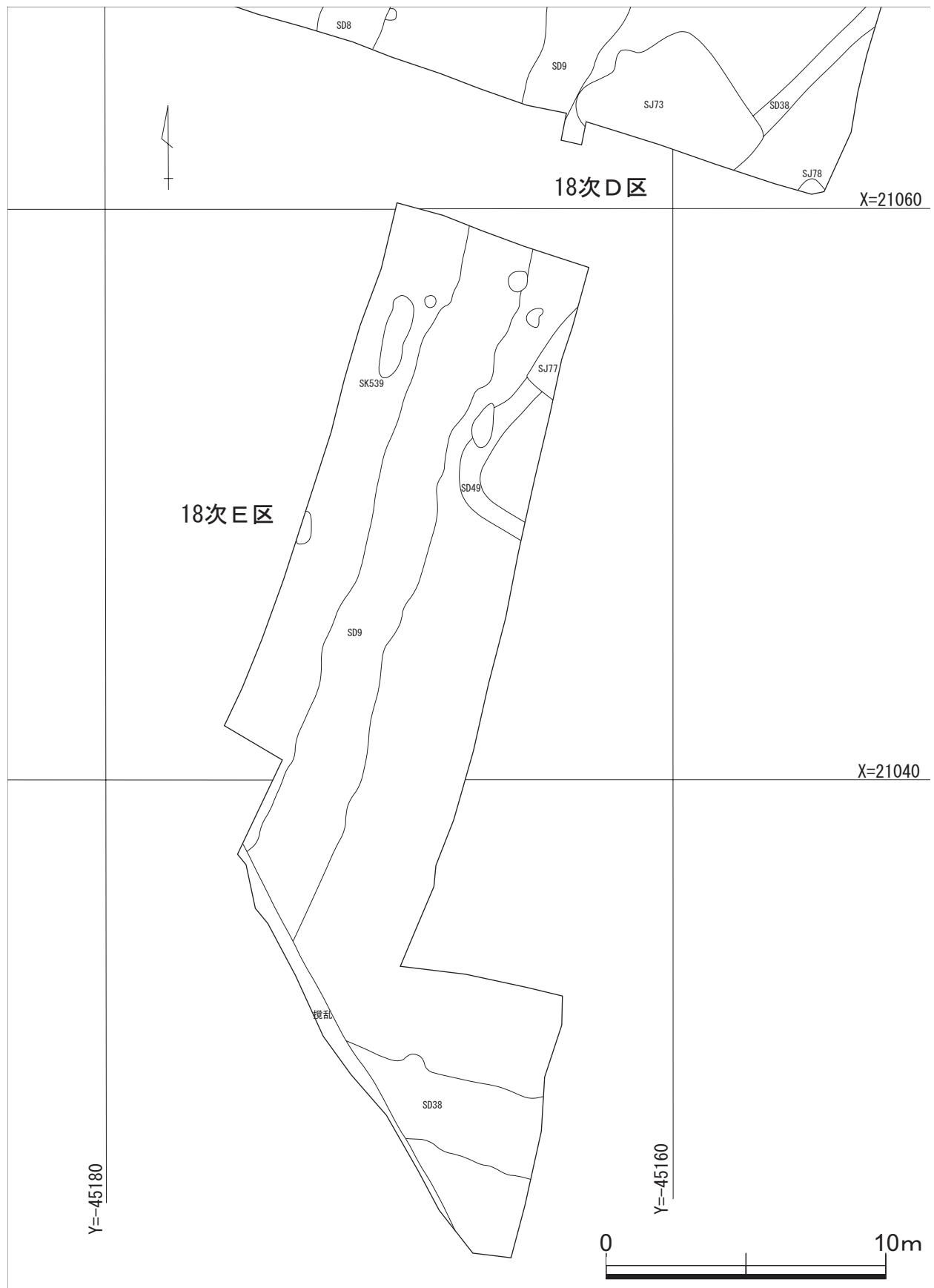
第7図 第4・18次調査区全体測量図（1）



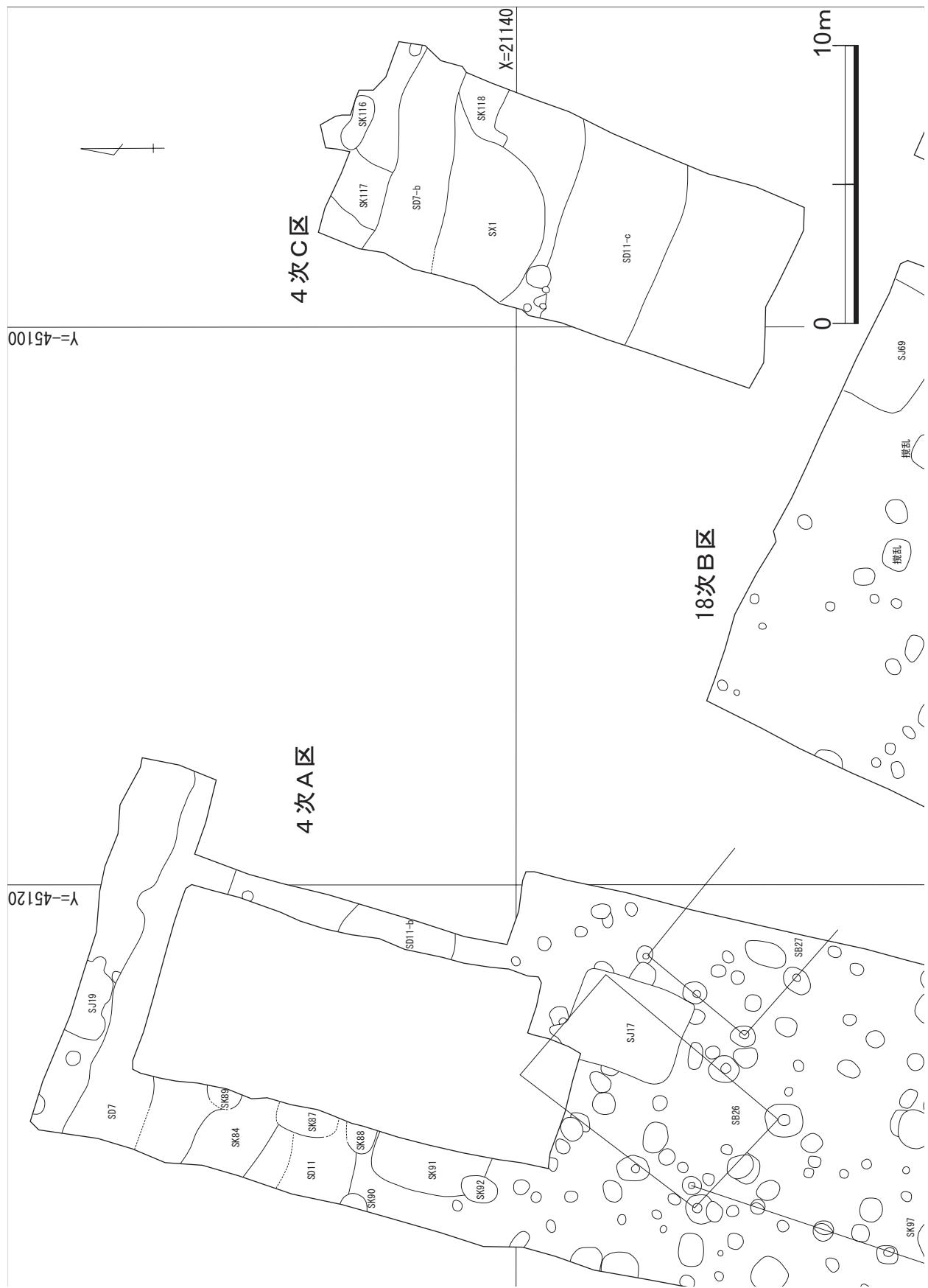
第8図 第4・18次調査区全体測量図(2)



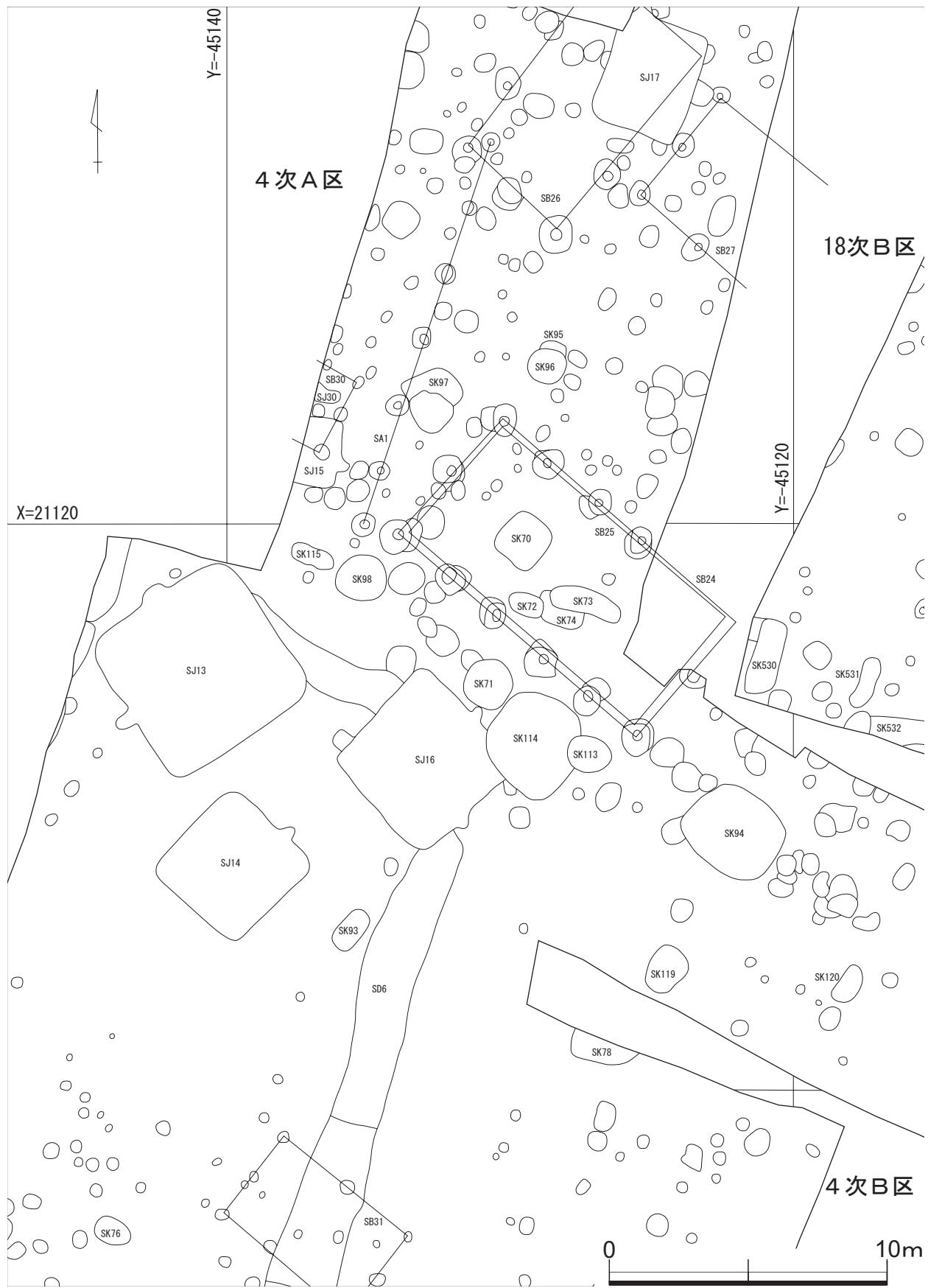
第9図 第4・18次調査区全体測量図（3）



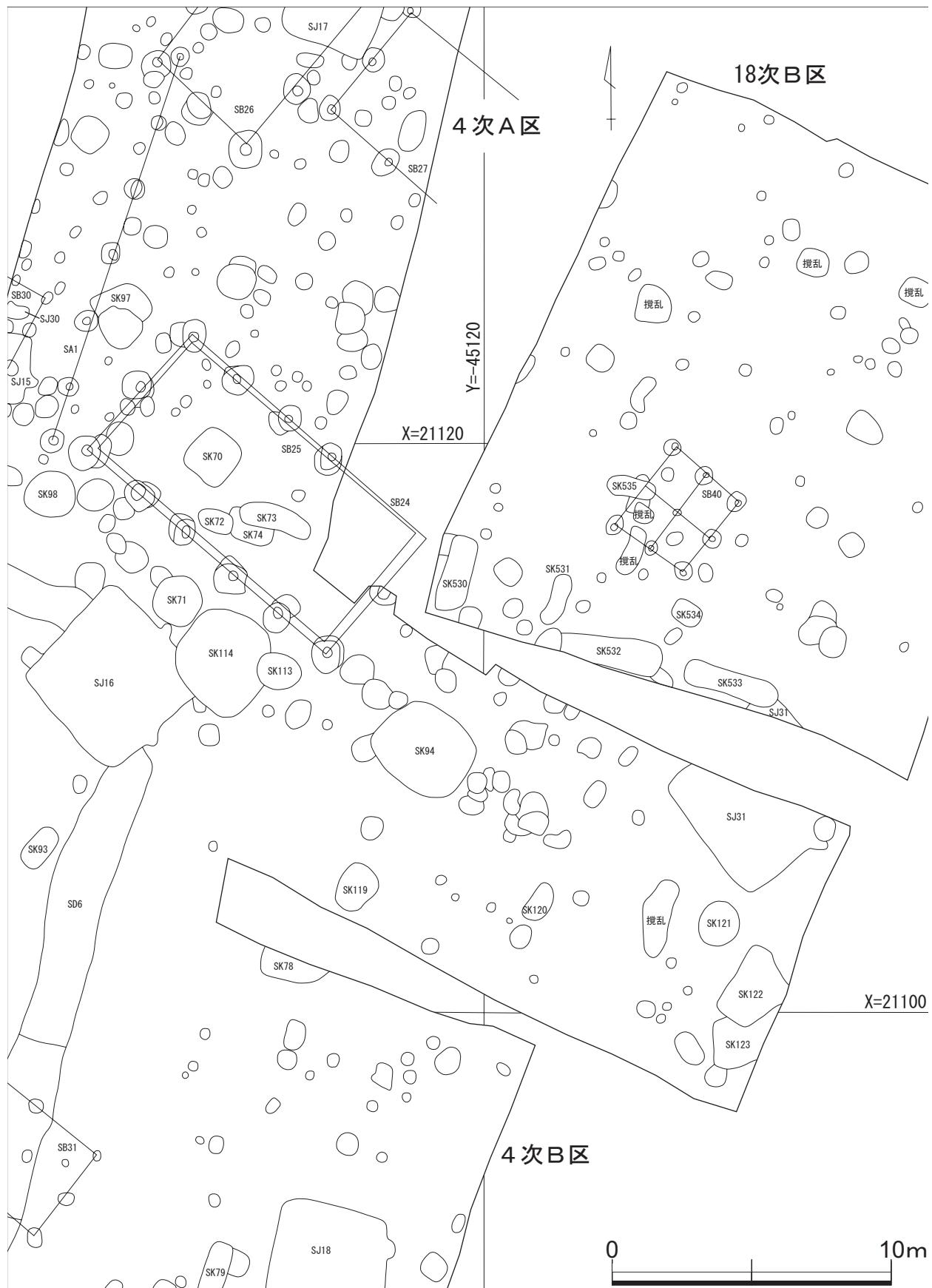
第10図 第4・18次調査区全体測量図（4）



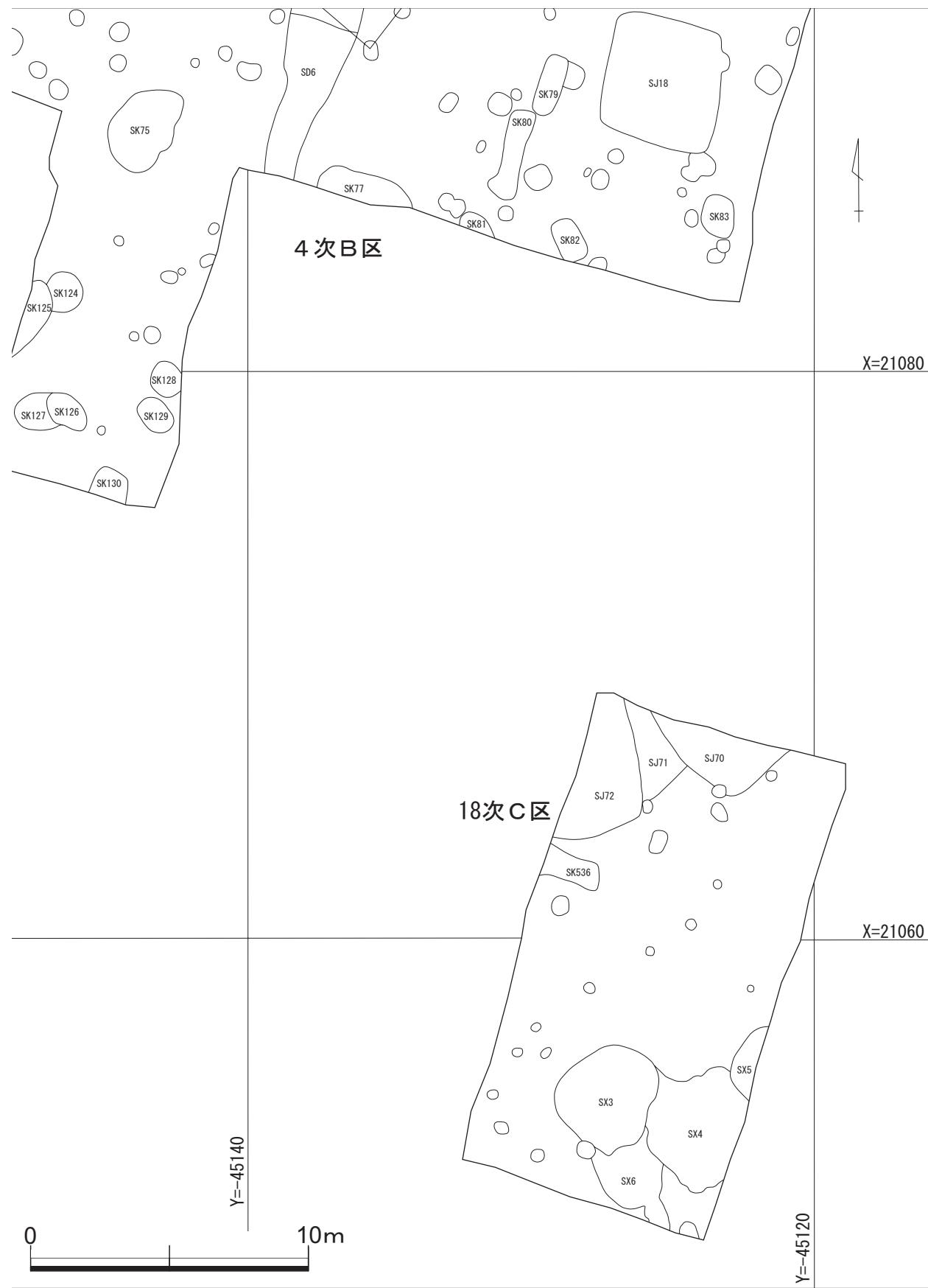
第11図 第4・18次調査区全体測量図(5)



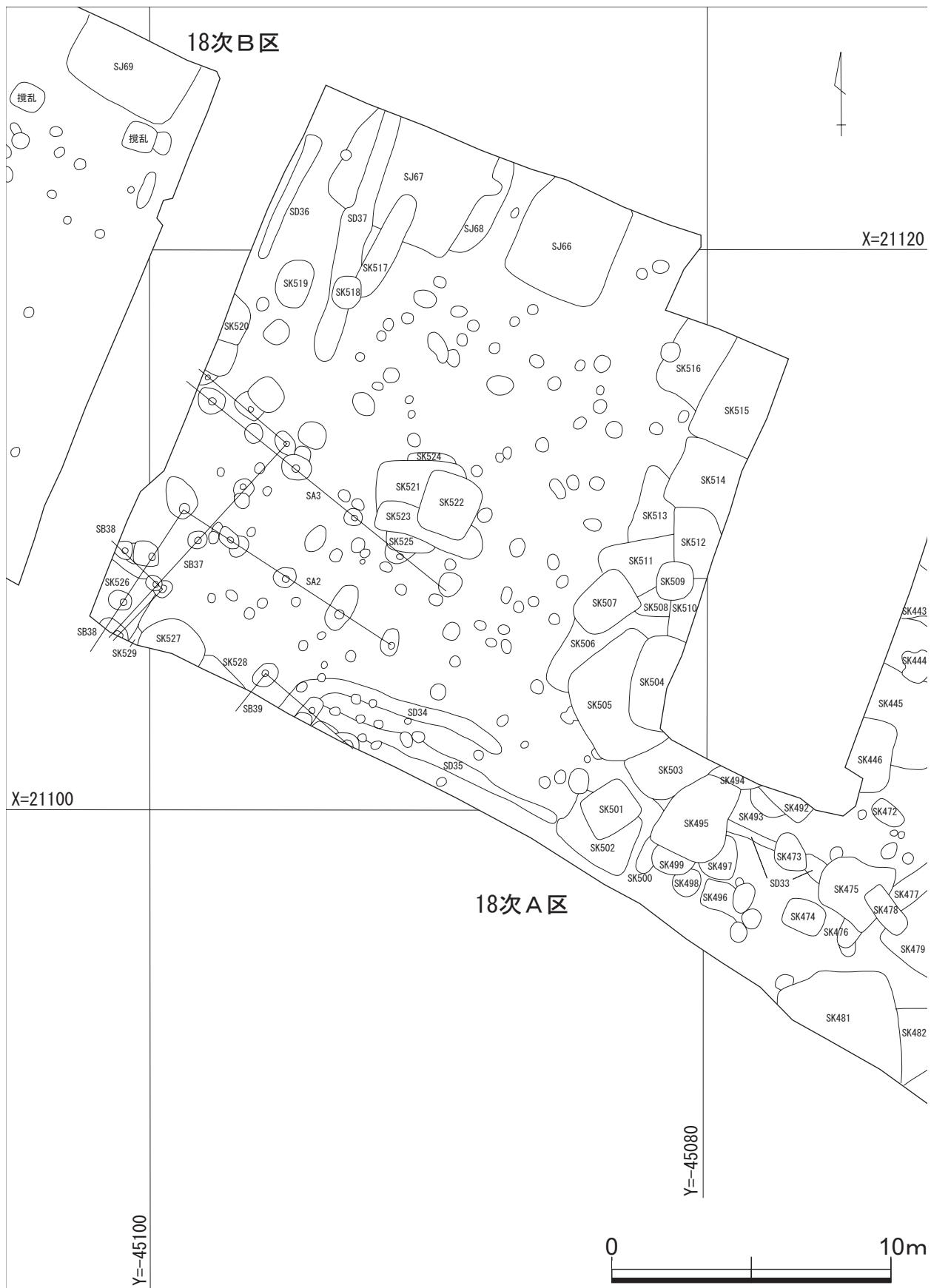
第12図 第4・18次調査区全体測量図 (6)



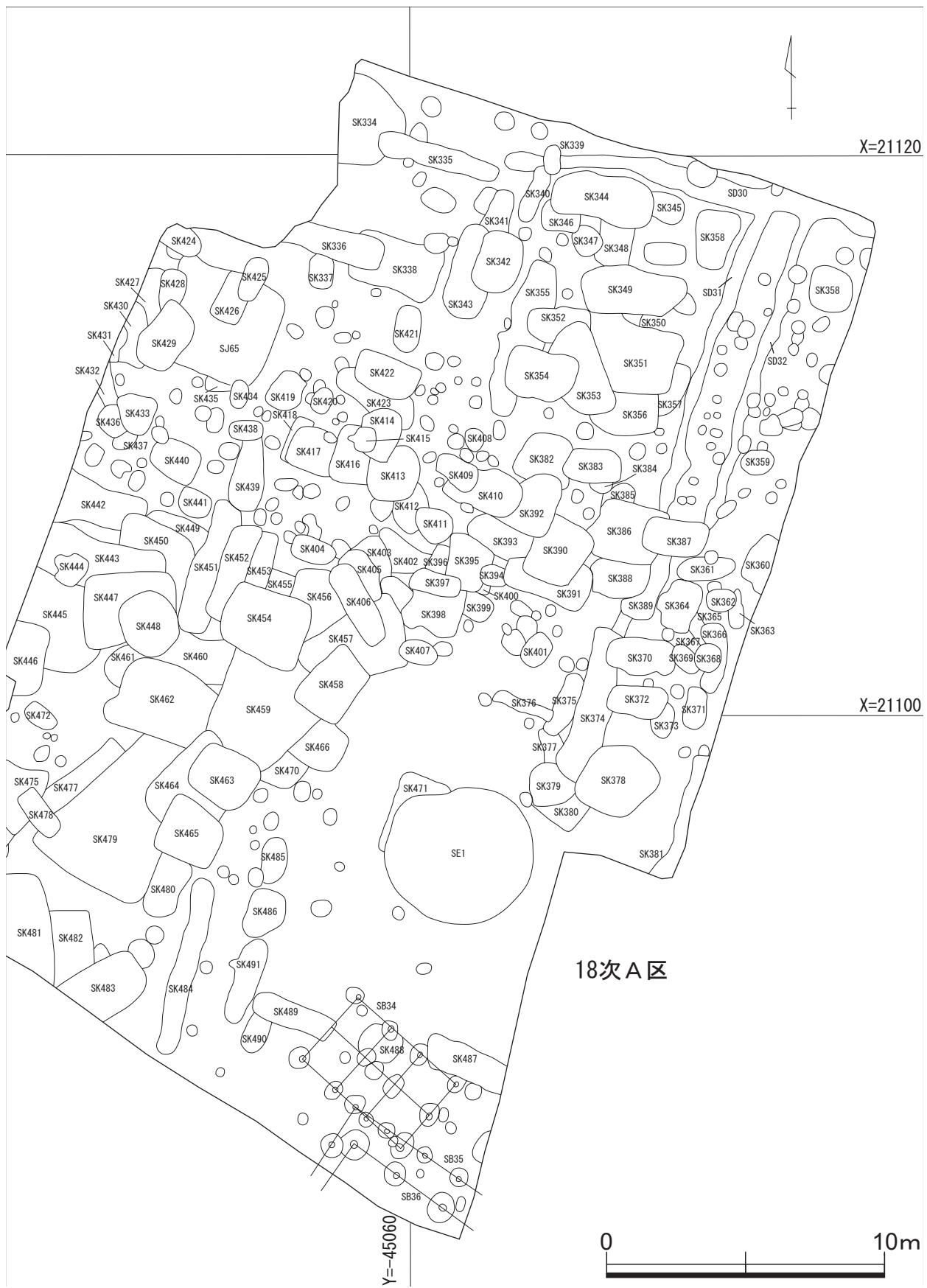
第13図 第4・18次調査区全体測量図(7)



第14図 第4・18次調査区全体測量図(8)



第15図 第4・18次調査区全体測量図(9)



第16図 第4・18次調査区全体測量図(10)

### III 遺構と遺物

#### 1 実務官衙域の調査 (第4・18次調査)

##### a 概要

第4・18次調査区は、正倉院の東限或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南東部のD-IV-215～E-V-69グリッドに設けた。

確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡13棟、掘立柱塀跡3基、竪穴建物跡31棟、土坑7基、溝2条、二重溝と土塁による区画等である。中世以降の土坑や溝が若干認められるものの、古代の遺構は遺存状況が良好と言える。調査区周辺の標高は約34mである。遺構確認面は起伏があり、北側に向かって低くなる。確認面までの深さは、第4次調査区B区付近で約30cm、第4次調査区A区北部で約60cmを測る。

掘立柱建物跡は、側柱建物跡10棟、総柱建物跡2棟

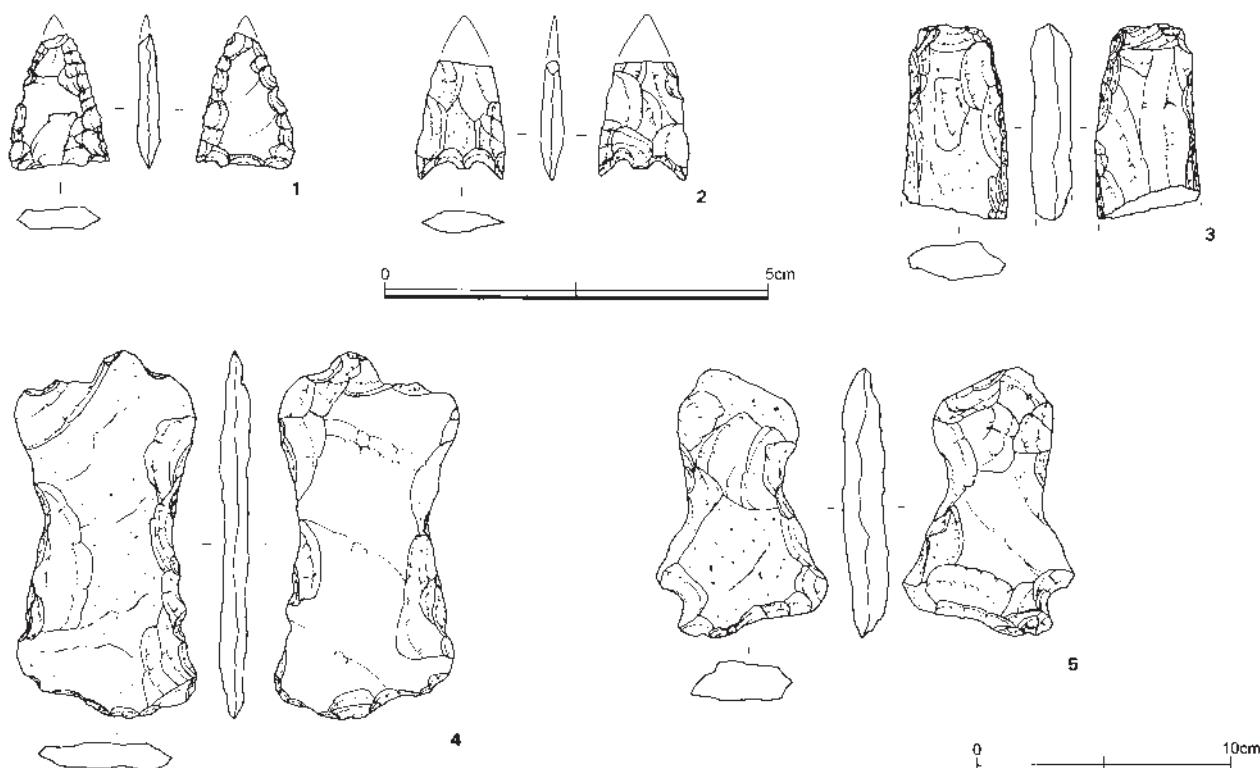
と圧倒的に側柱建物が多く、総柱建物はいずれも正倉とするには規模が小さい点が指摘できる。竪穴建物跡は、7世紀後半～末頃のものと10世紀代のものがあり、その間は存在しない。土坑は、廃棄土坑や粘土採掘坑と考えられるものが認められる。

なお、第28・29号建物跡は欠番である。

##### b 石器

第17図1～5は石器である。縄文時代のものを主体とすると思われる。3は第18次調査区B区出土、他は第4次調査区A区から出土した。

1・2は石鏸である。1はチャート製で、先端部がわずかに欠損する。残存長1.7cm、幅1.3cm、厚さ0.3cmを測る。2は頁岩製の有茎石鏸である。先端部を欠損し、残存長1.4cm、幅1.2cm、厚さ0.3cmを測る。弥生時代のものである可能性がある。3～5は打製石



第17図 石器実測図

斧である。3は凝灰岩製で、刃部を欠く。残存長7.4cm、幅4.0cm、厚さ1.4cmを測る。4は凝灰岩製で、中央に弱い抉りを有する。長さ14.4cm、幅7.0cm、厚さ1.0cmを測る。5はホルンフェルス製で、中央に抉りを有する。長さ10.6cm、幅6.7cm、厚さ1.6cmを測る。

## C 建物跡

### 第24号建物跡（第18図、第30図1・2、第2表）

第4次調査区A区とB区の中間付近に位置する。ほぼ同位置で同規模の第25号建物跡を切る。側柱式掘立柱建物跡で、桁行5間（11.25m）×梁行2間（5.5m）、柱間は桁行が2.25m（7.5尺）等間、梁行が2.75m（約9尺）等間である。建物の四隅はわずかに直角にはならない。主軸方位はN-39°-Eである。

柱の掘方は、一辺65～120cmの隅丸方形を基本とする。掘方の軸は揃っていない点が指摘できる。柱穴の深さは、確認面から約60cmを測る。柱は柱痕跡を残すものがほとんどだが、抜き取るものもある。柱痕跡から、柱の径は約30cmと思われる。

なお、建物内部に第70号土坑があり、伴う可能性が考えられる。

図示できた遺物は、第30図1・2である。1は土師器壺、2は須恵器甕である。

### 第25号建物跡（第18図）

第4次調査区A区とB区の中間付近に位置する。ほぼ同位置で同規模の第24号建物跡に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行5間（10.5m）×梁行2間（5.3m）、柱間は桁行が2.1m（7尺）等間、梁行が2.65m（約9尺）等間である。主軸方位はN-51°-Wである。

柱の掘方は、一辺60～120cmの隅丸方形を基本とする。掘方の軸はあまり揃っていない。柱痕跡は切り合いのため確認されていない。柱穴の深さは、確認面から約60cmを測る。

なお、建物内部に第70号土坑があり、伴う可能性が

考えられる。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第26号建物跡（第19図、第30図3～5、第2表）

第4次調査区A区に位置する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行3間（8.1m）×梁行2間（4.5m）、柱間は桁行が2.7m（9尺）等間、梁行が2.25m（7.5尺）等間である。主軸方位はN-39°-Eである。

柱の掘方は一辺90～120cmの隅丸方形を基本とする。柱穴の深さは、確認面から約70～80cmを測る。柱は柱痕跡を残すものがほとんどだが、抜き取るものもある。柱痕跡から、柱の径は約30cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図3～5である。3・4は土師器壺で、3は内面に暗文が施される。5は須恵器壺である。

### 第27号建物跡（第20図）

第4次調査区A区に位置する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行2間以上×梁行2間（4.5m）、柱間は桁行が2.85m（9.5尺）、梁行が2.25m（7.5尺）等間である。主軸方位はN-50°-Wである。

柱の掘方は一辺70～100cmの隅丸方形を基本とする。柱穴の深さは、確認面から約40cmを測る。確認された柱は柱痕跡を残しており、柱痕跡から、柱の径は約30cmと思われる。

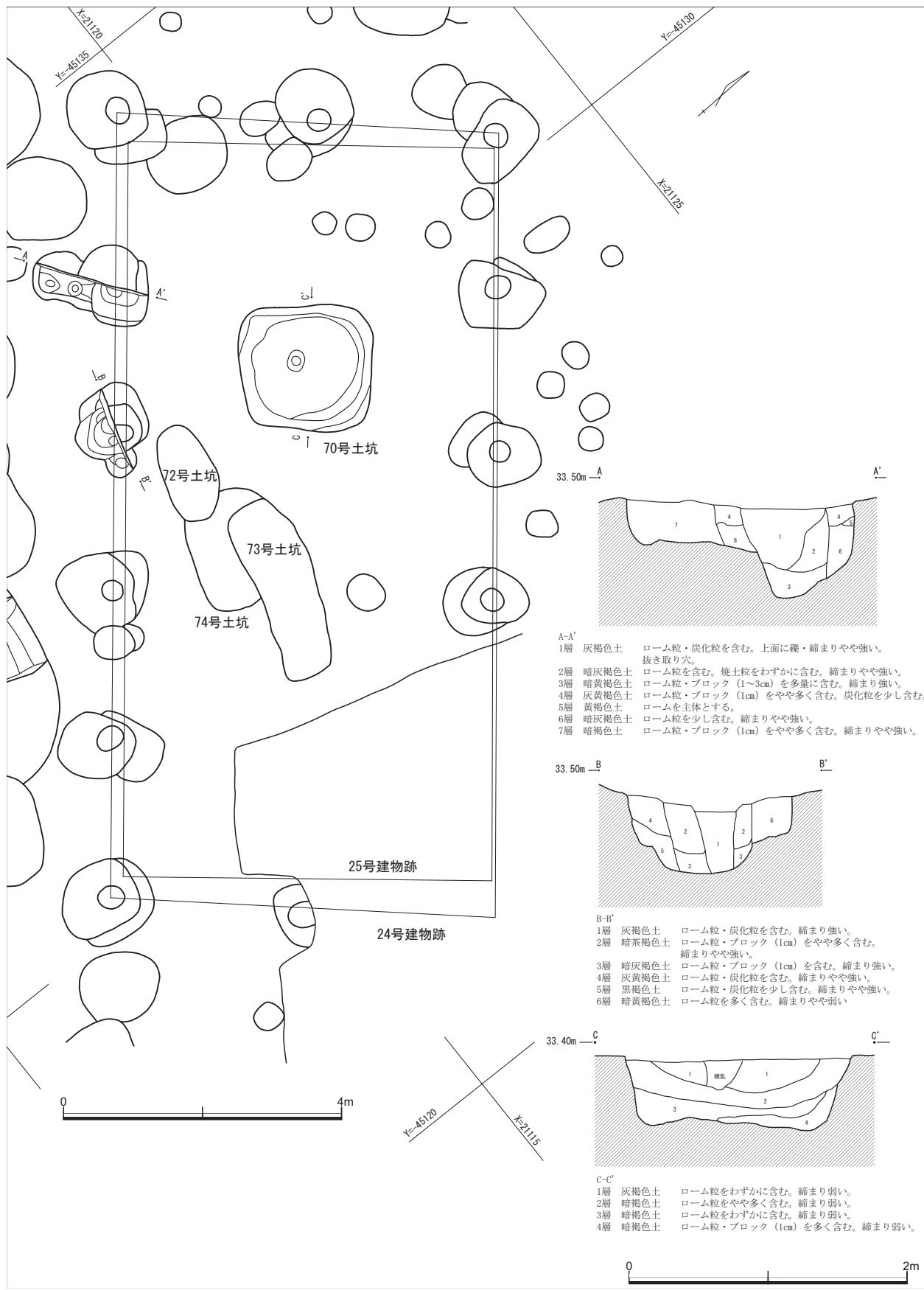
図示できる遺物は出土しなかった。

### 第30号建物跡（第21図）

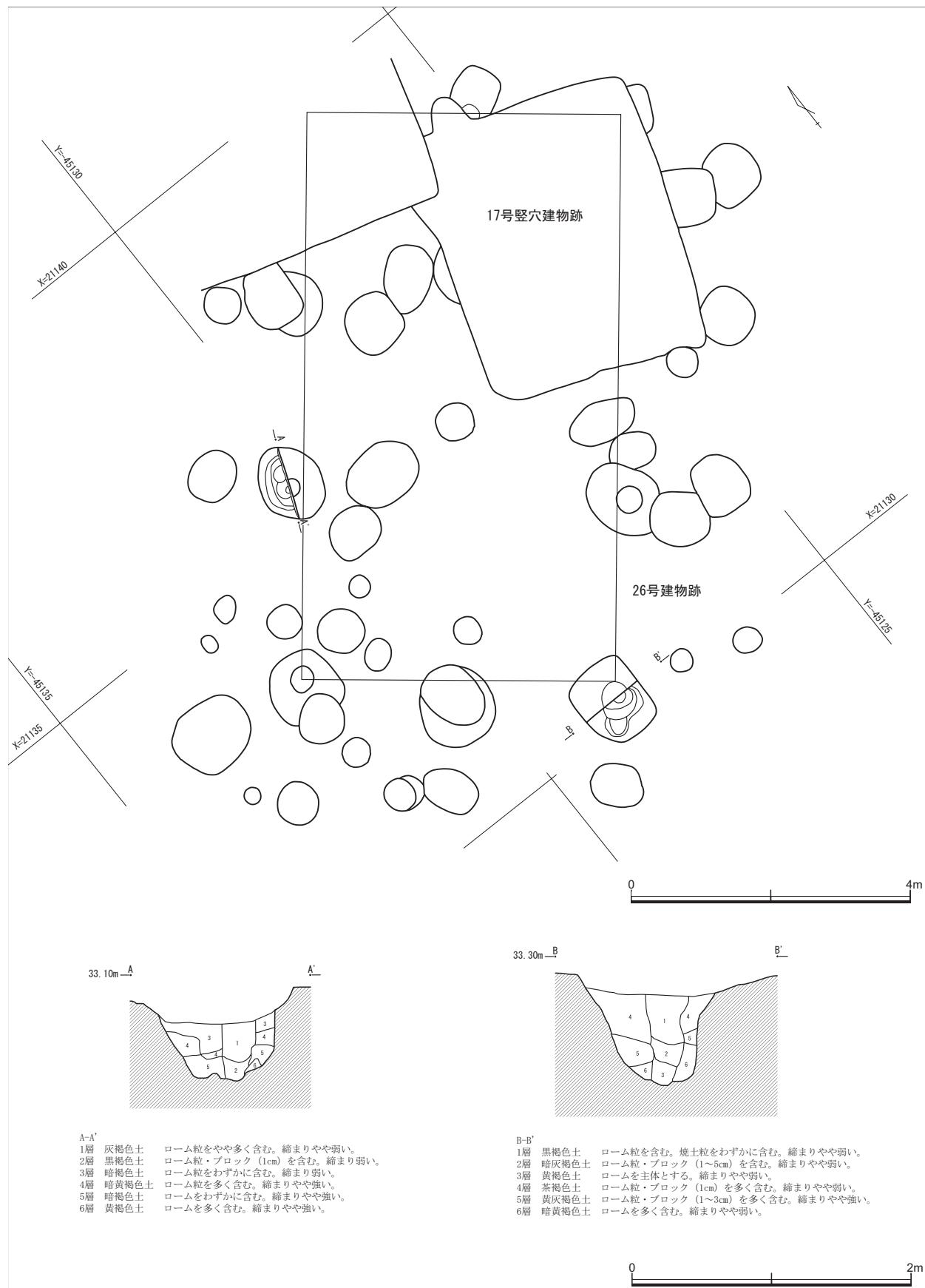
第4次調査区A区に位置し、第15号竪穴建物跡を切る。側柱式掘立柱建物跡で、南北2間（2.8m）で、柱間は東西が1.4m、南北が1.3m、1.5mである。主軸方位はN-60°-Wである。

柱の掘方は直径約40cmの円形を基本とする。柱痕跡は確認できなかった。

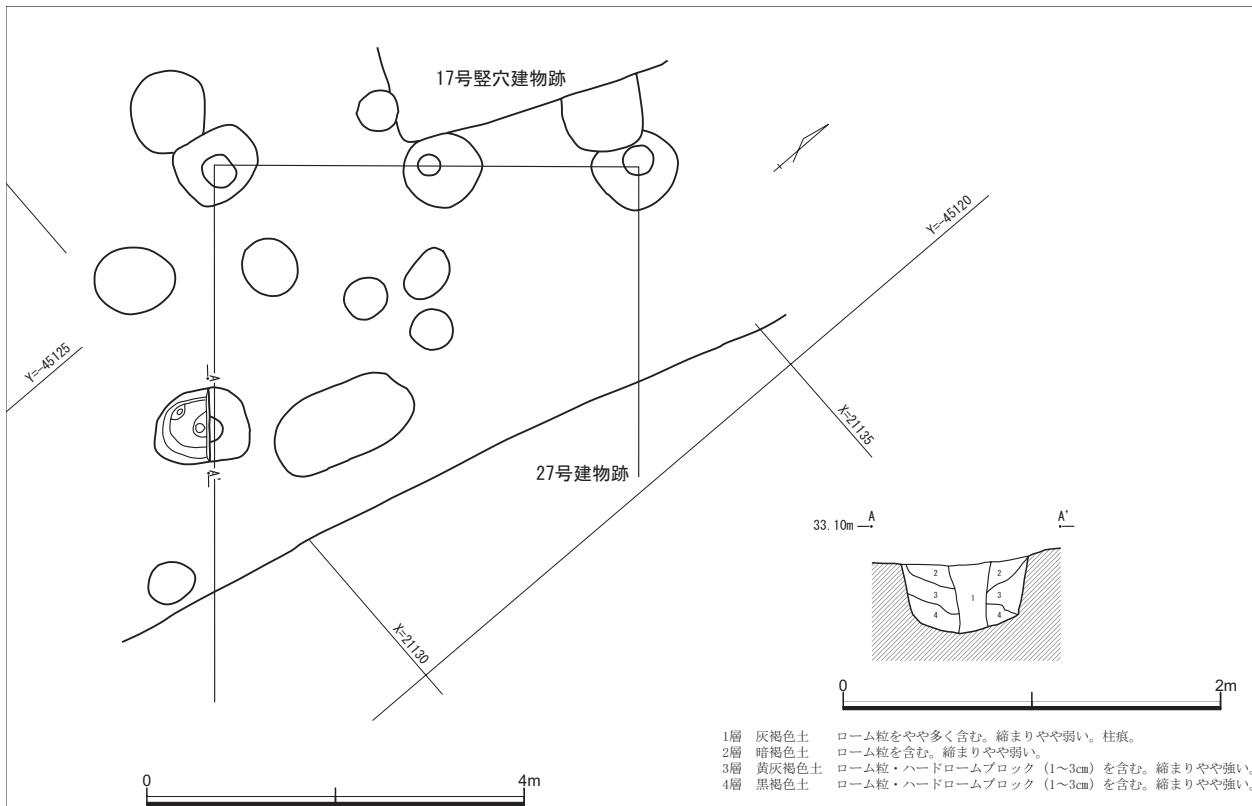
図示できる遺物は出土しなかった。遺構の時期は、切り合い関係から古代末～中世頃と推定される。



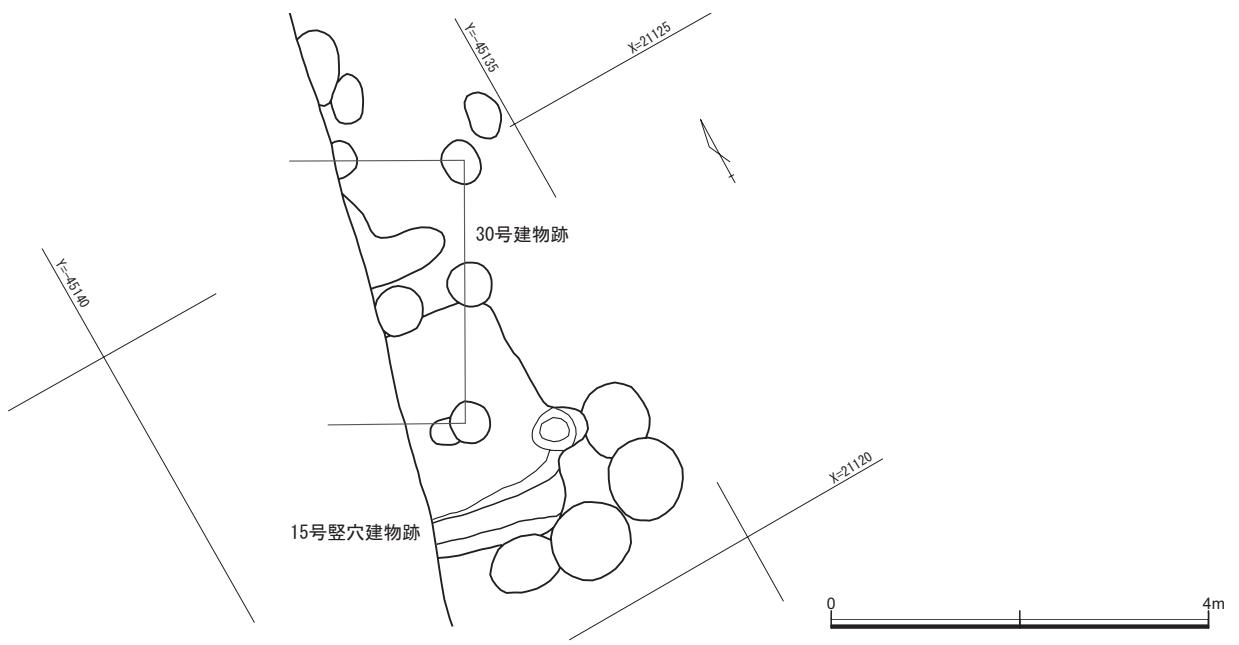
第18図 第24・25号建物跡、第70号土坑



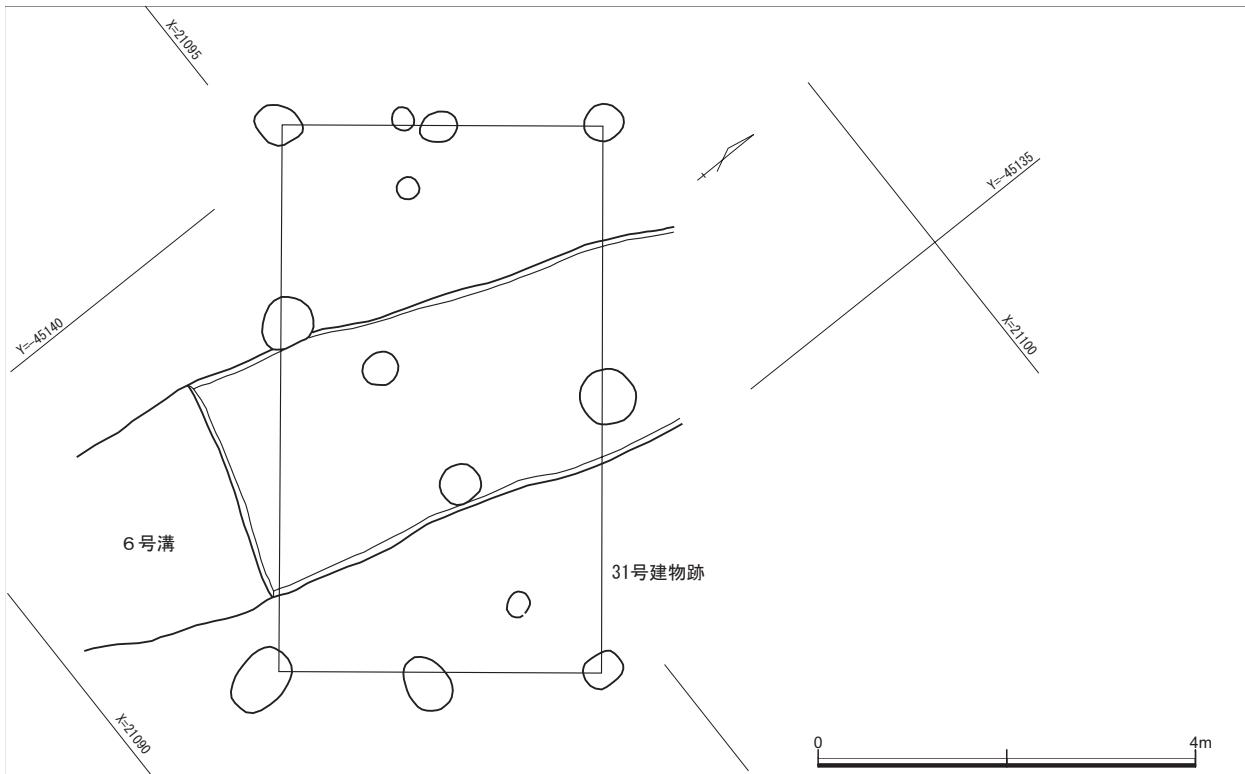
第19図 第26号建物跡



第20図 第27号建物跡



第21図 第30号建物跡



第22図 第31号建物跡

#### 第31号建物跡（第22図）

第4次調査区B区に位置し、近世の第6号溝に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行2間（5.8m）×梁行2間（3.4m）、柱間は桁行が北東2.9m等間、南西が2.1m、3.7m、梁行は北西が1.7m等間、南東が1.6m、1.8mである。主軸方位はN-51°-Wである。

柱の掘方は直径30～60cmの円形を基本とする。柱痕跡は確認できなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。遺構の時期は特定できない。

#### 第34号建物跡（第23図）

第18次調査区A区南西部に位置し、第35号建物跡、第487～489号土坑に切られる。総柱式掘立柱建物跡で、桁行3間（4.8m）×梁行2間（3m）、柱間は桁行が1.6m（約5.5尺）等間、梁行が1.5m（5尺）等間である。主軸方位はN-48°-Wである。

柱の掘方は一辺50～70cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第35号建物跡（第23図）

第18次調査区A区南西部に位置し、第34号建物跡を切り、第36号建物跡に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行4間以上（6m以上）×梁行2間以上（3m）、柱間は桁行が1.5m（5尺）等間、梁行が1.5m（5尺）である。主軸方位はN-55°-Wである。

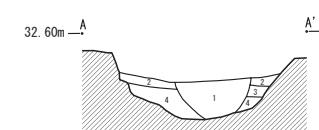
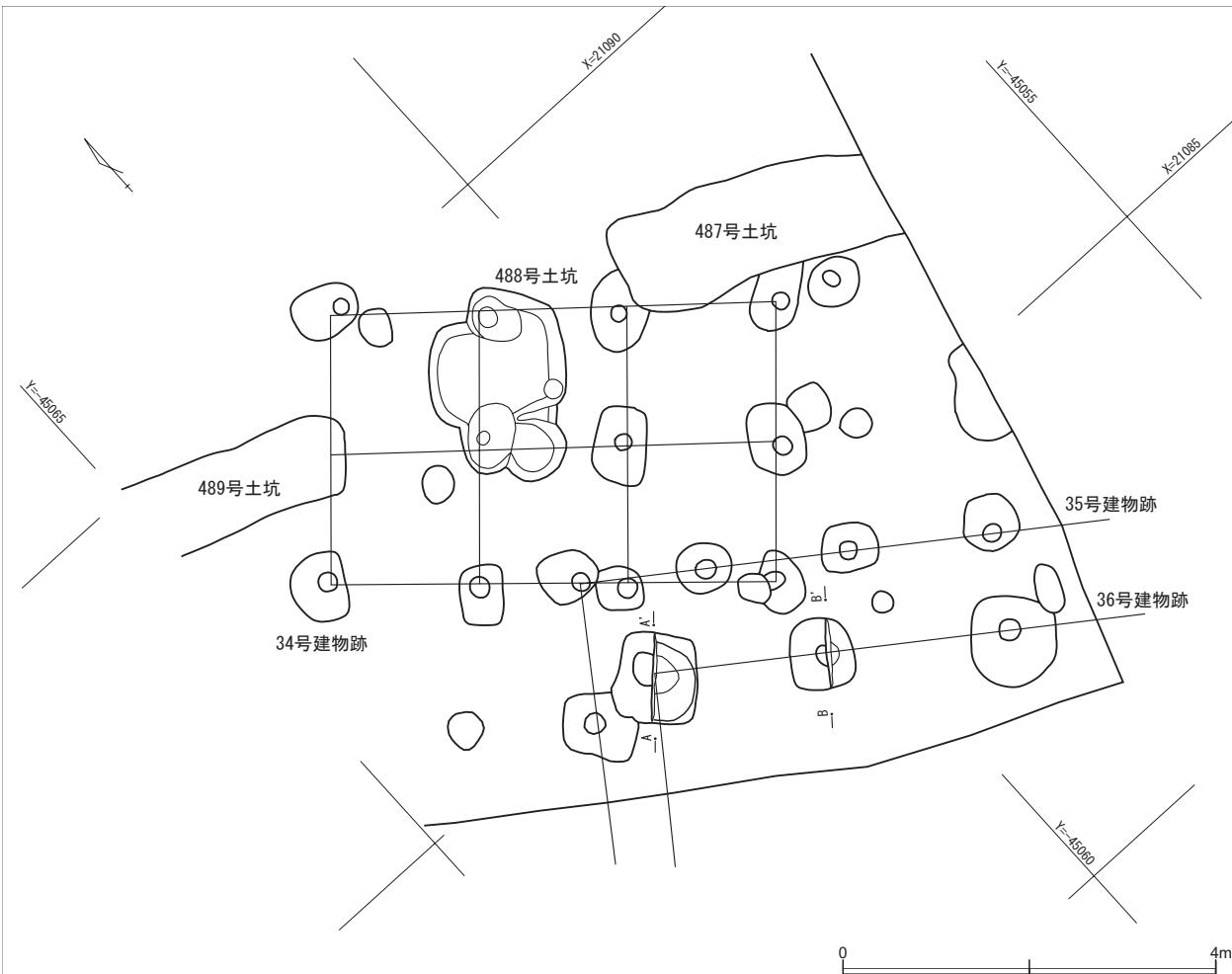
柱の掘方は一辺50～80cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第36号建物跡（第23図、第30図6・7、第2表）

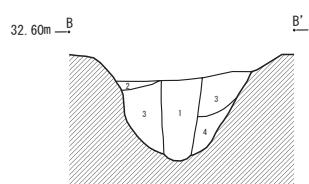
第18次調査区A区南西部に位置し、第34・35号建物跡より新しい。側柱式掘立柱建物跡で、東西3間以上（5.85m以上）で南北は不明、柱間は東西が1.95m（6.5尺）等間である。主軸方位はN-55°-Wである。

柱の掘方は一辺70～100cmの隅丸方形を基本とする。柱穴の深さは、確認面から35～55cmを測る。柱



A-A'

1層 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ハードロームブロック(1cm)を含む。炭化粒をわずかに含む。縮まりやや弱い。  
 2層 黒褐色土(10YR3/4) ローム粒・ハードロームブロック(1~3cm)を含む。縮まり普通。  
 3層 黄褐色土(10YR5/6) ソフトロームで構成。縮まり普通。  
 4層 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・ハードブロック(1~3cm)をやや多く含む。縮まり普通。



B-B'

1層 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ハードロームブロック(1cm)を少し含む。縮まり弱い。  
 2層 銀い黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を多量に含む。縮まり弱い。  
 3層 黑褐色土(10YR2/1) ローム粒・ハードロームブロック(1~3cm)をやや多く含む。縮まりやや強い。  
 4層 黑褐色土(10YR3/1) ローム粒・ブロック(1~5cm)を少し含む。縮まり普通。



第23図 第34～36号建物跡

は柱痕跡を残すものと抜き取るものがある。柱痕跡から、柱の径は約20cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図6・7である。共に土師器で、6は暗文壺、7は甕である。

#### 第37号建物跡（第24図、第30図8、第2表）

第18次調査区A区南西部に位置し、第38号建物跡、第526号土坑を切る。側柱式掘立柱建物跡で、桁行4間以上（9m以上）×梁行2間以上（3.6m以上）、柱間は桁行が北から2.25m（7.5尺）、2.55m（8.5尺）、2.1m（7尺）、2.1m（7尺）、梁行が1.8m（6尺）等間である。主軸方位はN-42°-Eである。

柱の掘方は一辺60～80cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図8のロクロ土師器壺である。ただし、遺物は確認面付近から出土したものであり、混入の可能性も考えられる。

#### 第38号建物跡（第24図、第30図9、第2表）

第18次調査区A区南西部に位置し、第526・527・529号土坑を切り、第37号建物跡に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行、梁行共2間以上、柱間は桁行が2.25m（7.5尺）、梁行が1.95m（6.5尺）である。主軸方位はN-42°-Eである。

柱の掘方は一辺60～80cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図9の須恵器蓋である。外面上に釉がかかる。

#### 第39号建物跡（第25図）

第18次調査区A区南西部に位置し、第34・35号溝に切られる。大半が調査区外に位置するため詳細は不明だが、東西2間以上（3.9m以上）、柱間は1.95m（6.5尺）である。主軸方位はN-51°-Wである。

柱の掘方は一辺60～90cmの隅丸長方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第40号建物跡（第26図）

第18次調査区B区に位置し、第535号土坑に切られる。総柱式掘立柱建物跡で、平面形態はやや歪んだものである。桁行2間で北西は3.5m、南東は3.2m、梁行2間（3m）、柱間は桁行の南西が1.6m（約5.5尺）等間、梁行が1.5m（5尺）等間である。主軸方位はN-40°-Eである。

柱の掘方は一辺40～80cmの隅丸方形を基本とする。柱は柱痕跡を残し、柱の径は20～30cmと思われる。束柱は直径約30cmと小規模で、確認面からの深さはほとんどない。

図示できる遺物は出土しなかった。

## d 塀跡

#### 第1号塀跡（第27図、第30図10～12、第2表）

第4次調査区A区に位置する。二重溝の内側に同じ方位で南北に構築されるもので、6間（14.55m）、柱間は北から2.55m（8.5尺）、2.55m（8.5尺）、2.4m（8尺）、2.55m（8.5尺）、2.55m（8.5尺）、1.95m（6.5尺）である。主軸方位はN-17°-Eである。

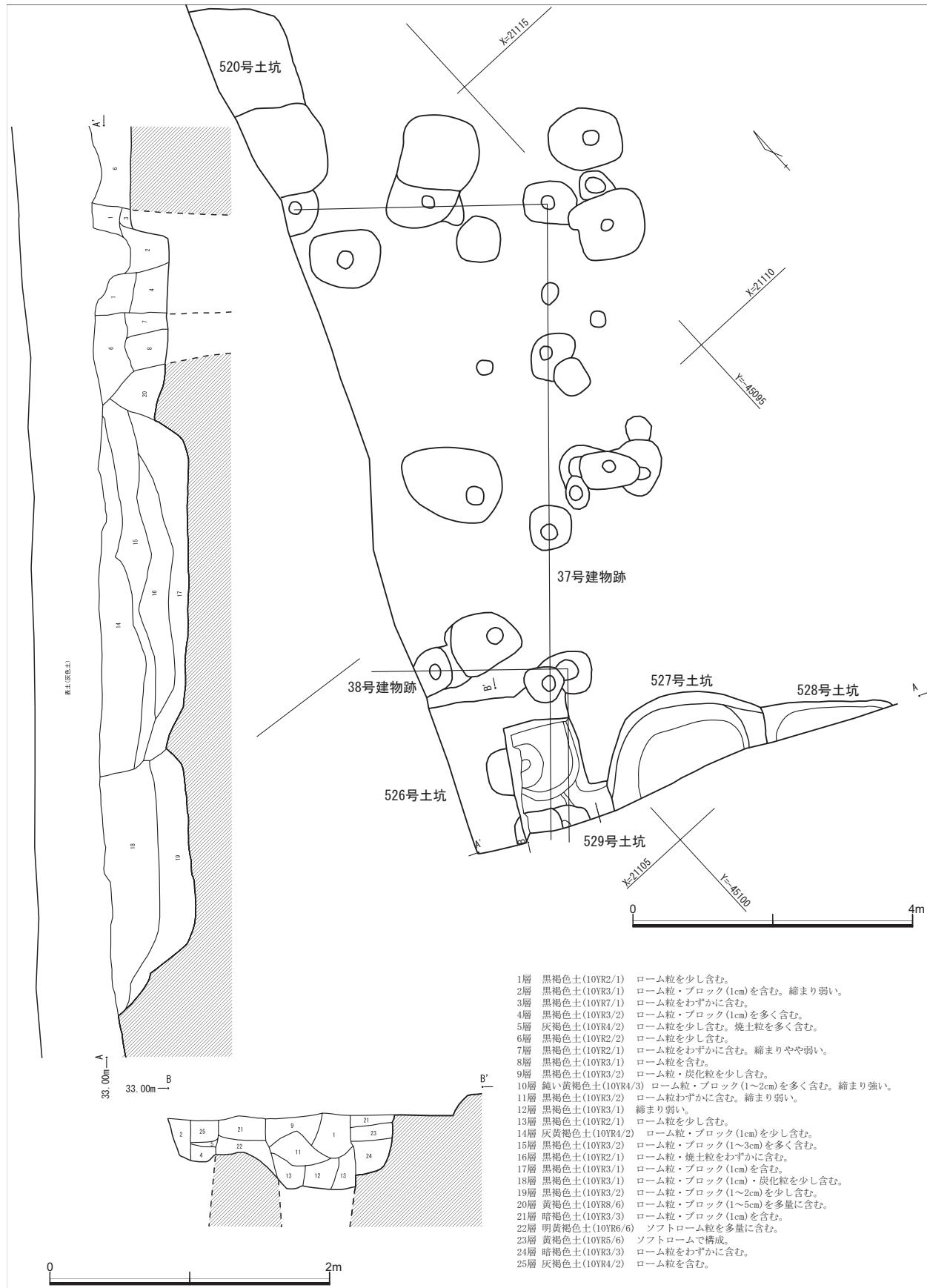
柱の掘方は直径50～80cmの円形を基本とする。柱穴の深さは、確認面から30～50cmを測る。柱は柱痕跡を残すものと抜き取るものがある。柱痕跡から、柱の径は20～30cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図10～12である。10はロクロ土師器の椀、11は軒瓦、12は鉄釘である。

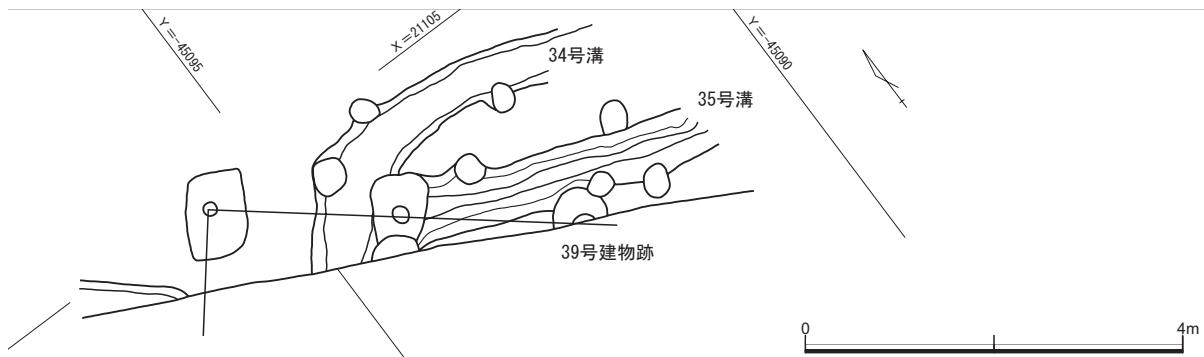
#### 第2号塀跡（第28図、第30図13、第2表）

第18次調査区A区南西部に位置し、第526号土坑を切る。南東側をL字に仕切るもので、北東は4間（8.85m）、南西は2間以上（3.75m以上）で、柱間は北東が西から1.95m（6.5尺）、2.4m（8尺）、2.4m（8尺）、2.1m（7尺）、南西が北から1.95m（6.5尺）、1.8m（6尺）である。主軸方位はN-58°-Wである。

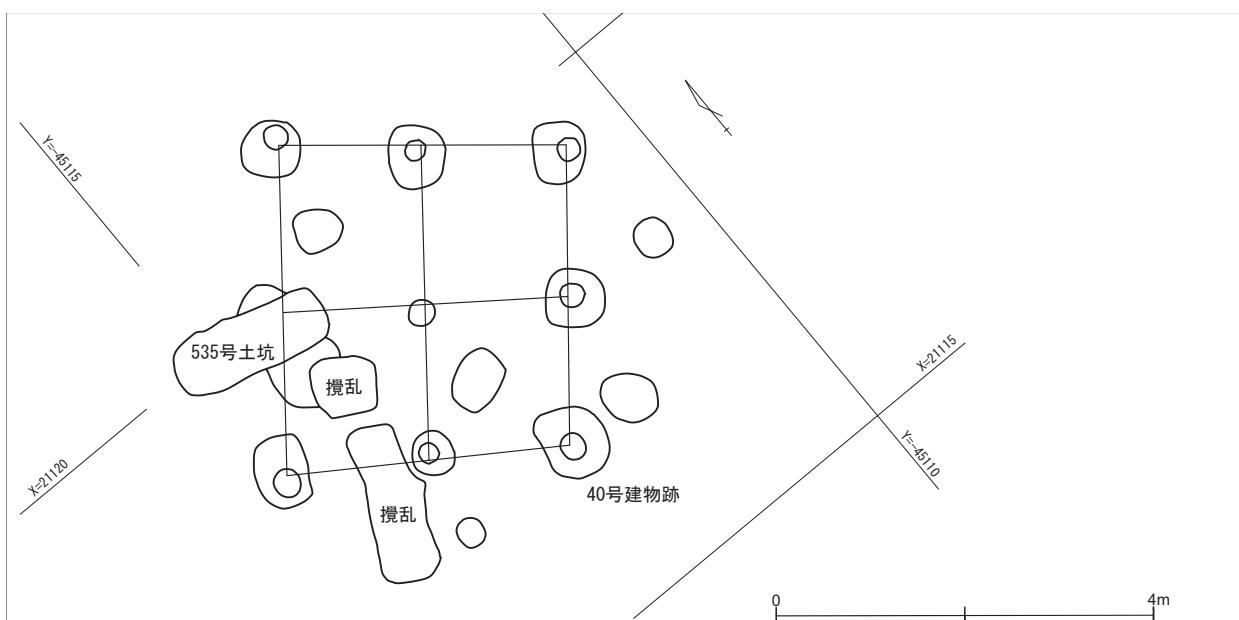
柱の掘方は一辺約80cmの隅丸方形と、一辺80～160cmの隅丸長方形がある。柱穴の深さは95cmを測



第24図 第37・38号建物跡



第25図 第39号建物跡



第26図 第40号建物跡

る。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図12の有段口縁坏である。

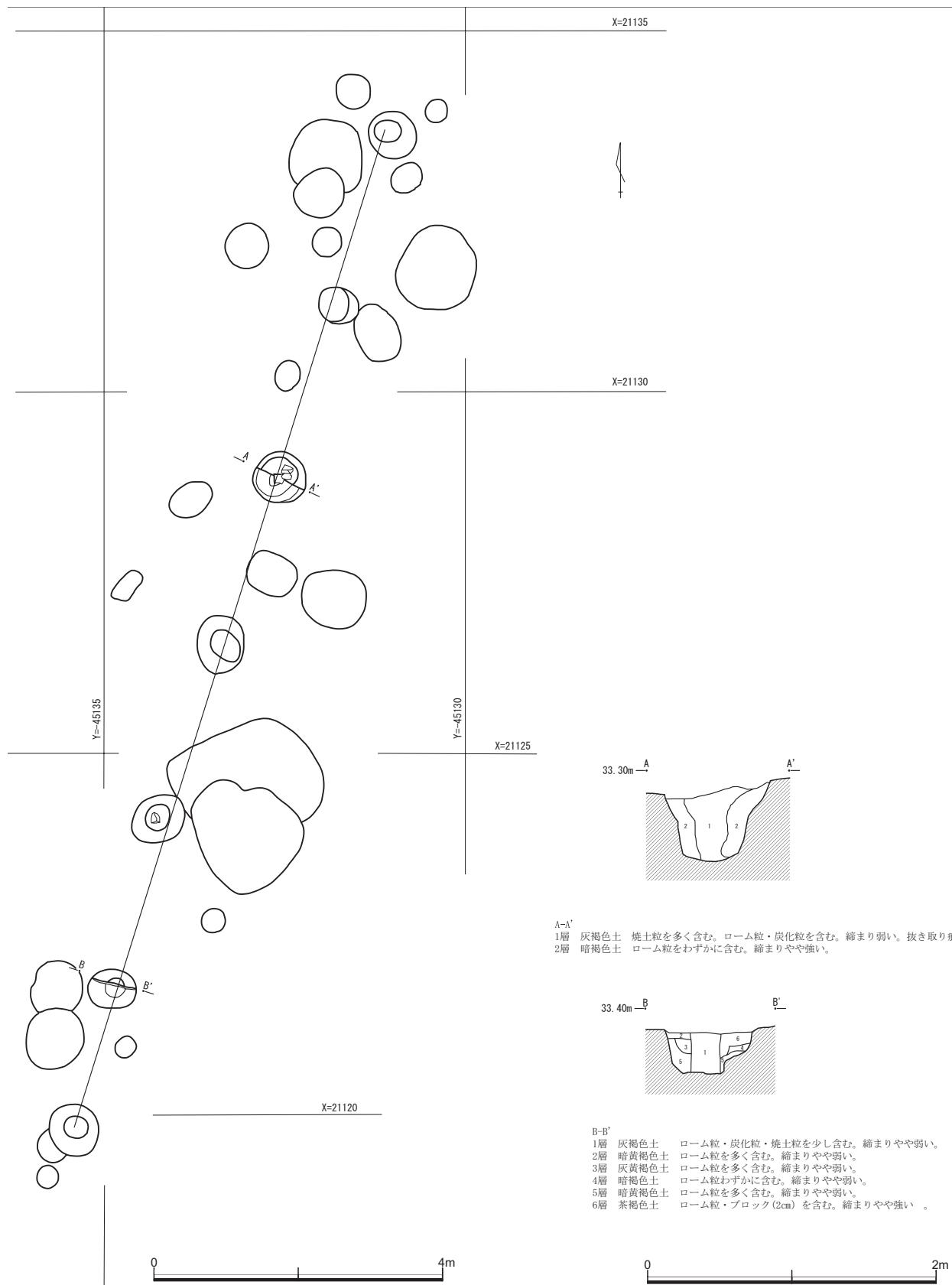
### 第3号堀跡（第29図、第30図14、第2表）

第18次調査区A区南西部に位置し、第523・525号土坑に切られる。南側を仕切るものと思われ、5間以上（10.65m以上）で、柱間は西から1.95m（6.5尺）、1.8

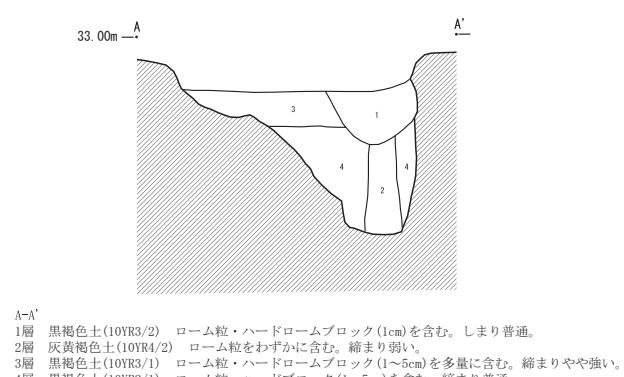
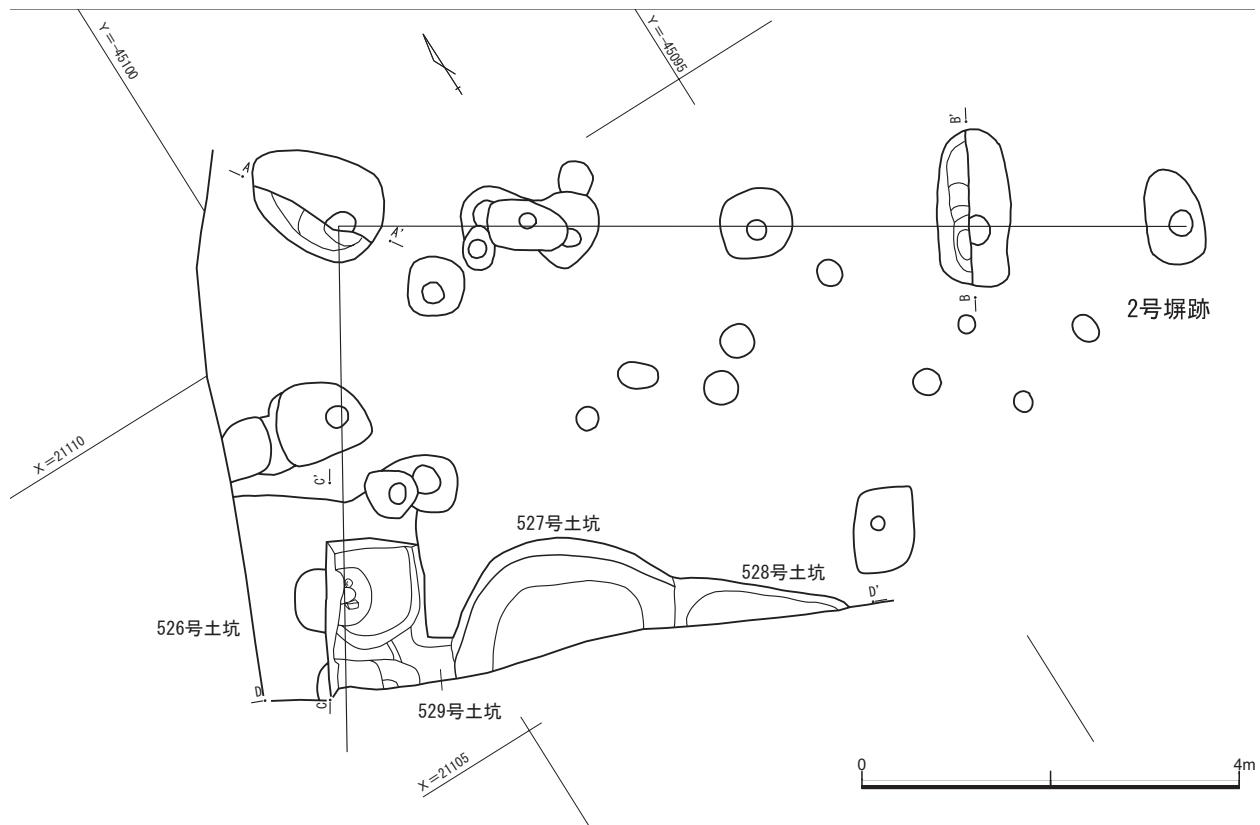
m（6尺）、2.7m（9尺）、2.1m（7尺）、2.1m（7尺）である。主軸方位はN-53°-Wである。

柱の掘方は一辺60～100cmの隅丸方形を基本とする。柱穴の深さは50cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱の径は約20cmと思われる。

図示できた遺物は、第30図14の暗文系無文坏である。



第27図 第1号塹跡



B-B'

33.00m ————— B B'

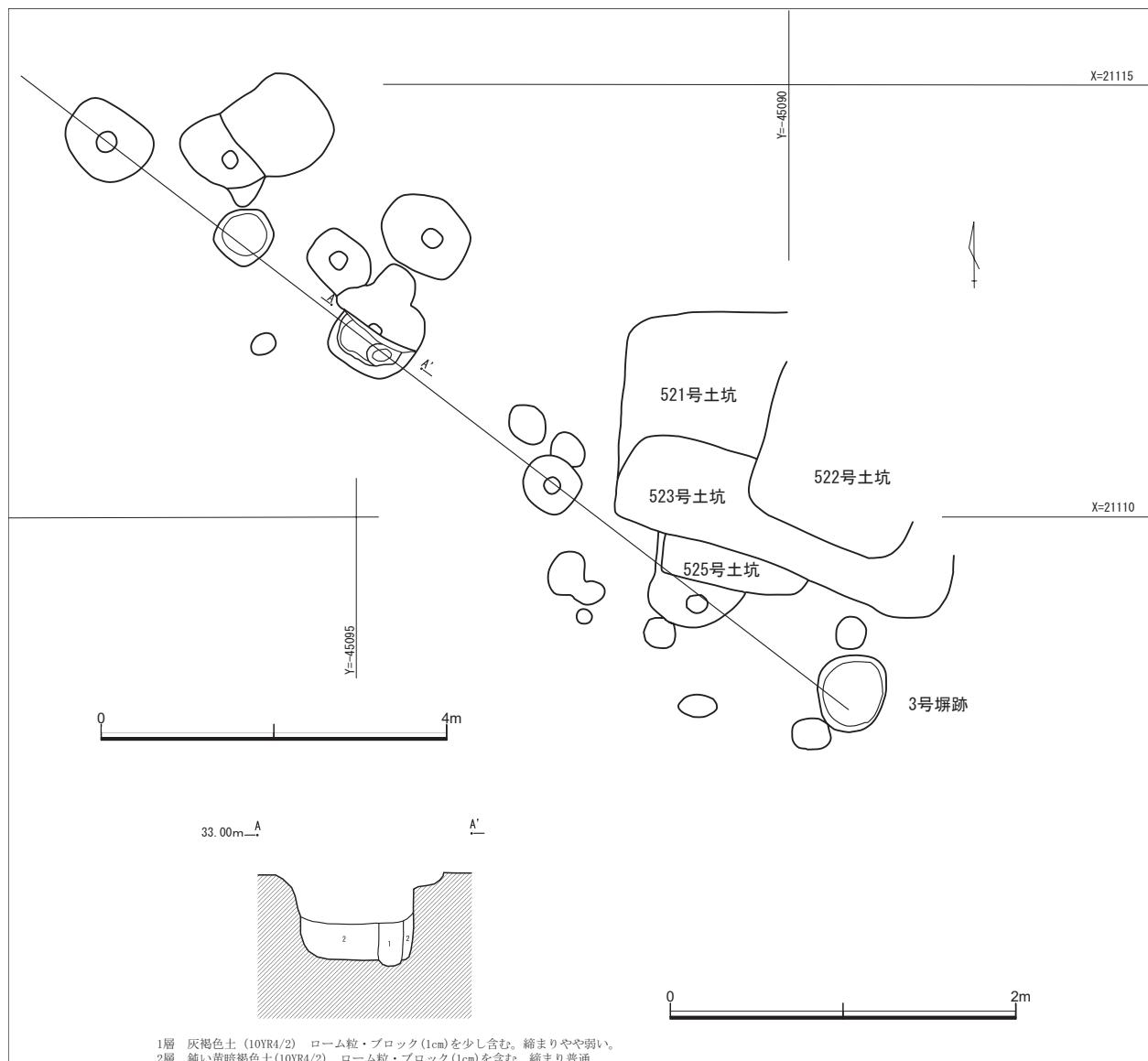
※ C-C' D-D' は、第24図を参照。

B-B'

1層 灰褐色土(10YR4/2) ローム粒・ハードロームブロック(1cm)を含む。縮まり弱い。  
2層 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を含む。縮まり弱い。  
3層 黄褐色土(10YR5/6) ローム粒・ブロック(1~3cm)を多量に含む。縮まり弱い。  
4層 鈍い黄褐色土(10YR4/3) ローム粒・ブロック(1~3cm)を多く含む。縮まり普通。  
5層 黑褐色土(10YR2/1) ローム粒・ハードロームブロック(1cm)を含む。縮まり弱い。  
6層 褐色土(10YR4/4) ローム粒・ブロック(1~2cm)を多く含む。縮まりやや弱い。  
7層 黑褐色土(10YR3/1) ローム粒・ハードロームブロック(1~3cm)を含む。縮まり弱い。  
8層 黄褐色土(10YR5/6) ソフトローム構成。縮まり普通。

0 2m

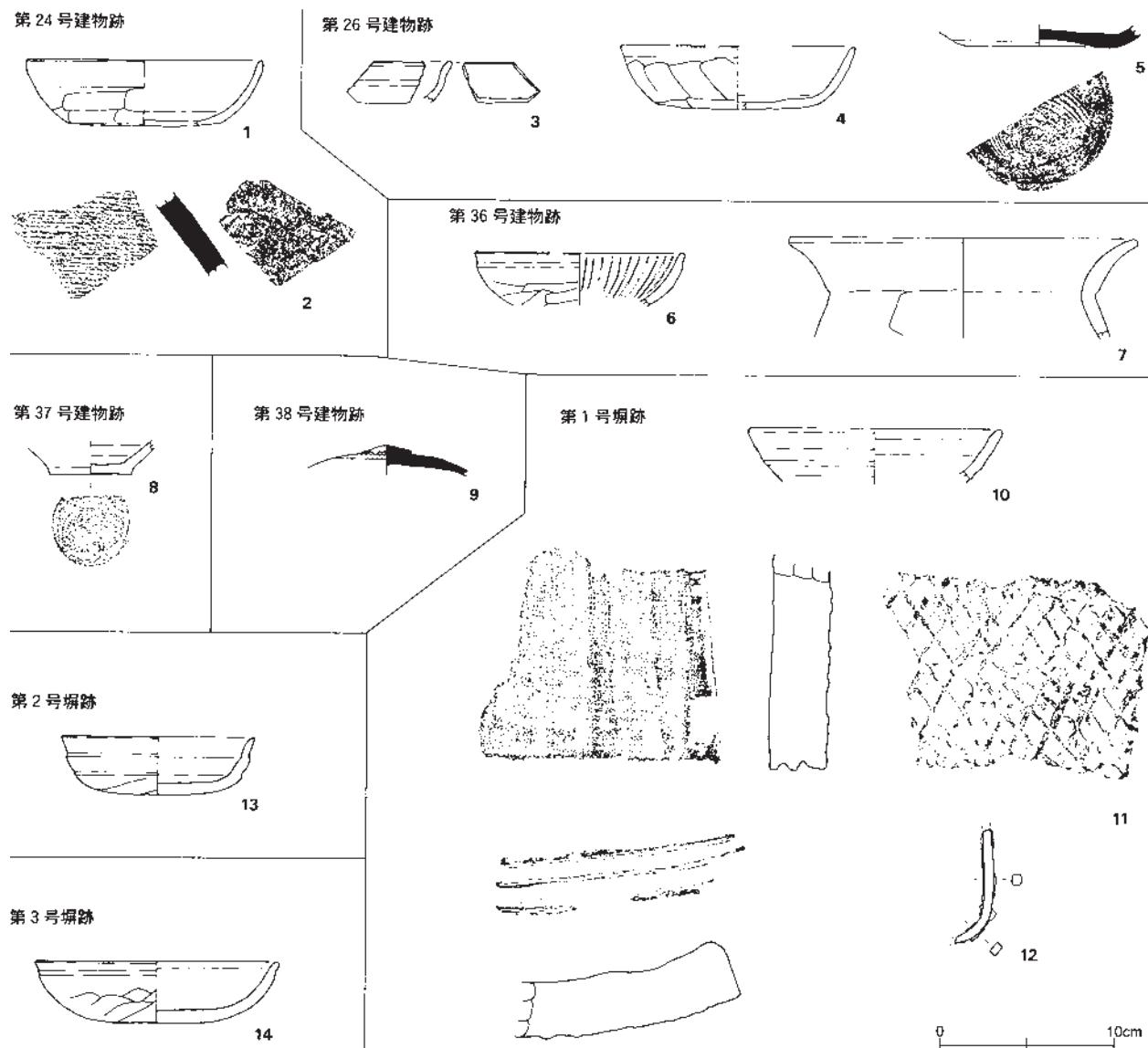
第28図 第2号墳跡



第29図 第3号堀跡



第2号堀跡



第30図 建物跡・堀跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
30図 1	SB24	H	壺	(13.5)	(3.8)		A C I	普	赤褐	20%	
2		S	甕				A F H	良	灰		
3	SB26	H	壺				A C	良	橙		
4		H	壺	(13.4)	3.7		A C E	普	橙	25%	
5		S	壺			8.4	A G	良	青灰	15%	
6	SB36	H	壺	(11.8)			A B C E	良	橙	20%	
7		H	甕	(19.7)			A C D E	普	橙		
8	SB37	R	壺			4.7	A H	普	黒褐	25%	
9	SB38	S	蓋				A C	良	灰	15%	外側に自然釉
10	SA1	R	壺	(14.3)			A E F H	普	暗橙	10%	
11			軒平瓦				A H	普	灰	15%	
12			釘		幅0.5	厚0.6					重さ 12.33g
13	SA2	H	壺	(11.0)	3.4		A D E	普	灰橙	30%	
14	SA3	H	壺	(13.9)	3.6		A C E	良	橙	25%	

第2表 建物跡・堀跡出土遺物観察表

## e 竪穴建物跡

### 第13号竪穴建物跡（第31～39図、第3～6表）

第4次調査区B区に位置し、第6号溝が覆土上面近くに掘り込まれる。平面形態は方形で、一辺約6mを測る。主軸方位はN-125°-Wである。

床面は確認面から45cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。カマドは2基確認され、カマド1は南西ほぼ中央に構築される。袖は粘土により造られる。燃焼部は幅40cm、奥行40cmで、底面は皿状に深くなる。床面からの深さは16cmである。煙道は幅40cm、長さ85cmで、先端に向かって浅くなる。カマド前には径20cm、床面からの深さ5cmのピットが確認された。カマド2は、カマド1へと造り替えられたものとみられる。

壁溝は幅約20cm、床面からの深さ5～10cmで全周する。ピットは4基確認され、主柱穴と考えられる。掘り下げは行なっていない。南隅には、深さ10cmの円形の落ち込みが認められた。

図示できた遺物は、第34図1～第39図150である。1～4は有段口縁壺の段が退化したもの、或いは模倣壺、5～32は有段口縁壺である。5は内面に「X」の線刻が焼成後に施される。33は綱比企型壺で、内外面が赤彩される。34～43は北武藏型壺、44～47は暗文系無文壺である。48～97は暗文壺、98～100は暗文皿である。101は高壺の脚部であろう。102～111は須恵器で、102、110は蓋、103～109は壺、111は横瓶である。112～132は土師器で、112は壺、113～131は甕、132・134は瓶、133は鉢である。135・136は土錘、137～139は棒状鉄製品、140は延板状鉄製品、141～150は編物石である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

### 第14号竪穴建物跡（第40・41図、第7表）

第4次調査区B区に位置する。平面形態は方形で、一辺約4.2mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。

床面は確認面から35cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。カマドは北東壁やや東寄りに構築され、袖

は粘土により造られる。右袖の先端には、補強材として胴下半を欠く甕が逆位に据えられる。燃焼部は幅45cm、奥行55cmで、底面はわずかに窪む。煙道は幅40cm、長さ50cmで、先端に向かって浅くなる。

貯蔵穴はカマド右脇に造られる。長径90cm、短径85cm、床面からの深さ27cmを測る。底面ほぼ中央がわずかに窪む。

壁溝は幅約20cm、床面からの深さ5～10cmで、北東壁を除いて巡る。ピットは3基確認されたが、掘り下げは行なっていない。

図示できた遺物は、第41図1～13である。1～3は有段口縁壺、4・5は暗文壺、6は須恵器蓋、7・8は甕、9～13は編物石である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

### 第15号竪穴建物跡（第42・43図、第8表）

第4次調査区A区に位置し、第30号建物跡に切られる。平面形態は方形で、南北軸2.5mを測る。主軸方位はN-98°-Eである。

床面は確認面から15cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。カマドは東壁南寄りに構築される。袖は確認できなかった。燃焼部は幅40cm、奥行45cmで、底面は床面から3cm程深くなる。煙道は先端に向かって浅くなる。貯蔵穴、壁溝、ピットは確認されなかった。

図示できた遺物は、第43図1～6である。1～3は口クロ土師器の小皿、4は羽釜、5・6は甕である。

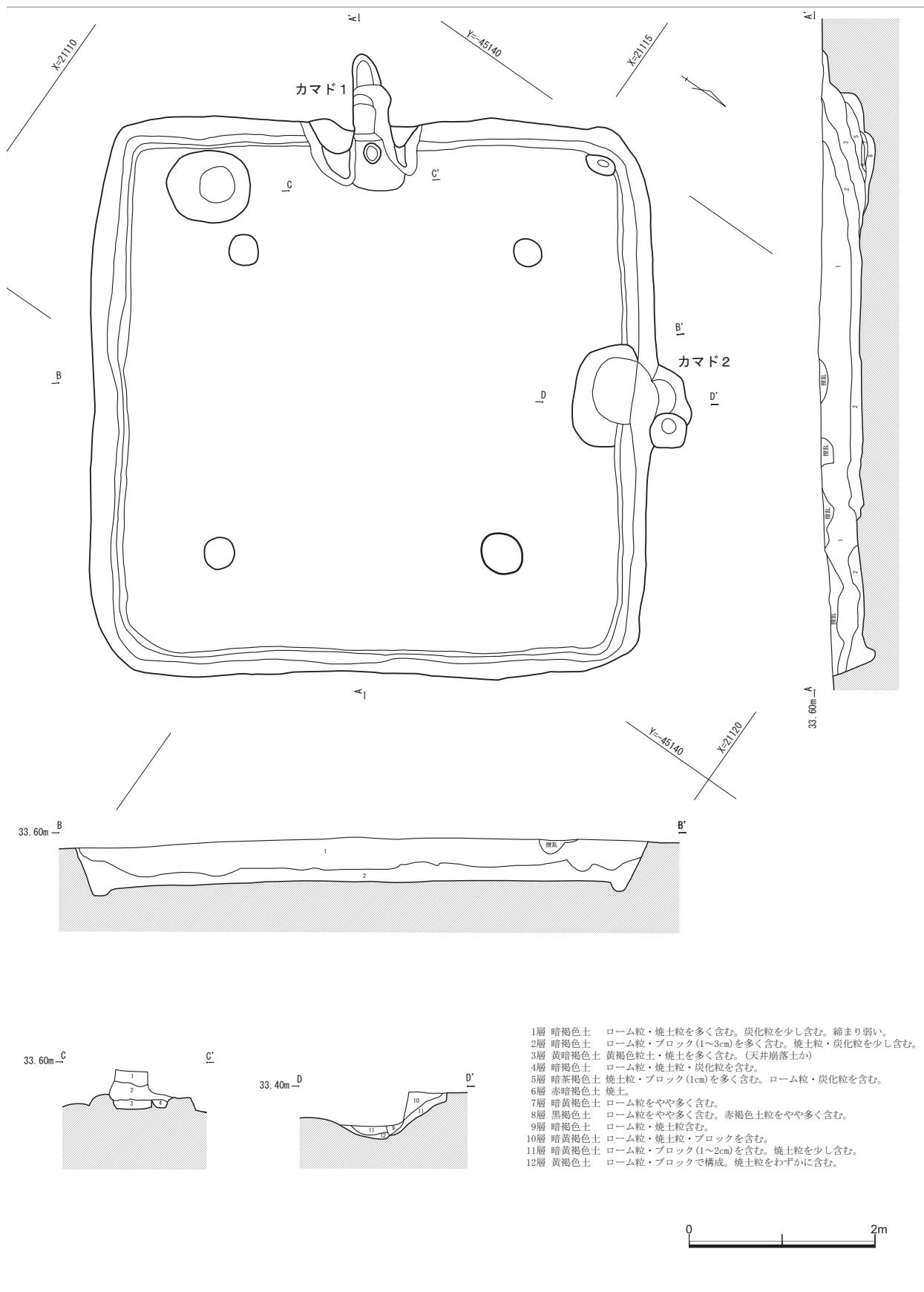
遺構の時期は、11世紀前半頃と推定される。

### 第16号竪穴建物跡（第44・45図、第9表）

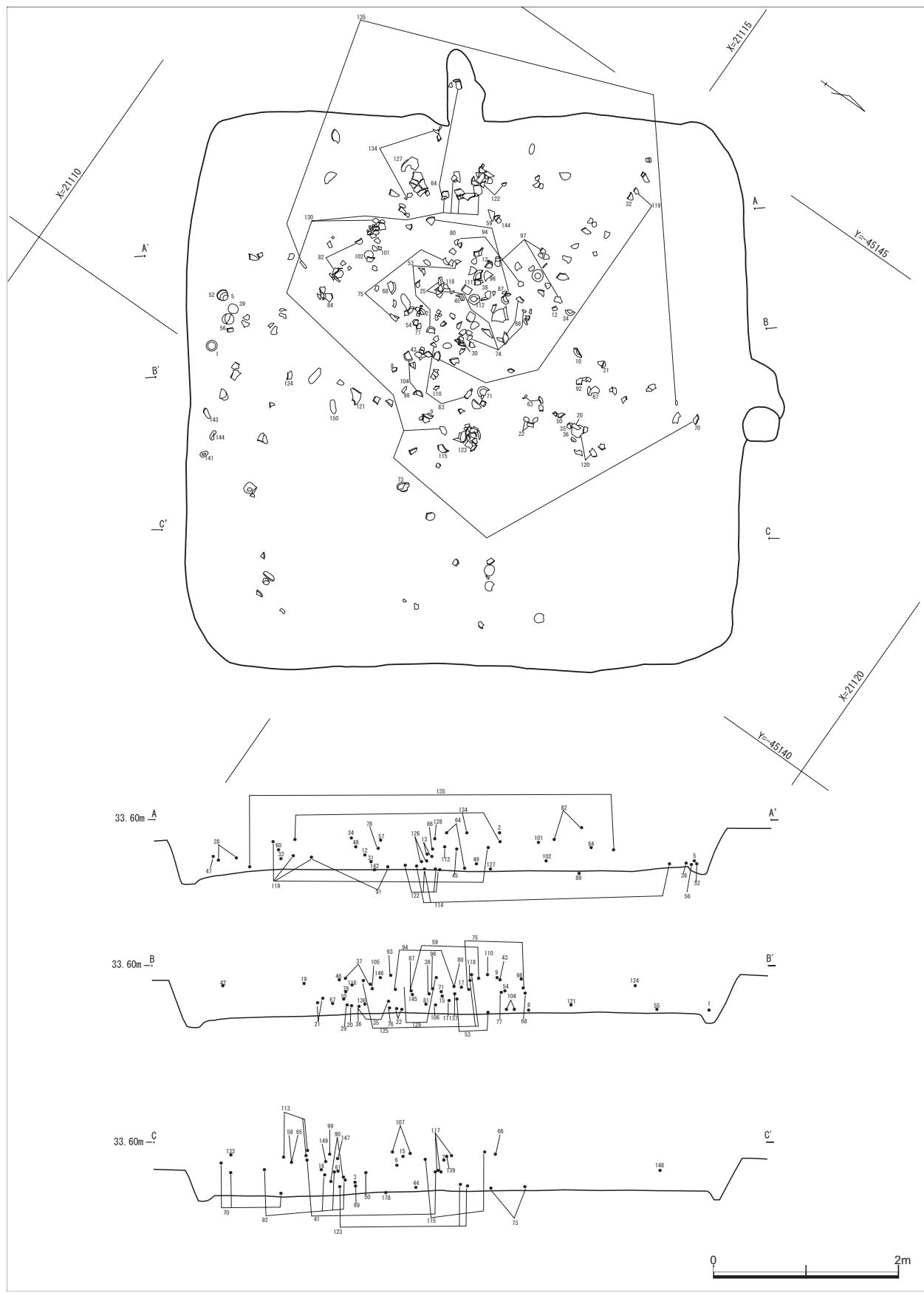
第4次調査区B区に位置し、第114号土坑に切られる。また、第6号溝が覆土上面近くに掘り込まれる。平面形態は方形で、長軸4.8m、短軸4.7mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。

床面は確認面から40cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは北東壁ほぼ中央に構築される。袖は粘土により造られる。

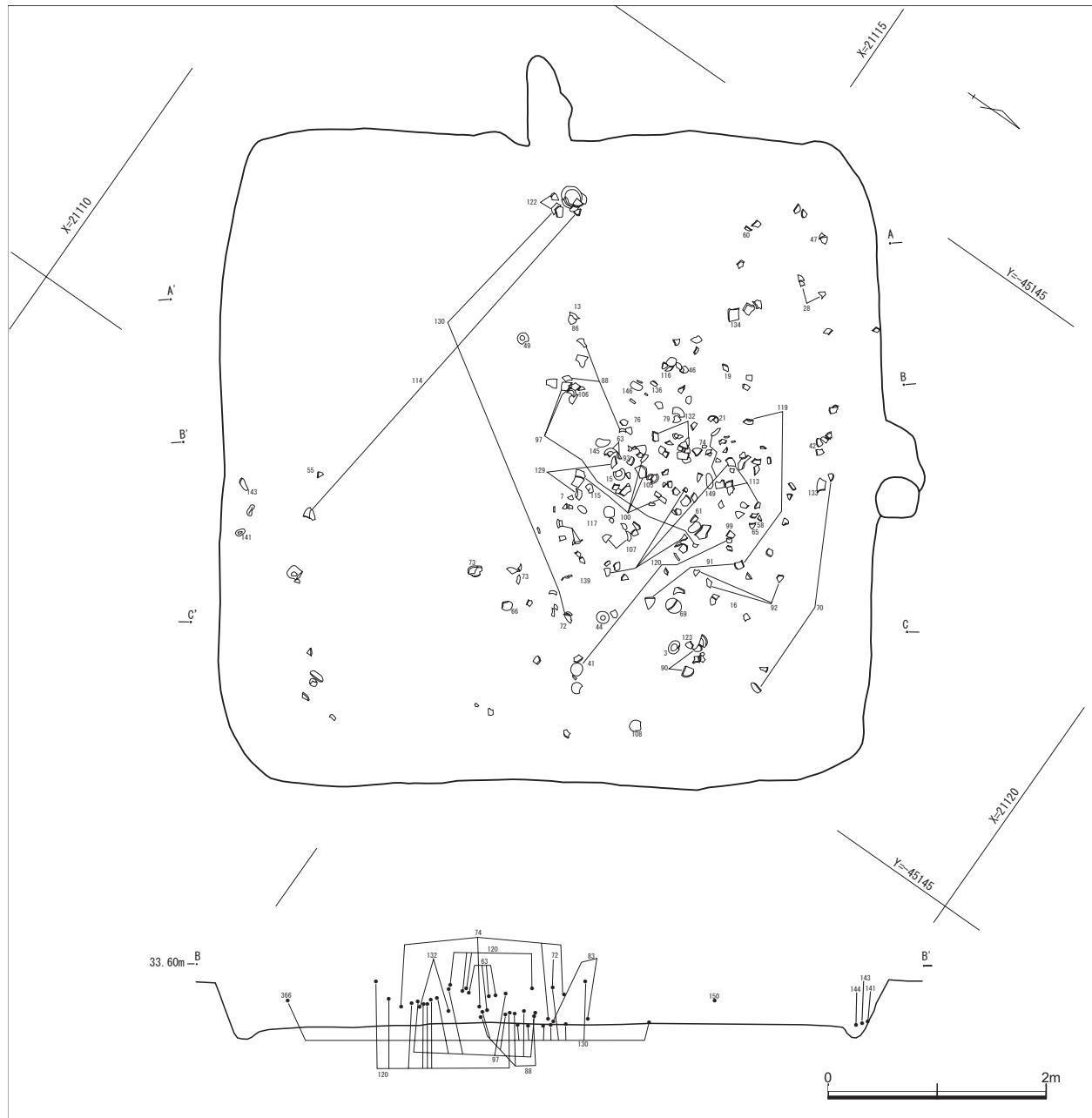
南西半を床面まで掘り下げ、ピット3基と幅約



第31図 第13号竪穴建物跡



第32図 第13号竪穴建物跡遺物出土状況 (1)



第33図 第13号竪穴建物跡遺物出土状況 (2)

20cm、床面からの深さ3~7cmの壁溝が南西及び南東壁際に巡ることが確認された。遺物は、編物石を除いてほとんど認められなかった。覆土にはロームを多く含んでおり、埋め戻されたものと思われる。

図示できた遺物は第45図1~11で、全て編物石である。

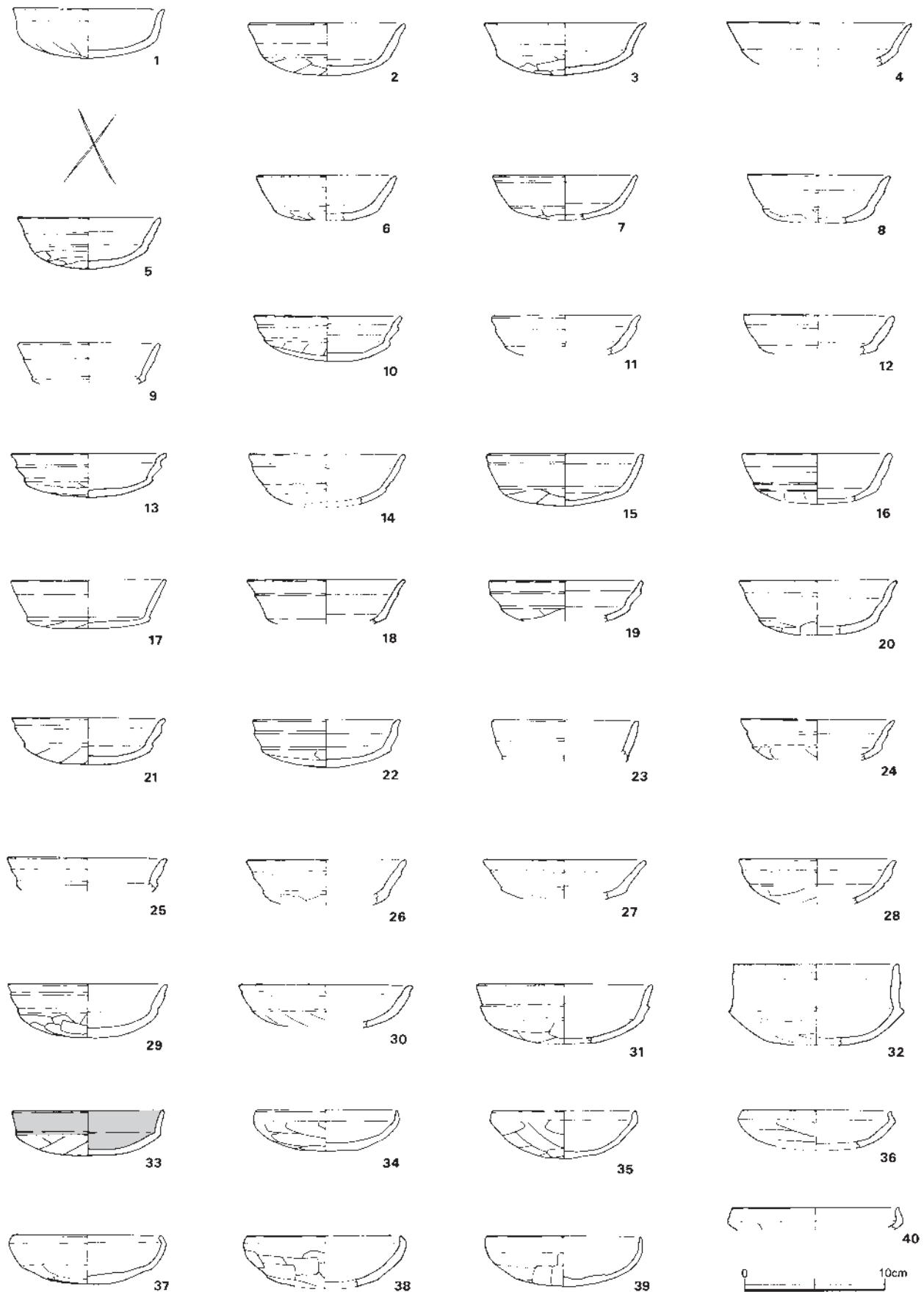
#### 第17号竪穴建物跡（第46図、第10表）

第4次調査区A区に位置し、第26号建物跡を切る。

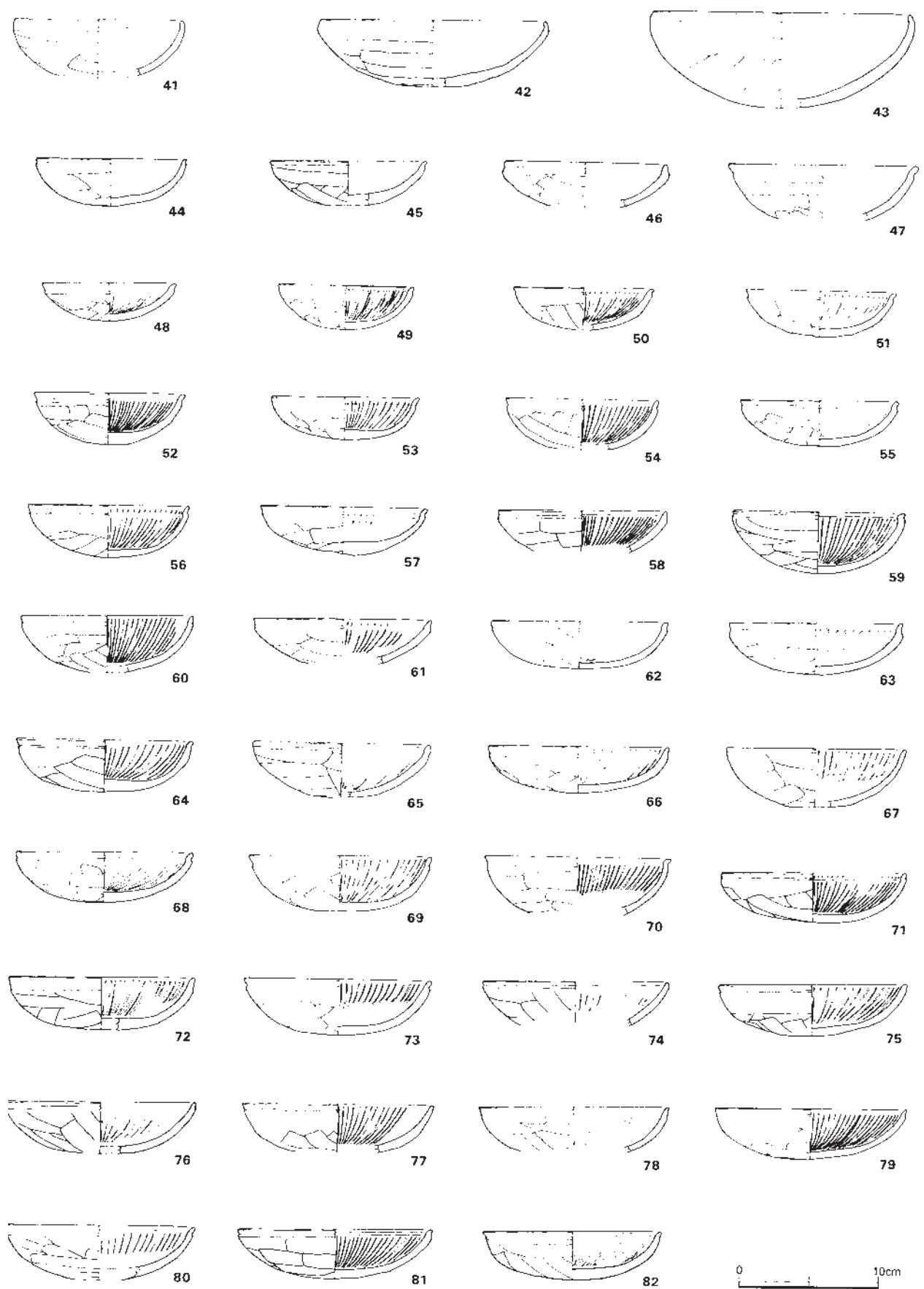
平面形態は方形で、長軸4m、短軸3.3mを測る。主軸方位はN-20°-Eである。カマドは北壁西寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第46図1~10である。1はクロ土師器高台椀、2~4は須恵器高台坏でいずれも焼成は不良である。5は台付甕、6は甕、7は須恵器で円面硯、8は釘、9・10は鉄滓である。

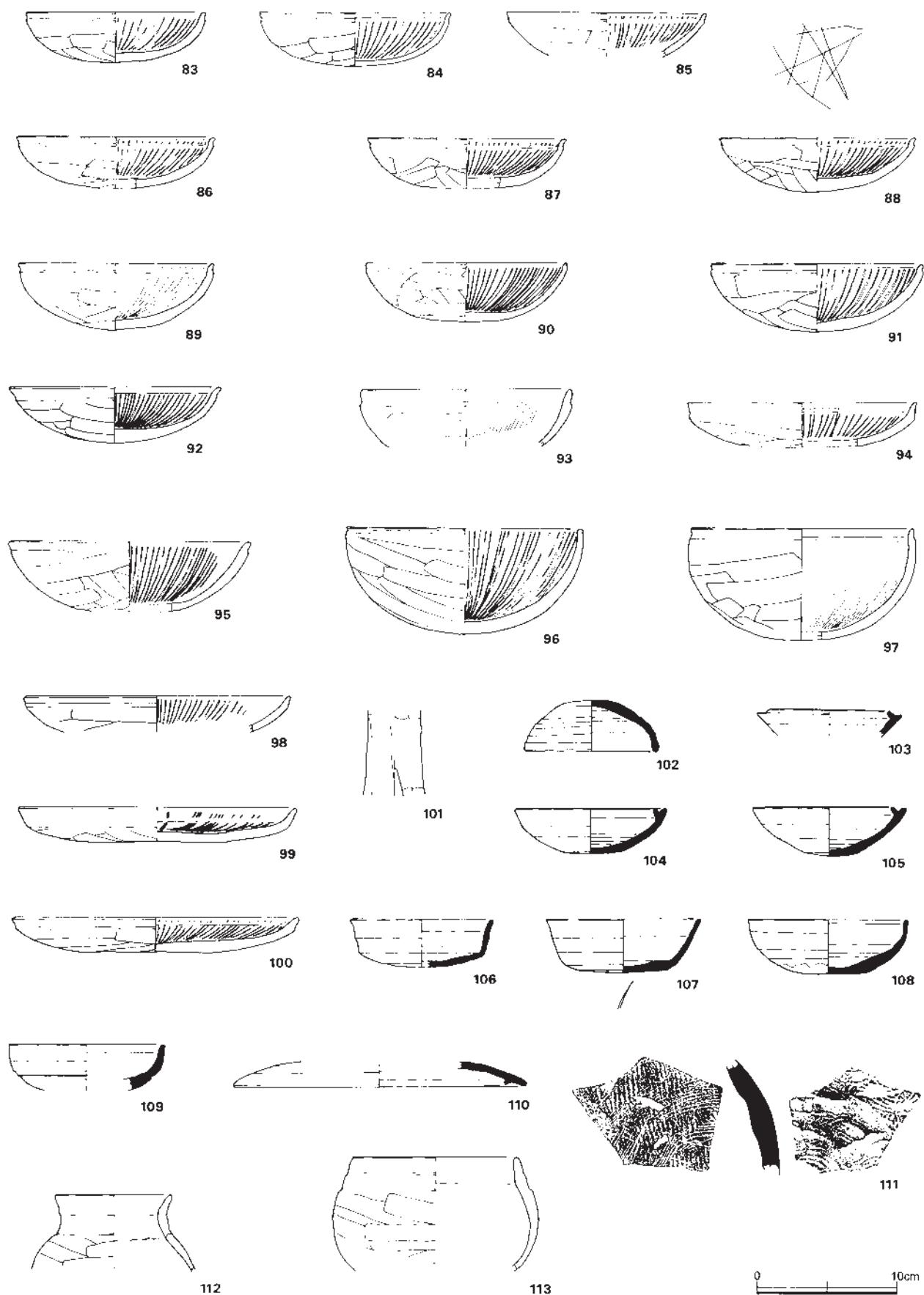
遺構の時期は、10世紀前半と推定される。



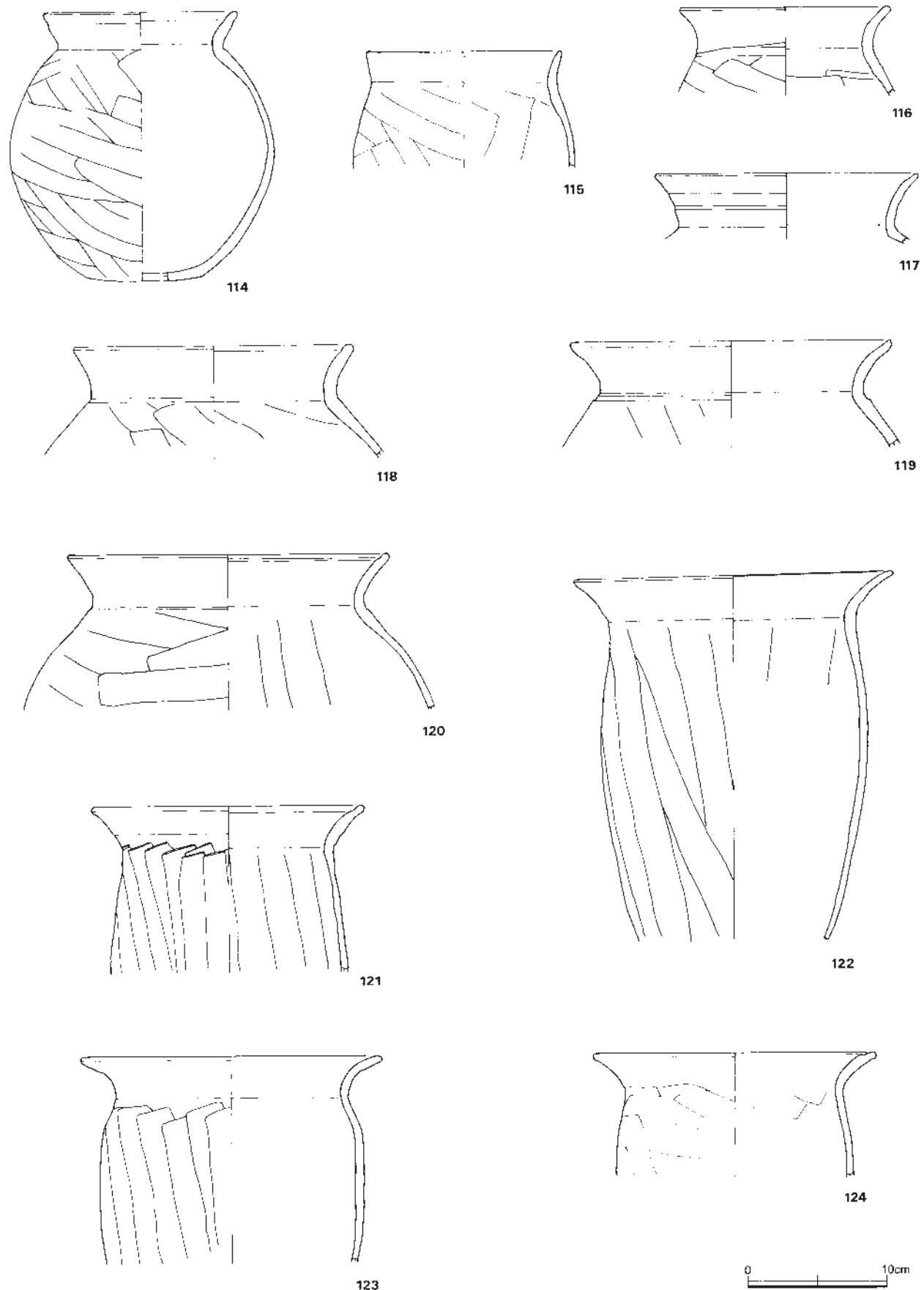
第34図 第13号竪穴建物跡出土遺物 (1)



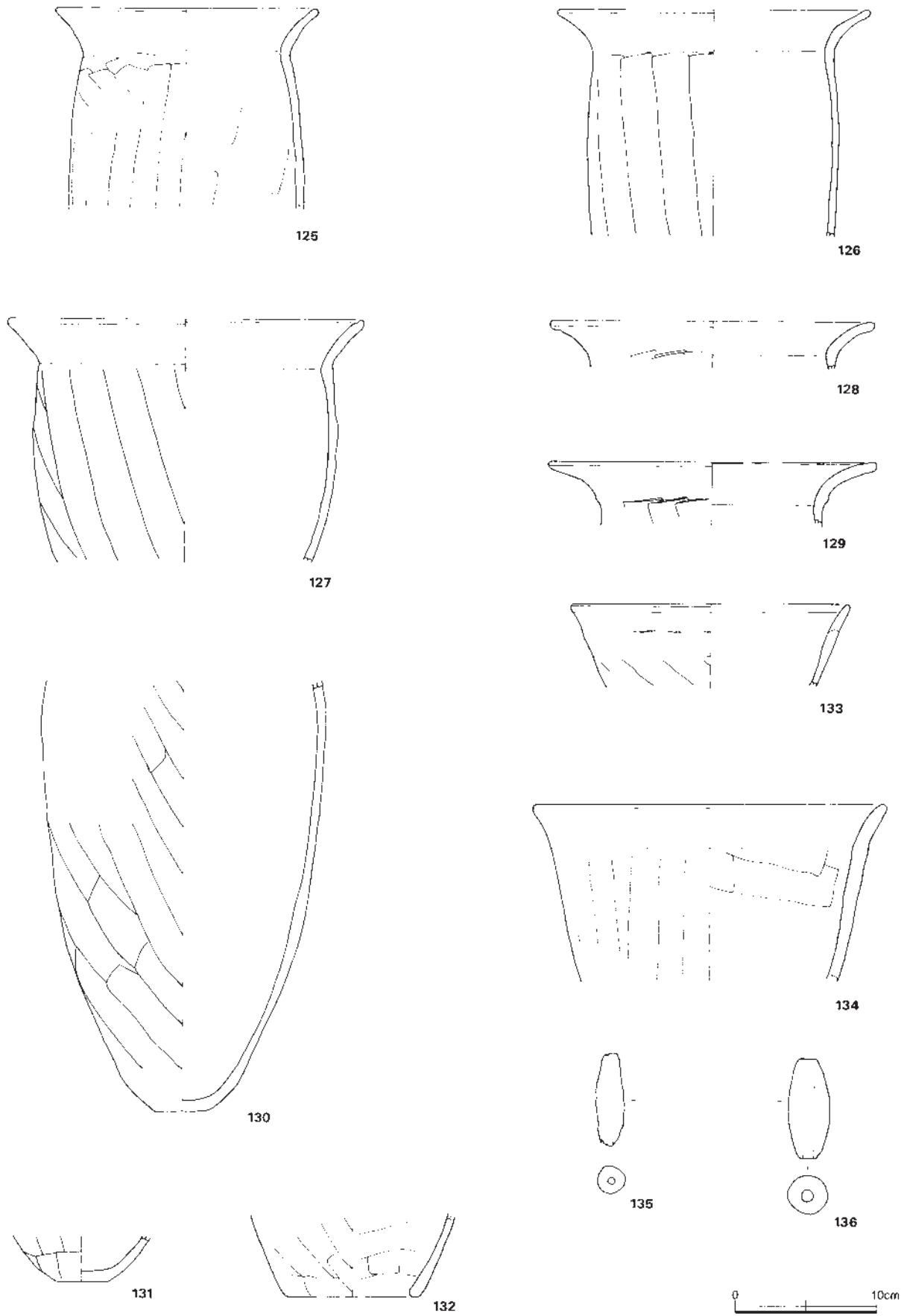
第35図 第13号竪穴建物跡出土遺物 (2)



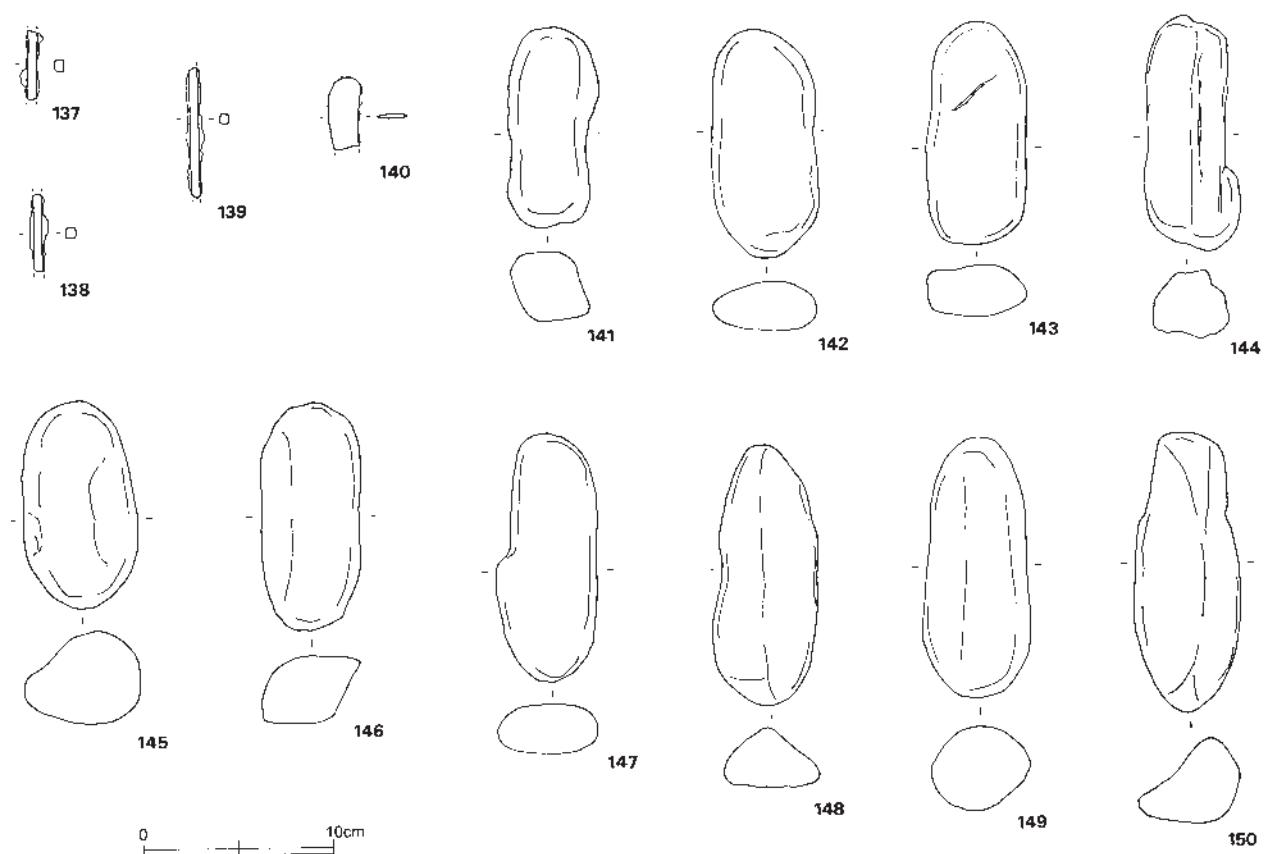
第36図 第13号竪穴建物跡出土遺物（3）



第37図 第13号竪穴建物跡出土遺物 (4)



第38図 第13号竪穴建物跡出土遺物 (5)



第39図 第13号竪穴建物跡出土遺物 (6)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
34図 1	SJ13	H	壺	10.8	3.6		A E I	普	黒褐	95%	
2		H	壺	(11.0)	3.8		A E	普	黒褐	50%	
3		H	壺	11.4	3.7		A C E	普	黒褐	95%	
4		H	壺	(13.1)			A C E	普	にぶい橙	20%	
5		H	壺	10.0	3.7		A B E	普	暗褐	95%	内面に「×」の線刻
6		H	壺	(9.9)	(3.2)		A B C E	普	灰褐	20%	
7		H	壺	(10.2)	(3.2)		A B C E	良	赤褐	20%	
8		H	壺	(10.0)	(3.4)		A B C E	普	灰褐	20%	
9		H	壺	(10.0)			A B C E	普	橙	20%	
10		H	壺	10.5	3.3		A B C E	普	黒褐	70%	
11		H	壺	(10.5)			A C E	普	橙	20%	
12		H	壺	(10.6)			A B C E	良	橙	20%	
13		H	壺	11.0	3.2		A B C E I	普	橙	90%	
14		H	壺	(11.0)	(3.8)		A B C E	普	暗褐	20%	
15		H	壺	11.0	3.7		A B C E	良	赤褐	75%	
16		H	壺	(10.6)	(3.6)		A C E	普	暗褐	30%	
17		H	壺	(11.0)	3.4		A B C E	普	橙	40%	
18		H	壺	(11.2)			A C E	普	橙	20%	
19		H	壺	(10.9)			A C E I	良	橙	25%	
20		H	壺	(11.1)	(3.9)		A B C D E	普	黄橙	40%	
21		H	壺	10.8	3.3		A C D E	普	橙	95%	
22		H	壺	10.5	3.4		A B C E	良	暗褐	50%	

第3表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
34図	23	SJ13	H	壺	(10.4)		A C E	普	暗褐	20%	
	24		H	壺	(10.9)		A C E	良	橙	20%	
	25		H	壺	(11.4)		A B C E	普	橙	15%	
	26		H	壺	(11.3)		A B C E	普	黒褐	20%	
	27		H	壺	(11.5)		A C E	普	黒褐	20%	
	28		H	壺	(11.0)		A C E	普	暗褐	20%	
	29		H	壺	(11.3)	3.9	A C E I	普	黒褐	60%	
	30		H	壺	(12.3)		A C E	普	灰褐	25%	
	31		H	壺	(12.4)	(4.3)	A B C E	普	橙	30%	
	32		H	壺	(11.8)	(5.8)	A C E	普	暗褐	20%	
	33		H	壺	(10.8)	3.2	A B C E H	普	赤褐	50%	外面を赤彩
	34		H	壺	10.1	2.9	A C E	普	橙	50%	
	35		H	壺	10.3	3.4	A C E	普	橙	95%	
	36		H	壺	(10.6)	2.9	A C I	普	暗橙	20%	
	37		H	壺	(10.6)	3.5	A B C E	普	橙	40%	
	38		H	壺	(11.0)	(3.8)	A C E	良	橙	25%	
	39		H	壺	11.0	3.6	A C E	良	橙	100%	
	40		H	壺	(12.0)		A B C	良	暗橙	10%	
35図	41	SJ13	H	壺	(12.0)	(4.3)	A B C E	普	橙	25%	
	42		H	壺	(16.1)	4.8	A B C E	普	橙	25%	
	43		H	壺	(18.4)	(6.9)	A B C E I	普	橙	45%	
	44		H	壺	10.8	3.4	A B C E	普	橙	95%	
	45		H	壺	(11.1)	(3.2)	A B C E	普	暗橙	30%	
	46		H	壺	(10.4)		A B C E	普	橙	25%	
	47		H	壺	(13.5)		A B C E	普	黒褐	20%	
	48		H	壺	(9.5)	2.8	A B C E I	良	橙	60%	
	49		H	壺	9.6	3.2	A B C D E	良	灰橙	90%	
	50		H	壺	(10.0)	3.0	A B C E	良	橙	25%	
	51		H	壺	10.6	3.3	A B C E	普	橙	95%	
	52		H	壺	10.8	3.7	A C E H	普	暗橙	95%	
	53		H	壺	10.5	3.1	A B C E	良	橙	95%	
	54		H	壺	(10.8)	(3.7)	A B C E I	普	橙	25%	
	55		H	壺	11.2	3.3	A B C D E	良	橙	95%	
	56		H	壺	11.5	3.8	A B C E	良	橙	95%	
	57		H	壺	11.8	3.5	A B C E	普	橙	95%	
	58		H	壺	(12.0)		A C E I	普	橙	20%	
	59		H	壺	12.3	4.4	A C E	普	黒褐	75%	
	60		H	壺	(12.3)	(4.1)	A B C D E	普	橙	20%	
	61		H	壺	(12.7)		A B C E	普	橙	25%	
	62		H	壺	(12.6)	3.4	A B C E	不良	灰橙	25%	
	63		H	壺	12.4	3.7	A B C E	良	橙	100%	
	64		H	壺	(12.8)	3.8	A B C E	普	橙	50%	
	65		H	壺	(12.6)	3.9	A B C E	普	橙	50%	
	66		H	壺	(12.8)	3.4	A C E	良	橙	50%	
	67		H	壺	12.8	(4.2)	A B C E	普	灰褐	55%	
	68		H	壺	(12.7)	3.6	A B C E	良	暗橙	55%	
	69		H	壺	13.0	4.0	A C E	普	暗褐	95%	
	70		H	壺	(13.2)		A B C E	良	橙	60%	
	71		H	壺	13.2	3.6	A B C E	普	橙	75%	

第4表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

番号		遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
35 図	72	SJ13	H	壺	(13.4)	3.8		A B C E	普	橙	40%	
	73		H	壺	13.3	4.0		A B C E I	普	赤褐	90%	
	74		H	壺	13.2			A B C E	普	橙	50%	
	75		H	壺	13.4	3.7		A B C E	良	赤褐	70%	
	76		H	壺	(13.8)	(3.7)		A B C E	普	暗褐	25%	
	77		H	壺	(13.6)			A B C E	良	橙	20%	
	78		H	壺	(13.6)			A B C E	普	橙	15%	
	79		H	壺	13.8	3.6		A B C E	普	橙	85%	
	80		H	壺	(13.7)	(3.9)		A B C E	普	暗褐	20%	
	81		H	壺	(13.9)	3.5		A B C E	普	橙	50%	
	82		H	壺	12.7	3.5		A B C E	普	橙	75%	
36 図	83	SJ13	H	壺	12.8	3.6		A C D E	普	暗褐	75%	
	84		H	壺	(13.6)	3.9		A B C E	良	橙	45%	
	85		H	壺	(14.2)			A C D E	普	橙	20%	
	86		H	壺	(14.0)	(3.7)		A B C E	良	赤褐	25%	
	87		H	壺	(14.0)	(3.6)		A C E	良	黒褐	25%	
	88		H	壺	14.0	3.9		A B C E	普	橙	95%	
	89		H	壺	14.0	4.8		A B C E	普	赤褐	95%	
	90		H	壺	14.2	4.2		A B C D E	普	橙	95%	
	91		H	壺	15.0	4.9		A C E	普	灰褐	45%	
	92		H	壺	15.0	4.1		A B C E	普	橙	80%	
	93		H	壺	(14.9)			A C D E	普	橙	15%	
	94		H	壺	(16.2)	(3.2)		A E	普	黒褐	25%	
	95		H	壺	(17.2)	(5.0)		A C D E	普	橙	30%	
	96		H	壺	16.2	7.6		A B C D E	普	橙	50%	
	97		H	壺	14.8	(8.1)		A B C E	普	赤褐	55%	
	98		H	皿	(19.0)			A C E I	普	橙	10%	
	99		H	皿	(19.8)	2.5		A B C E	良	橙	40%	
	100		H	皿	20.5	2.5		A B C D E	良	橙	80%	
	101		H	高壺				A C D E	良	橙	10%	
	102		S	蓋	9.4	3.7		A C	良	青灰	100%	
	103		S	壺	(10.2)			A	良	灰	15%	
	104		S	壺	10.6	3.2		A C	良	青灰	100%	
	105		S	壺	11.0	3.6		A C	良	灰	80%	
	106		S	壺	10.2	3.5		A C F H	良	灰	65%	
	107		S	壺	11.0	3.8		A C F H	良	青灰	55%	底面に線刻
	108		S	壺	10.3	3.9		A C F H	良	灰	85%	
	109		S	壺	(11.0)			A C F	普	灰	15%	
	110		S	蓋	(20.8)			A C F	良	灰	10%	
	111		S	横瓶				A B C E F	不良	暗褐		
	112		H	壺	8.2			A B C D E H	普	橙	40%	
	113		H	甕	(11.7)			A C E I	普	橙	30%	
37 図	114	SJ13	H	甕	13.8	19.3		A C D E	普	橙	60%	
	115		H	甕	(13.9)			A C E	普	暗橙	15%	
	116		H	甕	(14.8)			A B C E H	普	暗橙	20%	
	117		H	甕	(18.8)			A B C E	普	橙	5%	
	118		H	甕	(19.8)			A B C D E	普	橙	10%	
	119		H	甕	(22.9)			A B C D E H	普	橙	15%	
	120		H	甕	22.9			A B C E H	普	橙	20%	

第5表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
37図 121 122 123 124	SJ13	H	甕	(19.2)			A B C E H	普	橙	20%	
		H	甕	22.7			A B C E H	普	橙	60%	
		H	甕	20.4			A B C E	普	橙	40%	
		H	甕	20.0			A B C E	普	橙	25%	
38図 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136	SJ13	H	甕	(18.3)			A B C E H	普	暗橙	10%	
		H	甕	(22.0)			A B C E H	普	赤褐	25%	
		H	甕	(25.0)			A B C E H	普	橙	30%	
		H	甕	(22.6)			A C E H	普	赤褐		
		H	甕	(23.0)			A B C E H	普	橙	5%	
		H	甕		4.0		A B C E H	普	橙	40%	
		H	甕		(3.4)		A C E H	普	灰褐		
		H	甑		(9.4)		A B C E H	普	橙	5%	
		H	鉢	(19.4)			A C E	普	橙	5%	
		H	甑	(24.4)			A B C D E H	普	暗橙	15%	
			土錐		幅 1.9	厚 1.9	A B C E	良	赤褐	90%	重さ 19.87g
			土錐	長 7.0	幅 2.8	厚 2.7	A C E	良	赤褐	100%	重さ 48.06g
39図 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150	SJ13		棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.6					重さ 3.42g
			棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.6					重さ 3.28g
			棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.5					重さ 8.25g
			延板状鉄製品		幅 1.6	厚 0.2					重さ 3.44g
			編物石	長 10.5	幅 4.7	厚 3.7	石材 砂岩				重さ 299g
			編物石	長 12.0	幅 5.3	厚 2.5	石材 砂岩				重さ 299g
			編物石	長 11.7	幅 5.2	厚 2.7	石材 砂岩				重さ 264g
			編物石	長 12.2	幅 4.0	厚 3.6	石材 片岩				重さ 338g
			編物石	長 10.9	幅 6.0	厚 4.9	石材 砂岩				重さ 408g
			編物石	長 12.0	幅 5.1	厚 3.6	石材 砂岩				重さ 352g
			編物石	長 13.0	幅 5.2	厚 2.6	石材 砂岩				重さ 268g
			編物石	長 13.7	幅 5.0	厚 3.1	石材 砂岩				重さ 298g
			編物石	長 13.6	幅 5.5	厚 4.5	石材 砂岩				重さ 536g
			編物石	長 14.6	幅 5.3	厚 4.4	石材 砂岩				重さ 519g

第6表 第13号竪穴建物跡出土遺物観察表 (4)

#### 第18号竪穴建物跡 (第47・48図、第11・12表)

第4次調査区B区に位置する。平面形態は方形で、長軸4.5m、短軸4.2mを測る。主軸方位はN-100°-Eである。カマドは東壁北寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかったが、確認面付近より多量の遺物が出土した。

図示できた遺物は、第47図1～第48図90である。1～85はロクロ土師器で、1～46・49は小皿、47・48は壺、50は高台皿、51～55は椀、51～85は高台椀である。67は脚の外面が赤彩される。85は内面が磨かれる。86は灰釉皿、87～90は須恵器で、87・88は壺、89・90は甕である。

遺構の時期は、11世紀前半頃と推定される。

#### 第19号竪穴建物跡

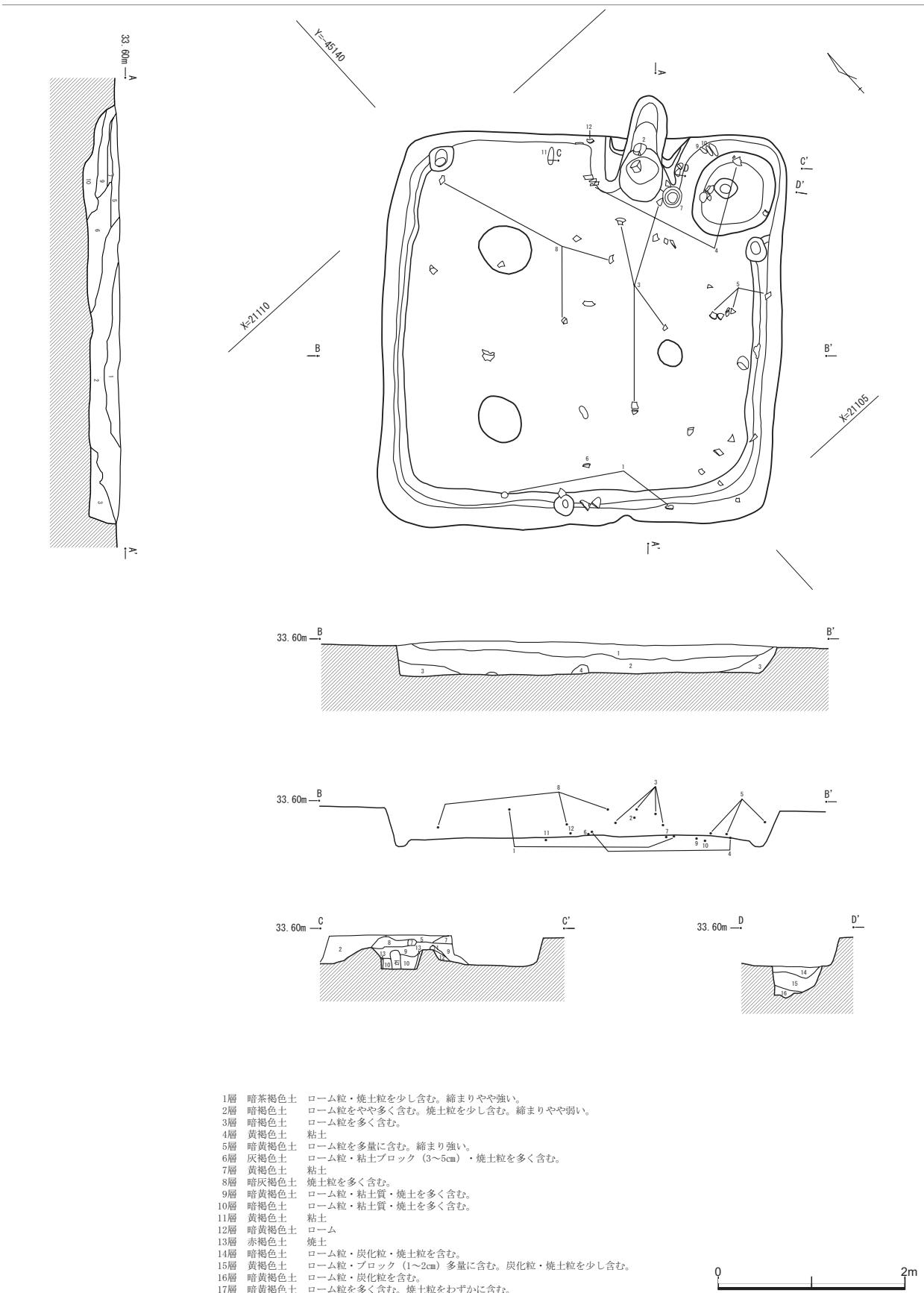
第4次調査区A区北端部に位置する。平面形態は不整方形で、東西軸2.6mを測る。主軸方位はN-110°-Eである。カマドは東壁に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

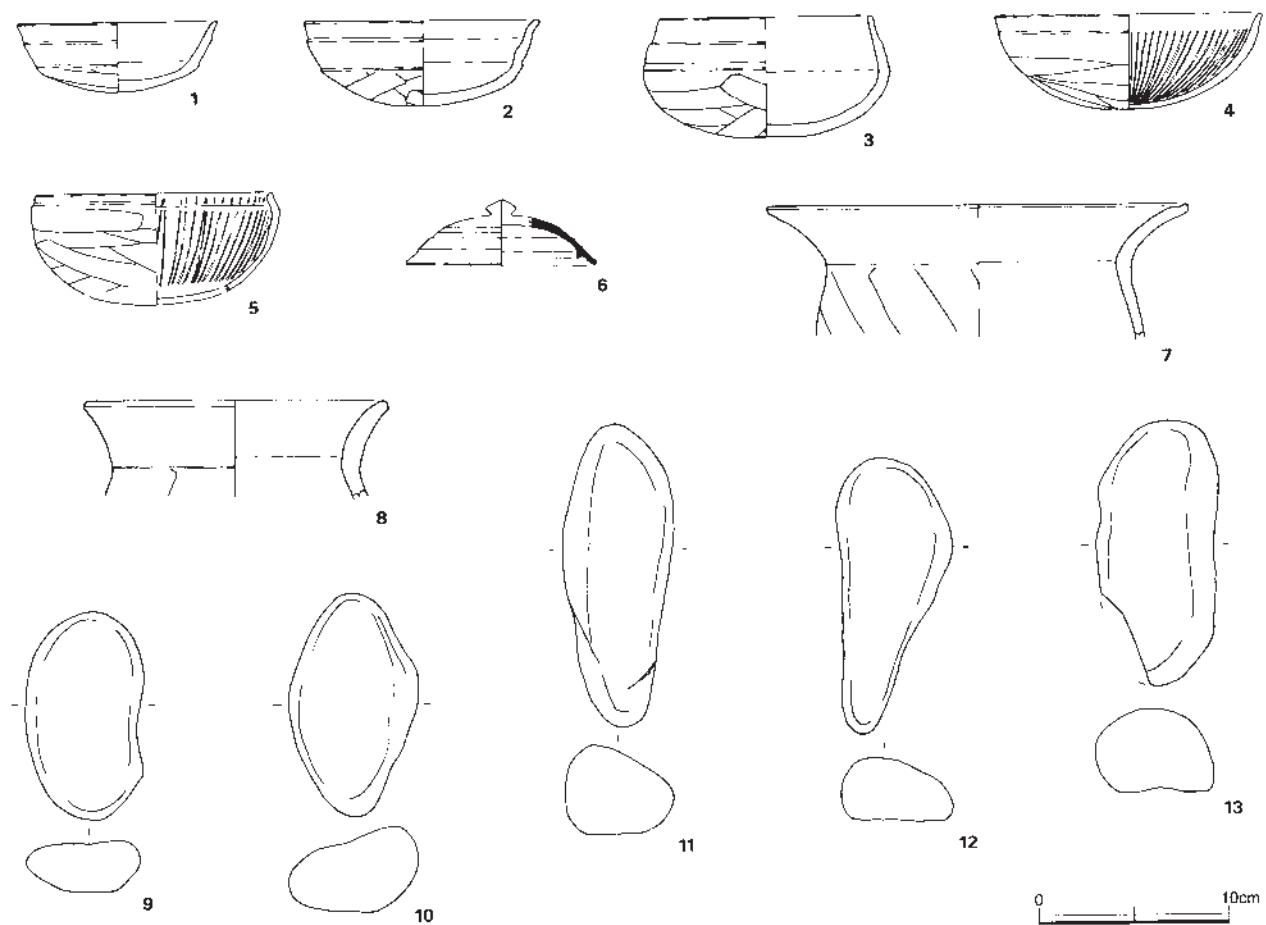
#### 第20号竪穴建物跡 (第52図1～5、第14表)

第4次調査区B区に位置し、第21号竪穴建物跡を切り、第9号溝に切られる。平面形態は方形で、一辺4.5mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第52図1～5である。1は壺、



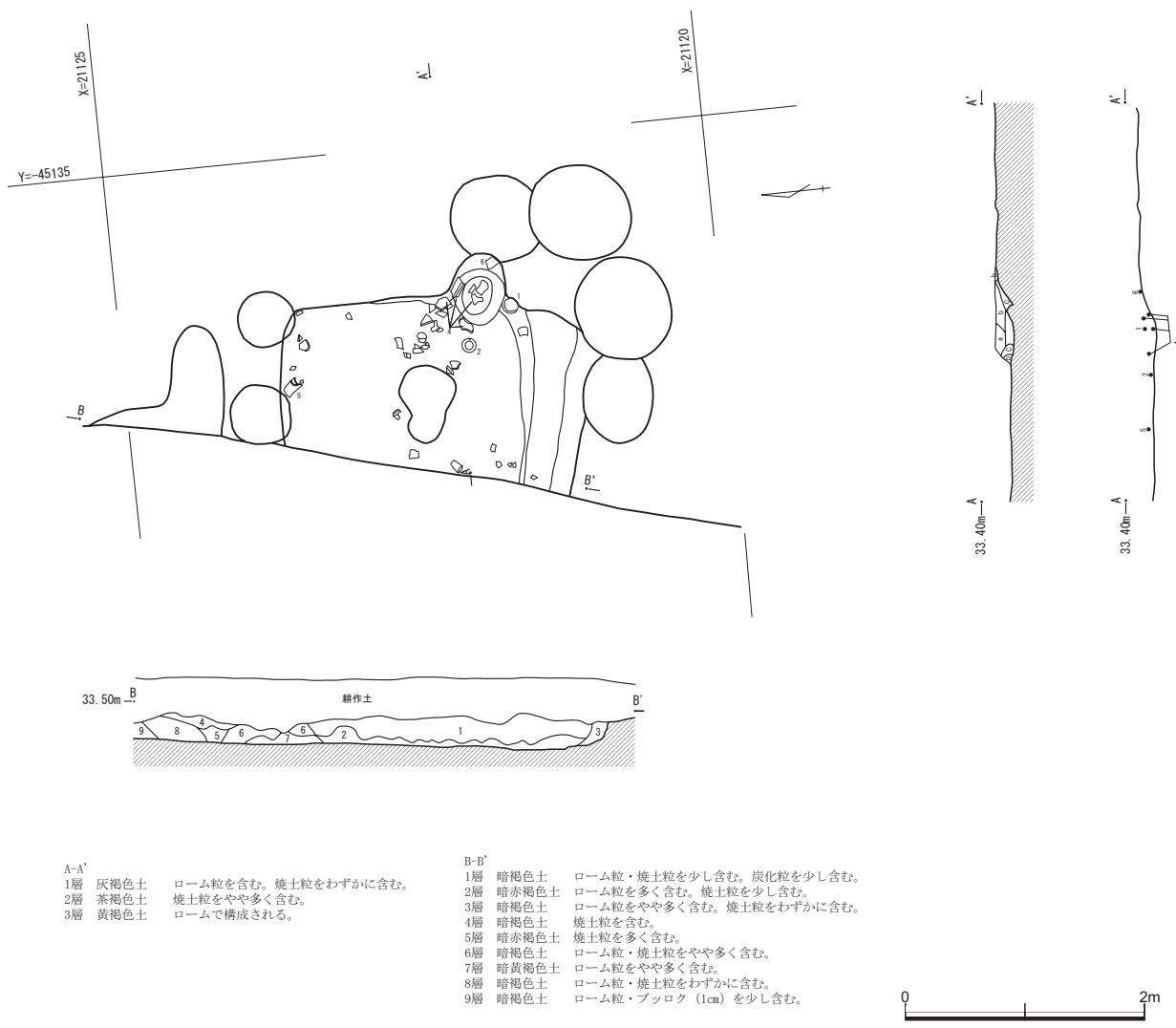
第40図 第14号竪穴建物跡



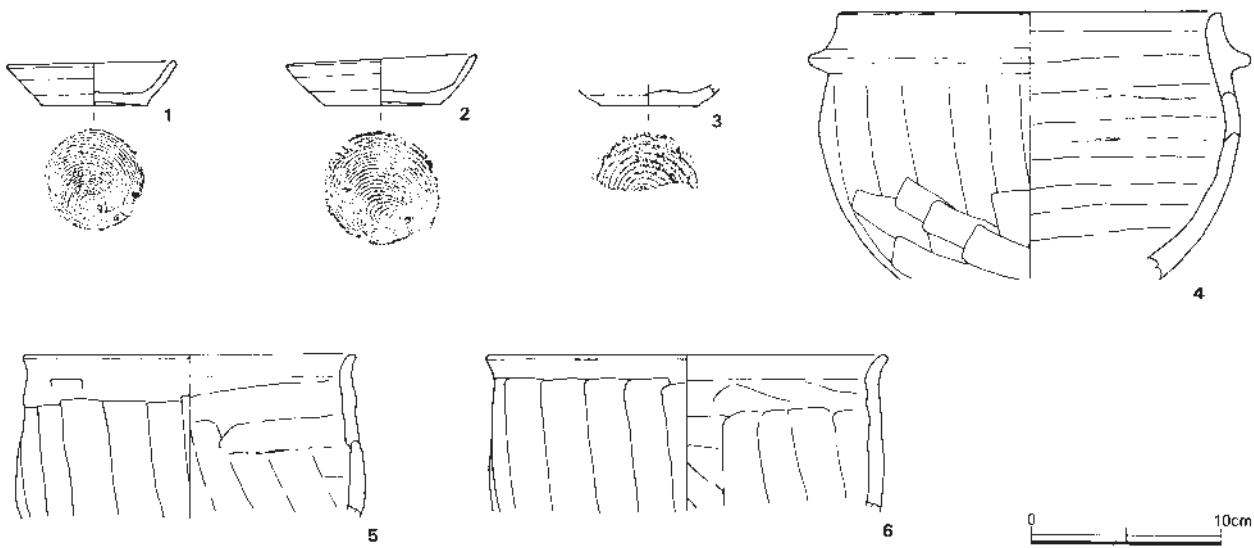
第41図 第14号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
41図 1	SJ14	H	壺	(10.4)	3.7		A B C E	普	黄橙	50%	
2		H	壺	12.2	4.5		A B C E	普	黒褐	90%	
3		H	壺	(11.0)	6.3		A B C D E	普	赤褐	50%	
4		H	壺	13.8	5.0		A C E	普	灰褐	60%	
5		H	壺	12.3	(5.8)		A B C E	良	橙	50%	
6		S	蓋	( 9.8)	(3.4)		A C F H	良	灰	20%	
7		H	甕	21.8			A B C E	普	橙	30%	
8		H	甕	(15.6)			A B C E H	普	橙		
9			編物石	長 10.8	幅 6.0	厚 2.6	石材 砂岩				重さ 271 g
10			編物石	長 11.7	幅 6.7	厚 4.0	石材 砂岩				重さ 442 g
11			編物石	長 15.8	幅 5.7	厚 4.7	石材 砂岩				重さ 568 g
12			編物石	長 14.4	幅 5.8	厚 3.2	石材 砂岩				重さ 380 g
13			編物石	長 13.8	幅 6.2	厚 4.4	石材 砂岩				重さ 450 g

第7表 第14号竪穴建物跡出土遺物観察表



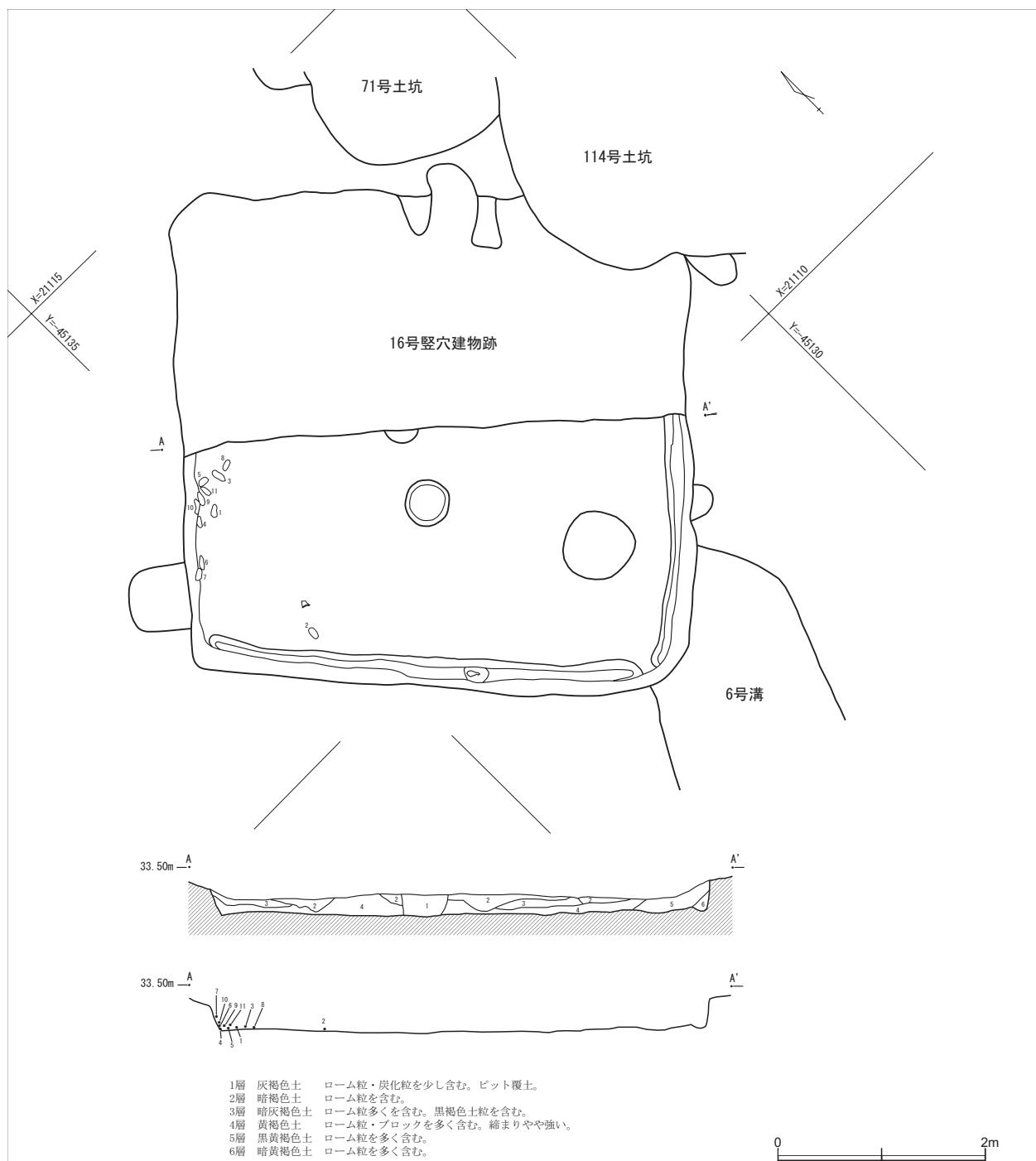
第42図 第15号竪穴建物跡



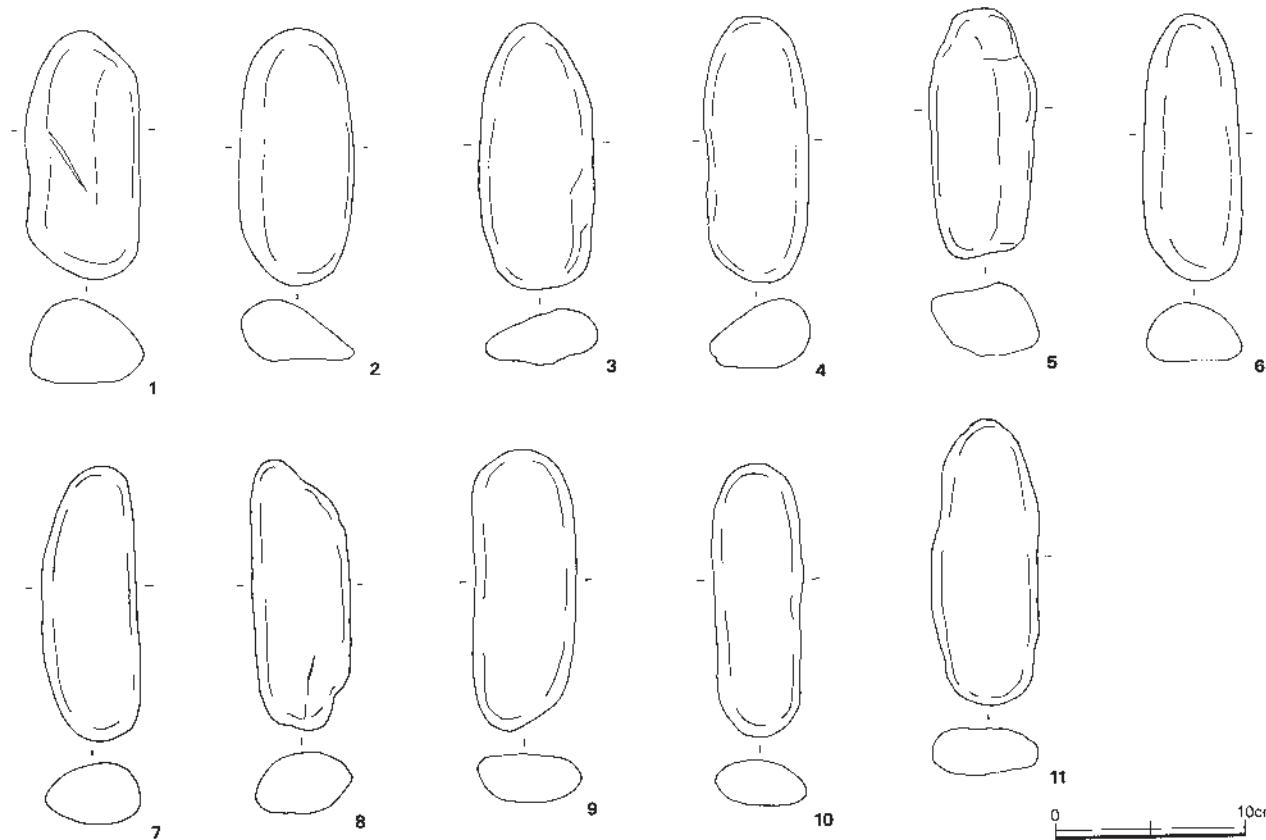
第43図 第15号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
43図	SJ15	R	小皿	8.7	2.2	5.5	A B C E	普	橙	80%	
		R	小皿	9.9	2.4	5.9	A B C E	普	橙	100%	
		R	小皿			5.0	A C D E	普	黄橙	20%	
			羽釜	(20.2)			A C D E H	普	暗褐	30%	
		H	甕	(17.2)			A C D E H	普	橙	15%	
		H	甕	(20.8)			A C D E	普	橙	15%	

第8表 第15号竪穴建物跡出土遺物観察表



第44図 第16号竪穴建物跡



第45図 第16号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
45図 1	SJ16		編物石	長13.0	幅6.0	長4.4	石材 砂岩			重さ 459 g	
2			編物石	長13.4	幅6.0	長3.2	石材 砂岩			重さ 370 g	
3			編物石	長13.9	幅6.0	長2.7	石材 片岩			重さ 352 g	
4			編物石	長13.9	幅5.3	長3.6	石材 砂岩			重さ 423 g	
5			編物石	長13.0	幅5.6	長3.8	石材 砂岩			重さ 412 g	
6			編物石	長14.0	幅4.9	長3.0	石材 砂岩			重さ 364 g	
7			編物石	長14.4	幅5.0	長3.2	石材 砂岩			重さ 372 g	
8			編物石	長13.2	幅5.1	長3.2	石材 片岩			重さ 341 g	
9			編物石	長14.6	幅5.3	長2.6	石材 砂岩			重さ 349 g	
10			編物石	長14.3	幅4.7	長2.4	石材 砂岩			重さ 261 g	
11			編物石	長14.9	幅5.5	長2.5	石材 片岩			重さ 342 g	

第9表 第16号竪穴建物跡出土遺物観察表

2は須恵器高台坏、3は甕、4・5は土錘である。

#### 第21号竪穴建物跡（第49図、第13表）

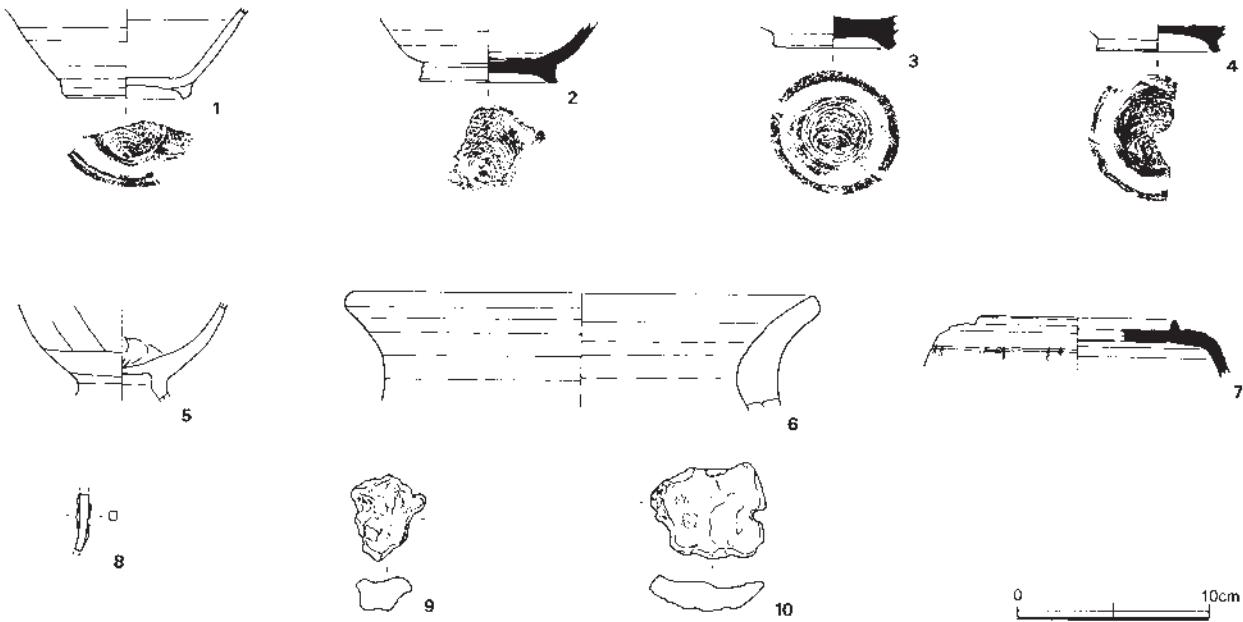
第4次調査区B区に位置し、第20号竪穴建物跡、第9号溝、第102号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺4.3mを測る。主軸方位はN-40°-Wである。

掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第49図1～18である。1は模倣坏、2～4は有段口縁坏、5は暗文椀と思われる。

6は暗文が施された高坏である。7は台付甕、8は壺、9～15は甕である。8の底部には赤色の文様が描かれる。16は延板状鉄製品、17は棒状鉄製品、18は編物石である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。



第46図 第17号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
46表 1	SJ17	R	高台椀		(6.0)	A C E	普	黒褐	20%		
2		S	高台椀		(7.1)	A B C D E H	不良	灰褐	25%		
3		S	高台椀		6.0	A C E F H	不良	灰褐	25%		
4		S	高台椀		(6.4)	A C D F H	不良	灰褐	25%		
5		H	台付甕			A B C E	普	橙	5%		
6			甕	(24.2)		A B C E I	良	橙	5%		
7		S	円面硯	(10.0)		A C D G H	良	灰	5%		
8			釘		幅 0.5					重さ 1.66 g	
9			鉄滓	長 4.5	幅 3.9	長 1.6				重さ 34.95 g	
10			椀形滓	長 4.6	幅 6.0	長 1.4				重さ 41.48 g	

第10表 第17号竪穴建物跡出土遺物観察表

#### 第22号竪穴建物跡（第52図6～11、第14表）

第4次調査区B区西端に位置し、第8号溝に切られる。平面形は方形で、一辺4.5mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかつた。

図示できた遺物は、第52図6～11である。6～9は暗文坏、10は甕、11は土錐である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### 第23号竪穴建物跡（第50図）

第4次調査区D区に位置する。平面形は方形で、一辺5mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。床面

は確認面から50cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。

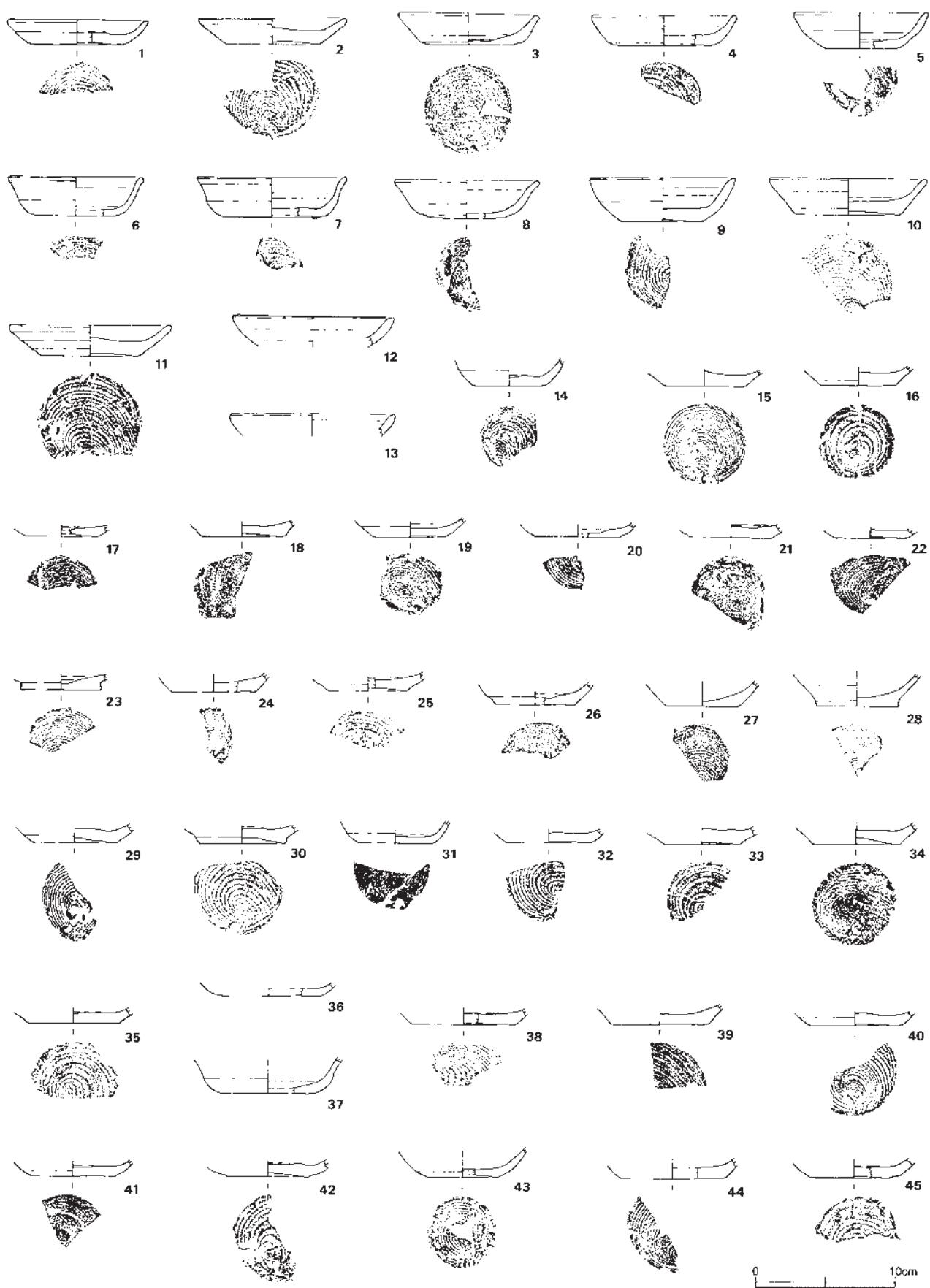
幅30cm、床面からの深さ8cmの壁溝が確認された。

図示できる遺物は出土しなかつた。

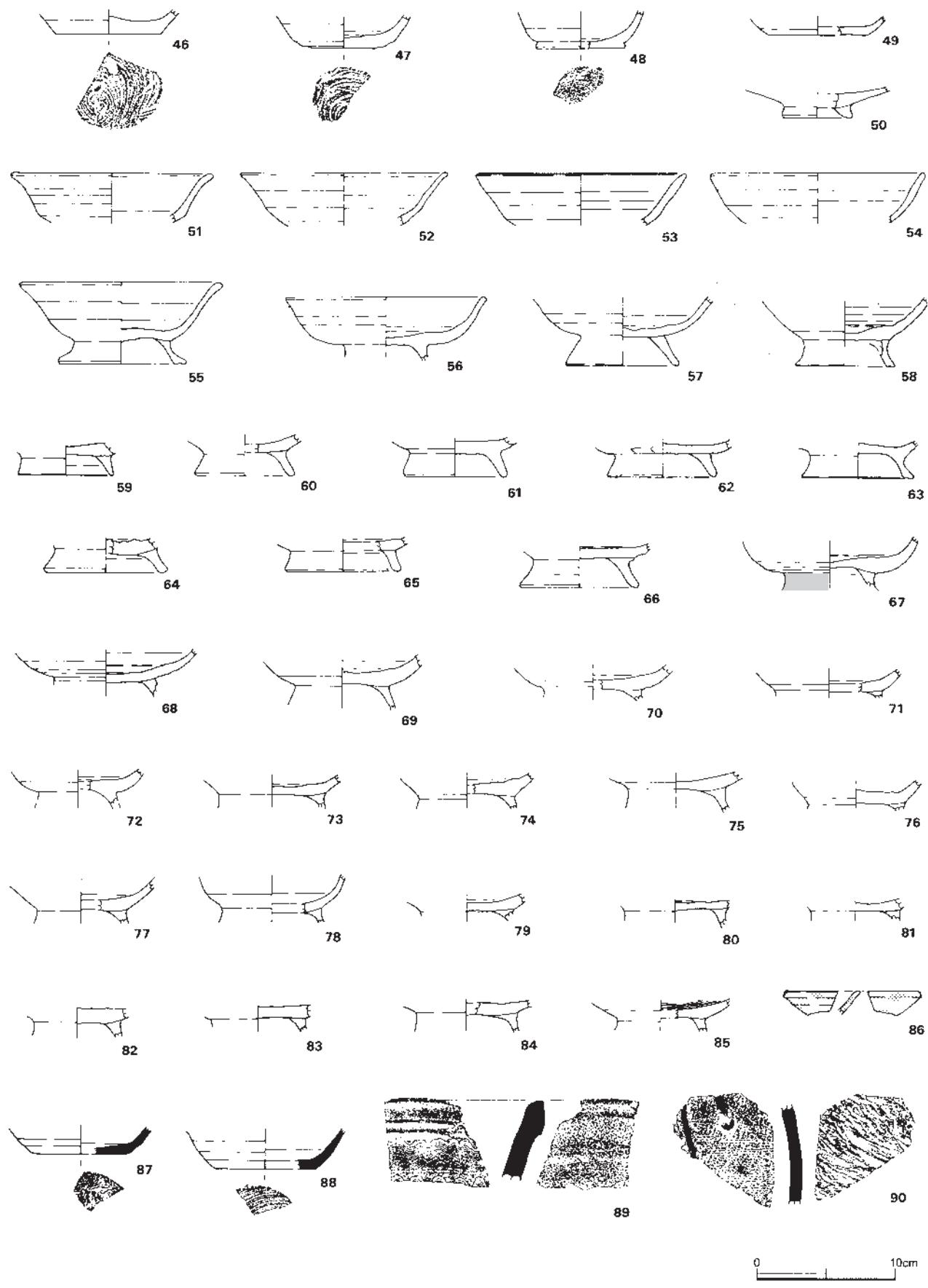
#### 第24号竪穴建物跡（第51図、第52図12～21、第14表）

第4次調査区D区に位置する。平面形は方形で、主軸方位はN-55°-Eである。床面は確認面から40cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。幅15cm、床面からの深さ5cmの壁溝が確認された。

図示できた遺物は、第52図12～21である。12は有段口縁坏、15・16は甕、17は鉢、18～20は編物石、21は釘である。13・14は須恵器平瓶で、13は注口部



第47図 第18号竪穴建物跡出土遺物 (1)



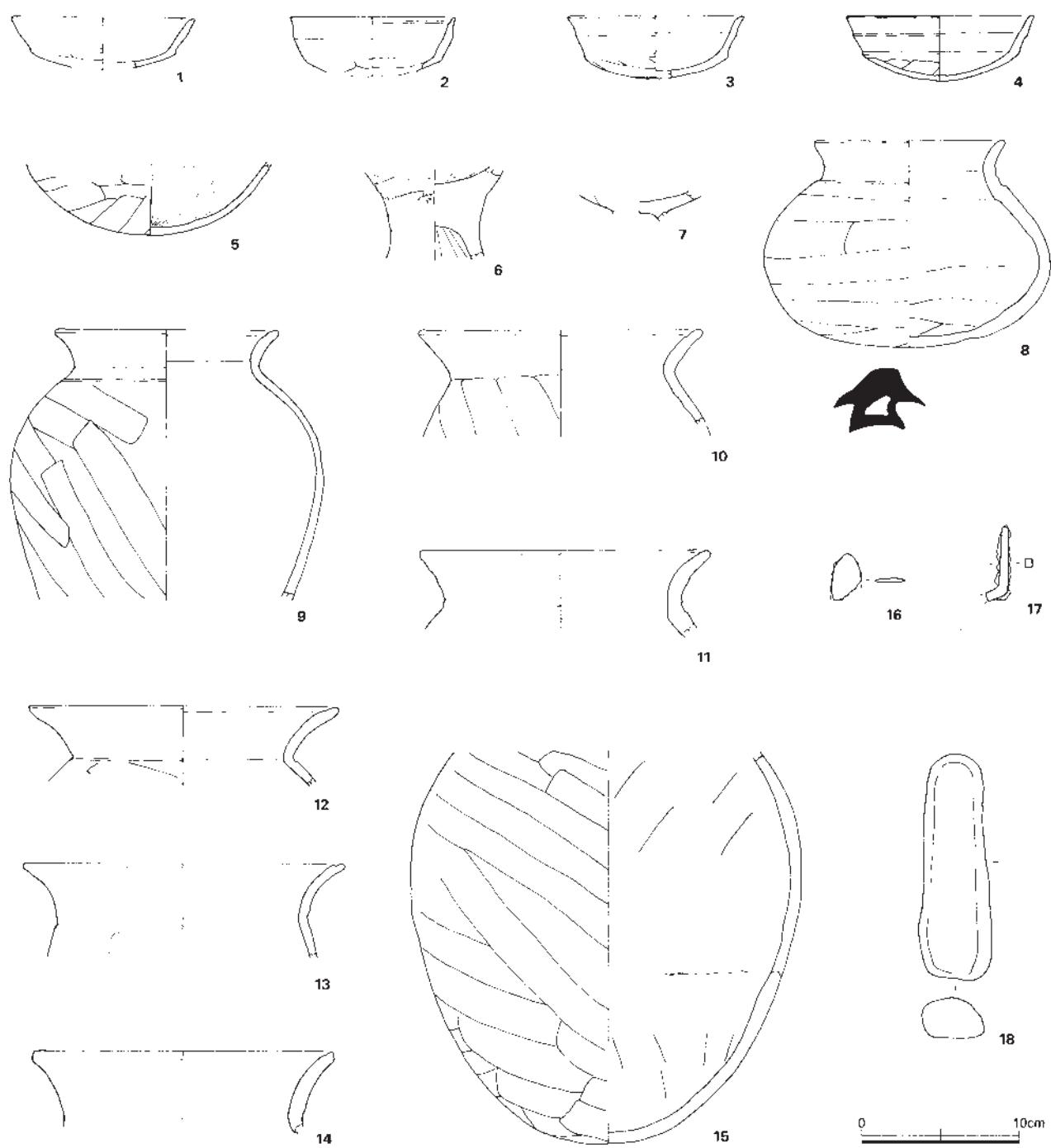
第48図 第18号竪穴建物跡出土遺物（2）

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
47図	1	SJ18	R	小皿	(9.9)	1.8	(6.0)	A C E H	普	橙	25%
			R	小皿	(10.5)	1.8	6.6	A B C E	普	橙	40%
			R	小皿	9.7	2.3	5.9	A C E I	普	橙	90%
			R	小皿	(10.0)	2.2	(6.4)	A B C E	普	黄橙	20%
			R	小皿	9.5	2.6	5.2	A B C F I	普	橙	45%
			R	小皿	(9.6)	2.8	(6.0)	A B C I	普	橙	20%
			R	小皿	(10.6)	2.9	(6.9)	A B C I	良	橙	30%
			R	小皿	(10.2)	2.8	5.6	A C H	良	暗橙	25%
			R	小皿	(10.2)	3.1	(5.8)	A B C E	普	橙	30%
			R	小皿	(11.1)	2.6	7.3	A B C E	普	橙	40%
			R	小皿	(11.6)	2.2	7.0	A B C D E	普	橙	60%
			R	小皿	(11.4)			A B C E	普	橙	20%
			R	小皿	(11.7)			A C E	普	橙	15%
			R	小皿		5.0	A B C E H I	良	橙	30%	
			R	小皿		5.8	A B C E H	普	橙	40%	
			R	小皿		5.4	A B C	普	橙	40%	
			R	小皿		(5.0)	A C H	普	暗褐	20%	
			R	小皿		(5.8)	A C D	普	橙	20%	
			R	小皿		4.8	A B C D E	普	橙	25%	
			R	小皿		(6.0)	A B C E I	普	橙	15%	
			R	小皿		5.8	A C E I	普	橙	30%	
			R	小皿		(5.0)	A B C E I	普	橙	25%	
			R	小皿		(5.8)	A B C E	普	黄橙	20%	
			R	小皿		(6.0)	A B C E	不良	灰褐	20%	
			R	小皿		(5.5)	A B C E	普	黑褐	25%	
			R	小皿		(5.7)	A B C	普	橙	25%	
			R	小皿		(5.0)	A C I	普	橙	30%	
			R	小皿		(5.8)	A C E	普	黄橙	25%	
			R	小皿		(6.0)	A B C D E	普	橙	25%	
			R	小皿		6.0	A B C E	普	橙	30%	
			R	小皿		5.4	A B C E H	普	橙	30%	
			R	小皿		(6.0)	A B C E	普	橙	20%	
			R	小皿		(5.4)	A B C E	普	橙	20%	
			R	小皿		6.2	A B C H	普	橙	40%	
			R	小皿		(6.6)	A B C E	普	橙	25%	
			R	小皿		(6.6)	A B C E	普	灰褐	20%	
			R	小皿		(6.6)	A B C H	普	橙	20%	
			R	小皿		(7.2)	A B C E	普	橙	20%	
			R	小皿		(7.0)	A B C E	普	橙	20%	
			R	小皿		6.2	A B C E	普	橙	25%	
			R	小皿		(6.0)	A B C E	普	橙	20%	
			R	小皿		5.8	A B C E H	普	黄橙	25%	
			R	小皿		4.8	A B C F H I	普	橙	50%	
			R	小皿		(7.0)	A B C E	普	橙	20%	
			R	小皿		(5.0)	A B C E H	普	灰褐	25%	
48図	46	SJ18	R	小皿			7.6	A B C E	普	橙	25%
			R	坏			(4.6)	A C E	普	橙	20%
			R	坏			(6.3)	A C E H	普	黑褐	20%
			R	小皿			7.0	A B C E	普	橙	20%

第11表 第18号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	
48図	50	SJ18	R	高台皿		(4.8)	A B C E	普	橙	20%		
	51		R	椀	(14.2)		A B C H	普	橙	15%		
	52		R	椀	(14.7)		A B C D E	良	暗橙	20%		
	53		R	椀	15.0		A B C E H	普	橙	20%		
	54		R	椀	(15.0)		A B C E	普	橙	15%		
	55		R	高台椀	(14.3)	5.9	(9.0)	A B C E F	良	橙	60%	
	56		R	高台椀	(14.2)		A B C E	普	橙	60%		
	57		R	高台椀		(8.0)	A B C E	普	黄橙	60%		
	58		R	高台椀		(7.1)	A C E H	普	橙	20%		
	59		R	高台椀		(6.8)	A B C E	普	橙	20%		
	60		R	高台椀		(6.8)	A B C E	普	橙	15%		
	61		R	高台椀		(7.0)	A B C E	普	橙	20%		
	62		R	高台椀		7.6	A B C E	普	橙	25%		
	63		R	高台椀		7.8	A B C F H I	普	橙	25%		
	64		R	高台椀		(8.2)	A C H	普	橙	15%		
	65		R	高台椀		(8.0)	A B C E H	普	黄橙	10%		
	66		R	高台椀		8.3	A B C E H	普	黄橙	25%		
	67		R	高台椀			A B C E	普	橙	25%	内面黒色処理、外面を赤彩	
	68		R	高台椀			A B C E	普	橙	30%		
	69		R	高台椀			A B C E	普	橙	25%		
	70		R	高台椀			A B C E	普	橙	20%		
	71		R	高台椀			A C E I	普	暗褐	20%		
	72		R	高台椀			A B C E	普	灰褐	20%		
	73		R	高台椀			A B C E F I	普	橙	20%		
	74		R	高台椀			A B C E F I	普	赤褐	20%		
	75		R	高台椀			A B C D H	普	橙	25%		
	76		R	高台椀			A B C F H I	普	赤褐	20%		
	77		R	高台椀			A B C E F I	普	橙	20%		
	78		R	高台椀			A B C E I	普	暗橙	20%		
	79		R	高台椀			A B C E F I	普	橙	20%		
	80		R	高台椀			A B C F H	普	赤褐	20%		
	81		R	高台椀			A B C H	普	橙	20%		
	82		R	高台椀			A B C E I	普	灰褐	20%		
	83		R	高台椀			A B C E F	普	赤褐	20%		
	84		R	高台椀			A B C E F I	普	赤褐	20%		
	85		R	高台椀			A C E	普	橙	20%		
	86	K		皿			A C	良	灰白			
	87	S		坏		6.0	A C F H	普	灰	15%		
	88	S		坏		7.0	A C G H	普	灰	15%		
	89	S		甕			A C F H	良	青灰			
	90	S		甕			A C	良	暗灰		外面に釉	

第12表 第18号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)



第49図 第21号竪穴建物跡出土遺物

内面に、14は胴部外面に軸がかかる。

10cmの壁溝が確認された。

#### 第25号竪穴建物跡（第53～55図、第15・16表）

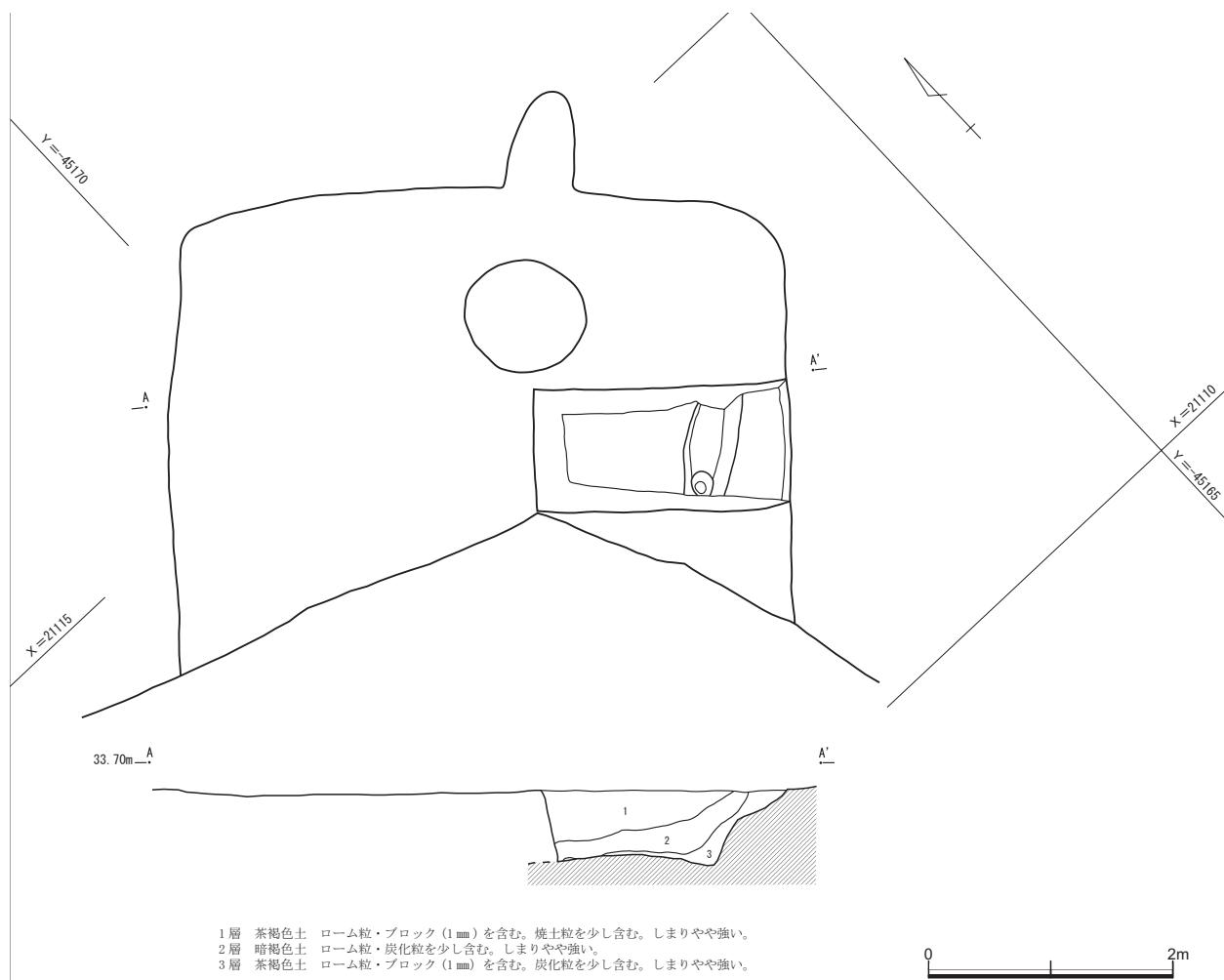
第4次調査区E区に位置する。平面形態は方形で、一边3mを測る。主軸方位はN-42°-Eである。

床面は確認面から60cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。幅25～30cm、床面からの深さ5～

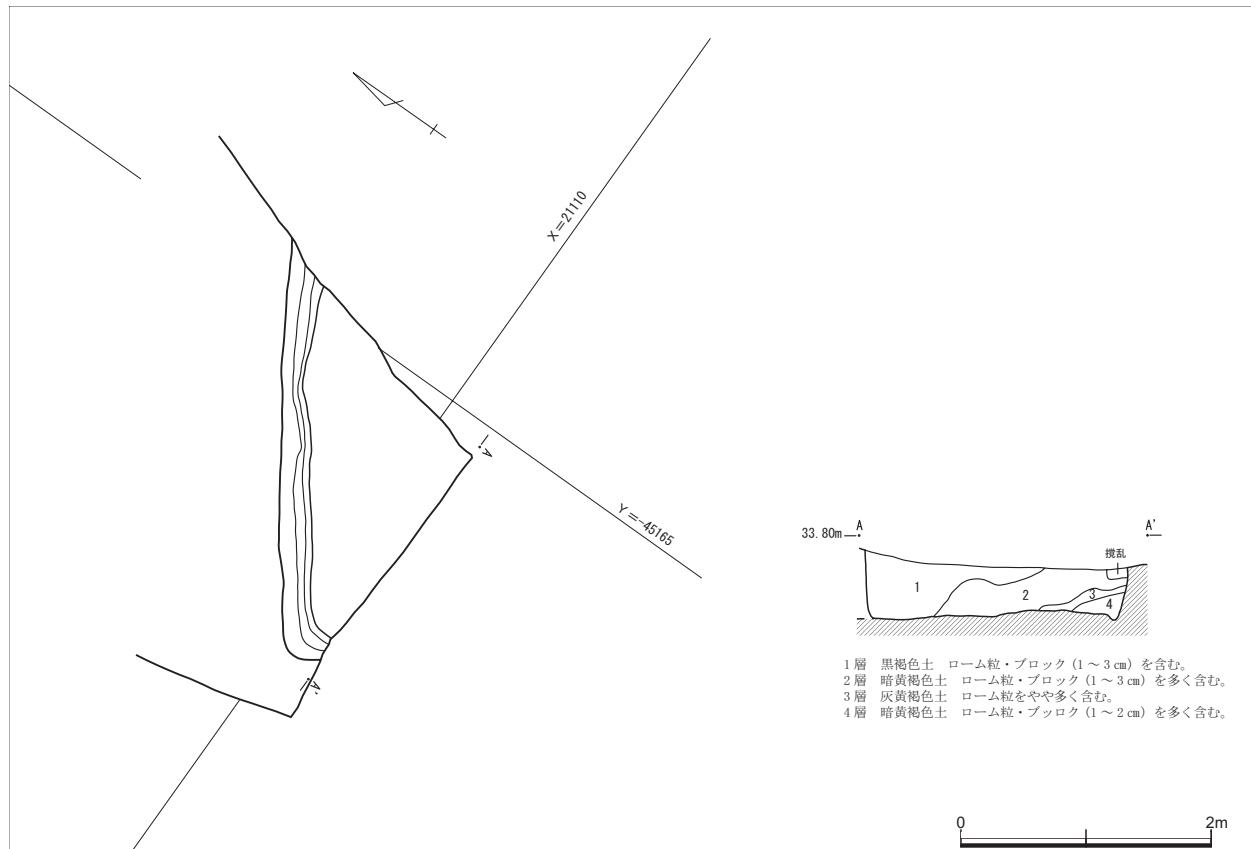
図示できた遺物は、第54図1～第55図46である。1～7は北武藏型壺、8～19は暗文壺、20・21は暗文皿である。21は内外面にミガキ、内面に螺旋状の暗文が施される。22は壺で、「×」の線刻が焼成後に施される。23・24は高壺と思われる。25～34は須恵器で、25～28は蓋、29・30は壺、31・32は高台壺、34は甕

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
49図 1	SJ21	H	壺	(11.6)	3.4		A C E	良	暗褐	25%	
2		H	壺	(10.3)	3.8		A C E	良	灰褐	20%	
3		H	壺	(11.0)	4.0		A C E	良	暗褐	25%	
4		H	壺	11.2	4.2		A C E	普	暗褐	90%	
5		H	椀				A B D E	良	橙	30%	
6		H	高壺				A C D E	良	橙	20%	
7		H	台付甕				A C E	普	灰褐		
8		H	壺	11.9	13.2		A C D E	普	にぶい橙	100%	底面に赤色の文様
9		H	甕	14.0			A B C E H	普	橙	30%	
10		H	甕	17.6			A C E H	普	橙	30%	
11		H	甕	(18.0)			A B C D H	普	橙	5%	
12		H	甕	(9.5)			A B C E H	普	橙	5%	
13		H	甕	20.2			A B C E H	普	暗橙	5%	
14		H	甕	19.0			A B C E H	普	暗橙	5%	
15		H	甕				A B C E H	普	橙	60%	
16			延板状鉄製品		幅 1.9	厚 0.2					重さ 2.60 g
17			棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.6					重さ 5.24 g
18			縞物石	長 14.2	幅 4.0	厚 2.5	石材 砂岩	普			重さ 297 g

第13表 第21号竪穴建物跡出土遺物観察表



第50図 第23号竪穴建物跡

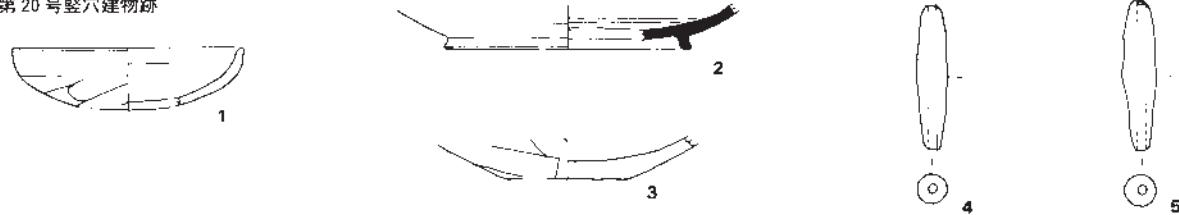


第51図 第24号竪穴建物跡

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
52図 1	SJ20	H	壺	(12.0)	(3.2)		A C E	普	にぶい橙	25%	
2		S	高台壺			(12.8)	A C F H	普	灰	15%	
3		H	甕			(6.0)	A C D E F H	普	橙	5%	
4			土錘	長 7.5	幅 1.6	厚 1.6					重さ 17.87 g
5			土錘	長 7.8	幅 1.8	厚 1.7					重さ 21.10 g
6	SJ22	H	壺	(11.8)	(2.5)		A C E	良	橙	20%	
7		H	壺	(12.0)			A C E	普	赤褐	15%	
8		H	壺	(13.5)	(3.7)		A C E H	普	橙	30%	
9		H	壺	(15.6)			A B C E	普	赤褐	10%	
10		H	甕	(10.4)			A B C E H	良	橙	20%	
11			土錘				A B C E	普	赤褐	25%	
12	SJ24	H	壺	(11.6)	(3.7)		A C E	普	黒褐	35%	
13		S	平瓶	( 5.4)			A C	良	灰	5%	内外面に釉
14		S	平瓶				A C	良	灰	5%	外面に釉
15		H	甕	(11.4)			A C E	普	橙	5%	
16		H	甕	(20.4)			A C E	普	橙	5%	
17		H	鉢	(18.8)			A B C E	普	黒褐	15%	
18			編物石	長 16.5	幅 6.0	厚 4.6					重さ 634 g
19			編物石	長 12.9	幅 5.5	厚 3.0					重さ 362 g
20			編物石	長 11.1	幅 5.4	厚 2.9					重さ 280 g
21			釘		幅 0.5	厚 0.4					重さ 2.03 g

第14表 第20・22・24号竪穴建物跡出土遺物観察表

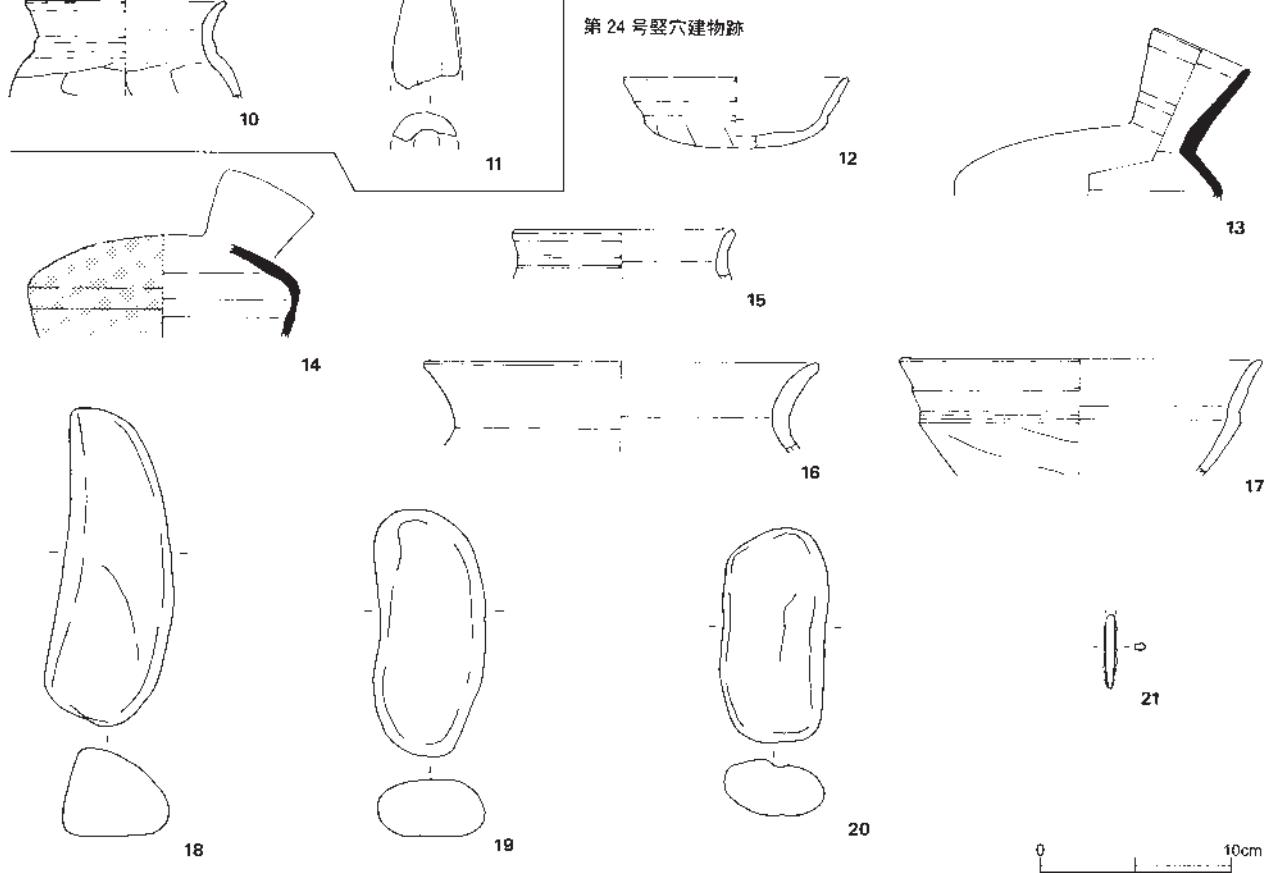
第20号竪穴建物跡



第22号竪穴建物跡



第24号竪穴建物跡



第52図 第20・22・24号竪穴建物跡出土遺物

である。33は円面硯の脚部と思われる。35～42は甕、43・44は編物石、45は刀子、46は紡錘車である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

#### 第26号竪穴建物跡（第56～63図、第17・18表）

第4次調査区E区に位置し、第10号溝を切る。平面形態は方形で、一辺6.7mを測る。主軸方位はN-47°-Eである。

床面は確認面から70cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。13層及び16層上面で、貼り床をしていると考えられ、2時期目の床面は、確認面から50cmの深さである。

カマドは2基確認された。北東壁ほぼ中央、及び北西壁ほぼ中央に構築される。掘り下げは行なわなかつた。両カマドの右脇には、貯蔵穴がある。貯蔵穴1は、長径0.9m、短径0.7mの不整橢円形で、床面からの深

さ45cmを測る。貯蔵穴2は、長軸1m、短軸0.6mの長方形で、床面からの深さ45cmを測る。

壁溝は幅20～40cm、床面からの深さ5～12cmで全周すると思われる。掘削時の工具痕が確認された。ピットは2基確認され、主柱穴と考えられる。掘り下げは行なっていない。

建物跡ほぼ中央から、鍛冶炉が確認された。C字状に粘土を積み上げ、内部に酸化部分と還元部分がある。平面形態は径50cmの円形で、低い方の還元部は長径20cm、短径15cmの楕円形である。低い方の還元部は床面から8cm、南東部の粘土積み上げ上面は床面から17cmの高さである。低い方の還元部が床面より8cm浮いていること、及び積み上げられている粘土の下部に黒色土が入り込んでいることから、鍛冶炉は2時期目の貼り床面に伴うと考えられる。粘土の積み上げ部の開放面と、低い方の還元部は、N-25°-Wを向いている。鍛冶炉の北側約1mから金床石が出土している。出土レベルから、2時期目の床面に伴うと思われる。他に鍛冶炉周辺を中心に覆土全面から、椀形滓、鉄滓、鍛造剥片が多量に出土した。

図示できた遺物は、第61図1～第63図78である。1～3は模倣壺、4～12は北武藏型壺、13～22は暗文壺、23～28は暗文皿、29は皿である。30～39は須恵器で、30～32は蓋、33・34は壺、35～39は甕である。40は小型壺、41・42は甕、43は台付甕、44は土錘、45～47は編物石である。48は金床石で、両面とも比熱し赤色化している。49は銅製帶金具の鉗具である。50は鉄鎌、51・52は延板状鉄製品、53は輪状鉄製品、54～56は羽口、57～63は椀形滓、64～78は鉄滓である。

遺構の性格は鍛冶工房跡であり、時期は7世紀末頃と推定される。

#### 第27号竪穴建物跡（第64・65図）

第4次調査区E区に位置し、第28号竪穴建物跡に切られる。平面形は方形態で、規模は不明、主軸方位はN-35°-Wである。

床面は確認面から40cmの深さで、壁溝は確認され

なかつた。

図示できる遺物は出土しなかつた。

#### 第28号竪穴建物跡（第64・65図、第66図1～3、第19表）

第4次調査区E区に位置し、第27・29号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸5.4m、短軸4.5mを測る。主軸方位はN-40°-Wである。

床面は確認面から40cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。幅15cm、床面からの深さ3cmの壁溝が部分的に確認された。

図示できた遺物は、第66図1～3である。1はロク口土師器の小皿、2は須恵器甕、3は土錘である。

#### 第29号竪穴建物跡（第64・65図、第66図4～22、第19表）

第4次調査区E区に位置し、第28号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸は5.7m以上、短軸4.2mを測る。主軸方位はN-53°-Wである。

床面は確認面から30cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。カマドは2基確認された。1基は北西壁ほぼ中央に、もう1基は北東隅に構築される。壁溝は確認されなかつた。

図示できた遺物は、第66図4～22である。4・5は北武藏型壺、6～8は暗文壺、9・12は甕、10は台付甕、11・13は須恵器甕、14は須恵器横瓶、15は編物石、16は銅片、17は延板状鉄製品、18は棒状鉄製品、19～22は鉄滓である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

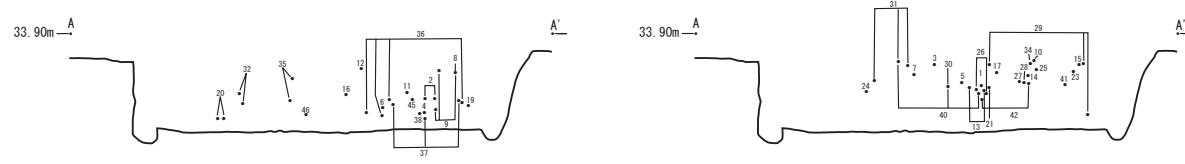
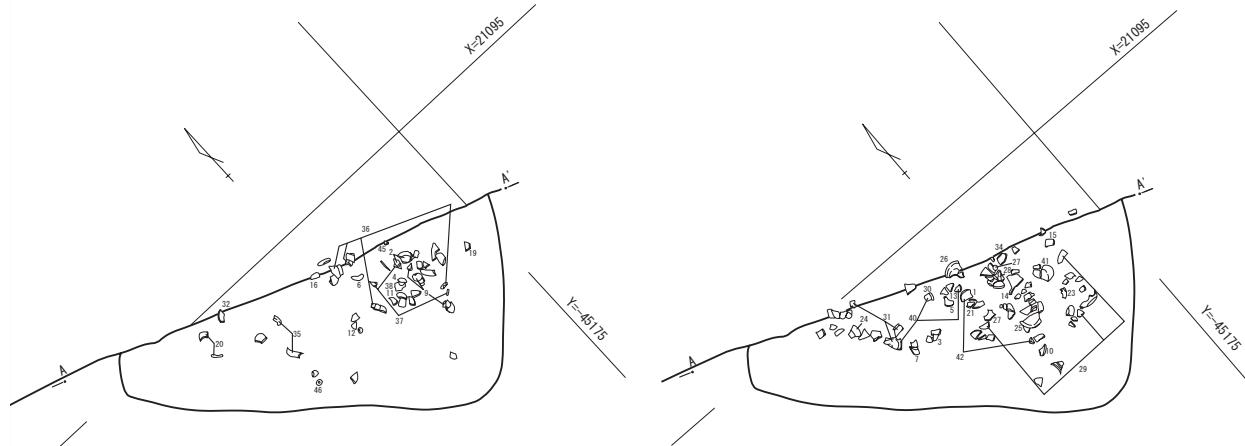
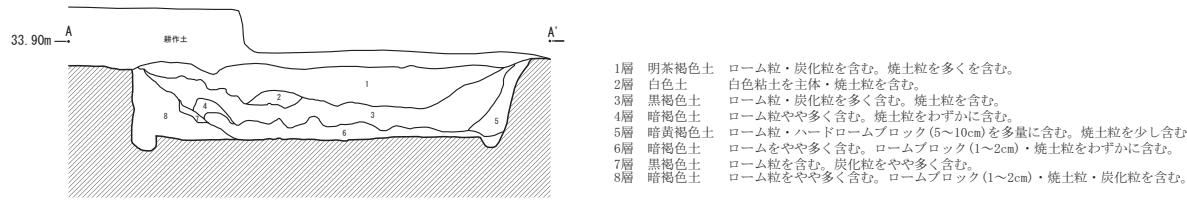
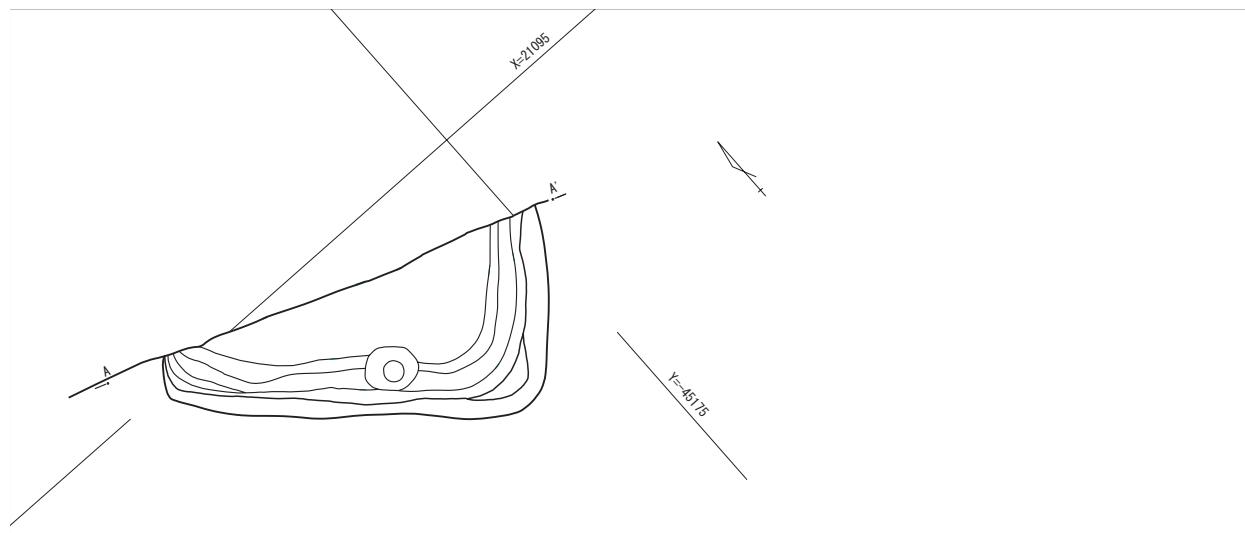
#### 第30号竪穴建物跡

第4次調査区A区に位置し、南東隅にカマドをもつ。主軸方位はN-95°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかつた。

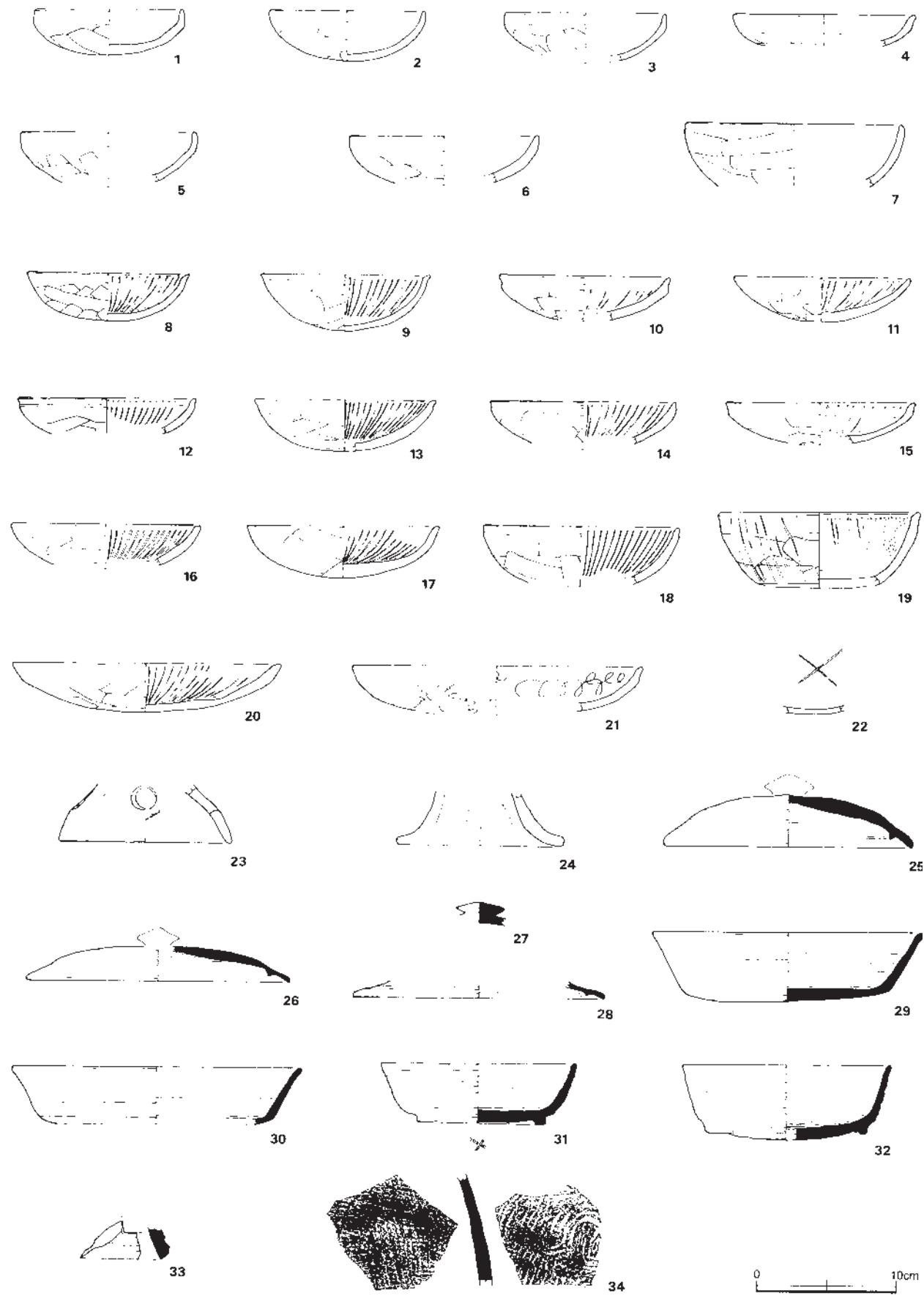
図示できる遺物は出土しなかつた。

#### 第31号竪穴建物跡（第66図23、第19表）

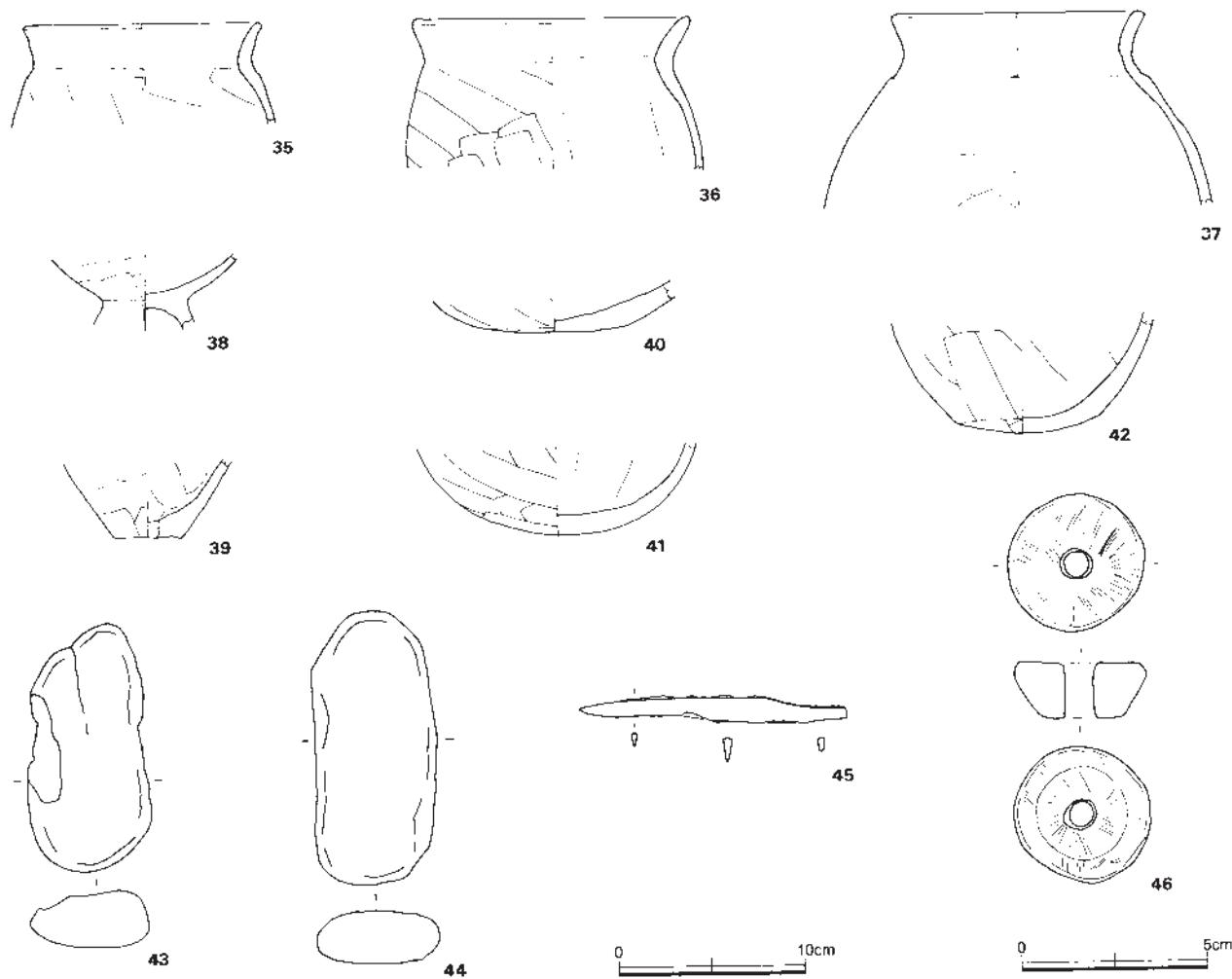
第4次調査区A区と第18次調査区B区にまたがり、第532号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺5



第53図 第25号竪穴建物跡



第54図 第25号竪穴建物跡出土遺物 (1)



第55図 第25号竪穴建物跡出土遺物（2）

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
54図	1	SJ25	H	壺	(10.5)	3.3		A C E I	良	橙	45%
	2		H	壺	11.0	3.7		A C E	普	橙	80%
	3		H	壺	11.4	(3.6)		A C E	普	橙	40%
	4		H	壺	(12.8)			A B C E I	普	橙	20%
	5		H	壺	(12.3)	(4.0)		A C E	普	橙	30%
	6		H	壺	(13.4)	(3.6)		A C E	普	橙	25%
	7		H	壺	(15.4)			A B C E	普	橙	20%
	8		H	壺	(11.6)	3.4		A B C E	普	橙	50%
	9		H	壺	11.9	4.0		A C E	普	橙	75%
	10		H	壺	(12.1)	(3.2)		A C E	普	橙	25%
	11		H	壺	(12.6)	3.2		A C E I	普	橙	30%
	12		H	壺	(12.6)			A C E I	普	橙	15%
	13		H	壺	13.0	3.7		A B C E	普	橙	50%
	14		H	壺	(13.0)	(3.5)		A C E	普	橙	30%
	15		H	壺	(13.4)	(3.1)		A C E	普	橙	20%
	16		H	壺	(13.5)	(3.2)		A C E	普	橙	20%
	17		H	壺	13.6	3.8		A C E	普	赤褐	40%
	18		H	壺	(13.8)	4.3		A C E	普	橙	25%

第15表 第25号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
54図 19	SJ25	H	壺	(14.2)	(5.4)		A C E H	普	赤褐	25%	内外面に暗文
20		H	皿	(19.1)	3.5		A B C E	普	灰褐	60%	
21		H	皿	(20.6)	(3.6)		A C E	良	赤褐	25%	
22		H	壺				A C E	普	橙		内面に「×」の線刻
23		H	高壺			(12.2)	A C H	普	暗褐	10%	
24		H	高壺			11.6	A B C E	普	にぶい橙	20%	
25		S	蓋	(17.6)	(5.2)		A C F H	普	灰	40%	
26		S	蓋	(18.8)	(3.9)		A C H	不良	灰	40%	
27		S	蓋				A B C F H	普	灰	5%	
28		S	蓋	(17.8)			A C F H	良	青灰	5%	
29		S	壺	19.2	5.0	14.2	A C F H	良	灰	80%	
30		S	壺	(20.7)	(4.1)	(14.4)	A C E F H	良	赤褐	10%	
31		S	壺	13.9	4.3	8.9	A C	良	灰	80%	底面に「×」の刻字
32		S	壺	(14.8)	5.4	11.2	A C	普	灰	40%	
33		S	円面硯				A C H	普	灰		
34		S	甕				A C F H	良	青灰		
55図 35	SJ25	H	甕	(12.5)			A C E	普	暗褐	10%	
36		H	甕	14.6			A B C D E H	普	橙	30%	
37		H	甕	(13.2)			A C E H	普	暗褐	10%	
38		H	甕				A C E	普	橙	10%	
39		H	甕			3.5	A C E	普	橙	5%	
40		H	甕				A C E	普	橙	10%	
41		H	甕				A C E	普	橙	20%	
42		H	甕				A B C E	普	橙	10%	
43			編物石	長 13.2	幅 6.5	厚 3.0	石材 砂岩				重さ 414 g
44			編物石	長 14.8	幅 6.5	厚 2.9	石材 砂岩				重さ 463 g
45			刀子	長 14.4	幅 1.3	厚 0.4					重さ 13.66 g
46			鋤錘車	長 3.7	幅 3.6	厚 1.5	石材 滑石				重さ 30.97 g

第16表 第25号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)

mを測る。主軸方位はN-145°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第66図23の暗文壺である。

#### 第65号竪穴建物跡（第67図1・2、第20表）

第18次調査区A区に位置し、第435土坑を切り、第424～426・428・429・434号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸4m、短軸3.7mを測る。主軸方位はN-20°-Eである。カマドは北西隅に造られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第67図1・2の口クロ土師器小皿である。

#### 第66号竪穴建物跡（第67図3～9、第20表）

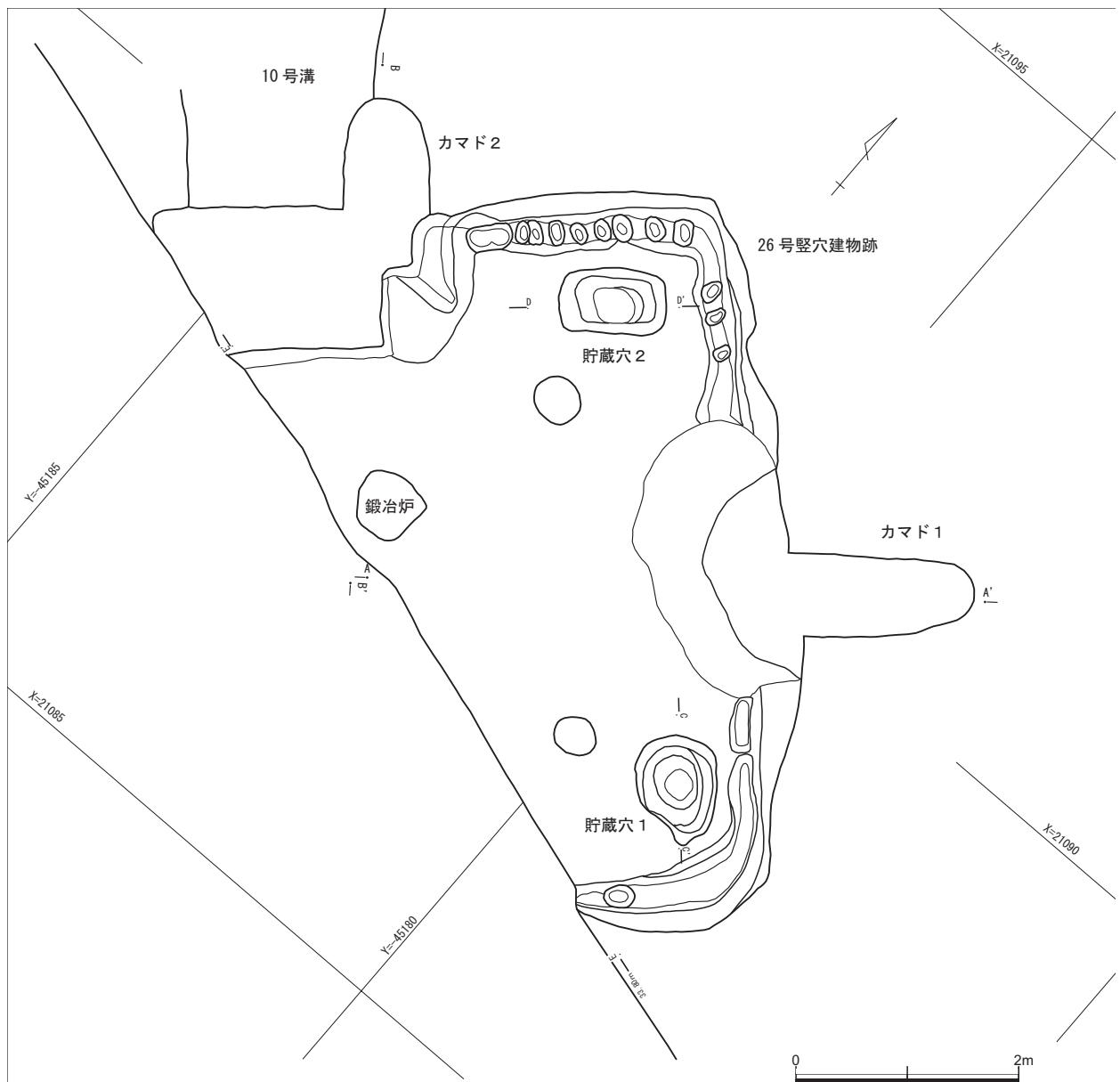
第18次調査区A区に位置する。平面形態は方形で、長軸は不明だが、短軸3.5mを測る。主軸方位はN-20°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第67図3～9である。3～7は口クロ土師器で、3～5は小皿、6・7は高台椀、8は須恵器壺、9は羽釜である。

#### 第67号竪穴建物跡（第67図10～19、第20表）

第18次調査区A区に位置し、第68号竪穴建物跡を切り、第517号土坑・第37号溝に切られる。平面形態は方形で、一辺5mを測る。主軸方位はN-110°-Eである。カマドは東壁に造られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

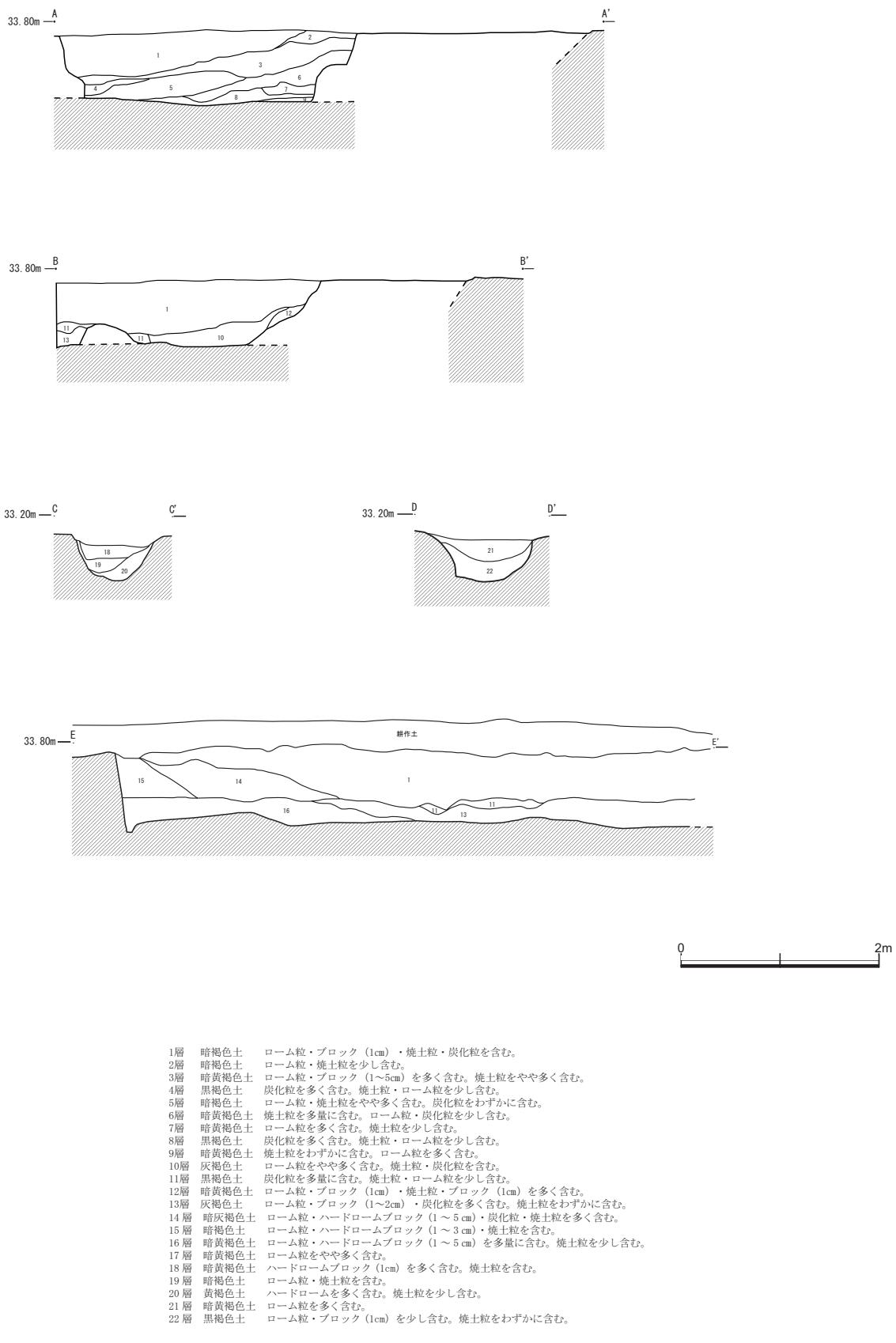
図示できた遺物は、第67図10～19である。10～16



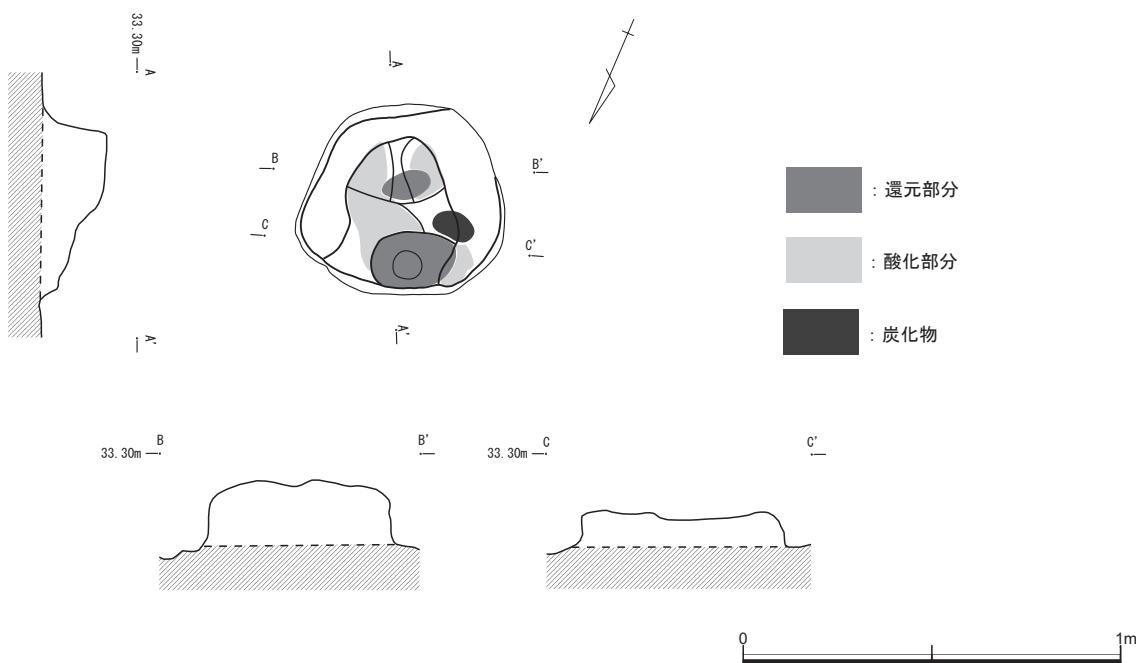
第56図 第26号竪穴建物跡



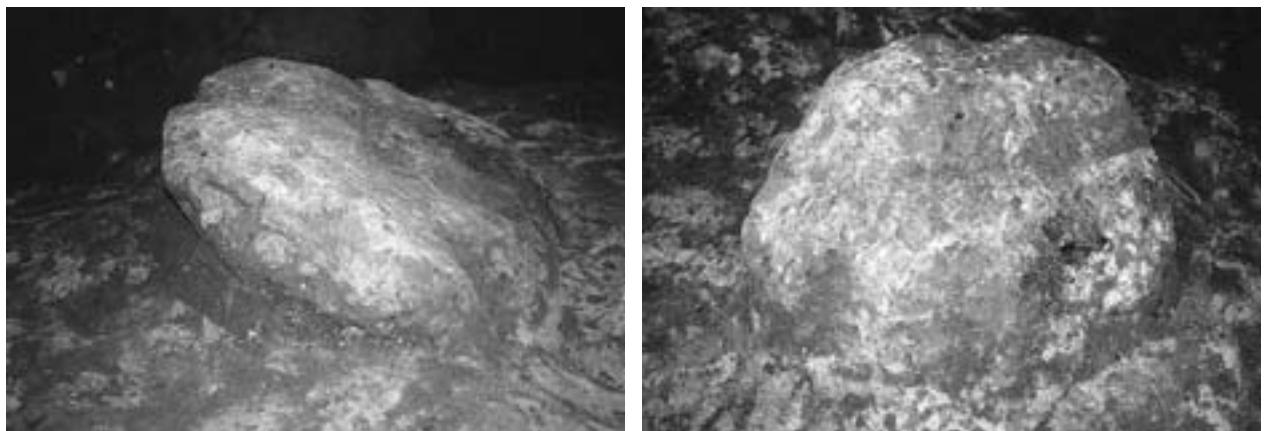
第26号竪穴建物跡遺物出土状況



第57図 第26号竪穴建物跡土層断面



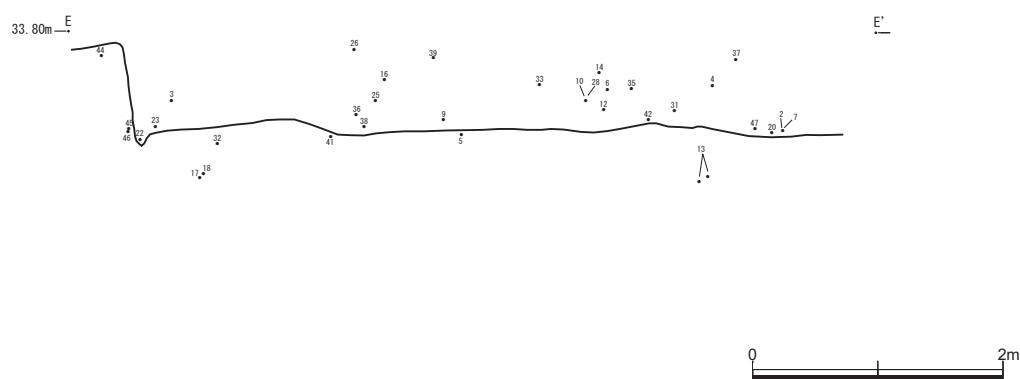
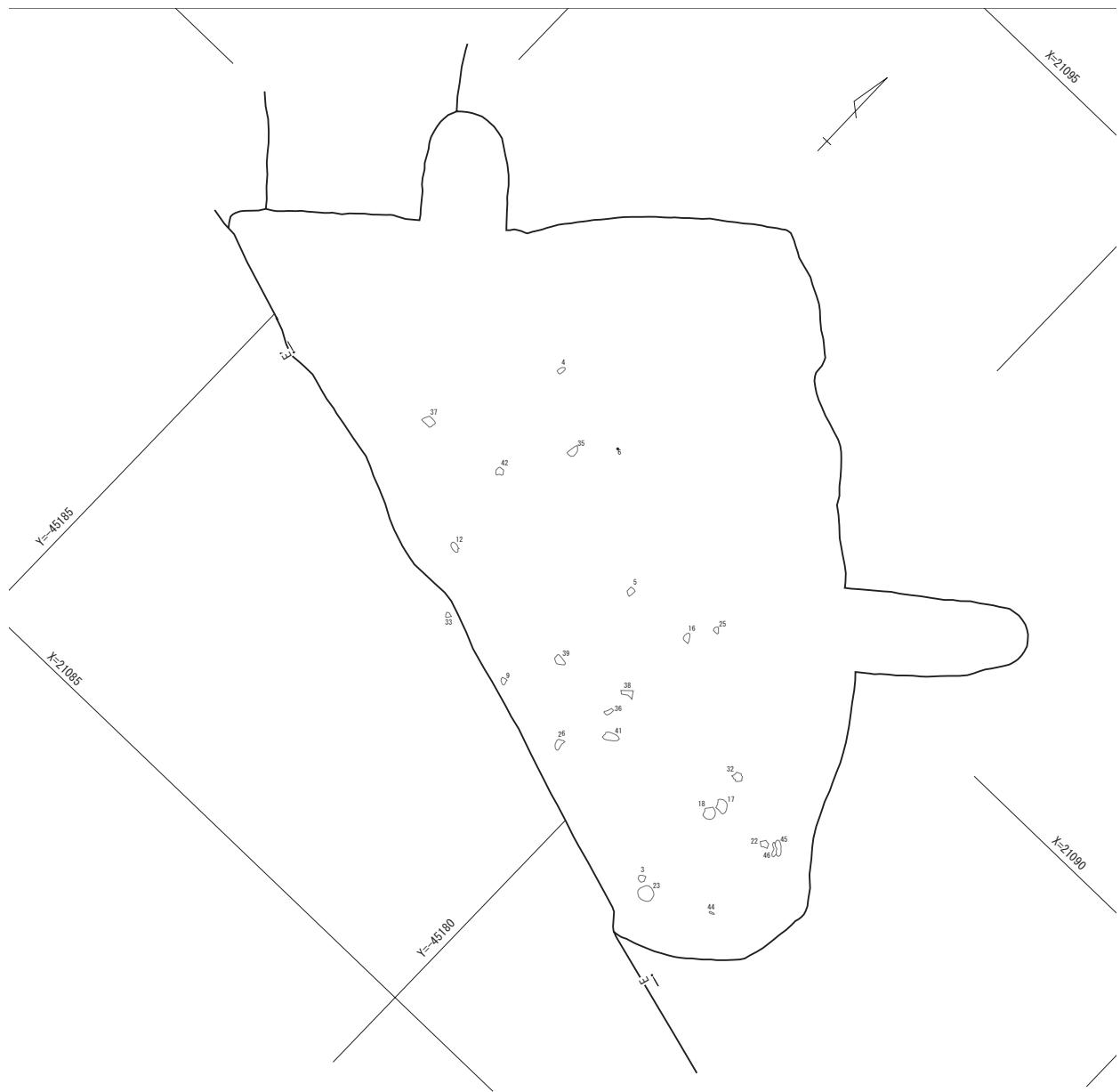
第58図 第26号竪穴建物内鍛冶炉



第26号竪穴建物内鍛冶炉



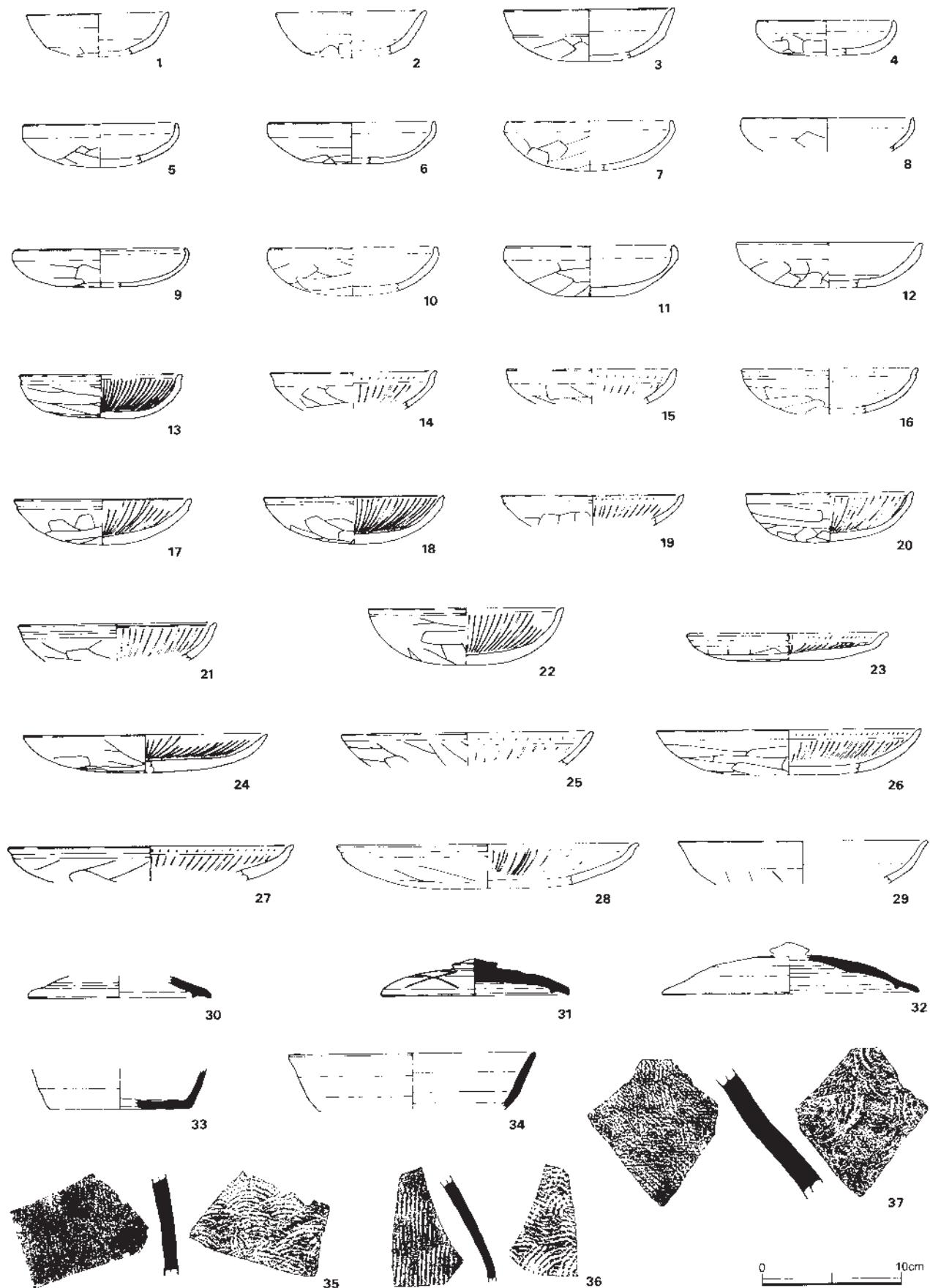
第26号竪穴建物内鍛冶炉周辺



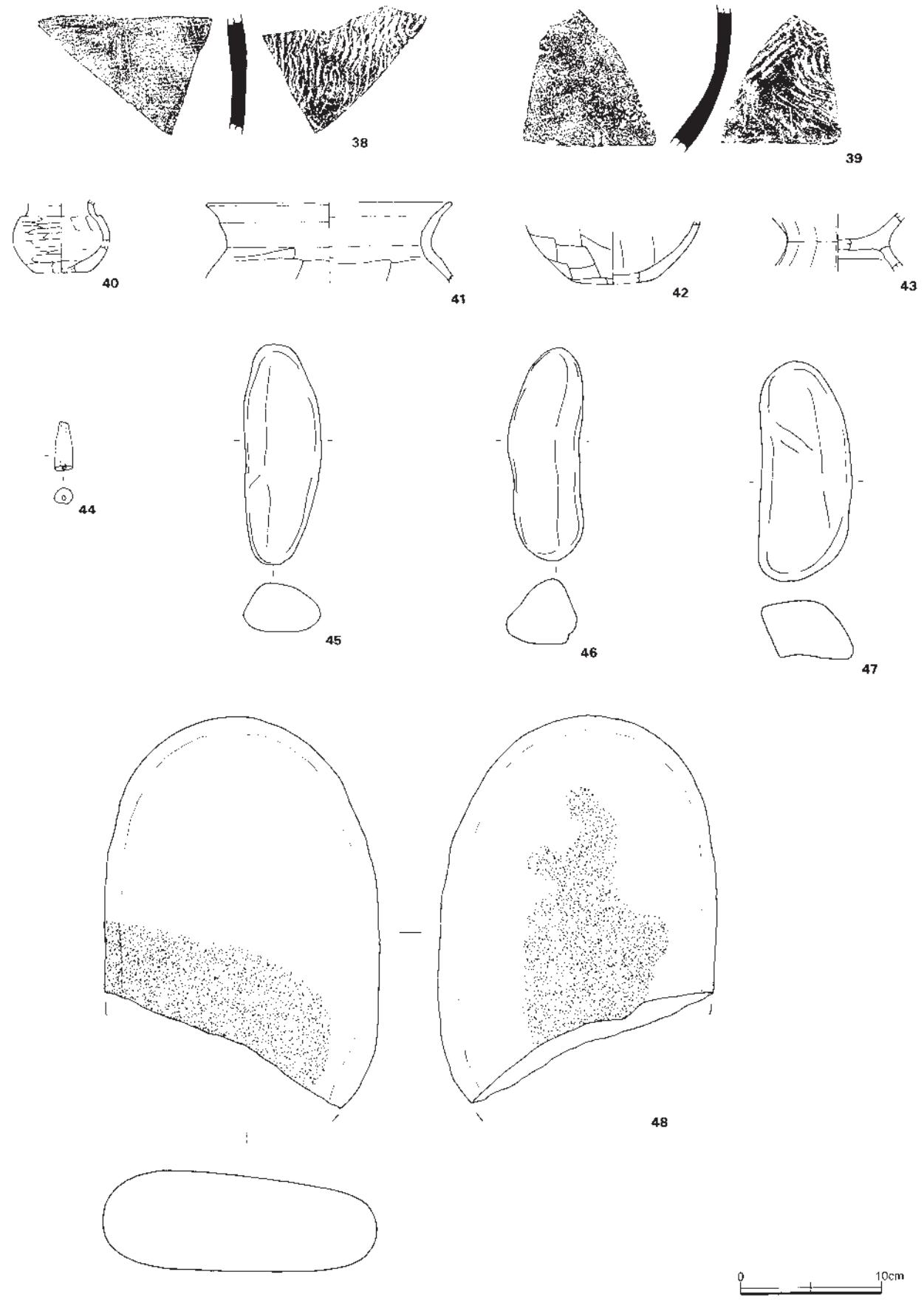
### 第59図 第26号竪穴建物跡遺物出土状況



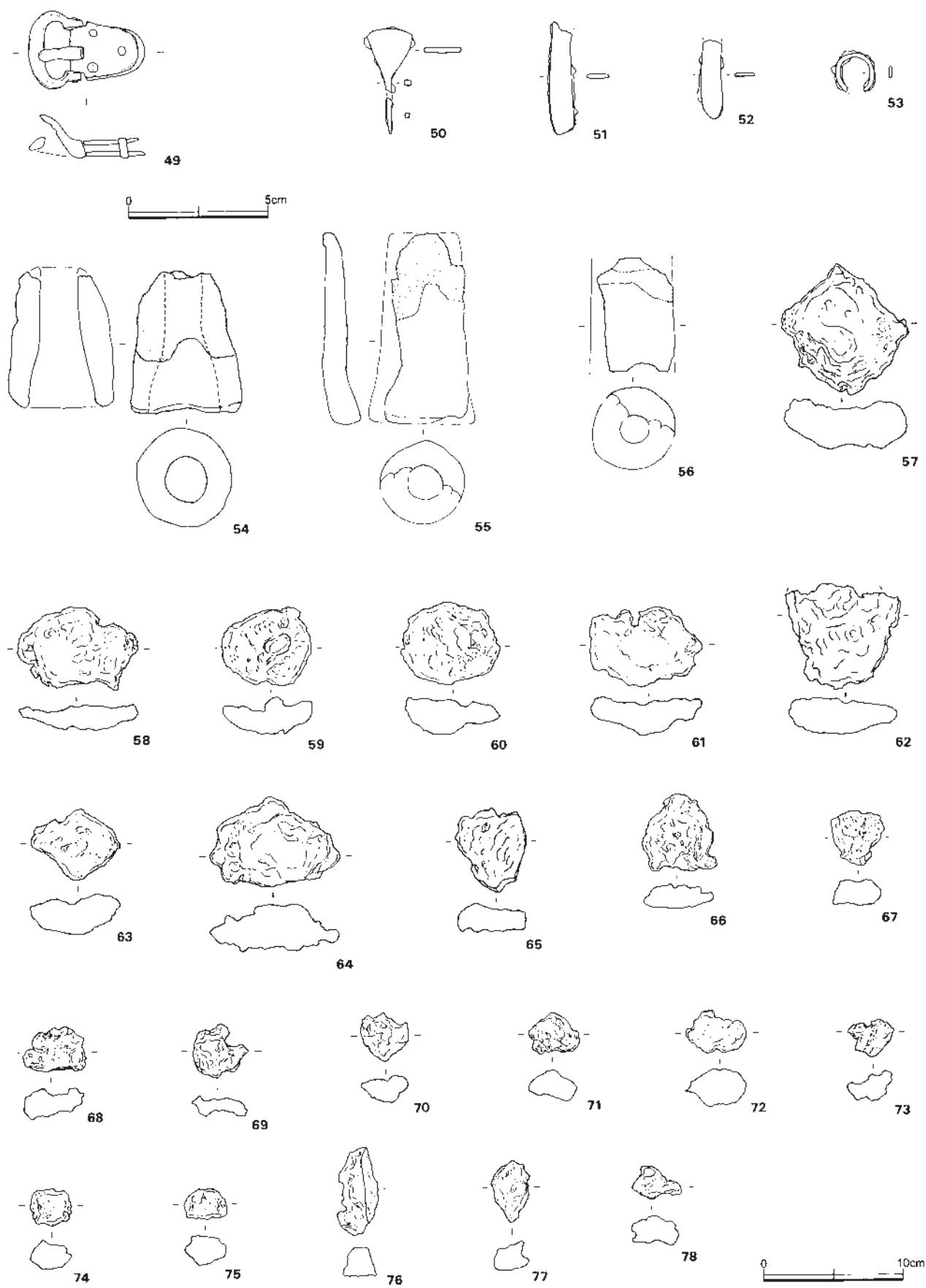
第60図 第26号竪穴建物跡鍛冶関連遺物出土状況



第61図 第26号竪穴建物跡出土遺物 (1)



第62図 第26号竪穴建物跡出土遺物（2）



第63図 第26号竪穴建物跡出土遺物（3）

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
61図	SJ26	H	壺	(10.2)	(3.2)		A C E D	普	黒褐	20%	
		H	壺	(10.6)	(3.3)		A B C E	普	赤褐	40%	
		H	壺	(12.1)	(3.8)		A C E	普	橙	20%	
		H	壺	(9.8)	(2.5)		A B C E	普	橙	25%	
		H	壺	(11.0)	(3.1)		A B C D E	普	暗褐	20%	
		H	壺	(12.0)	(3.0)		A C E	普	暗橙	25%	
		H	壺	(11.8)	3.6		A C E	普	暗橙	40%	
		H	壺	(12.2)			A B C E	普	橙	15%	
		H	壺	(12.3)	(2.7)		A C E	良	暗褐	20%	
		H	壺	(12.0)	(3.6)		A C E	普	橙	25%	
		H	壺	(12.0)	3.6		A C E	普	橙	45%	
		H	壺	(13.2)	(3.2)		A C E	普	橙	25%	
		H	壺	(11.6)	3.2		A B C E	普	橙	70%	
		H	壺	(11.8)			A C E	普	橙	20%	
		H	壺	(12.1)			A B C E	普	橙	20%	
		H	壺	(12.4)	(3.2)		A C E	普	橙	30%	
		H	壺	12.7	3.3		A C E	普	橙	95%	
		H	壺	12.8	3.4		A C E	良	橙	95%	
		H	壺	(13.0)			A C E	普	橙	15%	
		H	壺	11.9	3.6		A C E	良	橙	85%	
		H	壺	(14.1)			A C E	普	暗褐	20%	
		H	壺	(13.9)	4.1		A C E H	普	赤褐	60%	
		H	皿	14.4	2.1		A C E H	普	橙	95%	
		H	皿	(17.5)	2.7		A B C E	普	にぶい橙	30%	
		H	皿	(17.9)			A C E	普	赤褐	20%	
		H	皿	(18.9)	(3.2)		A C E	普	赤褐	30%	
		H	皿	(20.4)			A C E	普	赤褐	20%	
		H	皿	(21.5)	(3.2)		A C E	普	赤褐	15%	
		H	皿	(17.8)			A C E	普	暗橙	10%	
		S	蓋	(13.0)			A C F H	良	青灰	10%	
		S	蓋	13.3	2.7		A C H	普	灰	100%	外面に「×」の線刻
		S	蓋	(18.2)	(3.7)		A C F H	普	灰褐	25%	
		S	壺			(10.0)	A C H	普	灰	15%	
		S	壺	(17.6)			A C F H	普	灰	20%	
		S	甕				A C H	良	青灰		
		S	甕				A C H	良	灰褐		
		S	甕				A C F H	良	青灰		
62図	SJ26	S	甕				A C F H	普	灰		
		S	甕				A C F H	普	灰		
		S	壺			(4.0)	A B C E	普	橙	20%	
		S	甕	17.3			A C E	普	橙	15%	
		S	甕				A C E	普	黒褐	5%	
		S	台付甕				A C H	普	暗褐	5%	
		S	土錘	幅 1.3	厚 1.1		A C E	普	暗橙	60%	重さ 5.13 g
			編物石	長 15.7	幅 5.4	厚 3.5		普			重さ 434 g
			編物石	長 15.0	幅 5.0	厚 4.6		普			重さ 399 g
			編物石	長 15.5	幅 6.5	厚 4.0		普			重さ 664 g
63図	SJ26		金床石		幅 19.5	厚 7.0		普			両面が被熱
			帶金具	長 4.2	幅 2.8	厚 0.6		普			重さ 13.24 g

第17表 第26号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
63図 50	SJ26		鉄鏃	長 7.6	幅 3.2	厚 0.4				重さ 8.73 g	
51		延板状鉄製品			幅 1.7	厚 0.3				重さ 16.05 g	
52		延板状鉄製品			幅 1.5	厚 0.2				重さ 7.35 g	
53		輪状鉄製品			幅 2.7	厚 0.2				重さ 4.02 g	
54		羽口	長 9.9	幅 6.9	厚 7.1					先端部が還元	
55		羽口	長 13.8	幅 6.1						先端部が還元	
56		羽口								先端部が還元	
57		椀形滓	長 9.1	幅 8.9	厚 3.0					重さ 266.14 g	
58		椀形滓	長 5.6	幅 8.6	厚 1.8					重さ 114.91 g	
59		椀形滓	長 5.2	幅 6.4	厚 2.6					重さ 107.15 g	
60		椀形滓	長 5.9	幅 6.7	厚 2.5					重さ 115.16 g	
61		椀形滓	長 5.5	幅 8.0	厚 2.3					重さ 143.57 g	
62		椀形滓	長 7.4	幅 8.2	厚 2.5					重さ 194.80 g	
63		椀形滓	長 5.0	幅 6.4	厚 2.5					重さ 70.66 g	
64		鉄滓	長 6.4	幅 9.3	厚 3.3					重さ 214.42 g	
65		鉄滓	長 6.0	幅 5.0	厚 2.0					重さ 80.40 g	
66		鉄滓	長 5.5	幅 5.0	厚 1.7					重さ 53.09 g	
67		鉄滓	長 3.8	幅 3.7	厚 1.7					重さ 18.34 g	
68		鉄滓	長 3.0	幅 4.4	厚 1.9					重さ 29.97 g	
69		鉄滓	長 3.8	幅 4.0	厚 1.0					重さ 14.29 g	
70		鉄滓	長 3.4	幅 3.4	厚 1.9					重さ 20.08 g	
71		鉄滓	長 2.8	幅 3.5	厚 1.9					重さ 9.94 g	
72		鉄滓	長 3.0	幅 4.3	厚 2.5					重さ 39.85 g	
73		鉄滓	長 2.5	幅 3.2	厚 1.9					重さ 5.09 g	
74		鉄滓	長 2.7	幅 3.0	厚 2.0					重さ 21.96 g	
75		鉄滓	長 2.1	幅 3.0	厚 2.0					重さ 20.57 g	
76		鉄滓	長 6.2	幅 2.5	厚 2.1					重さ 40.92 g	
77		鉄滓	長 4.5	幅 2.6	厚 1.8					重さ 27.13 g	
78		鉄滓	長 2.3	幅 3.5	厚 1.8					重さ 14.69 g	

第18表 第26号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)

はロクロ土師器で、10は小皿、11は壺、12は椀、13～16は高台椀である。17～19は須恵器で、17は壺、18・19は甕である。

#### 第68号竪穴建物跡（第67図20、第20表）

第18次調査区A区に位置し、第67号竪穴建物跡に切られる。主軸方位はN-20°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第67図20の有段口縁壺である。

#### 第69号竪穴建物跡（第68・69図、第21表）

第18次調査区B区に位置する。平面形態は方形で、一辺4.35mを測る。主軸方位はN-25°-Eである。

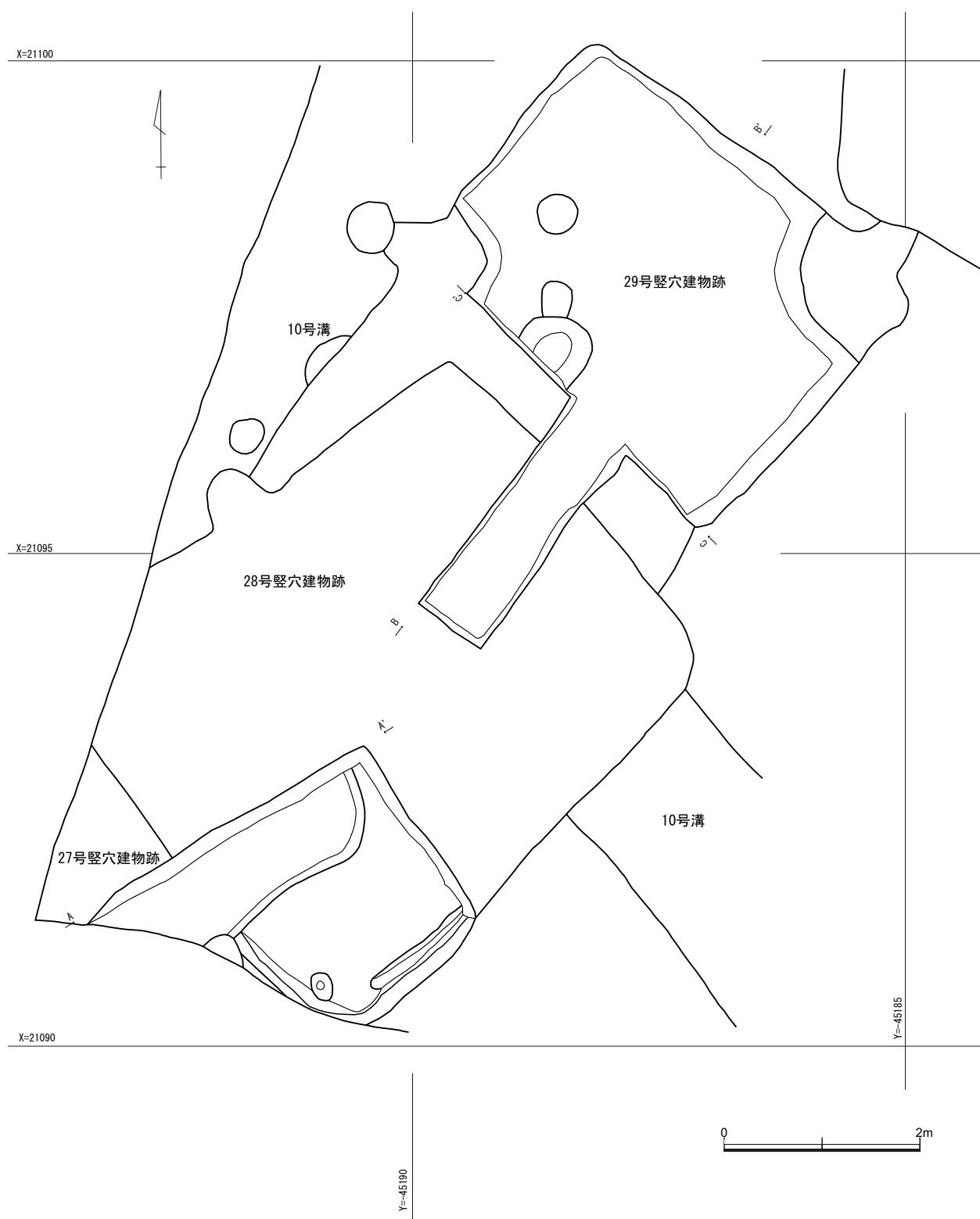
床面は確認面から55cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。壁溝は確認されなかった。中央付近に、床面より10cm浅い円形の掘り残しが確認された。

図示できた遺物は、第69図1～15である。1～5はロクロ土師器で、1～5は小皿、6～10は高台椀、11～14は須恵器で、11は壺、12は高台壺、13・14は長頸瓶、15は軒丸瓦である。

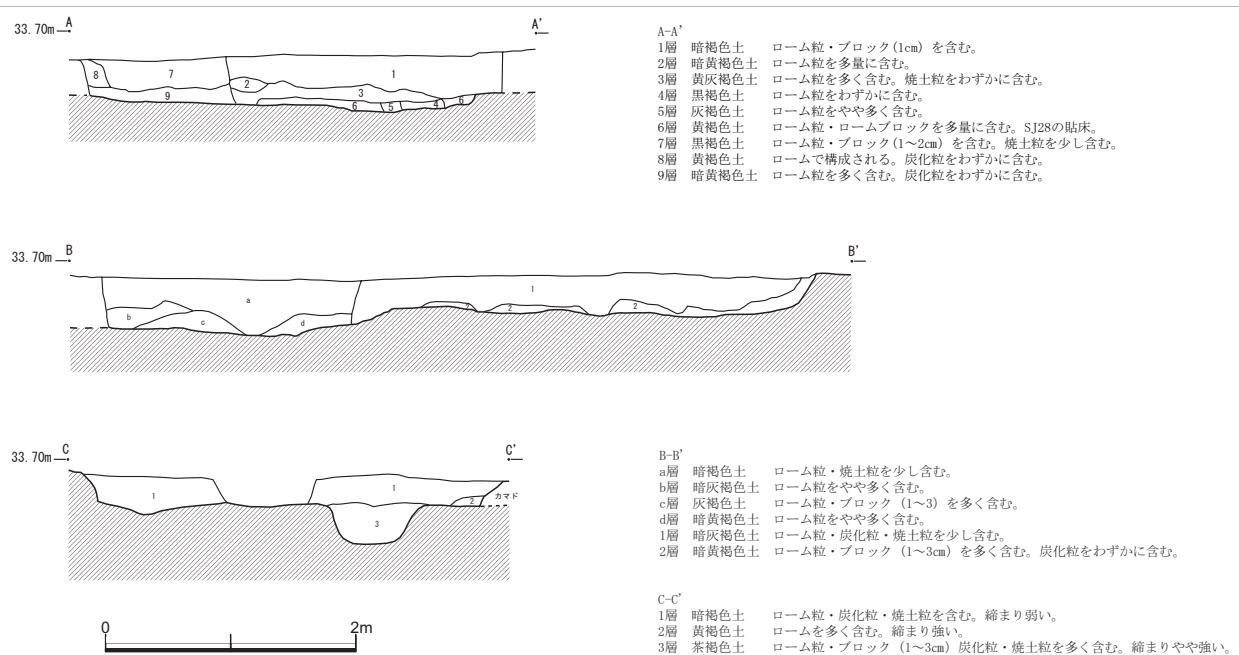
遺構の時期は、10世紀後半頃と推定される。

#### 第70号竪穴建物跡（第71図1～6、第22表）

第18次調査区C区に位置し、第71号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、主軸方位はN-50°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。



第64図 第27～29号竪穴建物跡



第65図 第27～29号竪穴建物跡土層断面

図示できた遺物は、第71図1～6である。1～3はロクロ土師器で、1・2は小皿、3は椀である。4は甕、5は須恵器甕、6は土錘である。

#### 第71号竪穴建物跡（第71図7・8、第23表）

第18次調査区C区に位置し、第70・72号竪穴建物跡に切られる。主軸方位はN-50°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第71図7・8の須恵器甕である。他に第72号竪穴建物跡と区分できなかつた遺物もある。

#### 第72号竪穴建物跡（第71図9～15、第23表）

第18次調査区C区に位置し、第71号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、主軸方位はN-10°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第71図9～15である。9～13はロクロ土師器で、9は壺、10～13は高台椀、14・15は須恵器で、14は高台壺、15は甕である。他に第72号竪穴建物跡と区分できなかつた遺物もある。

#### 第73号竪穴建物跡（第70図、第72図1～9、第23表）

第18次調査区D区に位置し、第38号溝を切る。平面形態は方形で、長軸5.4m、短軸5.1mを測る。主軸方位はN-30°-Wである。

床面は確認面から40cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかつた。

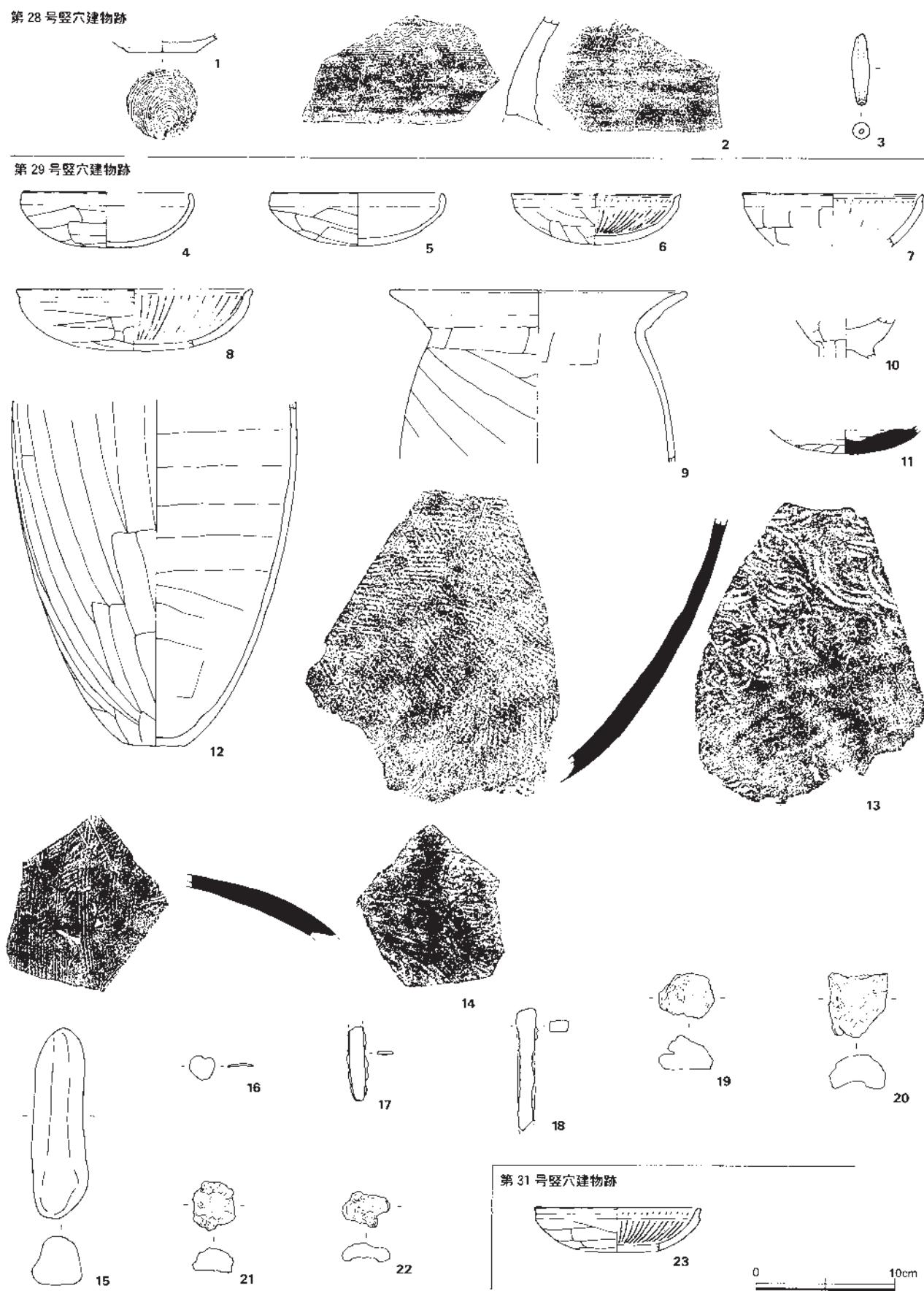
図示できた遺物は、第72図1～9である。1は有段口縁壺、2・3は暗文壺、4・5は須恵器蓋、6・7は鉢、8・9は甕である。

遺構の時期は、出土遺物及び第49号溝との切り合い関係から、7世紀末頃と推定される。

#### 第74号竪穴建物跡（第72図10～17、第23表）

第18次調査区D区に位置する。平面形態は方形で、一辺3.6mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第72図10～17である。10は有段口縁壺、11は北武藏型壺、12～14は暗文壺、15～17は甕である。



第66図 第28・29・31号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
66図 1	SJ28	R	小皿			5.0	A B C E	普	黄橙	30%	
2		S	甕				A C F H	良	青灰		
3			土錐	長 5.1	幅 1.2	厚 1.2	A B C E	普	橙	100%	重さ 6.09g
4	SJ29	H	坏	12.0	4.0		A C E	普	橙	90%	
5		H	坏	12.2	3.8		A B C E	普	橙	90%	
6		H	坏	12.0	3.7		A C E	普	にぶい赤褐	80%	
7		H	坏	(12.8)			A C E	普	橙	25%	
8		H	坏	(16.8)	(4.5)		A C E	普	橙	25%	
9		H	甕	(21.0)			A C E H	普	橙	20%	
10		H	台付甕				A C E	普	橙	5%	
11		S	甕				A C H	良	灰白		
12		H	甕			4.0	A B C E	普	橙	60%	
13		S	甕				A B C F H	普	灰		
14		S	横瓶				A B C F H	普	灰		
15			編物石	長 13.7	幅 4.0	厚 3.5	石材 ホルンフェルス			重さ 283g	
16			銅片	長 1.7	幅 1.8	厚 0.1				重さ 1.31g	
17			延板状鉄製品		幅 1.1	厚 0.2				重さ 6.19g	
18			棒状鉄製品		幅 1.3	厚 0.8				重さ 21.63g	
19			鉄滓	長 3.2	幅 3.9	厚 2.4				重さ 34.09g	
20			鉄滓	長 4.4	幅 4.0	厚 2.3				重さ 77.28g	
21			鉄滓	長 3.5	幅 2.9	厚 1.6				重さ 9.54g	
22			鉄滓	長 2.3	幅 3.4	厚 1.1				重さ 4.35g	
23	SJ31	H	坏	(11.8)	(3.2)		A B C D E H	普	橙	20%	

第19表 第28・29・31号竪穴建物跡出土遺物観察表

#### 第75号竪穴建物跡（第71図28、第23表）

第18次調査区D区に位置する。平面形態は方形で、主軸方位はN-45°-Eである。カマドは北東壁に造られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第71図28の土錐である。

#### 第76号竪穴建物跡（第72図18～27、第23表）

第18次調査区D区に位置し、第537号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸4.2m、短軸3.1mを測る。主軸方位はN-74°-Eである。カマドは北東壁ほぼ中央に造られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は第72図18～27である。18～22は口クロ土師器で、18～21は坏、22は高台椀、23は甕、24は鉢、25は台付甕、26は土錐、27は方形鉄製品である。

遺構の時期は、10世紀前半と推定される。

#### 第77号竪穴建物跡

第18次調査区E区に位置し、第38号溝を切る。平面形態は方形で、主軸方位はN-35°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

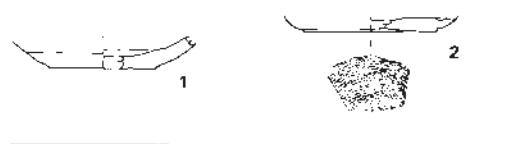
図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第78号竪穴建物跡

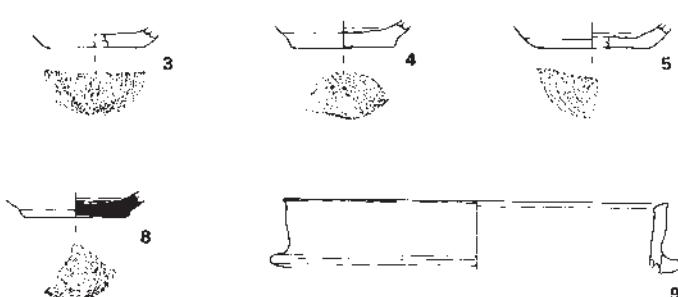
第18次調査区D区に位置する。コーナーがわずかに確認されたのみで、掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

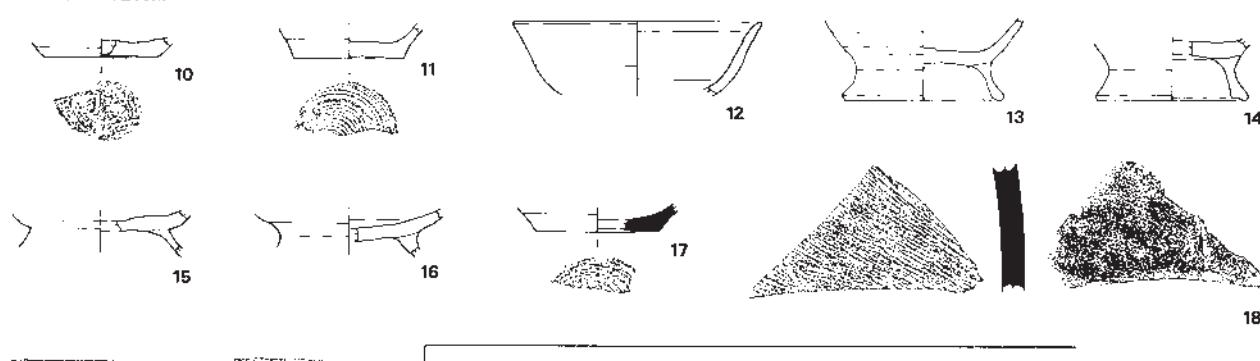
第65号竪穴建物跡



第66号竪穴建物跡



第67号竪穴建物跡



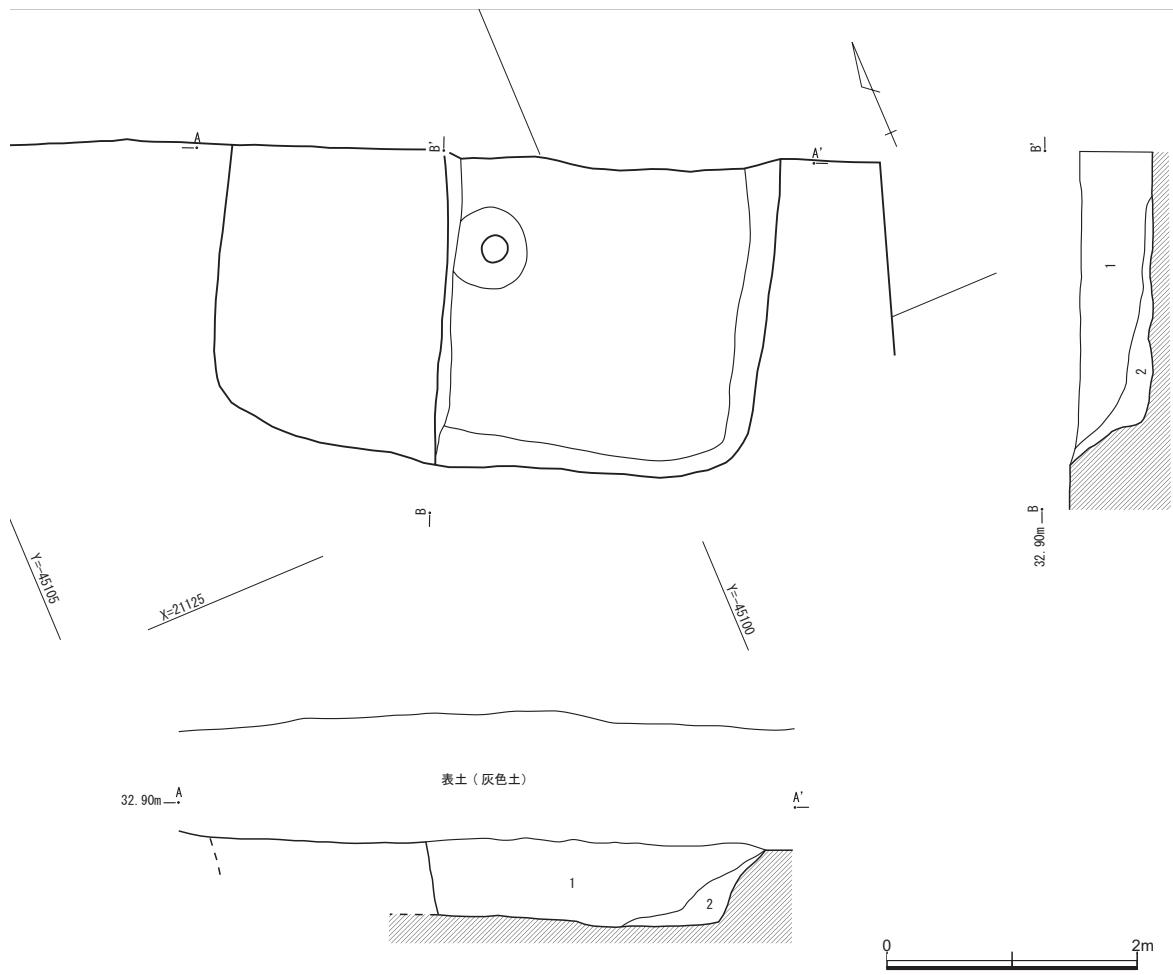
第68号竪穴建物跡



第67図 第65～68号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
67図 1	SJ65	R	小皿			(5.4)	A B C E	不良	灰白	15%	
2		R	小皿			(7.0)	A B C E	不良	灰褐	15%	
3	SJ66	R	小皿			(5.0)	A C E	普	橙	15%	
4		R	小皿			(5.2)	A B C E	普	赤褐	20%	
5		R	小皿			(5.8)	A C E H	普	橙	15%	
6		R	高台椀			(6.5)	A B C E H	普	橙	15%	
7		R	高台椀			(8.6)	A B C E	普	橙	20%	
8		S	壺			(5.2)	A C D	不良	灰	10%	
9			羽釜	(19.9)			A C E H	普	暗褐		
10	SJ67	R	小皿			(5.8)	A C E	普	橙	15%	
11		R	壺			5.7	A B C E	普	橙	20%	
12		R	椀	(12.9)			A C E	普	橙	10%	
13		R	高台椀			(8.1)	A B C E H	普	橙	25%	
14		R	高台椀			(7.8)	A C E	普	黄橙	20%	
15		R	高台椀				A B C E	普	橙	15%	
16		R	高台椀				A B C E I	普	橙	15%	
17		S	壺			(6.2)	A C E	不良	灰	15%	
18		S	甕				A C F H	良	青灰		
19		S	甕				A C	良	灰褐		
20	SJ68	H	壺	11.8	3.7		A C E	普	黑褐	50%	

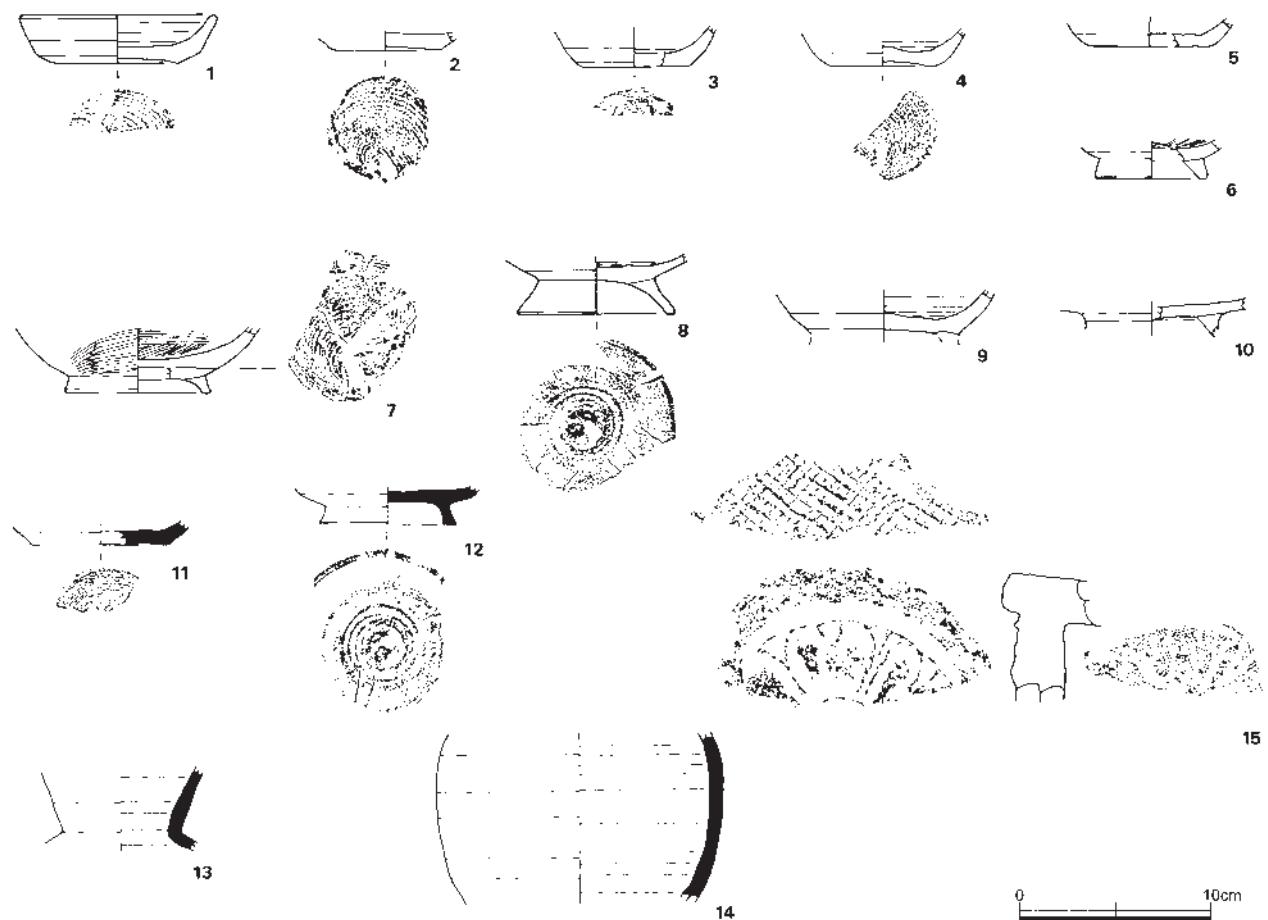
第20表 第65～68号竪穴建物跡出土遺物観察表



第68図 第69号竪穴建物跡



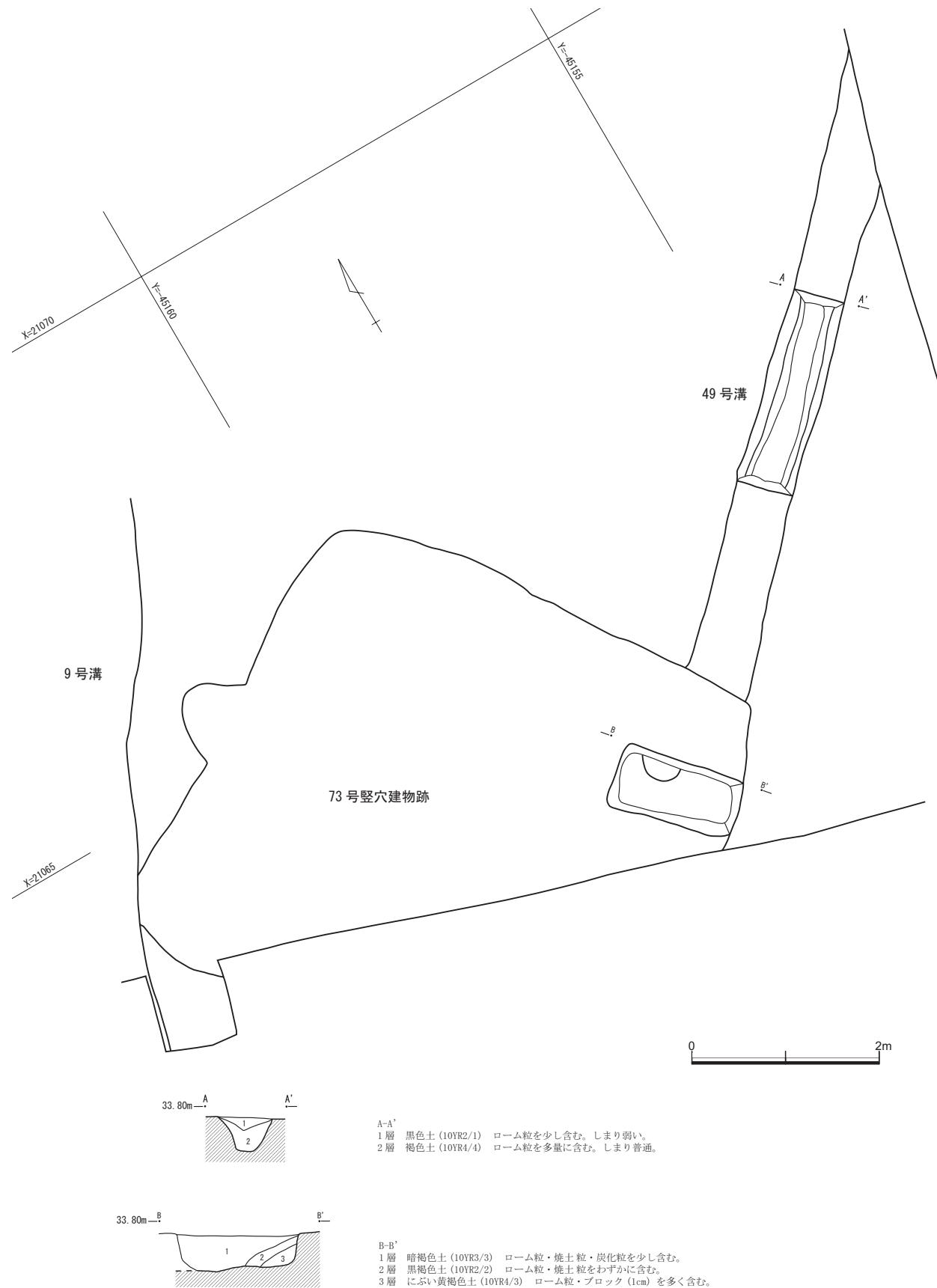
第69号竪穴建物跡遺物出土状況



第69図 第69号竪穴建物跡出土遺物

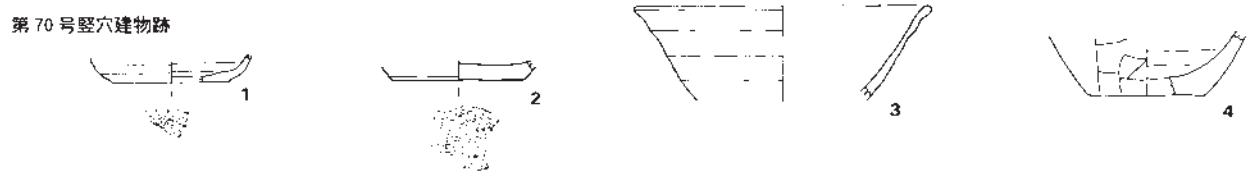
番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
69図	1	SJ69	R	小皿	10.2	2.5	6.4 A C E	普	暗橙	60%	
	2		R	小皿		5.8 (5.4)	A B C D H A B C E	不良 普	橙 橙	25% 15%	
	3		R	小皿		(5.4)	A B C E	普	黄橙	20%	
	4		R	小皿		(6.1)	A B C E	普	橙	15%	
	5		R	高台椀		(5.6)	A C E	普	橙	15%	
	6		R	高台椀		(7.4)	A E	普	黑	20%	内面黒色処理
	7		R	高台椀		(8.0)	A B C E	普	橙	30%	内外面黒色処理
	8		R	高台椀			A C E H	普	橙	20%	
	9		R	高台椀			A B C E	普	橙	20%	
	10		R	高台椀		(7.2)	A B F H	不良	灰	15%	
	11		S	坏		7.0	A C F H	普	灰	25%	
	12		S	高台坏			A C H	良	青灰	5%	
	13		S	長頸瓶			A C H	良	青灰	5%	
	14		S	長頸瓶			A C F H	普	灰	5%	
	15			瓦							

第21表 第69号竪穴建物跡出土遺物観察表

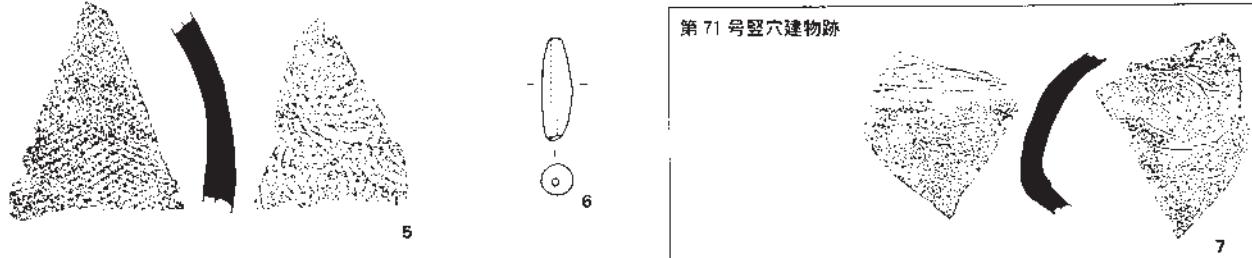


第70図 第73号竪穴建物跡、第38号溝

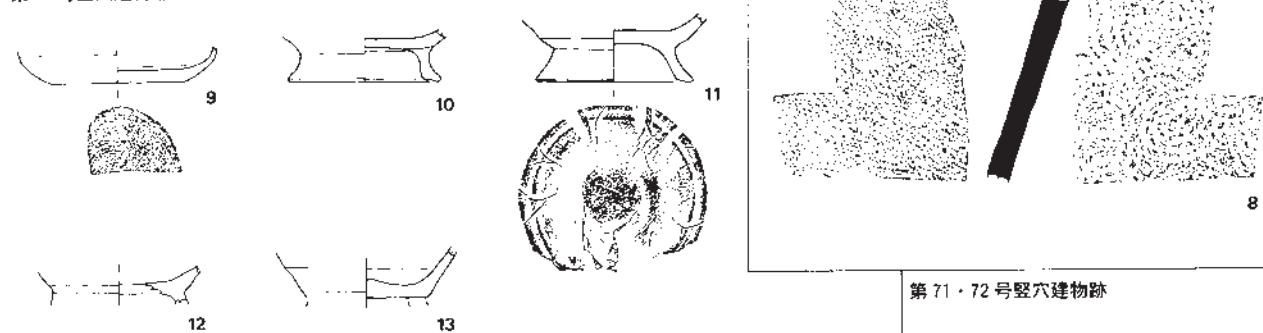
第70号竪穴建物跡



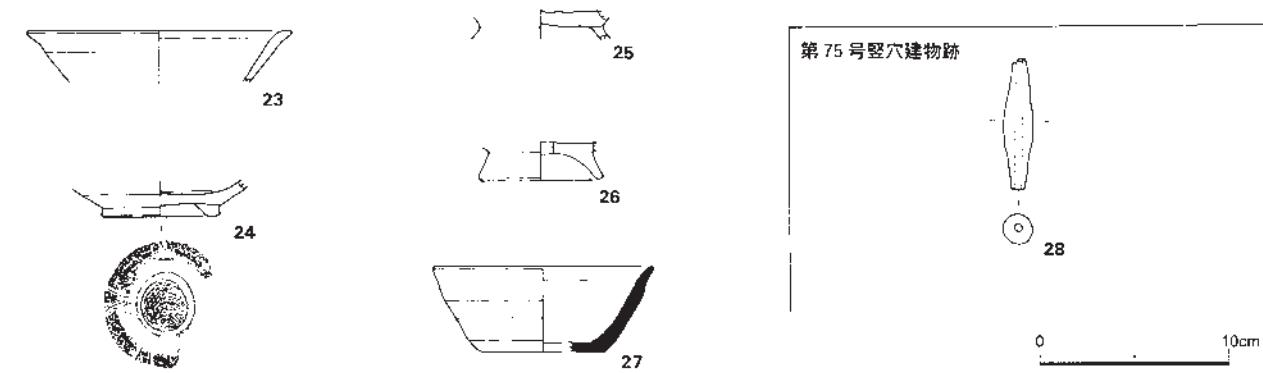
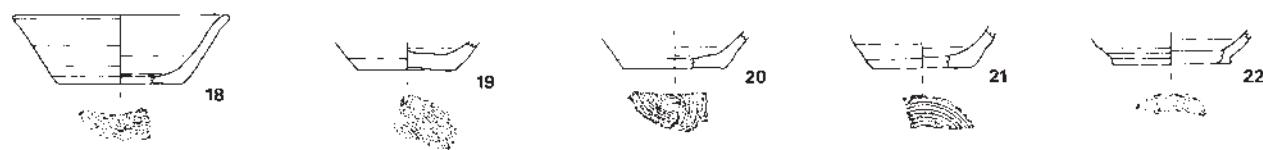
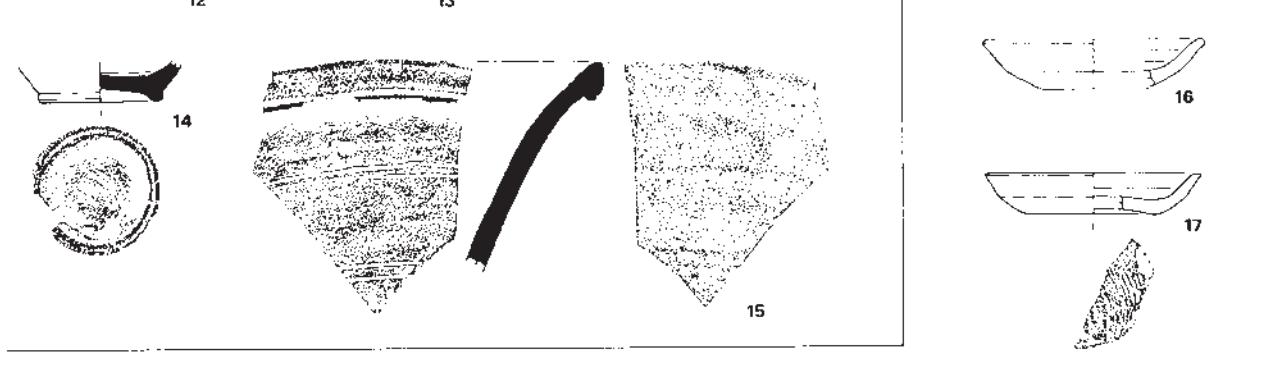
第71号竪穴建物跡



第72号竪穴建物跡

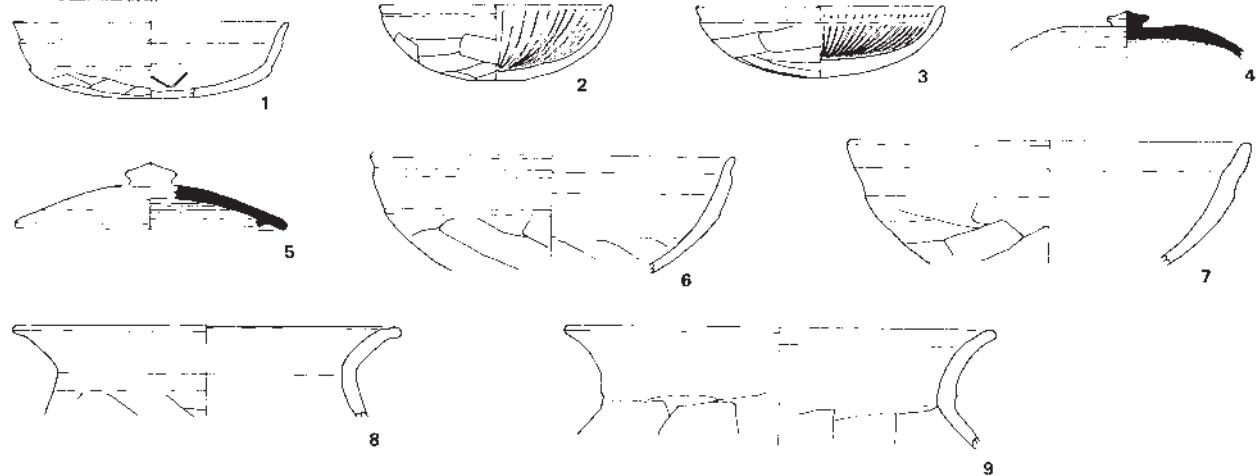


第71・72号竪穴建物跡

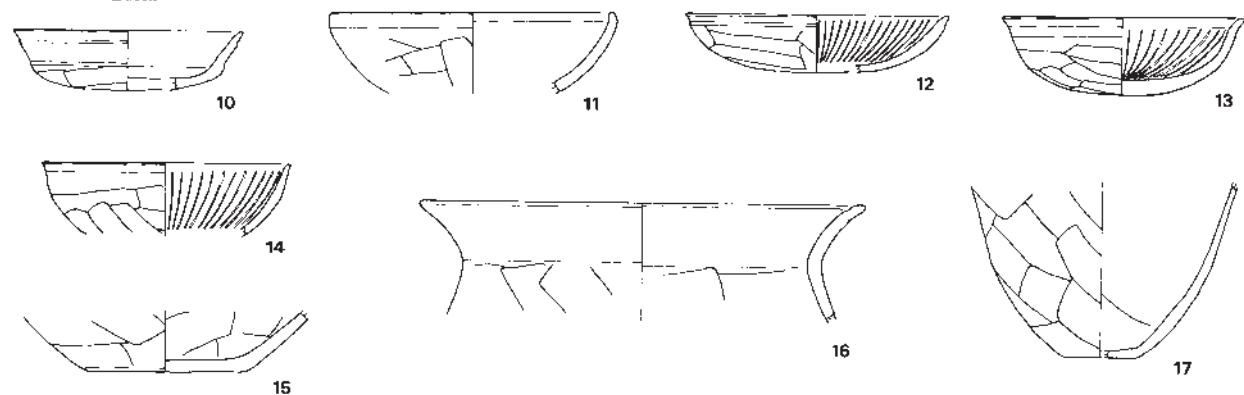


第71図 第70～72・75号竪穴建物跡出土遺物

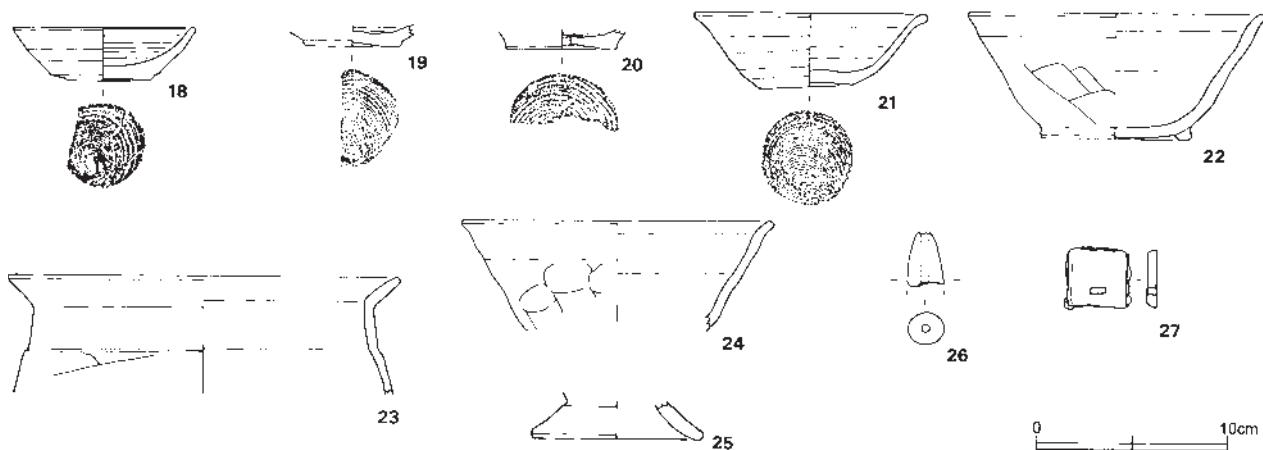
第73号竪穴建物跡



第74号竪穴建物跡



第76号竪穴建物跡



第72図 第73・74・76号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
71図 1	SJ70	R	小皿			(6.0)	A B C E	普	橙	10%	
2		R	小皿			(6.8)	A B C E	普	橙	10%	
3		R	椀	(15.4)			A C E F H	普	赤褐	15%	
4		H	甕			(6.0)	A B C E	普	暗橙		
5		S	甕				A C F H	良	青灰		外面に自然釉
6			土錘	長 5.4	幅 1.6	厚 1.6	A C	良	暗褐	100%	重さ 13.37 g

第22表 第70号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
71図	SJ71	S	甕				A C F H	良	青灰		
		S	甕				A C F H	良	青灰		
	SJ72	R	壺			(7.0)	A B C F I	普	橙	20%	
		R	高台椀			(7.8)	A C E	普	暗橙	15%	
		R	高台椀			8.0	A C E	普	橙	30%	
		R	高台椀				A B C E	普	橙	15%	
		R	高台椀				A C E	普	橙	30%	
		S	高台壺			6.2	A C F H	不良	灰	30%	
		S	甕				A C F H	良	青灰		
		R	小皿	(11.2)	(2.6)		A C E H	普	橙	20%	
		R	小皿	(11.1)	2.1	(7.0)	A C E	普	橙	30%	
		R	壺	(11.2)	3.6	(6.4)	A B C E	普	橙	20%	
		R	壺			(5.0)	A C E	普	橙	20%	
		R	壺			(5.3)	A B C E	普	橙	20%	
		R	壺			(5.1)	A C E	普	黄橙	15%	
		R	壺			(6.0)	A C E	普	橙	10%	
		R	椀	(13.8)			A C E	普	灰褐	10%	
		R	高台椀			6.0	A C E H	普	灰褐	20%	
		R	高台椀				A B C E I	不良	橙	20%	
		R	高台椀			(6.2)	A B C E	普	橙	15%	
		S	壺	(11.4)	4.5	(6.4)	A C E	不良	灰	40%	
	SJ75		土錘	長 6.9	幅 1.6	厚 1.6	A C	良	暗褐	95%	重さ 14.72 g
72図	SJ73	H	壺	( 4.3)	(4.1)		A C E H	普	橙	25%	内面に「×」の線刻
		H	壺	(12.0)	4.0		A C E	普	赤褐	50%	
		H	壺	(12.9)	3.8		A C E H	普	橙	60%	
		S	蓋				A C F H	良	灰	25%	
		S	蓋	(14.0)	(3.5)		A C F H	普	灰	25%	
		H	鉢	(18.8)			A C E	普	橙	20%	
		H	鉢	(20.8)			A B C E H	普	橙	30%	
		H	甕	(20.0)			A C E	普	橙	15%	
		H	甕	(22.0)			A B C E H	普	橙	5%	
	SJ74	H	壺	(11.8)	(3.1)		A B C E	普	橙	20%	
		H	壺	(14.7)			A C E I	普	暗橙	20%	
		H	壺	(13.6)	(3.0)		A C E H	普	橙	30%	
		H	壺	(12.5)	4.1		A C E	普	橙	30%	
		H	壺	(12.9)			A B C E	普	橙	25%	
		H	甕			8.0	A B C D E H	普	橙	15%	
		H	甕	(23.0)			A C E H	普	橙	5%	
		H	甕			(3.8)	A C E	普	暗橙	15%	
	SJ76	R	壺	9.5	2.8	4.3	A B C E H	普	橙	60%	
		R	壺			4.8	A B C E	普	暗橙	15%	
		R	壺			5.8	A B C E	普	黄橙	15%	
		R	高台椀	(15.3)	6.6	4.7	A C E	普	黄橙	75%	
		H	甕	(20.4)		7.6	A C E H	普	橙	30%	
		H	鉢	(16.1)			A C E H	良	橙	5%	
		H	台付甕			(8.6)	A B C E	普	橙	15%	
		土錘		長 3.0	幅 3.0	厚 0.5	A C H	普	灰褐	40%	
		方形鉄製品							黄橙	40%	重さ 15.75 g

第23表 第71～76号竪穴建物跡出土遺物観察表

## f 土坑

土坑は多数確認されたが、その大部分は中世のものと思われる。特に第18次調査区A区からは、中世の土坑が密集して確認された。

ここでは、古代のものと考えられるものの内、主なものについて述べたい。

### 第70号土坑（第18図、第88図1～3、第29表）

第4次調査区A区に位置する。平面形態は方形で、一辺約1m、確認面からの深さは50cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位はN-51°-Wである。中央付近から、底面からの深さ20cmのピットが

確認された。

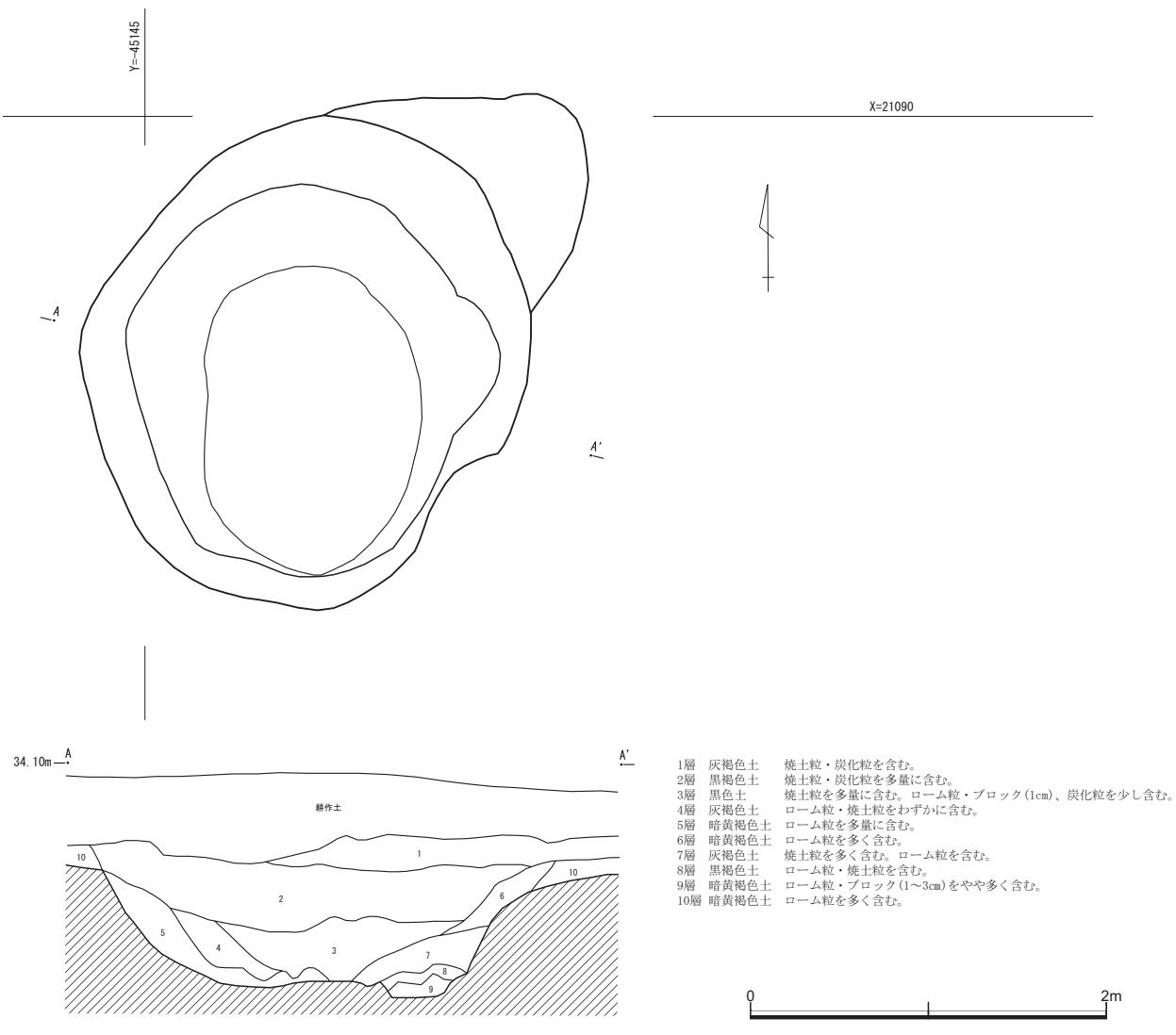
第24・25号建物跡の内部に位置し、主軸方位も一致することから、建物跡に伴う可能性が考えられる。

図示できた遺物は、第88図1～3である。1は暗文壺、2は北武藏型壺、3は須恵器甕である。

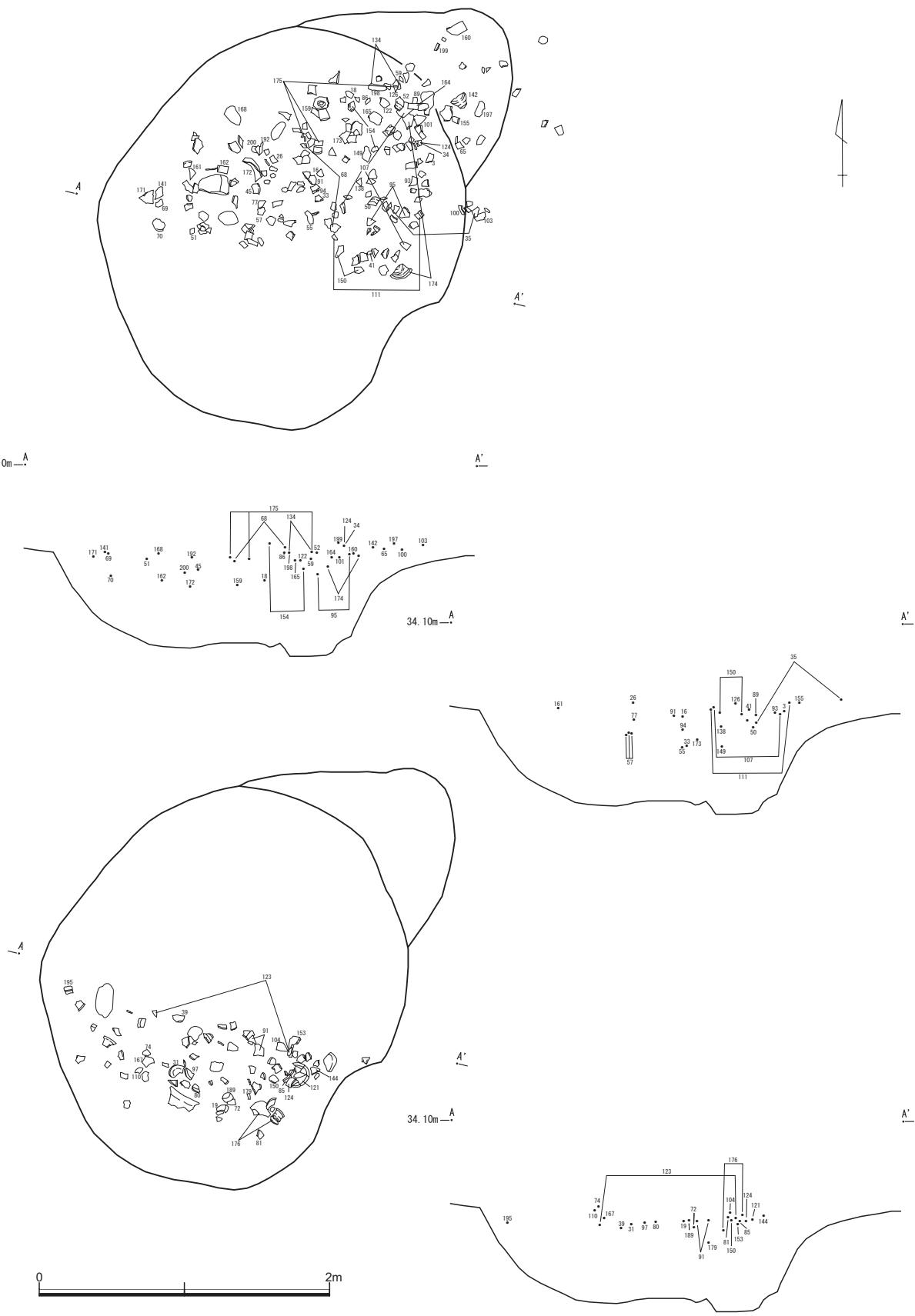
### 第75号土坑（第73～85図、第24～28表）

第4次調査区B区南部に位置する。平面形態は楕円形で、長径2.8m、短径2.45mを測る。断面形態は楕形を呈し、確認面からの深さは70cmである。遺物は多量に出土し、覆土に焼土粒・炭化粒を多く含んでいる。廃棄土坑と考えられる。

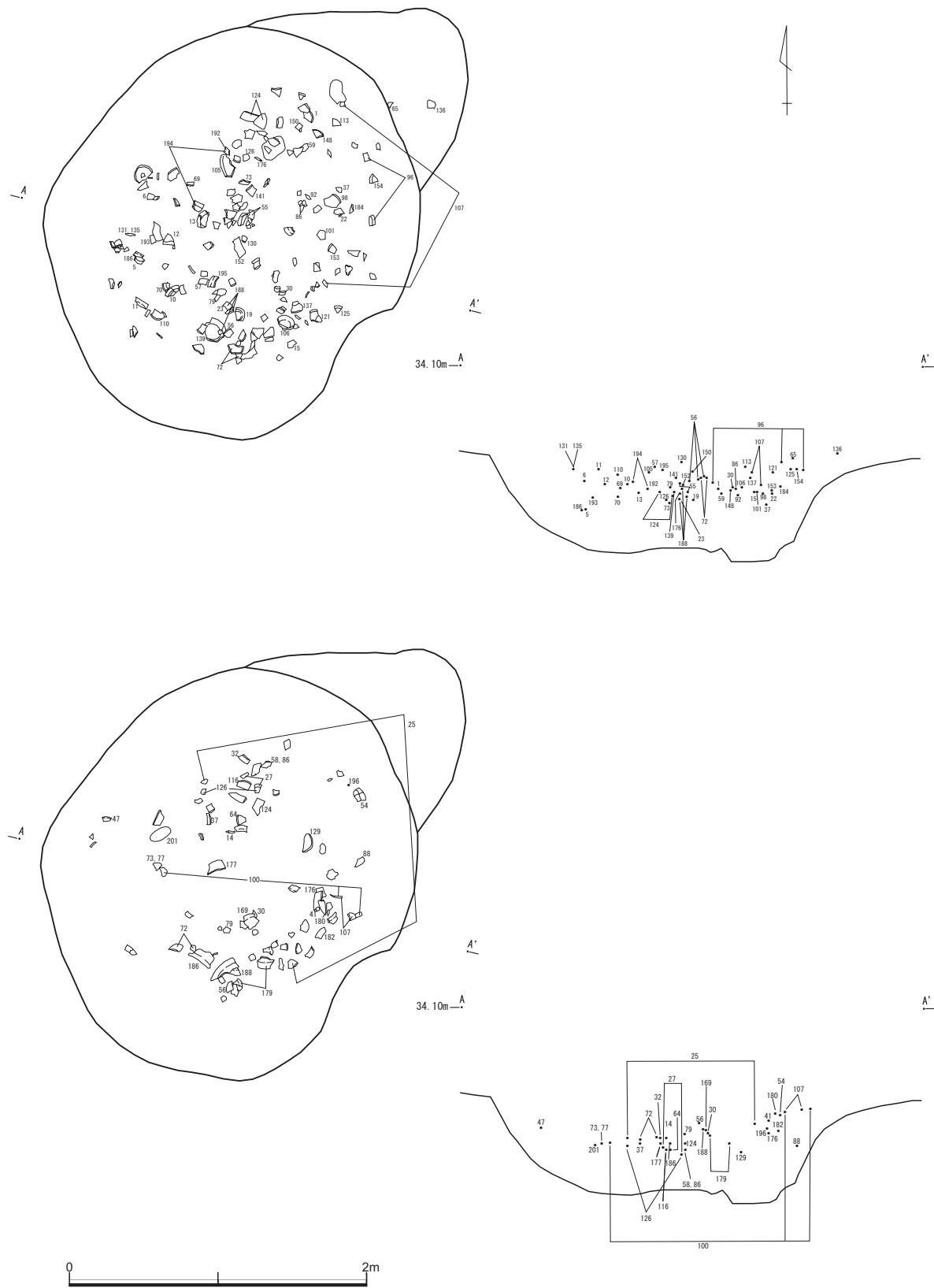
図示できた遺物は、第78図1～第85図201である。



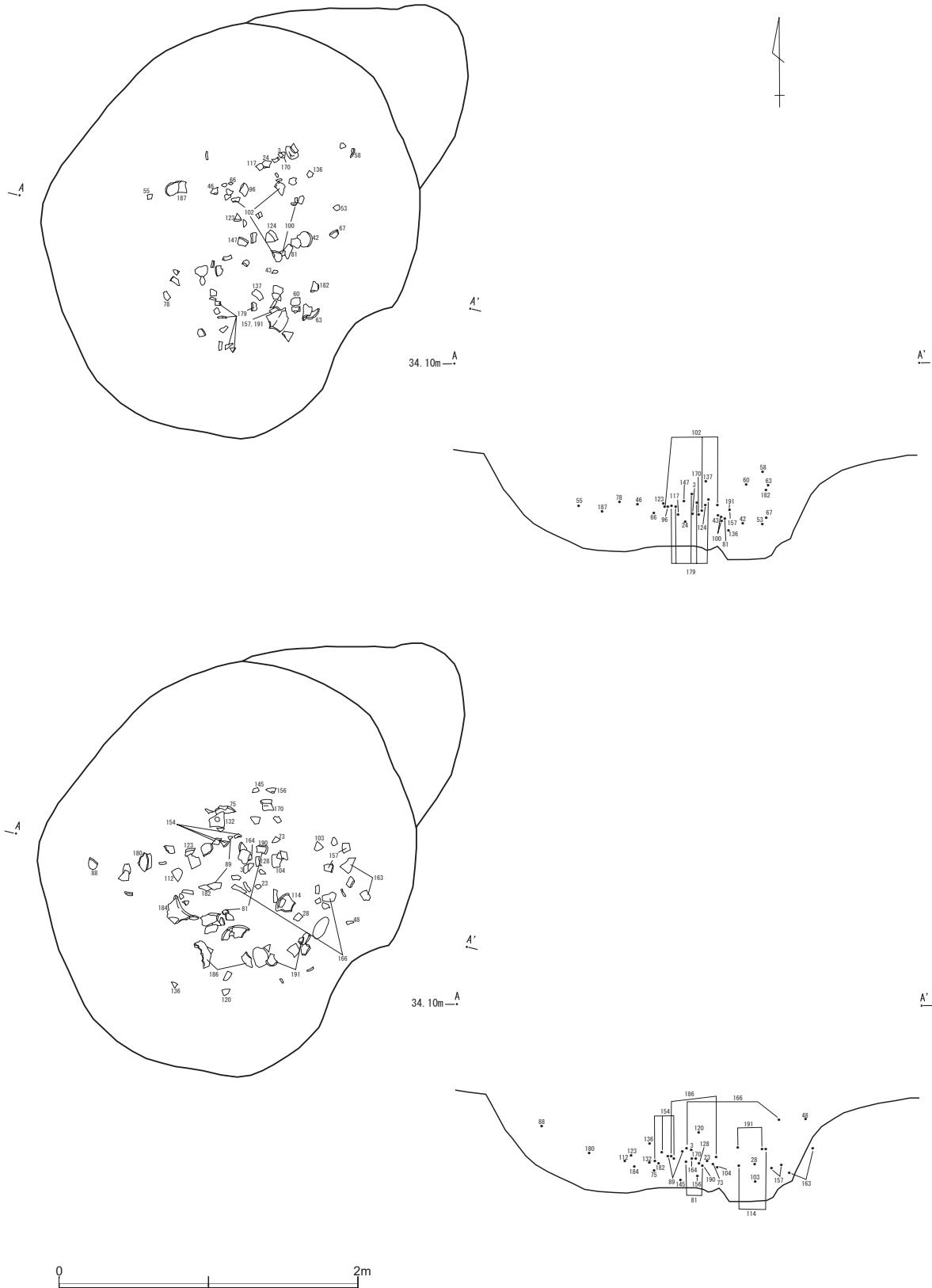
第73図 第75号土坑



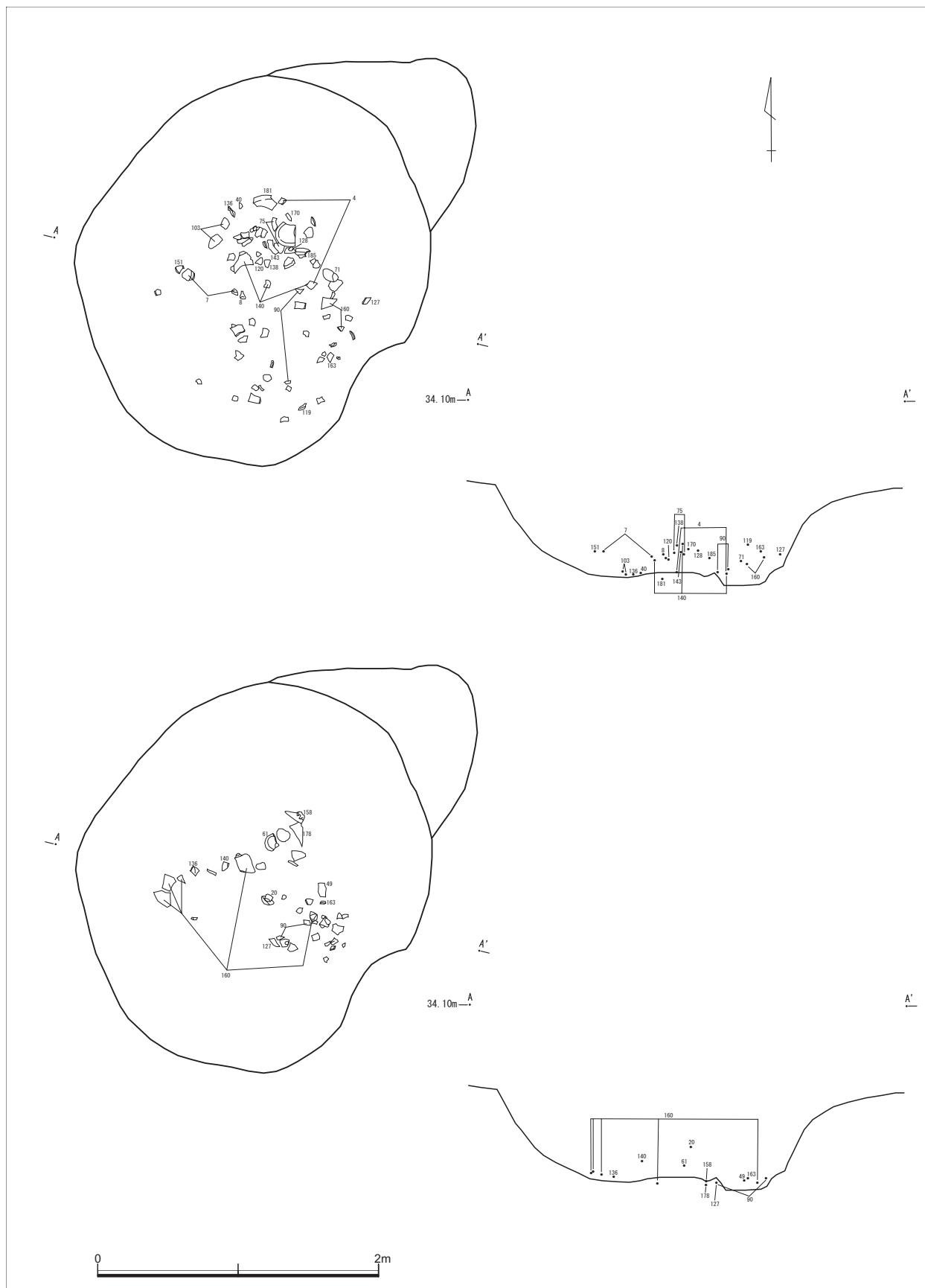
第74図 第75号土坑遺物出土状況（1）



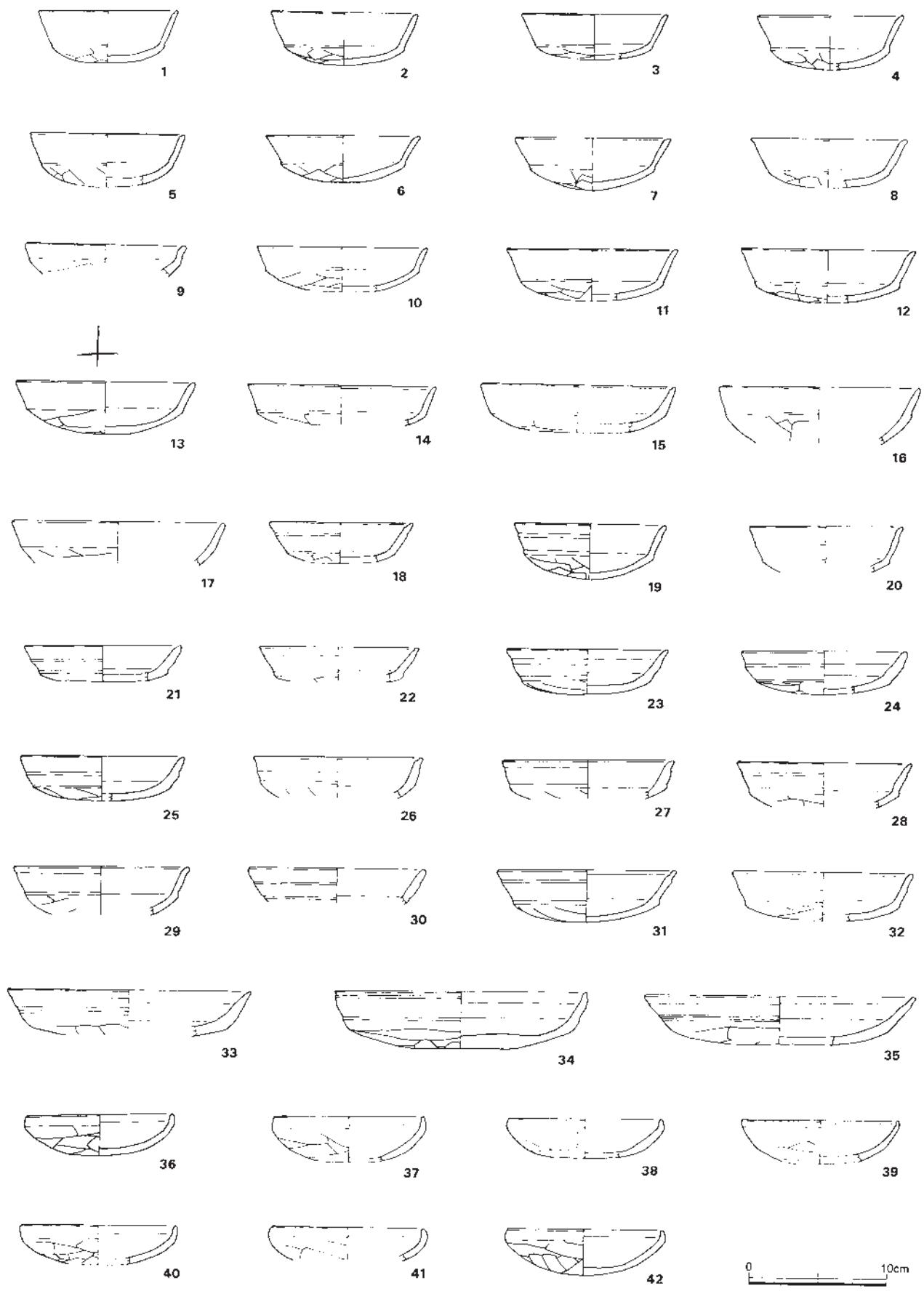
第75図 第75号土坑遺物出土状況（2）



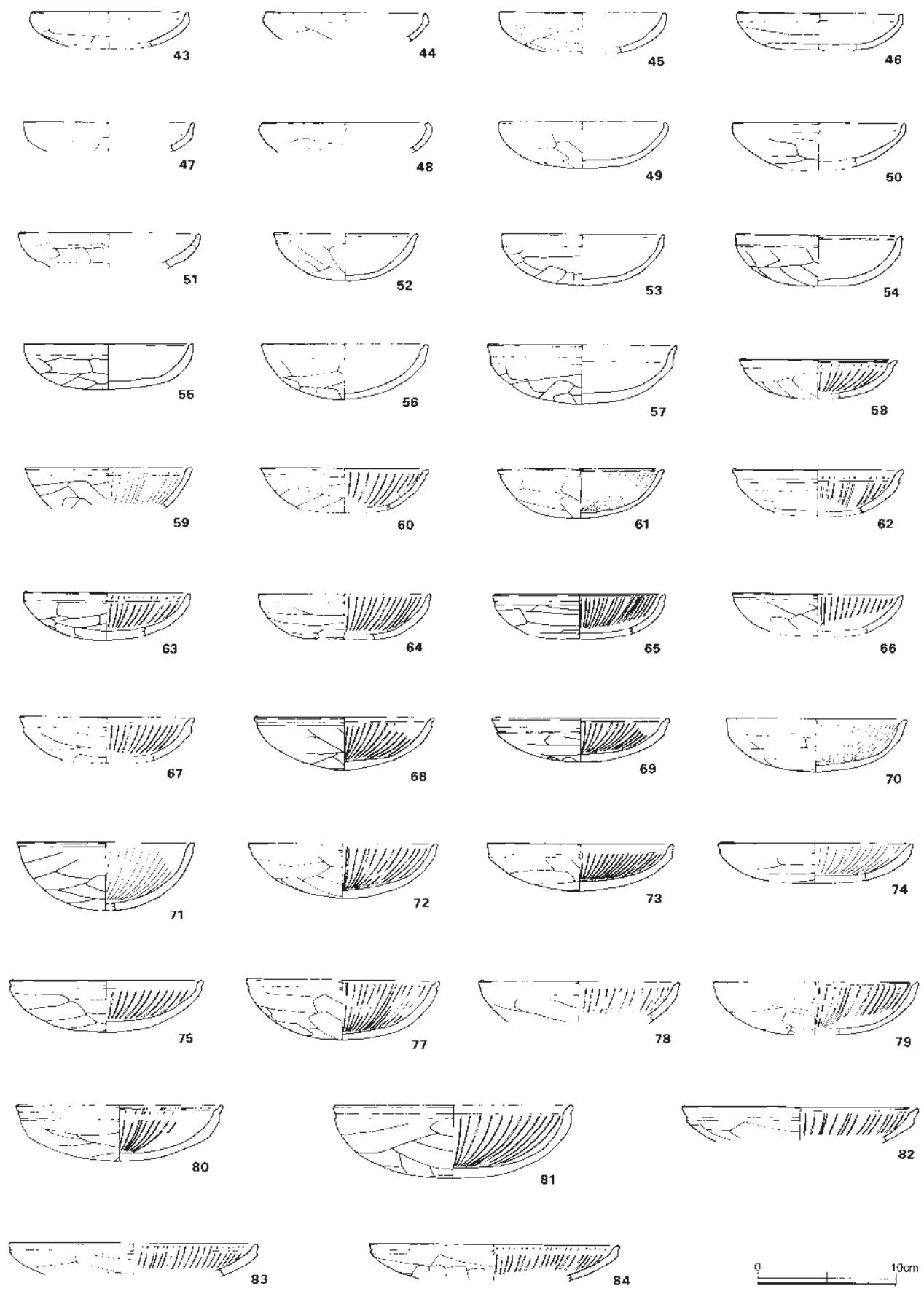
第76図 第75号土坑遺物出土状況（3）



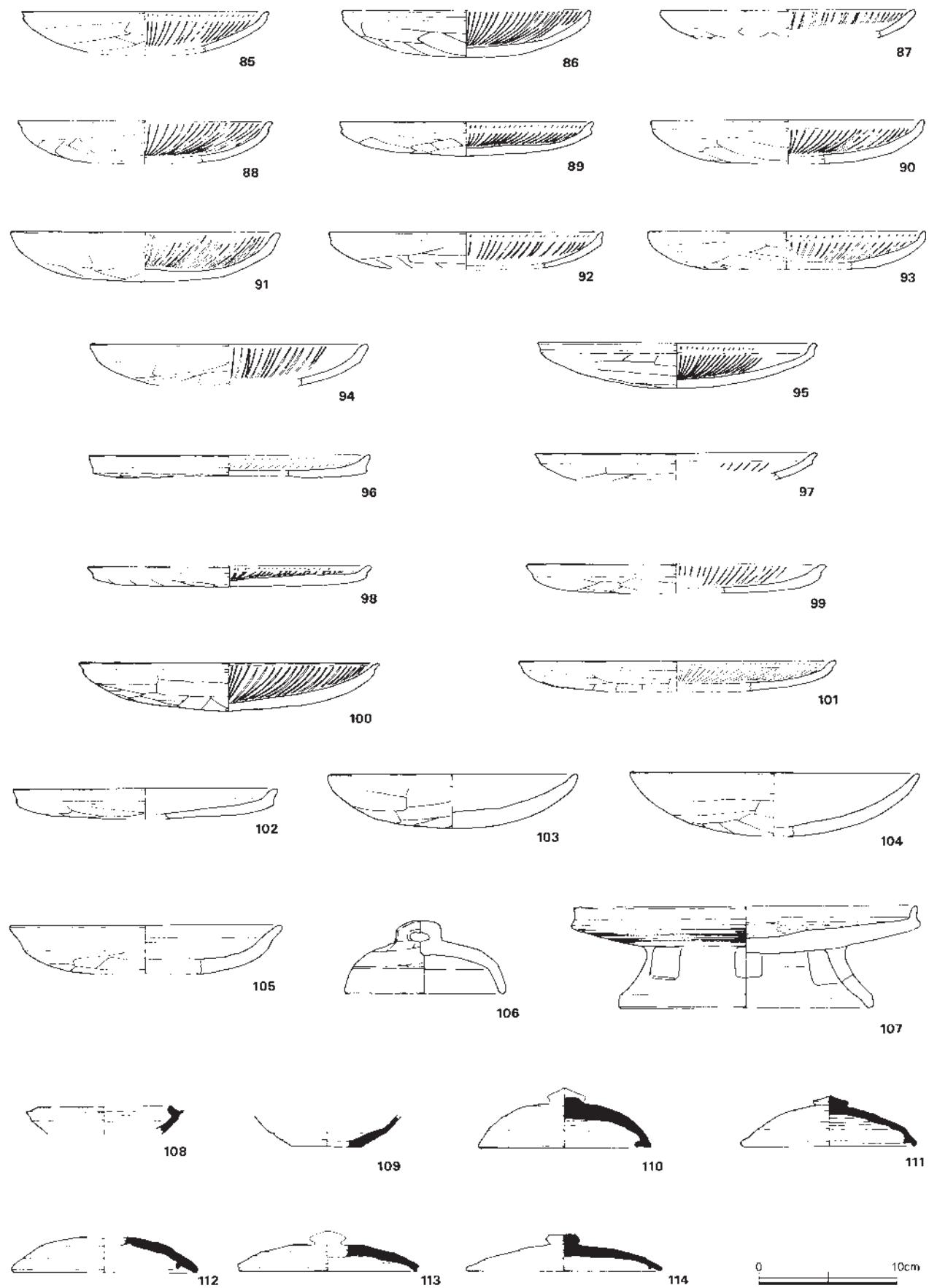
第77図 第75号土坑遺物出土状況 (4)



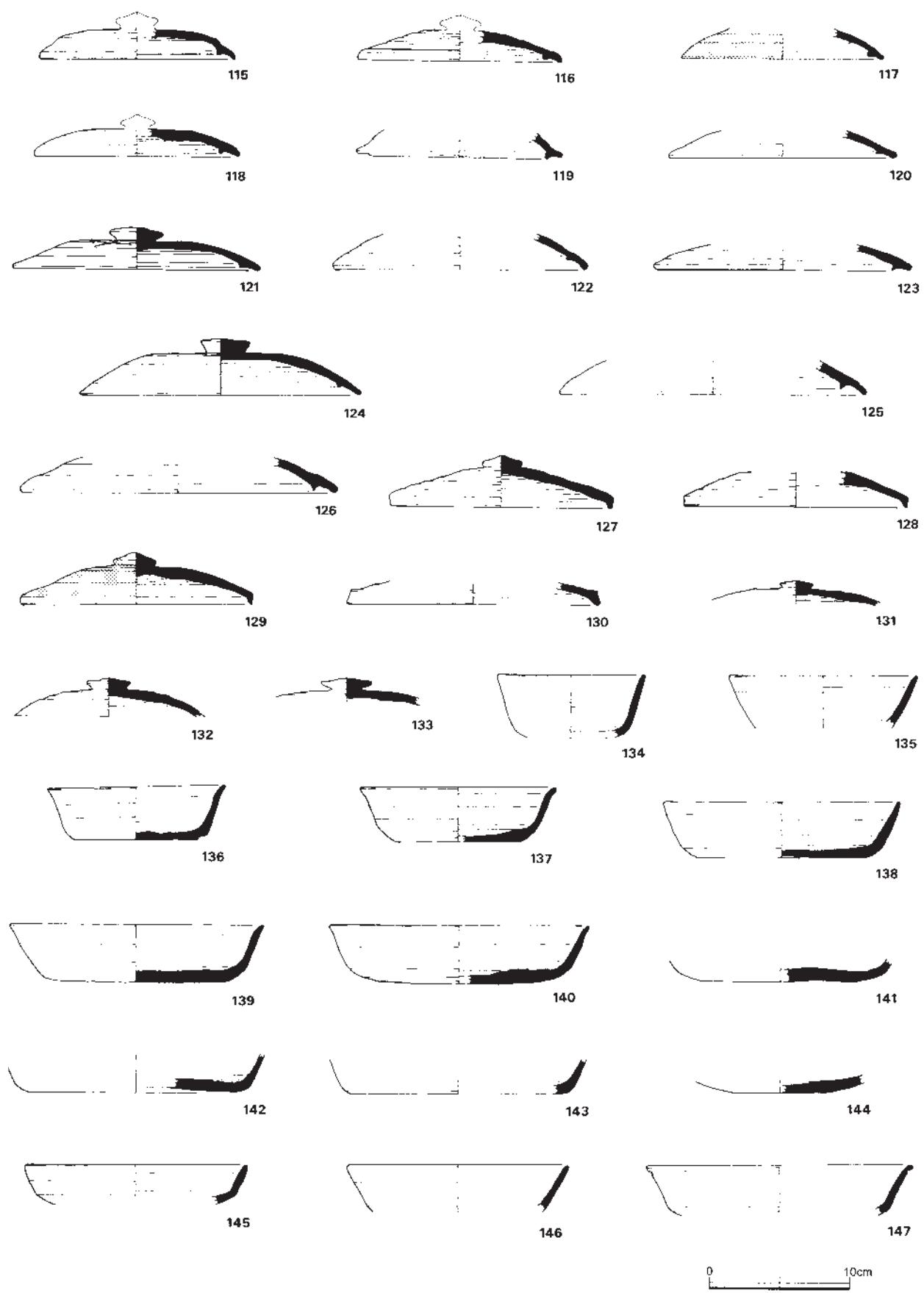
第78図 第75号土坑出土遺物（1）



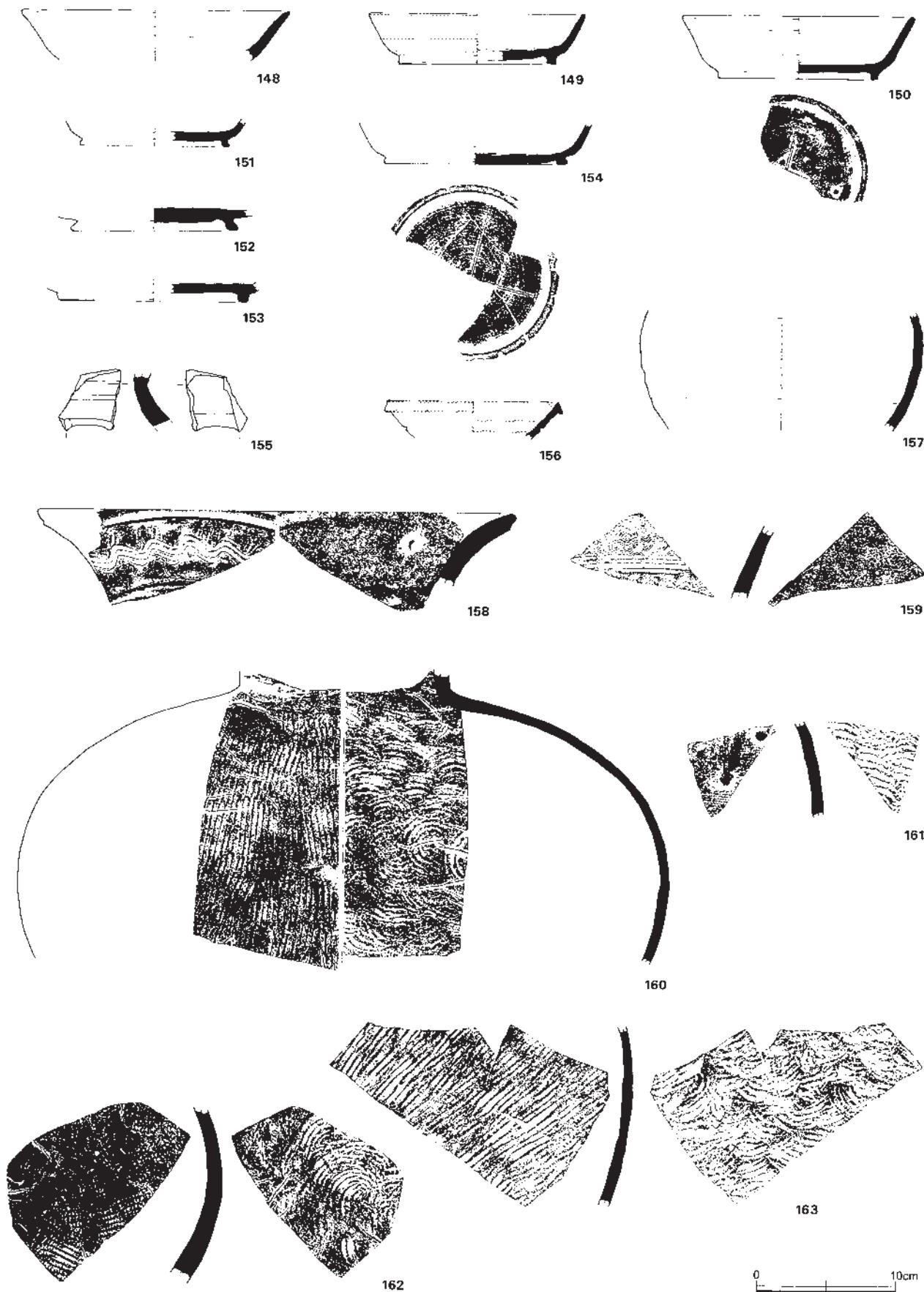
第79図 第75号土坑出土遺物（2）



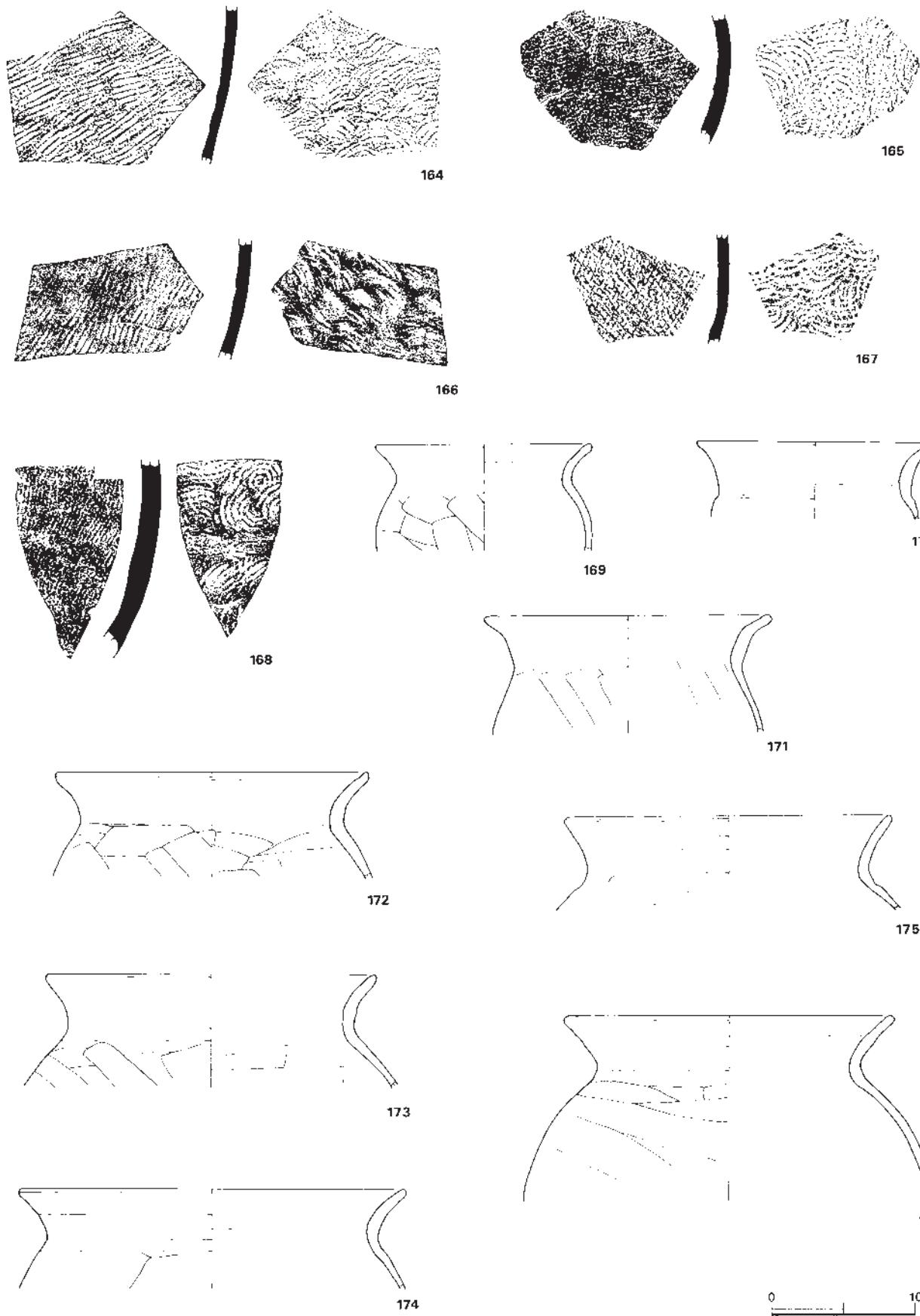
第80図 第75号土坑出土遺物（3）



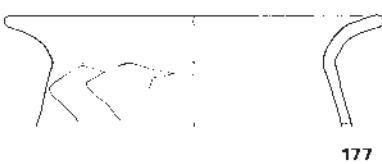
第81図 第75号土坑出土遺物（4）



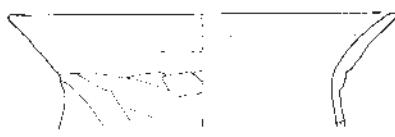
第82図 第75号土坑出土遺物（5）



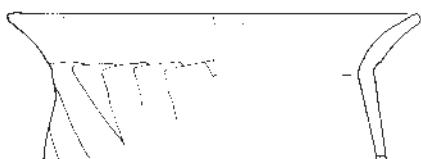
第83図 第75号土坑出土遺物（6）



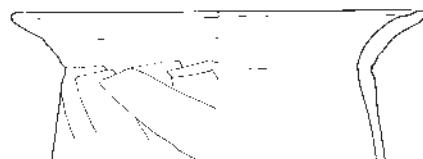
177



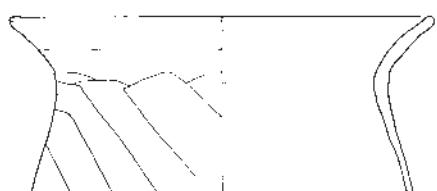
178



179



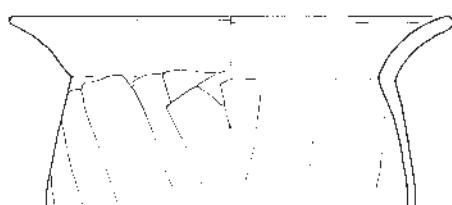
180



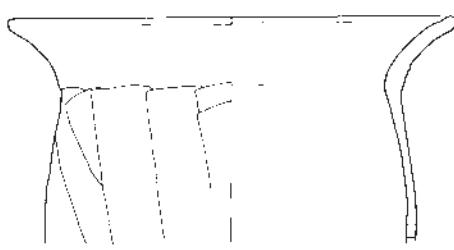
181



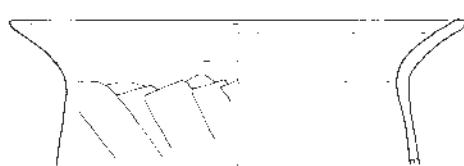
182



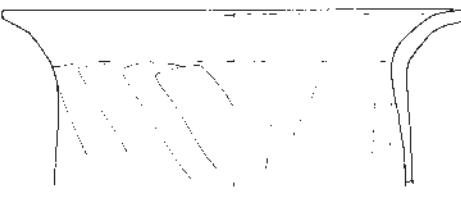
183



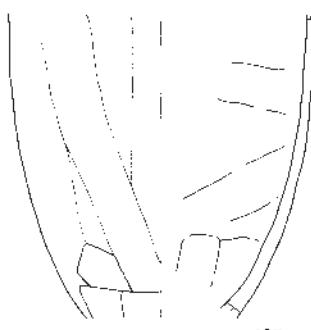
184



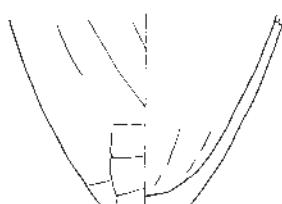
185



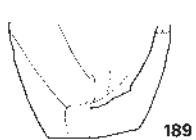
186



187



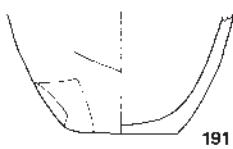
188



189



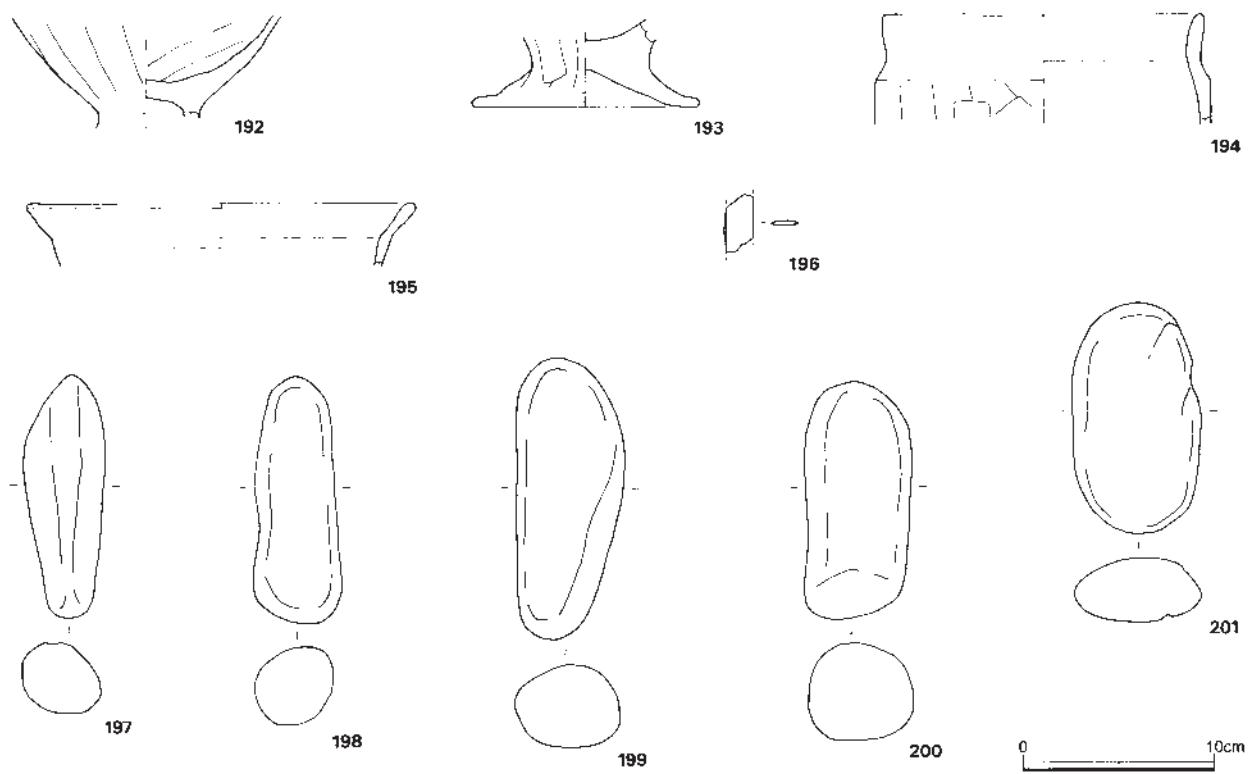
190



191



第84図 第75号土坑出土遺物 (7)



第85図 第75号土坑出土遺物 (8)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
78図 1	SK75	H	壺	(10.0)	3.8		A B C E	良	暗橙	30%	
2		H	壺	10.5	3.9		A B C E H	良	橙	75%	
3		H	壺	10.4	(3.4)		A B C E	普	橙	50%	
4		H	壺	10.5	4.0		A B C E	普	橙	55%	
5		H	壺	(11.0)	3.9		A B C E	普	暗橙	25%	
6		H	壺	11.0	3.4		A C E	普	黒褐	45%	
7		H	壺	(11.2)	3.8		A C E	普	橙	50%	
8		H	壺	(11.1)	(3.5)		A C E	普	橙	20%	
9		H	壺	(11.4)			A B C E	普	橙	15%	
10		H	壺	(12.2)	(3.2)		A B C E	普	橙	30%	
11		H	壺	(12.2)	(3.8)		A C E	普	暗橙	40%	
12		H	壺	(12.5)	(3.8)		A C E	普	橙	40%	
13		H	壺	(12.8)	3.9		A C E H	普	橙	50%	内面に「×」の線刻
14		H	壺	(13.4)			A C I	普	橙	15%	
15		H	壺	(13.8)	(3.5)		A C E	普	橙	15%	
16		H	壺	(14.4)			A C E	普	橙	15%	
17		H	壺	(15.2)			A B C E	普	橙	20%	
18		H	壺	(10.2)	(2.9)		A B C E	普	橙	15%	
19		H	壺	10.8	4.0		A B C E H	普	橙	90%	
20		H	壺	(10.9)			A C E	普	暗橙	15%	
21		H	壺	(11.3)			A B C E	普	暗褐	20%	
22		H	壺	(11.3)			A C E	普	暗褐	15%	
23		H	壺	(11.5)	3.2		A B C E	普	橙	75%	
24		H	壺	(11.9)	(3.1)		A C E	普	暗褐	30%	

第24表 第75号土坑出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
78図	25	SK75	H	壺	11.7	3.3	A C E	普	黒褐	40%	
	26		H	壺	(12.0)		A B C E	普	暗褐	10%	
	27		H	壺	(12.2)		A B C E	普	橙	25%	
	28		H	壺	(12.5)		A C E	普	橙	15%	
	29		H	壺	(12.6)		A C E	不良	灰褐	20%	
	30		H	壺	(12.7)		A B C E	普	橙	20%	
	31		H	壺	12.8	3.8	A B C E	普	橙	50%	
	32		H	壺	(12.8)	(3.6)	A B C E	普	橙	25%	
	33		H	壺	(17.4)		A C E	普	黒褐	20%	
	34		H	壺	18.1	4.1	A B C E	普	暗褐	60%	
	35		H	壺	(19.3)	(3.5)	A B C E	普	暗橙	30%	
	36		H	壺	10.5	3.0	A B C E	普	橙	95%	
	37		H	壺	(10.8)	(3.3)	A C I	普	橙	30%	
	38		H	壺	(11.1)	(2.9)	A B C E	普	橙	30%	
	39		H	壺	(11.2)	(3.2)	A B C D E	普	橙	25%	
	40		H	壺	(11.2)	(2.9)	A C E	普	暗褐	30%	
	41		H	壺	(10.9)		A B C D E	普	橙	20%	
	42		H	壺	11.2	3.3	A C D E H	良	橙	95%	
79図	43	SK75	H	壺	(11.2)	(2.7)	A C E	普	橙	40%	
	44		H	壺	(11.4)		A C E	普	橙	10%	
	45		H	壺	(11.8)	(3.1)	A C D E	普	橙	25%	
	46		H	壺	(11.8)	(2.7)	A C E H	普	橙	25%	
	47		H	壺	(12.2)		A B C E	普	橙	15%	
	48		H	壺	(11.9)		A C E	普	橙	10%	
	49		H	壺	(11.9)	3.4	A C E	普	橙	25%	
	50		H	壺	(12.3)	(3.5)	A C E	普	橙	20%	
	51		H	壺	(13.0)		A C E	普	橙	20%	
	52		H	壺	(10.3)	3.4	A C E	普	赤褐	25%	
	53		H	壺	(11.5)	3.7	A C E	普	赤褐	30%	
	54		H	壺	(11.9)	3.7	A B C E H	良	橙	45%	
	55		H	壺	12.1	3.3	A B C E	普	橙	90%	
	56		H	壺	11.8	4.0	A C E	良	赤褐	80%	
	57		H	壺	13.5	4.2	A B C E	普	橙	70%	
	58		H	壺	(11.2)	(2.8)	A B C D E	普	橙	40%	
	59		H	壺	(11.8)		A C E	普	橙	20%	
	60		H	壺	(12.0)	(3.2)	A C E	普	橙	20%	
	61		H	壺	11.8	3.5	A B C E	普	橙	55%	
	62		H	壺	(12.2)	(3.3)	A C E H	普	赤褐	20%	
	63		H	壺	(12.0)	(3.5)	A C E	普	橙	35%	
	64		H	壺	(12.2)	(3.3)	A B C E	普	橙	25%	
	65		H	壺	(12.3)	(3.3)	A C E	普	橙	25%	
	66		H	壺	(12.2)	(3.1)	A C E H	普	橙	20%	
	67		H	壺	(12.5)	3.3	A B C E	普	暗橙	20%	
	68		H	壺	(13.0)	3.8	A C E	普	橙	25%	
	69		H	壺	(12.6)	3.2	A C E	普	橙	30%	
	70		H	壺	12.8	3.8	A C E	普	橙	75%	
	71		H	壺	(12.6)	4.9	A C E	普	橙	40%	
	72		H	壺	13.6	3.9	A B C E H	普	橙	90%	
	73		H	壺	(13.2)	3.5	A C E	普	橙	40%	

第25表 第75号土坑出土遺物観察表 (2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
79図	SK75	H	壺	(13.8)	(2.9)		A C E	普	橙	20%	
		H	壺	13.8	3.8		A B C D E H	普	橙	90%	
		H	壺	13.8	4.3		A B C E	普	橙	80%	
		H	壺	(14.4)			A B C E	普	橙	20%	
		H	壺	(14.6)	3.8		A B C D E	普	橙	35%	
		H	壺	(14.8)	4.0		A C E	普	橙	30%	
		H	壺	17.0	5.2		A B C E	普	橙	50%	
		H	皿	(16.8)			A C E	普	橙	20%	
		H	皿	17.8			A C E	普	黒褐	20%	
		H	皿	(17.8)			A C E	普	灰褐	20%	
80図	SK75	H	皿	17.6	(3.2)		A C E	普	橙	20%	
		H	皿	(17.6)	3.4		A C E	普	灰褐	25%	
		H	皿	(18.1)			A C E	普	灰褐	15%	
		H	皿	(18.2)	(3.1)		A B C E	普	灰褐	25%	
		H	皿	(18.0)	2.5		A C E	普	灰褐	30%	
		H	皿	(19.4)	(3.2)		A C E	普	暗褐	25%	
		H	皿	(19.2)	3.6		A C E	普	灰褐	30%	
		H	皿	(19.4)	(2.7)		A C E	普	黒褐	15%	
		H	皿	(19.8)	(2.7)		A B C E	普	橙	15%	
		H	皿	(19.8)			A B C E	普	暗橙	20%	
		H	皿	(19.7)	3.2		A B C E	普	橙	20%	
		H	皿	(20.1)	1.7		A B C E	普	橙	25%	
		H	皿	(20.0)			A C E	普	橙	10%	
		H	皿	(20.2)	1.5		A C E	普	暗褐	25%	
		H	皿	(21.2)	(2.1)		A C E	普	灰褐	20%	
		H	皿	21.4	3.5		A B C E	普	橙	55%	
		H	皿	(22.6)	(2.2)		A C E	普	灰褐	20%	
		H	皿	(18.8)	2.2		A C E	普	暗橙	30%	
		H	皿	17.6	3.9		A C E H	普	暗橙	75%	
		H	皿	(20.6)	(4.6)		A C H	普	橙	25%	
		H	皿	(19.4)			A C E	普	橙	20%	
		H	蓋	11.2	5.3		A C E H	普	暗橙	75%	
		H	脚付盤	(24.6)	7.3	(18.0)	A B E	普	橙	50%	内面黒色処理
81図	SK75	S	蓋	(13.9)	(3.4)		A C H	普	灰	20%	
		S	蓋	(14.4)	(3.3)		A C F H	普	灰褐	25%	
		S	蓋	(14.3)			A C	普	灰褐	15%	外面に自然釉
		S	蓋	(14.6)	(3.0)		A C F H	普	青灰	25%	
		S	蓋	(14.5)			A C F H	良	灰	10%	
		S	蓋	(16.0)			A C	良	灰	15%	
		S	蓋	17.5	3.0		A C H	良	灰	75%	外面に「×」の線刻
		S	蓋	(17.8)			A C F H	良	青灰	15%	
		S	蓋	(18.0)			A C	良	灰	25%	外面に自然釉

第26表 第75号土坑出土遺物観察表 (3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	
81図	124	SK75	S	蓋	20.0	4.0	A C F H	良	青灰	75%		
	125		S	蓋	21.6		A C F H	良	青灰	15%		
	126		S	蓋	(22.4)		A C E H	普	灰	20%		
	127		S	蓋	(15.6)	3.7	A C H	良	灰	25%	外面に自然釉	
	128		S	蓋	(15.8)		A C	良	灰	20%	外面に自然釉	
	129		S	蓋	(16.4)	3.7	A C H	良	灰	60%	外面に自然釉	
	130		S	蓋	(17.8)		A C	普	灰	10%		
	131		S	蓋			A C F H	良	青灰	25%		
	132		S	蓋			A C	良	灰	25%		
	133		S	蓋			A C F H	良	青灰	20%		
	134		S	壺	10.4	(4.6)	(6.2)	A C H	良	青灰	40%	
	135		S	壺	(13.3)		A C H	不良	灰褐	20%		
	136		S	壺	12.5	3.8	A C F H	良	灰	50%		
	137		S	壺	(13.8)	3.9	A C F H	良	青灰	30%		
	138		S	壺	(16.8)	4.0	A C H	普	灰	25%		
	139		S	壺	(18.8)	4.2	A C F H	良	灰	75%		
	140		S	壺	(18.4)	4.2	A C F H	普	灰	70%		
	141		S	壺			(10.8)	A C F H	良	青灰	20%	
	142		S	壺			(15.0)	A C F H	普	灰	20%	
	143		S	壺			(15.0)	A C F H	普	灰	15%	
	144		S	壺			(6.6)	A C	普	灰	15%	
	145		S	壺	(15.8)			A C H	良	灰	15%	
	146		S	壺	(15.7)			A C	普	灰	10%	
	147		S	壺	(18.8)			A C F H	良	青灰	15%	
82図	148	SK75	S	壺	(19.2)		A C F H	普	灰	15%		
	149		S	高台壺	(15.3)	3.6	(11.1)	A C	良	灰	25%	外面に自然釉
	150		S	高台壺	(16.4)	4.5	(11.3)	A C	良	灰	30%	
	151		S	高台壺			(10.6)	A C	良	灰	20%	
	152		S	高台壺			(11.8)	A C F H	普	青灰	25%	
	153		S	高台壺			(13.4)	A C F H	普	灰	30%	
	154		S	高台壺			13.0	A C H	普	灰	30%	底面に「×」の線刻
	155		S	円面硯				A C	良	青灰		
	156		S	瓶	(12.2)			A C	良	灰		内外面に自然釉
	157		S	瓶				A C	良	灰	5%	
	158		S	甕	34.0			A C	良	灰		内外面に自然釉
	159		S	甕				A C F H	良	青灰		
	160		S	横瓶				A C H	良	青灰	15%	
	161		S	甕				A C	良	灰		内外面に自然釉
	162		S	甕				A C H	普	灰		
	163		S	甕				A C F H	良	青灰		
83図	164	SK75	S	甕			A C	良	青灰			
	165		S	甕			A C F H	良	青灰			
	166		S	甕			A C F H	良	青灰			
	167		S	甕			A C H	良	青灰			
	168		S	甕			A C H	普	灰			
	169		H	甕	(14.8)		A B C E	普	橙	10%		
	170		H	甕	(16.4)		A C E H	普	橙	10%		
	171		H	甕	(19.6)		A C E H	普	橙	10%		
	172		H	甕	(21.6)		A B C E H	普	橙	15%		

第27表 第75号土坑出土遺物観察表(4)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
83図 173 174 175 176	SK75	H	甕	(22.8)			A B C E H	普	橙	15%	
		H	甕	(26.6)			A B C E	普	暗橙	15%	
		H	甕	(22.4)			A B C E	普	橙	5%	
		H	甕	22.4			A B C E H	普	橙	25%	
84図 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191	SK75	H	甕	(19.6)			A C E	普	暗橙	5%	
		H	甕	20.2			A B C E H	普	橙	10%	
		H	甕	21.4			A C E H	普	暗橙	25%	
		H	甕	(21.2)			A B C E	普	橙	15%	
		H	甕	(22.0)			A B C E H	普	橙	10%	
		H	甕	(23.0)			A C E H	普	暗褐	10%	
		H	甕	23.0			A B C E	普	橙	25%	
		H	甕	23.0			A B C E H	普	橙	20%	
		H	甕	(23.8)			A C E H I	普	橙	5%	
		H	甕	24.2			A B C E H	普	橙	25%	
		H	甕		(4.0)		A B E H	普	橙	10%	
		H	甕				A C E H	普	暗橙	5%	
		H	甕				A C E H	普	暗橙	5%	
		H	甕				A B C E H	普	暗橙	5%	
		H	甕		5.6		A B C E	普	暗橙	10%	
85図 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201	SK75	H	台付甕			11.5	A C E H	普	暗褐	10%	
		H	台付甕				A C E H	普	橙	15%	
		H	甕	(16.5)			A C E	普	橙	5%	
		H	甕	(20.1)			A B C E	普	橙	5%	
		延板状鉄製品	幅 1.4	厚 0.2						重さ 1.81 g	
			編物石	長 12.8	幅 4.1	厚 3.7	石材 砂岩			重さ 280 g	
			編物石	長 12.9	幅 4.2	厚 4.0	石材 砂岩			重さ 375 g	
			編物石	長 14.8	幅 5.5	厚 4.3	石材 砂岩			重さ 515 g	
			編物石	長 12.4	幅 5.5	厚 5.1	石材 砂岩			重さ 570 g	
			編物石	長 12.1	幅 6.7	厚 3.4	石材 砂岩			重さ 415 g	

第28表 第75号土坑出土遺物観察表 (5)

1～17は模倣壺、18～35は有段口縁壺、36～51は北武藏型壺、52～57は暗文系無文壺、58～81は暗文壺、82～101は暗文皿、102～105は皿、106は蓋、107は脚付盤である。108～168は須恵器で、108・109・134～148は壺、110～133は蓋、149～154は高台壺、155は円面硯、156・157は瓶、158～168は甕である。169～191・194は甕、192・193は台付甕、195は甕である。196は延板状鉄製品、197～201は編物石である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

#### 第94号土坑 (第86図、第88図5～8、第29表)

第4次調査区B区に位置する。平面形態は楕円形で、長径3.7m、短径2.9mを測る。底面はほぼ平坦で、確

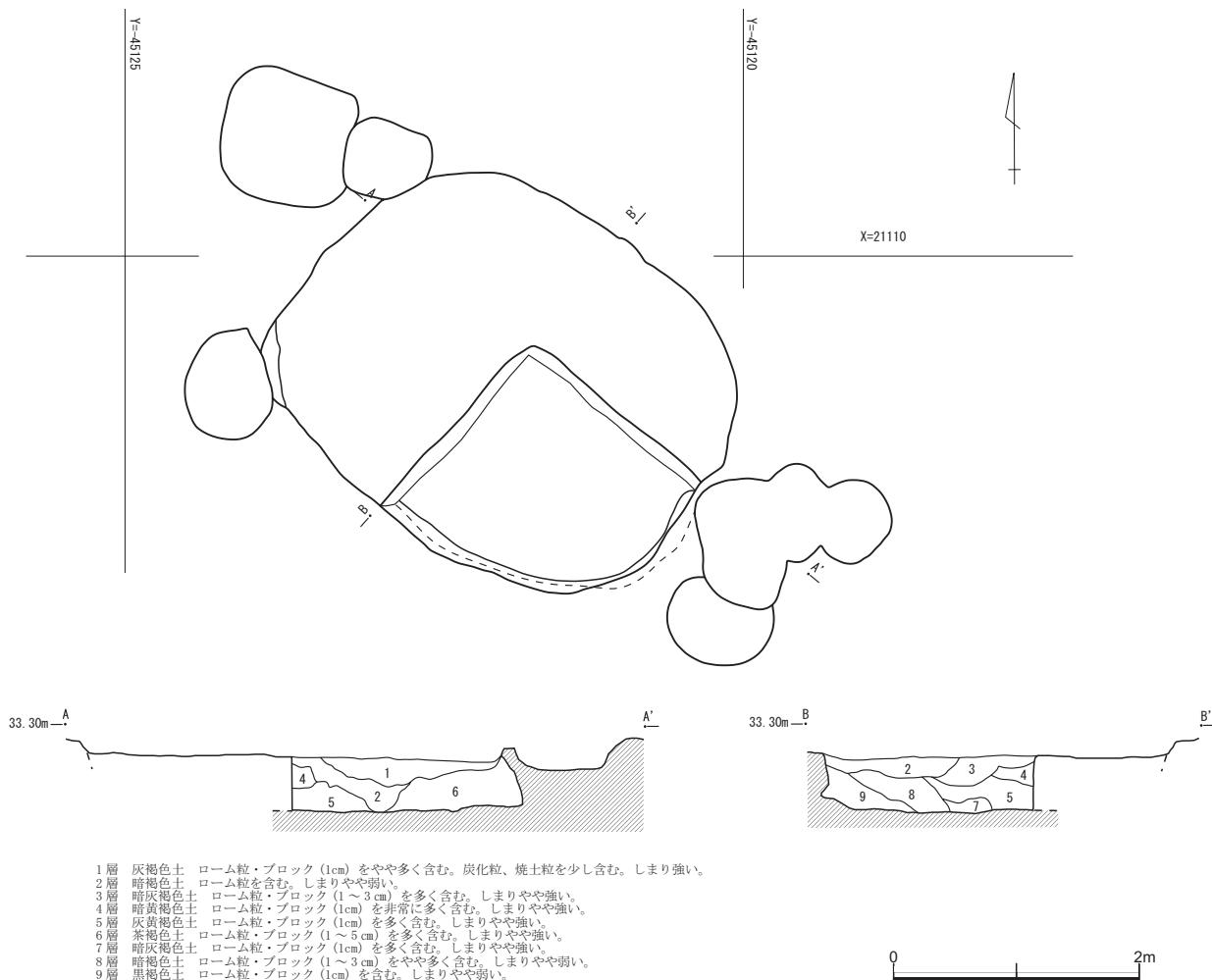
認面からの深さは50cmである。壁はオーバーハングしており、また覆土にロームブロックを多く含むことから、土取り穴の可能性が高いと考えられる。

図示できた遺物は、第88図5～8である。5は北武藏型壺、6は皿、7は長頸瓶、8は甕である。

#### 第103号土坑 (第87図、第88図10、第29表)

第4次調査区B区に位置し、第9号溝に切られる。平面形態は不整楕円形で、長径3m、短径2.5mを測る。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは70cmである。

図示できた遺物は、第88図10の須恵器壺である。



第86図 第94号土坑

## g 溝

### 第6号溝（第90図1、第31表）

第4次調査区B区に位置し、第31号建物跡、第13・16号竪穴建物跡を切る。幅約2m、確認面からの深さは10cmを測る。南北に走り、第16号竪穴建物跡との重複部分で西に曲がる。主軸方位はN-20°-E、N-60°-Wである。

図示できた遺物は、第90図1の天目茶碗である。

遺構の時期は、近世と推定される。

### 第10号溝（第91図、第90図2~4、第31表）

第4次調査区E区に位置し、第26・28・29号竪穴建物跡に切られる。幅1.8m、確認面からの深さ50cmを

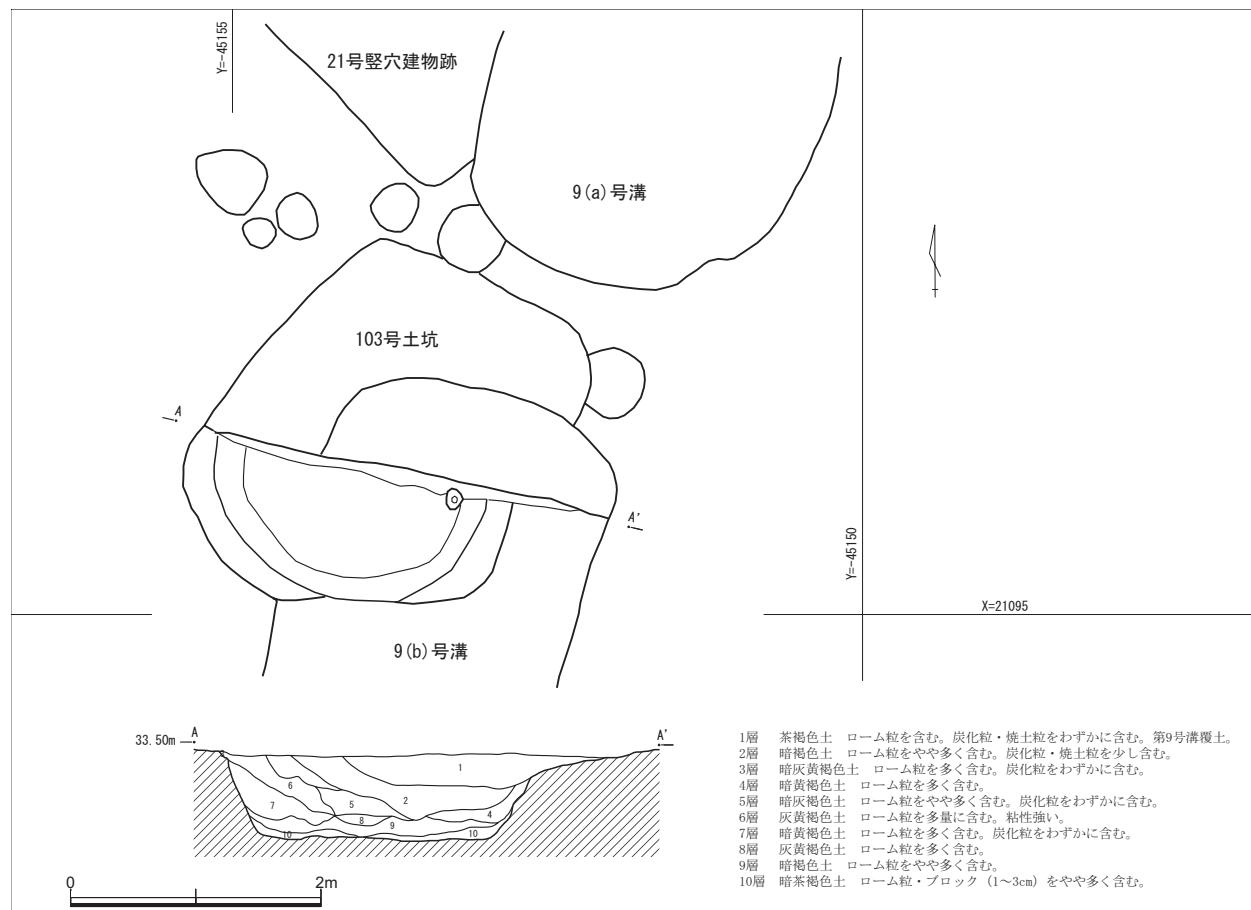
測る。断面形態は逆台形を呈し、上部がやや広がる。主軸方位はN-40°-Wである。区画溝と思われるが、E区西壁の手前で途切れ、第18次調査区D区までは至らない。

図示できた遺物は、第90図2~4である。2・3は暗文坏、4は須恵器甕である。

切り合い関係から、遺構の時期は7世紀後半と推定される。

### 第49号溝（第70図）

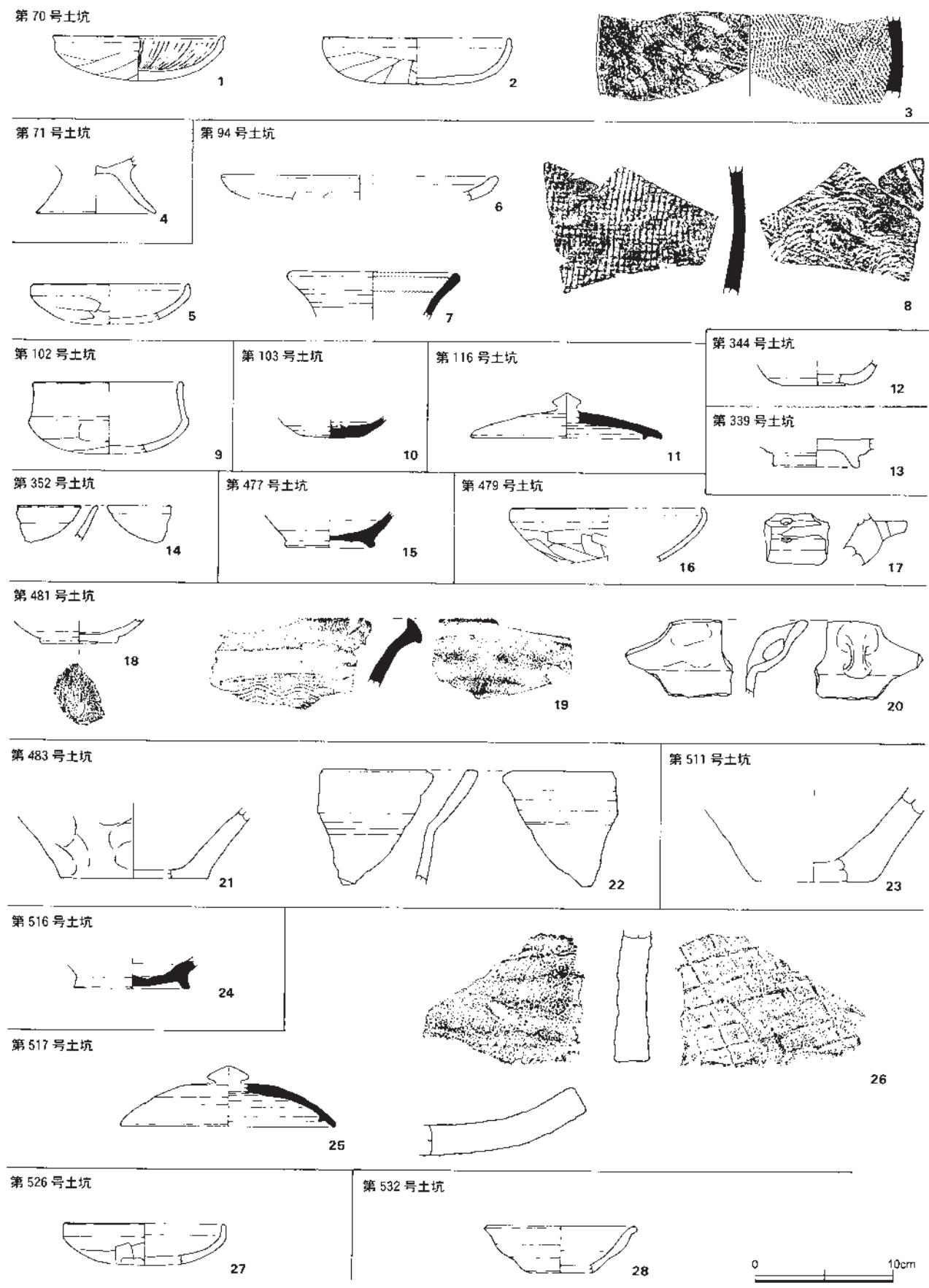
第18次調査区D区及びE区に位置し、第73・77号溝に切られる。幅60cm、確認面からの深さ35cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。主軸方位はN-45°-Eで、E区にてN-57°-Wにほぼ直角に曲がる。



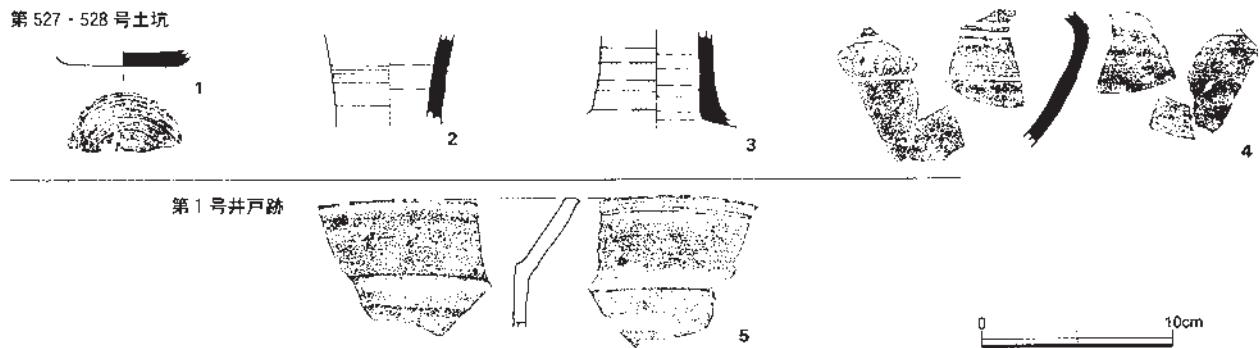
第87図 第103号土坑

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
88図 1	SK70	H	坏	(12.4)	3.3		A B C E	普	赤褐	75%	
2		H	坏	13.4	3.4		A C D E	普	橙	50%	
3	S	甕					A C H	良	灰		内外面に自然釉
4	SK71	H	台付甕			(8.6)	A C E	普	橙	10%	
5	SK94	H	坏	(11.2)	(2.9)		A C E	普	橙	15%	
6	H	皿		(19.6)			A B C E	普	にぶい橙	10%	
7	S	瓶		11.8			A C	良	灰	5%	内面に自然釉
8	S	甕					A B C H	不良	灰褐		
9	SK102	H	坏	(10.6)	(5.2)		A B C E	不良	黒褐	20%	
10	SK103	S	坏				A C	良	灰	30%	
11	SK116	S	蓋	(13.7)	(3.3)		A C F H	良	灰	25%	
12	SK344	R	小皿			(5.2)	A B C E H I	不良	橙	20%	
13	SK339	R	高台椀			6.0	A C E H	普	橙	20%	
14	SK352		陶器椀				A C	良	緑灰		内外面に緑灰色の釉
15	SK477	S	高台坏			(6.0)	A C	不良	灰	20%	
16	SK479	H	坏 土釜	(13.6)			A C E	良	赤褐	25%	
17							A C	不良	黒褐		
18	SK481	R	小皿			(5.4)	A C E	普	暗橙	20%	
19	S	甕					A C G H	普	灰褐		
20		内耳鍋					A C	良	青灰		須惠質

第29表 土坑出土遺物観察表



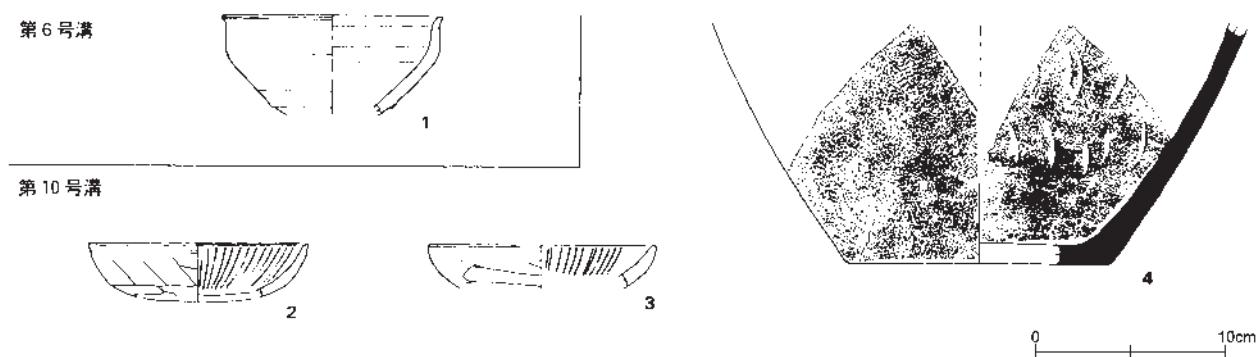
第88図 土坑出土遺物



第89図 土坑・井戸出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
88図 21	SK483		甕			(10.8)	A C H I	普	にぶい灰褐		
22			鍋				A B C E I	普	黒褐		
23	SK511		甕			(8.0)	A C E I	普	暗橙		
24	SK516	S	高台坏			(8.4)	A C	良	灰		内外面に自然釉
25	SK517	S	蓋	(15.4)	(4.4)		A C F H	良	青灰	25%	
26			瓦				A C F H	普	灰	10%	
27	SK526	H	坏	(11.6)	(3.0)		A C E	普	橙	30%	
28	SK532	R	小皿	(10.8)	3.4	(4.4)	A B C E	普	橙	15%	
89図 1	SK527,528	S	坏			(5.6)	A C G H	不良	灰	15%	
2		S	長頸瓶				A C	良	青灰		
3		S	長頸瓶				A C	普	青灰	5%	内外面に自然釉
4		S	瓶				A C F H	良	青灰	5%	
5	SE1		内耳鍋				A C I	良	灰		須惠質

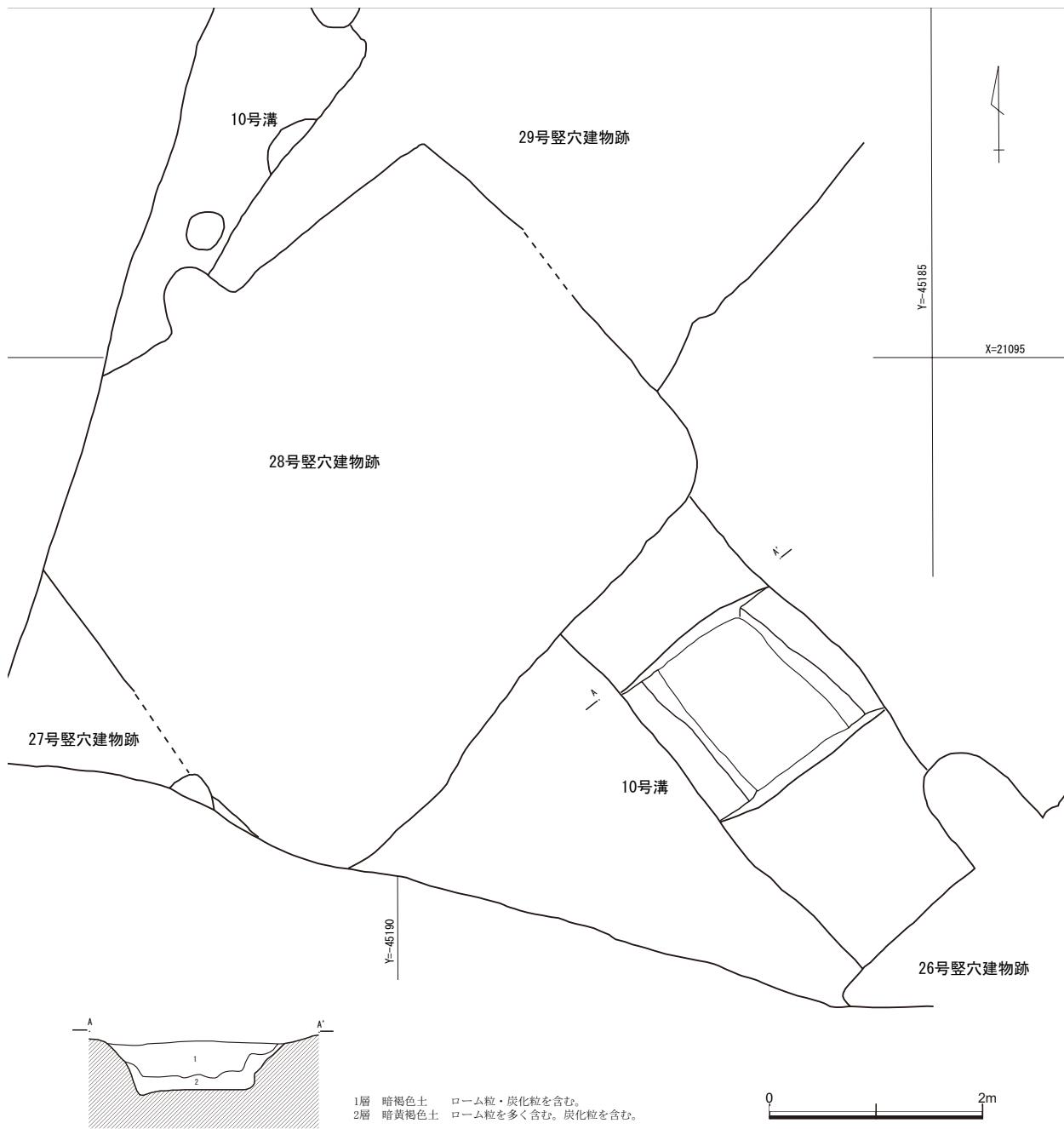
第30表 土坑・井戸出土遺物観察表



第90図 第6・10号溝出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
90図 1	SD6		天目茶椀	(11.4)			A C	普	にぶい赤褐	15%	内外面に鉄釉
2	SD10	H	坏	(11.5)	(3.1)		A C D E	普	橙	15%	
3		H	坏	(11.8)			A B C E	普	橙	15%	
4		S	甕			(14.0)	A C H	良	灰	5%	内外面に自然釉

第31表 第6・10号溝出土遺物観察表



第91図 第10号溝

図示できる遺物は出土しなかったが、切り合い関係から、遺構の時期は7世紀後半と推定される。

### h 二重溝と土塁による区画

第4次調査区A・B・C区及び第18次調査区D・E区にて、平行する2本の溝による区画が確認された。2本の溝間は約5mあり、後述するように土塁があつたものと考えられる。平成18年度に行なわれた第19次調査で、区画の南東コーナーが確認され、区画は内郭が約120m四方であることが明らかとなっている。時

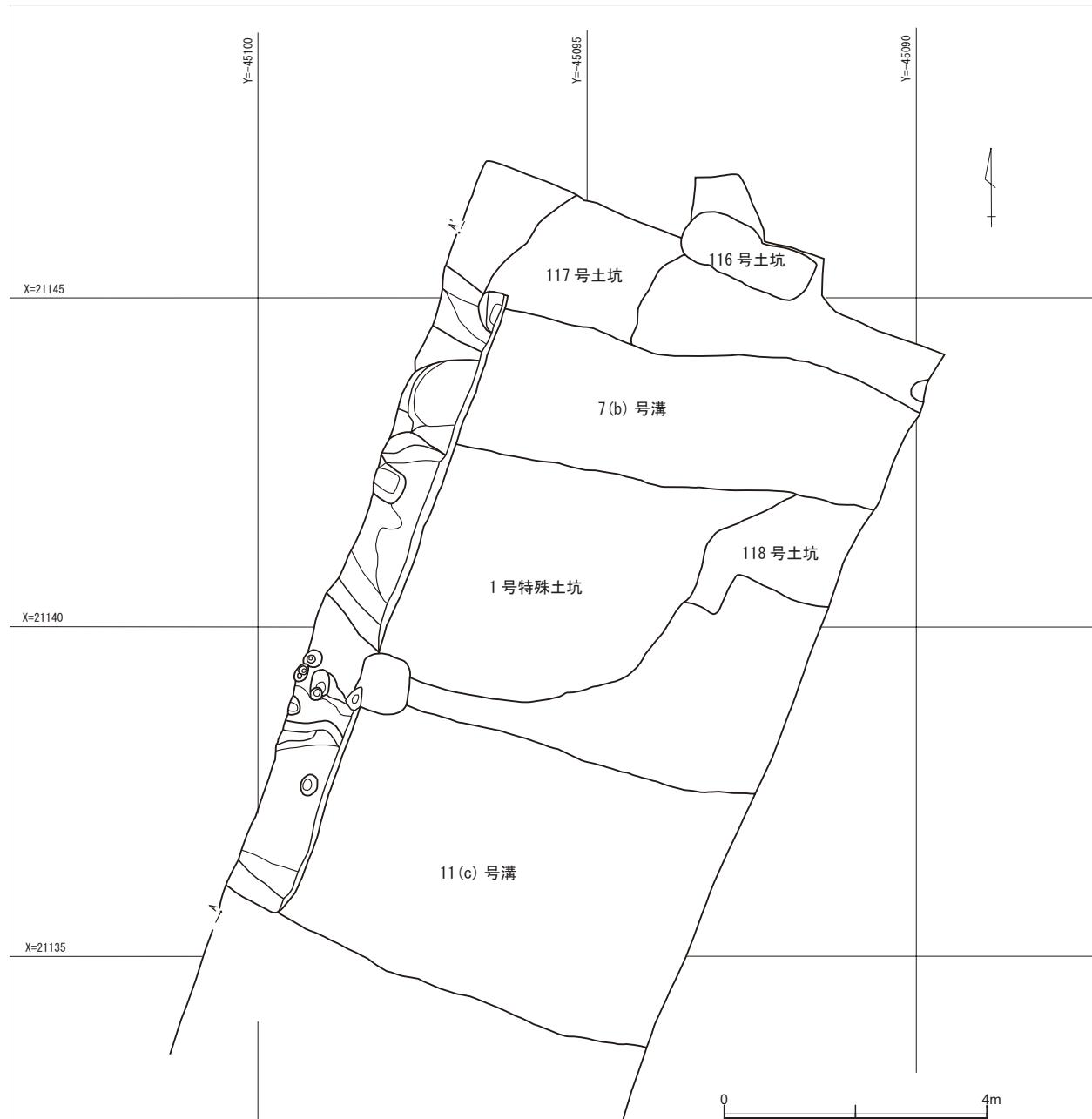
期は明確でないものの、溝の埋没時期が11世紀前半頃と推定され、郡家に関連する遺構の中では最終段階に位置付けられる。主軸方位はN-20°-Eで、実務官衙域におけるそれまでの遺構とは異なるあり方である。この区画に伴う可能性のある遺構は明確ではないが、主軸方位を同じくする第1号塙跡、第17・18・65～69号竪穴建物跡等が考えられる。区画に伴うと思われる掘立柱建物跡は現在のところ確認されていない。

以下、溝ごとに述べていく。なお、北側区画の外溝

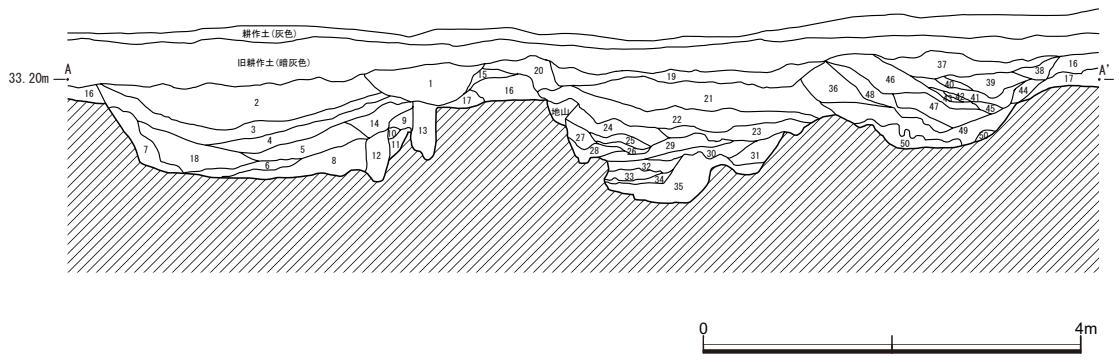
を第7号溝、内溝を第11号溝、西側区画の外溝を第8号溝、内溝を第9号溝、南側区画の内溝を第38号溝とした。

#### 第7号溝（第92～95図、第99・100図、第32・33表）

第4次調査区A・C区で確認された。第1号特殊土坑、第117号土坑を切る。幅2.1～2.4mを測り、主軸方位はN-70°-Wである。部分的な掘り下げであるが、掘方は作業単位に起因する連続土坑状と思われる。



第92図 第7・11号溝(1)



1層	暗黄褐色土	ローム粒をやや多く含む。
2層	黄褐色土	ローム粒を含む。炭化粒を多く含む。縮まりやや弱い。
3層	灰褐色土	ローム粒・炭化粒を含む。縮まりやや弱い。
4層	黄灰褐色土	ローム粒・ブロック (1~3cm) をやや多く含む。炭化粒を含む。縮まりやや弱い。
5層	暗褐色土	ローム粒を含む。炭化粒を少し含む。縮まりやや弱い。
6層	灰褐色土	ローム粒を含む。炭化粒を多く含む。縮まりやや強い。
7層	暗黄褐色土	ローム粒を多く含む。縮まり弱い。
8層	暗茶褐色土	ローム粒・炭化粒を含む。縮まり弱い。
9層	暗褐色土	ローム粒を含む。炭化粒を少し含む。縮まりやや弱い。
10層	暗黄褐色土	ローム粒をやや多く含む。縮まりやや弱い。
11層	黄褐色土	ローム粒を多量に含む。縮まり弱い。
12層	茶褐色土	ローム粒をやや多く含む。縮まりやや弱い。
13層	暗褐色土	ローム粒を含む。縮まり弱い。
14層	暗黄褐色土	ローム粒・ブロック (1cm) を多く含む。炭化粒、焼土粒を少し含む。
15層	黄褐色土	ローム粒をわずかに含む。縮まり弱い。
16層	暗褐色土	ローム粒をわざわざ多く含む。縮まり弱い。
17層	黄褐色土	ローム粒を多く含む。漸移層。
18層	暗茶褐色土	ローム粒・炭化粒、焼土粒を少し含む。縮まりやや弱い。
19層	暗褐色土	ローム粒・炭化粒を少し含む。縮まりやや強い。
20層	暗黄褐色土	ローム粒を多く含む。
21層	暗褐色土	ローム粒・ブロックをやや多く含む。焼土粒、炭化粒を含む。縮まりやや弱い。
22層	暗褐色土	ローム粒をやや多く含む。炭化粒を少し含む。縮まりやや弱い。
23層	灰褐色土	ローム粒・ブロック (1cm) を含む。炭化粒を少し含む。縮まりやや弱い。
24層	灰褐色土	ローム粒・ブロック (1~5cm) を多く含む。縮まりやや弱い。
25層	黑褐色土	ローム粒を少し含む。縮まりやや弱い。
26層	茶褐色土	ローム粒をやや多く含む。縮まりやや弱い。
27層	暗黄褐色土	ローム粒・ブロック (1~3cm) を多く含む。縮まりやや弱い。
28層	黄褐色土	ローム粒を主として含む。縮まりやや弱い。
29層	灰褐色土	ローム粒・ブロック (1cm) をやや多く含む。縮まりやや弱い。
30層	暗灰褐色土	ローム粒を含む。縮まりやや弱い。
31層	灰褐色土	ローム粒・ブロック (1cm) を多く含む。縮まりやや弱い。
32層	暗灰褐色土	ローム粒をやや多く含む。縮まり弱い。
33層	黄褐色土	ローム粒を主として含む。縮まりやや弱い。
34層	暗黄褐色土	ローム粒・ブロック (1~3cm) を多く含む。縮まりやや弱い。
35層	暗褐色土	ローム粒・ブロック (1~3cm) を多量に含む。縮まりやや弱い。

第93図 第7・11号溝土層断面 (1)

確認面からの深さは60～80cmで、断面形態は椀形を呈する。

A区北西部において、第7号溝の南側に、一部硬化した土壘状の高まりが確認された。その上部には黄褐色土が堆積しており、第7号溝覆土にも南側から流れ込む形で確認された。黄褐色土は、確認面においても第7号溝南半に及んでおり、存在したであろう土壘が崩れて堆積したものと考えられる。

図示できた遺物は、第99図1～第100図48である。1は土師器壺、2～31は口クロ土師器で1・6は壺、2～5、7～15は小皿、16～31は高台椀である。25・26・28・29は内面を黒色処理する。32、33は長頸瓶で、外面が磨かれる。34は羽釜、35は甕である。36は土師器甕、37～41は須恵器で、37は蓋、38は壺、39は円面硯、40・41は甕である。42は砥石、43は釘、44は延板状鉄製品、45・46は鉄滓である。47・48は北宋錢で、47は1068年初鑄の熙寧元宝、48は995年初鑄の至道元宝である。

#### 第8号溝 (第96～98図、第101図、第34表)

第4次調査区B区、第18次調査区D区で確認された。

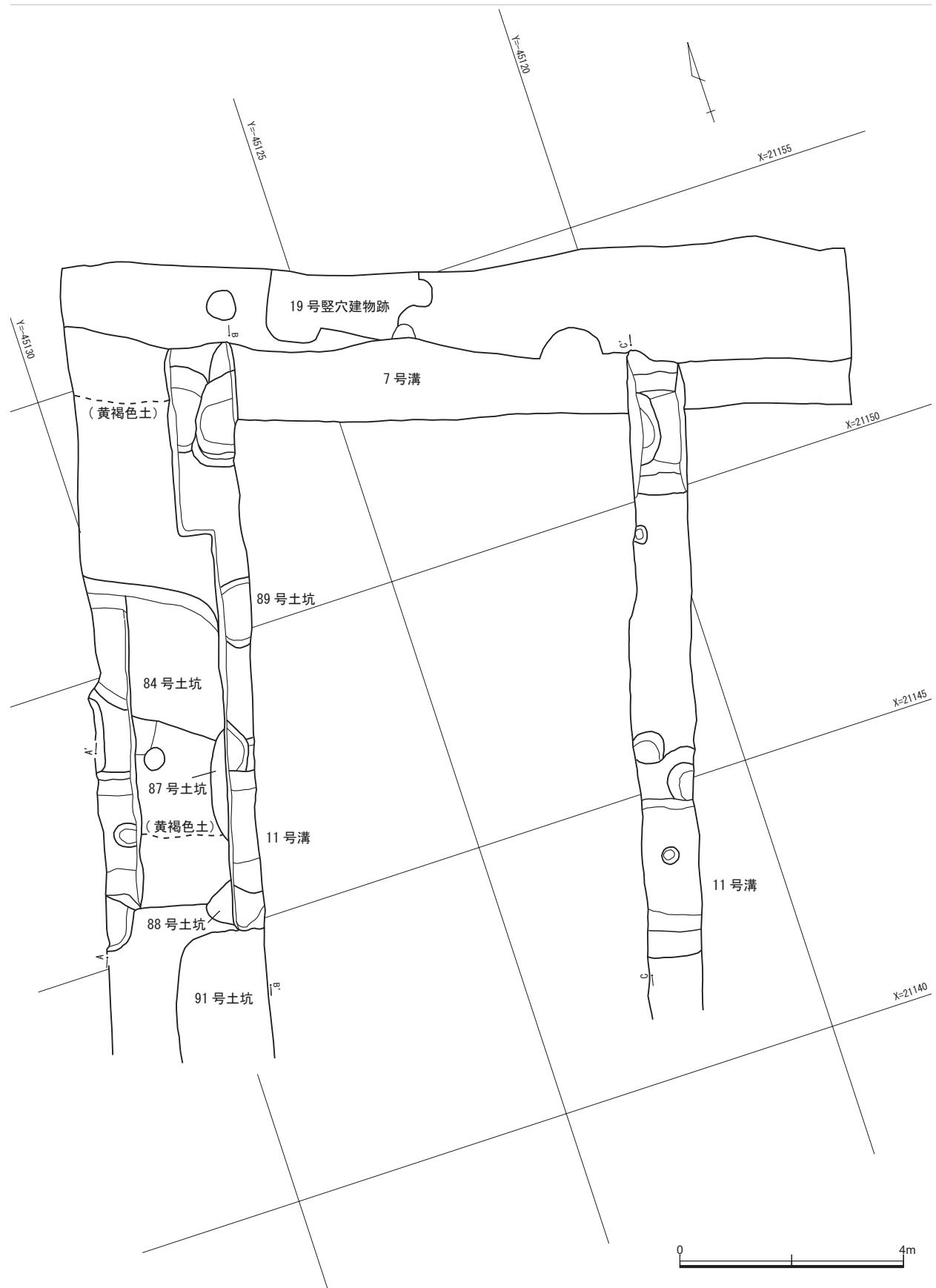
第22・74号竪穴建物跡を切り、第104・105・107・108・131・538号土坑に切られる。幅1.2～3.5mを測り、主軸方位はN-20°-Eである。部分的な掘り下げであるが、掘方は作業単位に起因する連続土坑状で、場所によって深さにはかなりの差がある。確認面からの深さは10～80cmで、断面形態は椀形を呈する。

土層断面から、ロームを多く含む土が東側から流れ込む状況が確認され、第9号溝との間に土壘があったことが推定される。

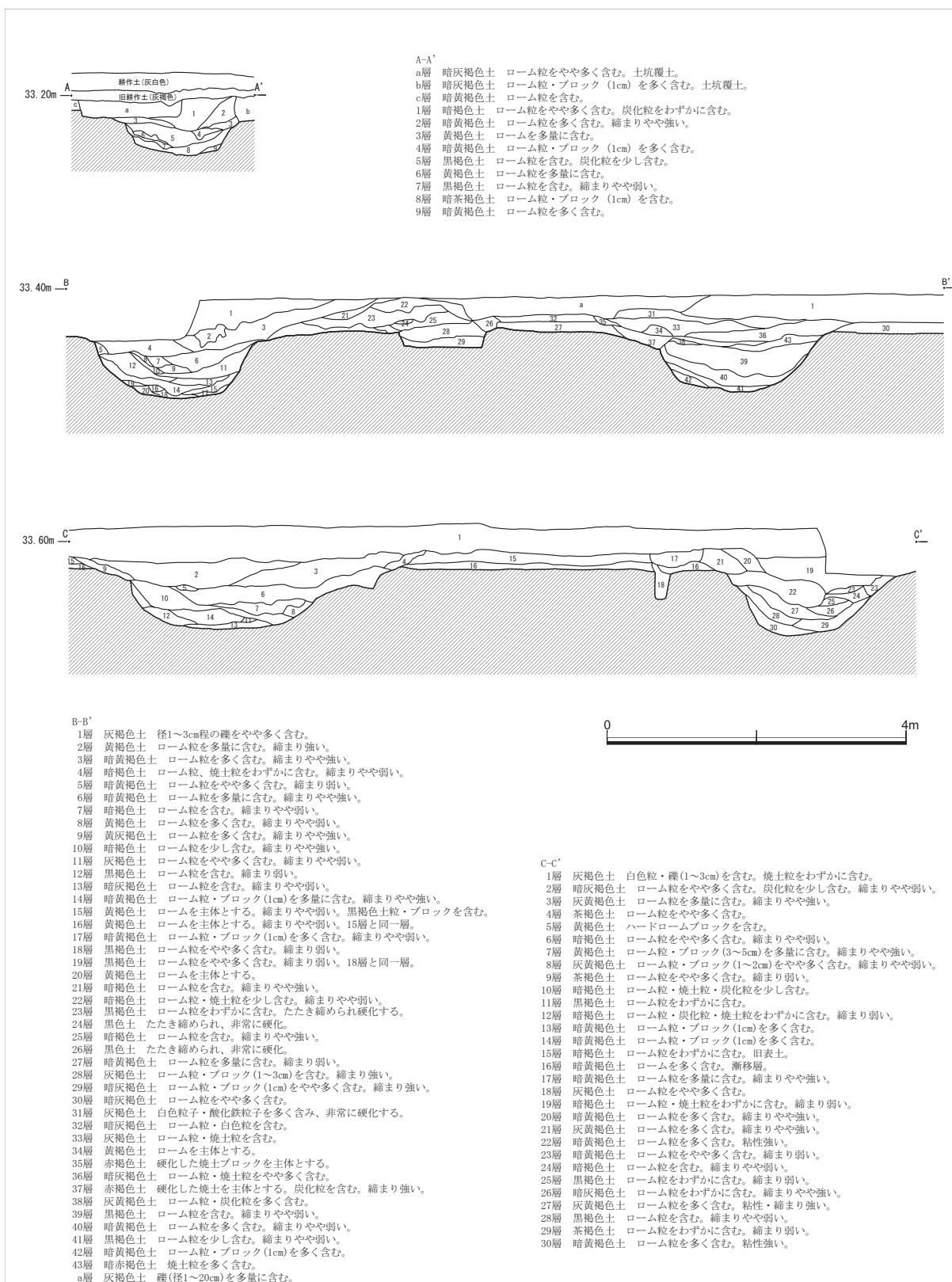
図示できた遺物は、第101図1～11である。1～4は口クロ土師器で、1は小皿、2は椀、3・4は高台椀である。5・6は暗文壺、7は須恵器甕、8は須恵器高台壺、9は土師器甕、10は平瓦、11は鉄滓である。

#### 第9号溝 (第96～98図、第102～104図、第35～38表)

第4次調査区B区、第18次調査区D・E区で確認された。第20・21号竪穴建物跡、第103号溝を切る。幅2～3mを測り、主軸方位はN-20°-Eである。部分的な掘り下げであるが、掘方は作業単位に起因する



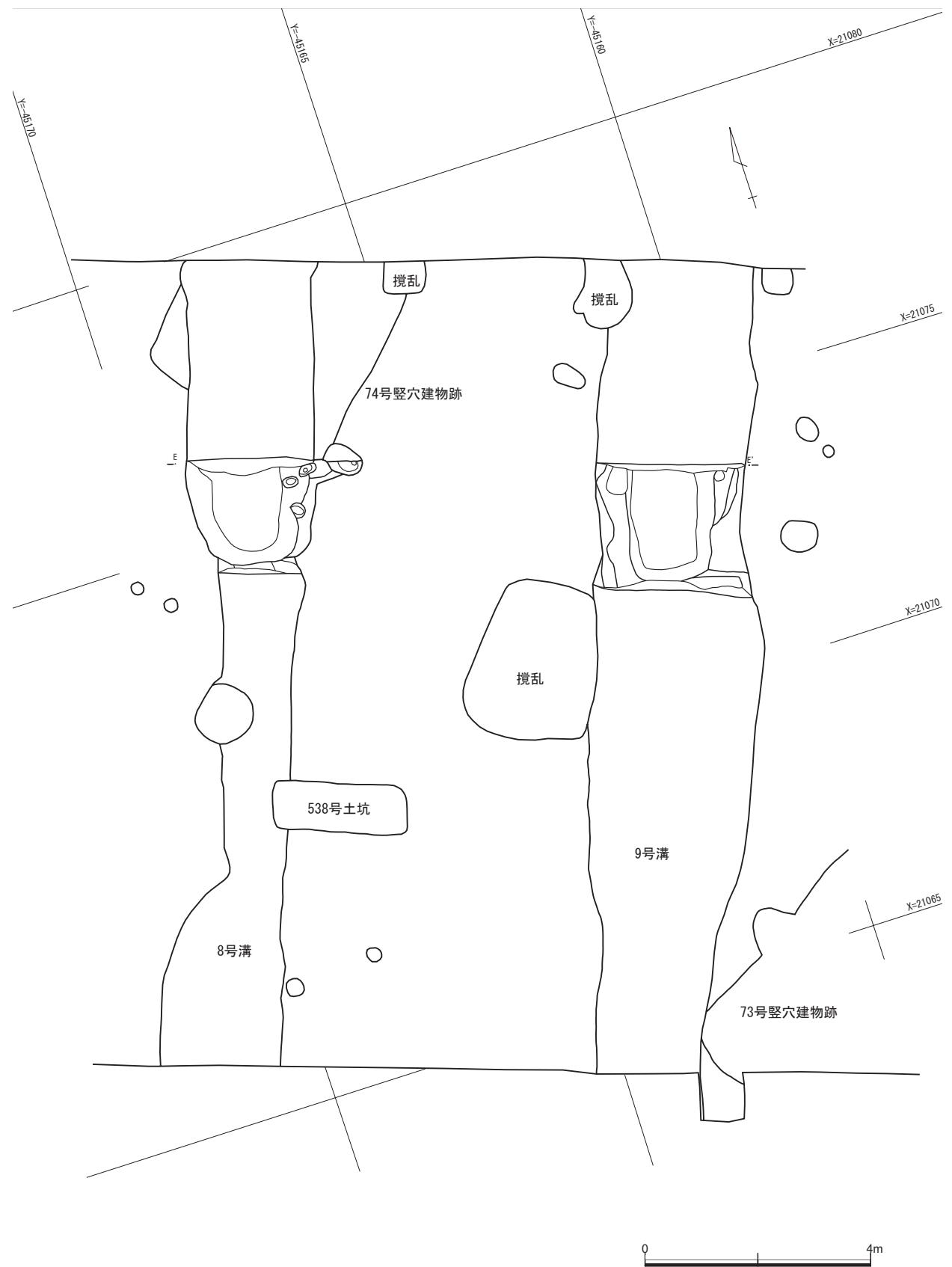
第94図 第7・11号溝土層断面 (2)



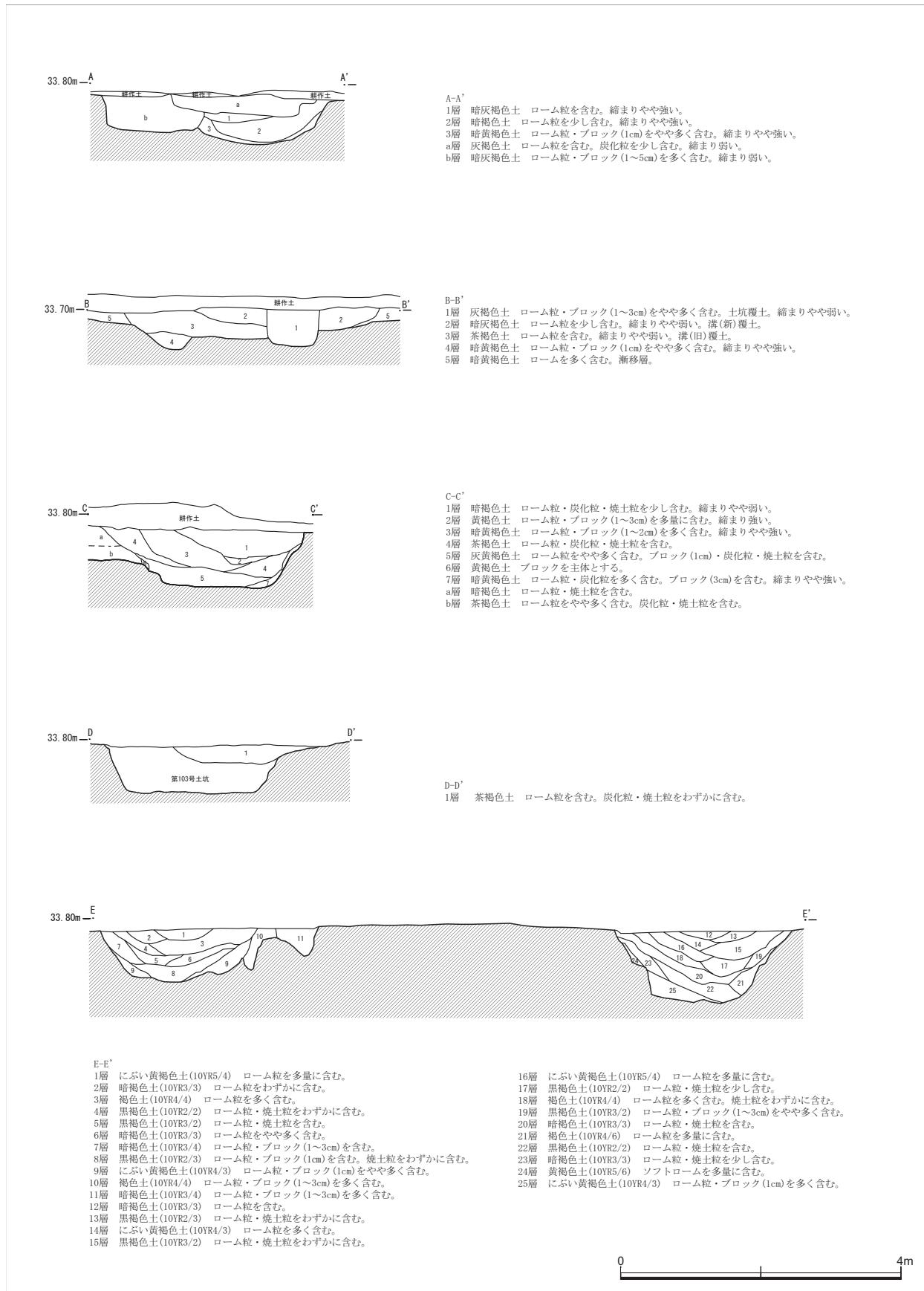
第95図 第7・11号溝土層断面 (2)



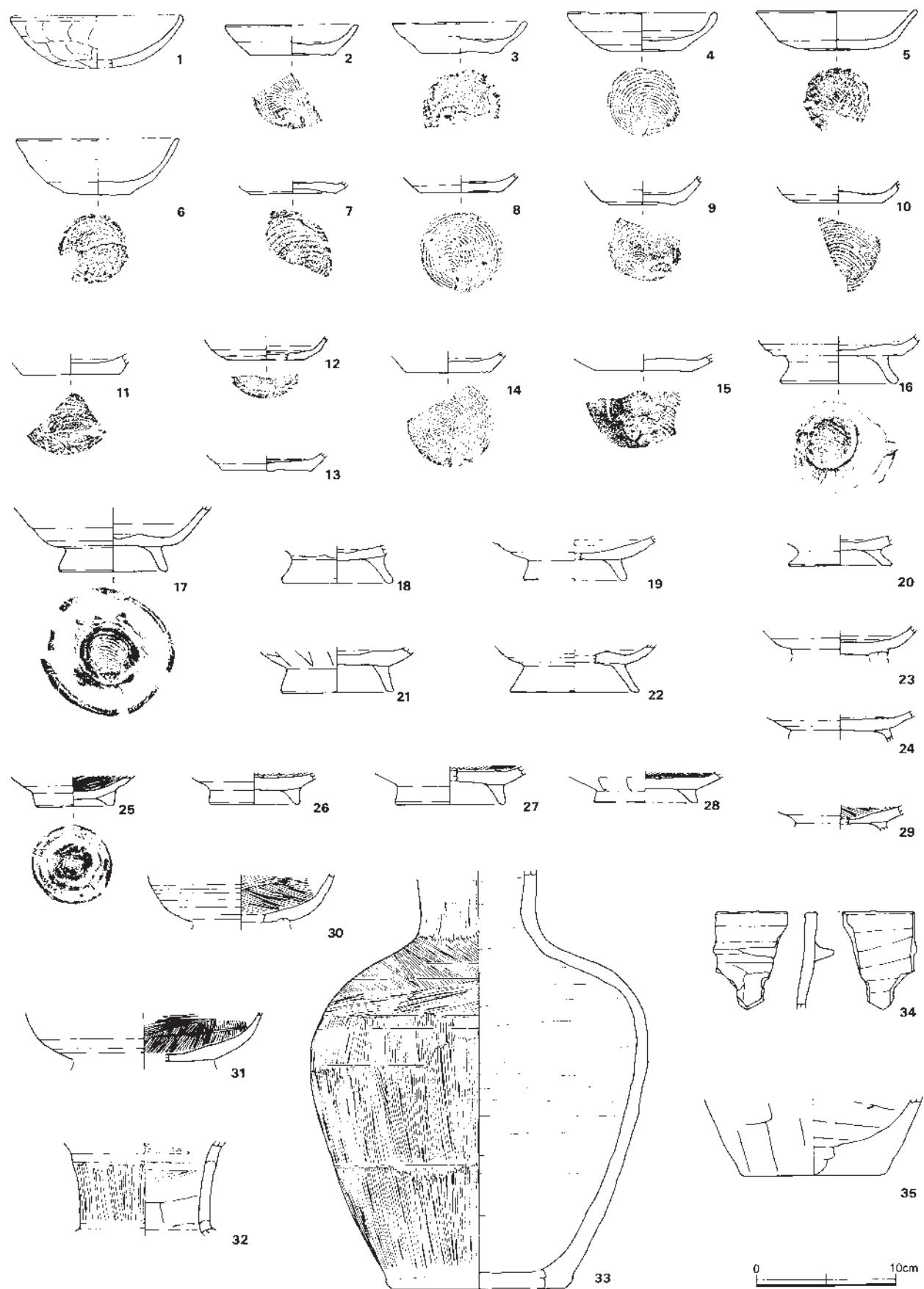
第96図 第8・9号溝 (1)



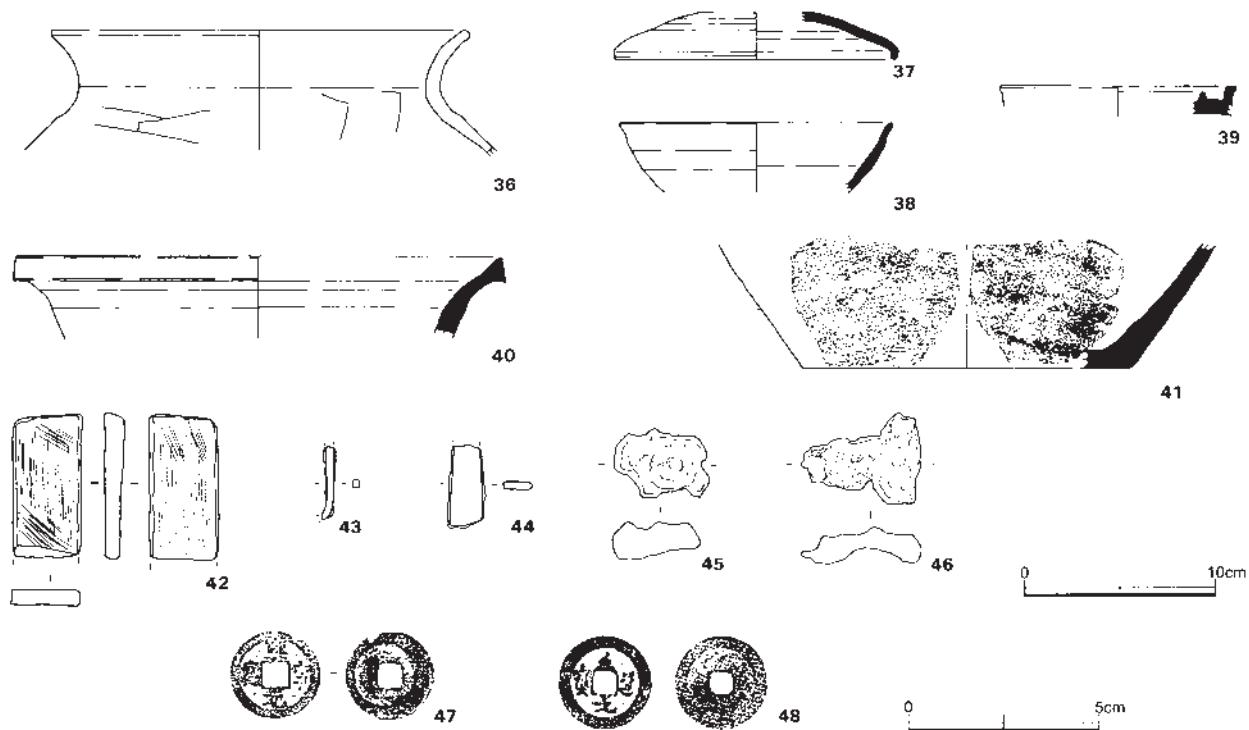
第97図 第8・9号溝 (2)



第98図 第8・9号溝土層断面



第99図 第7号溝出土遺物(1)



第100図 第7号溝出土遺物 (2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
99図 1	SD7	H	壺	(12.2)	3.8		A C E	普	暗橙	25%	
2		R	小皿	(9.3)	2.2	(6.0)	A C E	普	暗褐	30%	
3		R	小皿	(9.4)	2.2	5.5	A C E	普	黄橙	40%	
4		R	小皿	10.6	2.8	4.6	A B C E	良	橙	100%	
5		R	小皿	(11.4)	2.9	4.4	A B C E	普	暗橙	60%	
6		R	壺	11.6	4.0	4.6	A C E	普	橙	70%	
7		R	小皿			(6.2)	A C E	普	橙	15%	
8		R	小皿			5.6	A B C E	普	橙	30%	
9		R	小皿			4.7	A B C E	普	橙	25%	
10		R	小皿			(6.0)	A C E H	普	橙	20%	
11		R	小皿			(7.0)	A B C E	普	橙	20%	
12		R	小皿			(5.4)	A C E	良	黑褐	20%	
13		R	小皿			(6.4)	A B C E	普	橙	20%	
14		R	小皿			6.0	A B C E	普	橙	25%	
15		R	小皿			(6.7)	A B C E H	普	橙	20%	
16		R	高台椀			(8.2)	A C E H	普	橙	30%	
17		R	高台椀			(7.6)	A C E	普	橙	40%	
18		R	高台椀			7.6	A C E	普	暗橙	25%	
19		R	高台椀			(7.2)	A B C D E	普	橙	20%	
20		R	高台椀			7.2	A B C E	普	橙	25%	
21		R	高台椀			(8.0)	A B C E	普	橙	20%	
22		R	高台椀			9.2	A C E	普	暗橙	25%	
23		R	高台椀				A B C E	普	橙	15%	
24		R	高台椀				A C E	普	橙	15%	
25		R	高台椀			5.4	A C E	普	にぶい橙	20%	内面黑色処理

第32表 第7号溝出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
99図	SD7	R	高台椀			6.2	A C E	普	橙	25%	内面黒色処理
		R	高台椀			(7.7)	A B C E	普	橙	20%	
		R	高台椀			7.2	A B C E	普	橙	25%	内面黒色処理
		R	高台椀			A B C E	普	橙	15%	内面黒色処理	
		R	高台椀			A C E	普	橙	10%		
		R	高台椀			A C E	普	橙	20%		
		R	長頸瓶			A B C E	普	橙	5%		
		R	長頸瓶			(12.0)	A B C E	良	赤褐	80%	
		R	羽釜			A B C E	普	橙			
		R	甕			10.2	A B C E H	普	赤褐	5%	
100図	SD7	H	甕			(21.6)	A B C E H	普	橙	15%	
		S	蓋			(14.6)	A C	良	青灰	25%	
		S	坏			(14.2)	A C G	普	灰	5%	
		S	円面硯			(12.2)	A C G H	良	青灰	5%	
		S	甕			(25.4)	A C F H	良	青灰		
		S	甕			(17.0)	A C F H	良	青灰		
		S	砥石			幅 3.5	石材 粘板岩				
		S	釘			厚 0.8					
		S	延板状鉄製品			幅 0.4					
		S	鉄滓	長 3.7	幅 1.7	厚 0.4					
		S	鉄滓	長 4.8	幅 4.8	厚 1.9					
		S	錢	長 2.34	幅 6.2	厚 1.4					
		S	錢	長 2.47	幅 2.35	厚 0.18	「熙寧元宝」	北宋	重さ 2.13 g		
		S	錢	幅 2.48	厚 0.12	「至道元宝」	北宋	1068年初鑄	重さ 12.07 g		
		S	錢					995年初鑄	重さ 52.90 g		
		S	錢						重さ 42.70 g		
		S	錢						重さ 3.23 g		
		S	錢						重さ 2.84 g		

第33表 第7号溝出土遺物観察表(2)

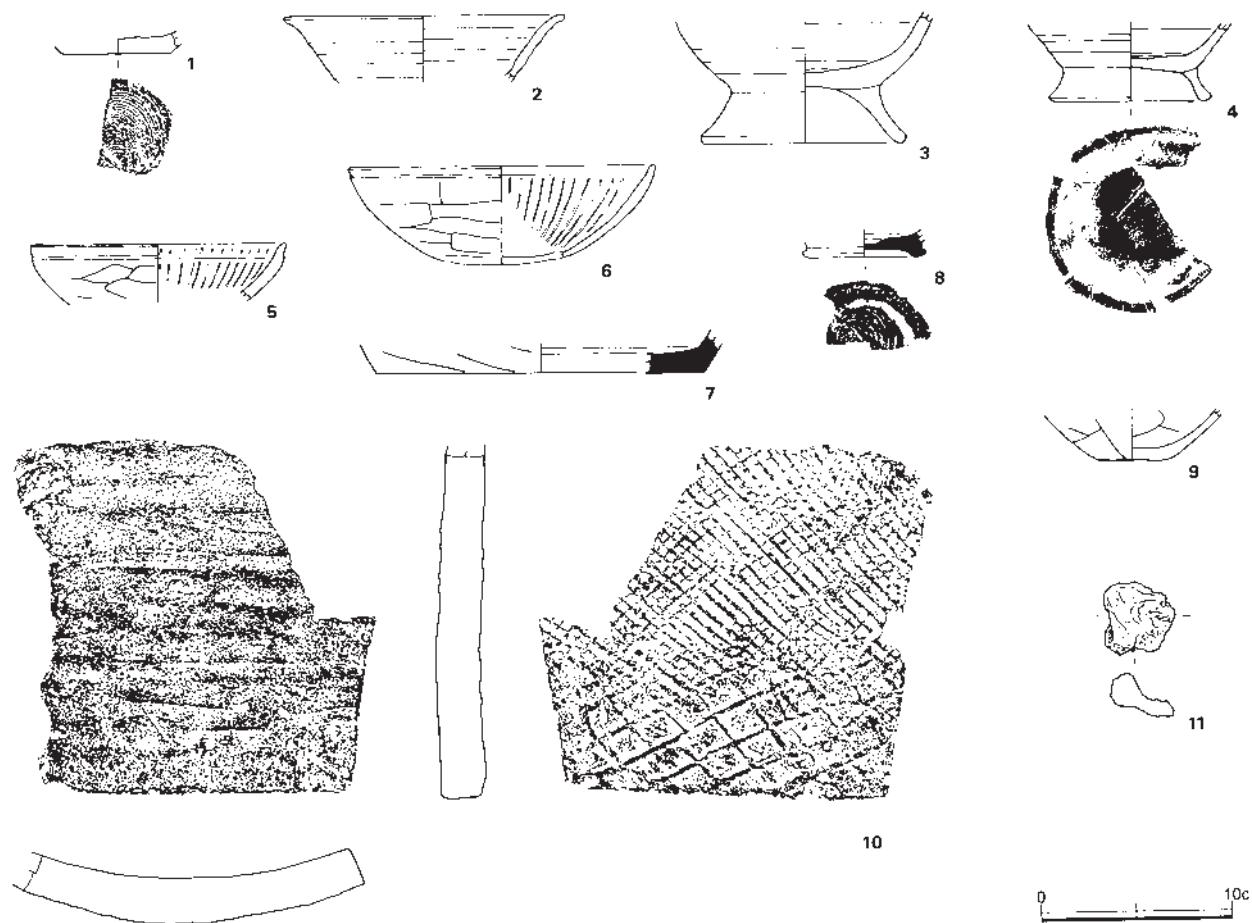
番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
101図	SD8	R	小皿			(5.5)	A B C E	不良	黄橙	15%	
		R	椀			(14.5)	A C D E	普	黄橙	15%	
		R	高台椀			10.4	A B C E	普	橙	60%	
		R	高台椀			7.8	A C E	普	黄橙	50%	
		H	坏			(13.2)	A B C E	普	赤褐	15%	
		H	坏			(15.8)	A C D E	普	黑褐	20%	
		S	甕			(17.2)	A C H	良	灰		
		S	高台坏			(5.8)	A C D H	不良	灰	15%	
		H	甕			3.8	A C E H	普	橙		
		H	平瓦			A C F H	良	青灰	20%		
		S	鉄滓	長 3.6	幅 3.5	厚 1.7					重さ 34.14 g

第34表 第8号溝出土遺物観察表

連続土坑状で、場所によって深さはかなりの差がある。確認面からの深さは20~140cmで、断面形態は椀形を呈する。

土層断面から、ロームを多く含む土が西側から流れ込む状況が確認され、第8号溝との間に土壘があったことが推定される。また、第9(a)号溝から、鉄滓

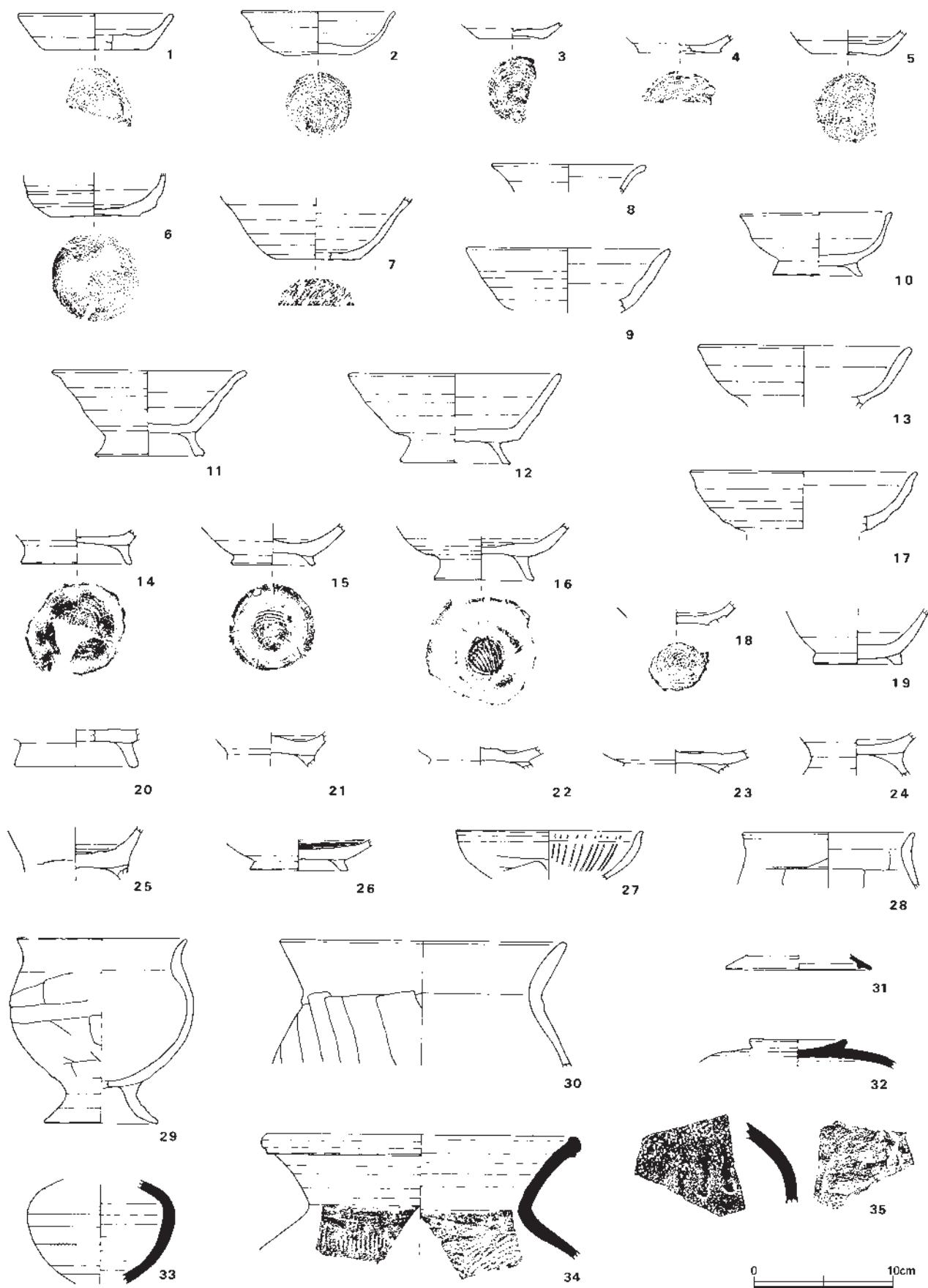
等が多く出土した。近くに鍛冶工房があったと思われるが、切り合い関係を持つ7世紀後半の第20・21号竪穴建物跡が鍛冶工房であった可能性も考えられ、その遺物が流れ込んでいることも有り得る。そのため、鍛冶工房があったとしても、同一時期の遺構に限定して考えることはできない。



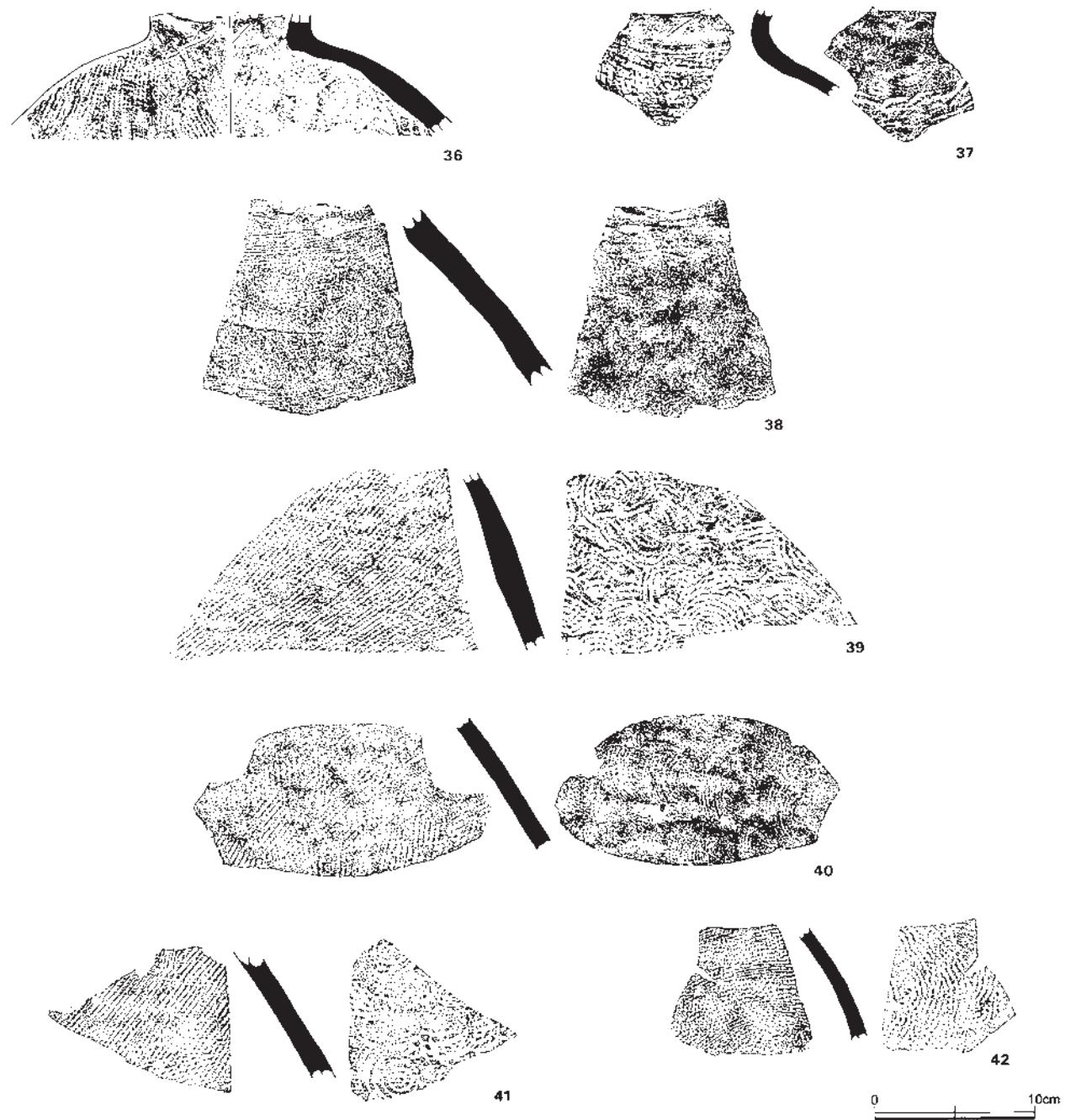
第101図 第8号溝出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
102図 1	SD9	R	P小皿	(11.0)	2.6	(7.4)	A C E	普	橙	25%	
2		R	坏	11.0	3.1	4.8	A B C E	普	橙	80%	
3		R	小皿			4.8	A C E I	普	橙	30%	
4		R	小皿			(5.8)	A C E H	普	暗橙	20%	
5		R	小皿			5.0	A C E H	普	橙	35%	
6		R	坏			6.5	A C E	普	橙	75%	
7		R	坏			(5.8)	A C E I	良	橙	25%	
8		R	坏	(10.9)			A C E I	普	橙	20%	
9		R	坏	(14.5)			A B C E H	普	橙	20%	
10		R	高台椀	10.7	4.5	6.3	A B C F H	普	橙	90%	
11		R	高台椀	13.6	6.2	7.6	A B C E	良	橙	95%	
12		R	高台椀	15.1	6.5	7.8	A C E	普	暗褐	95%	
13		R	高台椀	(15.0)			A C E H	普	橙	20%	
14		R	高台椀			(7.8)	A C E	普	暗褐	25%	
15		R	高台椀			5.6	A B C E F H	普	暗赤褐	25%	
16		R	高台椀			7.0	A C E	普	橙	30%	
17		R	高台椀	(16.2)			A B C E	普	橙	20%	
18		R	高台椀			6.3	A B C E I	普	赤褐	15%	
19		R	高台椀				A B C E	普	灰褐	20%	

第35表 第9号溝出土遺物観察表(1)



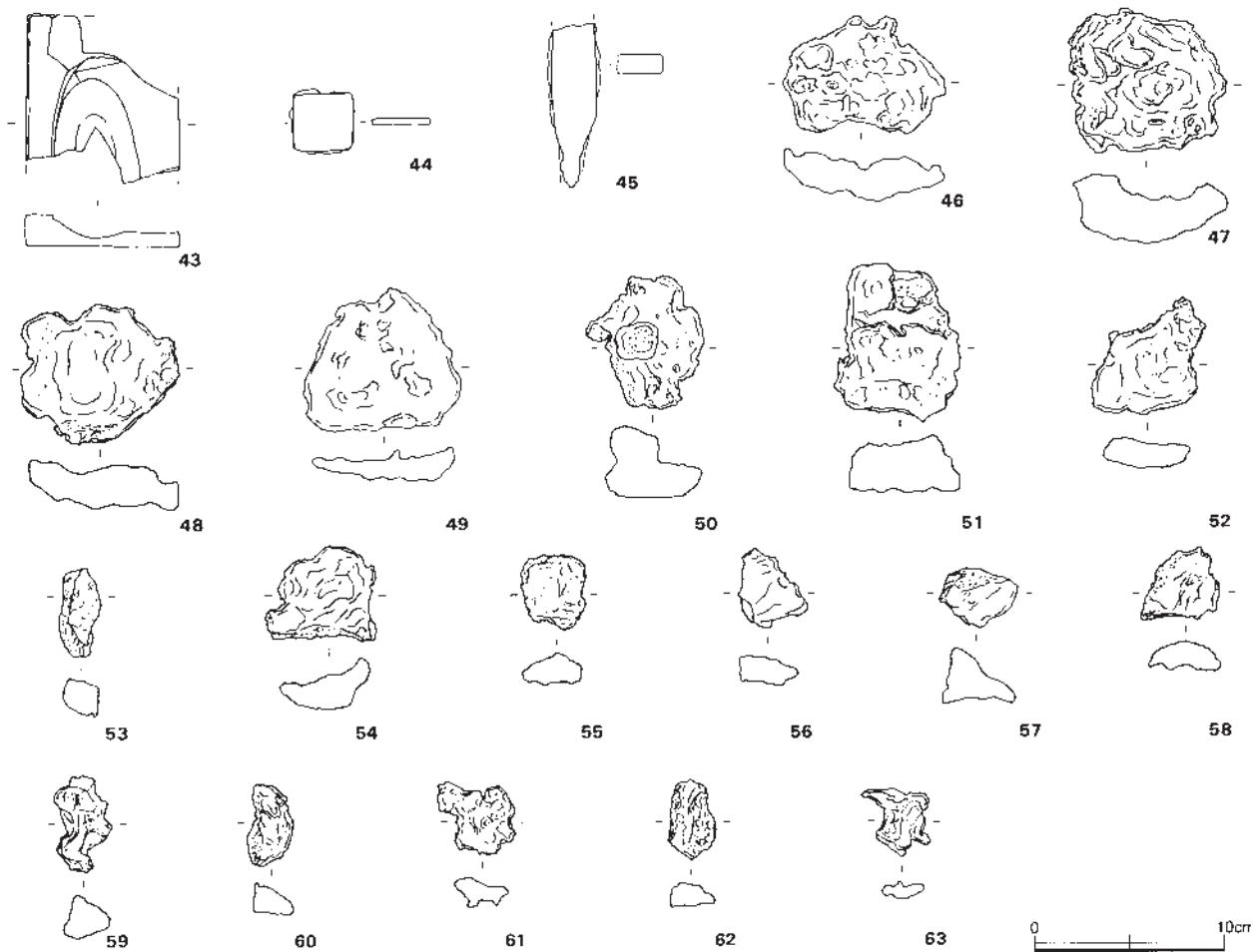
第102図 第9号溝出土遺物 (1)



第103図 第9号溝出土遺物（2）

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
102図 20	SD9	R	高台椀		(8.8)		A C E H	普	橙	15%	
21		R	高台椀				A B C E	普	橙	15%	
22		R	高台椀				A B C E	普	黄橙	15%	
23		R	高台椀				A B C E	普	黄橙	20%	
24		R	高台椀				A B C E	普	橙	25%	
25		R	高台椀				A B C E H	不良	橙	20%	
26		R	高台椀			6.8	A C E H	普	暗橙	25%	内面黒色処理
27		H	坏	(13.4)			A C E	普	暗橙	20%	

第36表 第9号溝出土遺物観察表（2）



第104図 第9号溝出土遺物 (3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
102図 28	SD9	H	甕	(12.2)			A B C E H	普	黒褐	15%	
29		H	台付甕	(12.1)	13.4	(8.0)	A C E	普	赤褐	40%	
30		H	甕	(20.4)			A C E H	普	橙	10%	
31		S	蓋	(10.3)			A C	良	青灰	10%	
32		S	蓋				A B C	不良	にぶい橙	20%	
33		S	瓶				A C H	良	灰	20%	外面に自然釉
34		S	甕	(22.0)			A C	普	灰	5%	
35		S	瓶				A C	良	青灰		外面に自然釉
103図 36	SD9	S	甕				A C F H	良	灰褐	10%	
37		S	甕				A C F H	良	青灰		
38		S	甕				A C F H	良	灰		外面に自然釉
39		S	甕				A C F H	良	青灰		
40		S	甕				A C G H	良	青灰		
41		S	甕				A C F H	良	青灰		
42		S	横瓶				A C	良	灰赤褐		
104図 43	SD9		硯		幅 8.0	厚 1.7	石材 粘板岩				
44			方形鉄製品	長 3.0	幅 3.1	厚 0.4				重さ 14.15 g	
45			延板状鉄製品		幅 2.4	厚 1.0				重さ 91.85 g	
46			楕形滓	長 6.0	幅 8.5	厚 2.1				重さ 107.64 g	

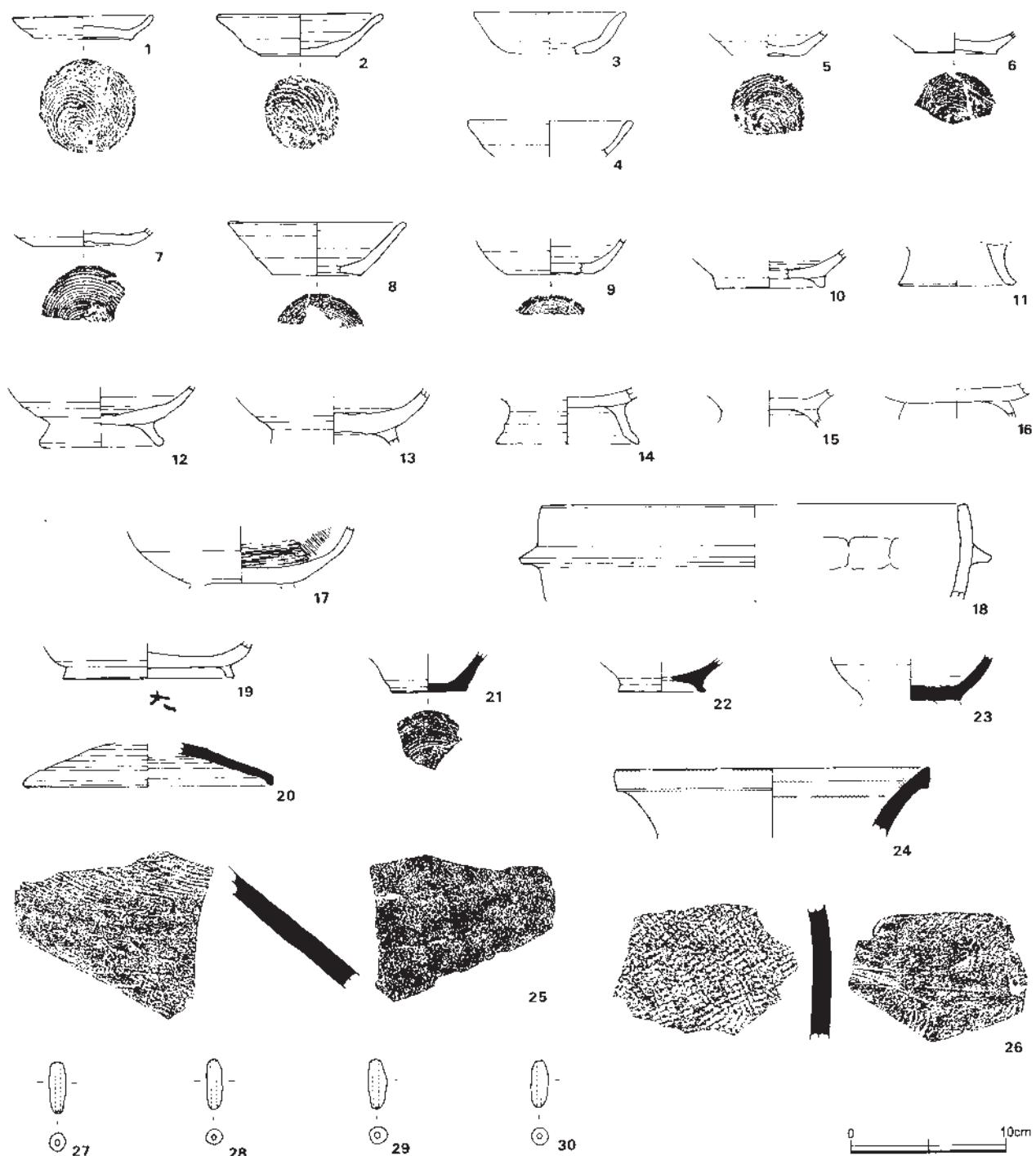
第37表 第9号溝出土遺物観察表 (3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
104 図 47	SD9		楕形滓	長 7.5	幅 8.1	厚 3.2				重さ 208.67 g	
48			楕形滓	長 7.2	幅 8.3	厚 2.1				重さ 159.13 g	
49			楕形滓	長 7.3	幅 8.2	厚 1.4				重さ 126.88 g	
50			鉄滓	長 7.0	幅 6.1	厚 3.7				重さ 84.77 g	
51			鉄滓	長 7.9	幅 6.0	厚 2.7				重さ 205.67 g	
52			鉄滓	長 5.0	幅 5.5	厚 1.5				重さ 52.68 g	
53			鉄滓	長 4.6	幅 1.9	厚 1.7				重さ 25.45 g	
54			鉄滓	長 4.7	幅 5.5	厚 1.8				重さ 58.76 g	
55			鉄滓	長 3.9	幅 3.3	厚 1.5				重さ 17.90 g	
56			鉄滓	長 4.1	幅 3.5	厚 1.3				重さ 16.78 g	
57			鉄滓	長 3.0	幅 3.9	厚 2.8				重さ 15.37 g	
58			鉄滓	長 3.8	幅 3.9	厚 1.3				重さ 16.95 g	
59			鉄滓	長 5.0	幅 2.4	厚 2.3				重さ 16.11 g	
60			鉄滓	長 4.3	幅 2.3	厚 1.4				重さ 24.41 g	
61			鉄滓	長 3.6	幅 4.0	厚 1.6				重さ 17.66 g	
62			鉄滓	長 4.2	幅 2.3	厚 1.1				重さ 14.59 g	
63			鉄滓	長 3.4	幅 2.0	厚 0.6				重さ 9.82 g	

第38表 第9号溝出土遺物観察表(4)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
105 図 1	SD11	R	小皿	9.0	1.5	6.1	A B C E H	良	橙	100%	
2		R	小皿	10.6	2.7	5.0	A B C E H	良	赤褐	60%	
3		R	小皿	( 9.6)	2.7	(5.2)	A B C E	普	橙	25%	
4		R	小皿	(10.4)			A C E	普	黄橙	20%	
5		R	小皿			4.5	A B C H	良	橙	30%	
6		R	小皿			5.2	A C E	普	黄橙	25%	
7		R	小皿			(6.4)	A B C E	普	黄橙	20%	
8		R	坏	(11.2)	3.4	(5.6)	A C E	普	橙	40%	
9		R	坏			(5.4)	A B C E	普	黑褐	20%	
10		R	高台椀			(6.9)	A B C E	普	暗赤褐	15%	
11		R	高台椀			7.4	A C E	普	暗橙	20%	
12		R	高台椀			7.7	A C E	普	橙	50%	
13		R	高台椀				A B C E	普	橙	30%	
14		R	高台椀			(9.0)	A B C E	普	橙	30%	
15		R	高台椀				A B C E	普	赤褐	20%	
16		R	高台椀				A B C E	普	橙	25%	
17		R	高台椀				A B C E H	普	橙	20%	
18		H	羽釜	(27.2)			A C E H	普	暗褐	10%	
19		H	高台坏			(11.0)	A B C E	普	橙	20%	底面に「大」の墨書
20		S	蓋	16.0			A C H	良	青灰	20%	
21		S	坏			(4.8)	A C	普	灰	20%	
22		S	高台坏			5.5	A C H	普	灰褐	20%	
23		S	高台坏				A B C F H	不良	灰	25%	
24		S	甕	(20.0)			A C H	良	灰褐		内外面に自然釉
25		S	甕				A C H	良	灰		
26		S	甕				A B C H	不良	灰褐		
27		S	土錐	長 3.3	幅 1.0	厚 1.1	A B C E	普	灰褐	100%	重さ 3.28 g

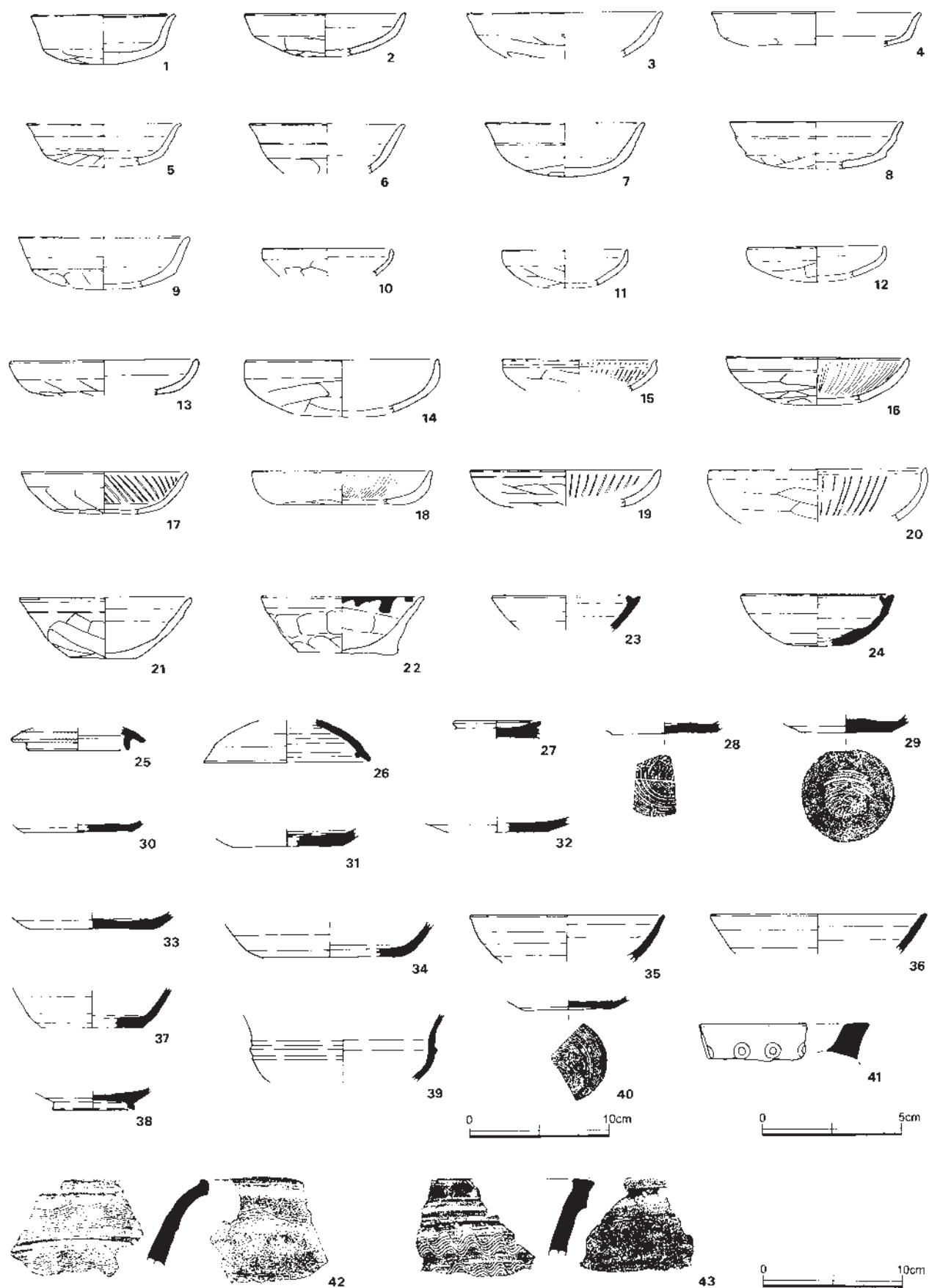
第39表 第11号溝出土遺物観察表(1)



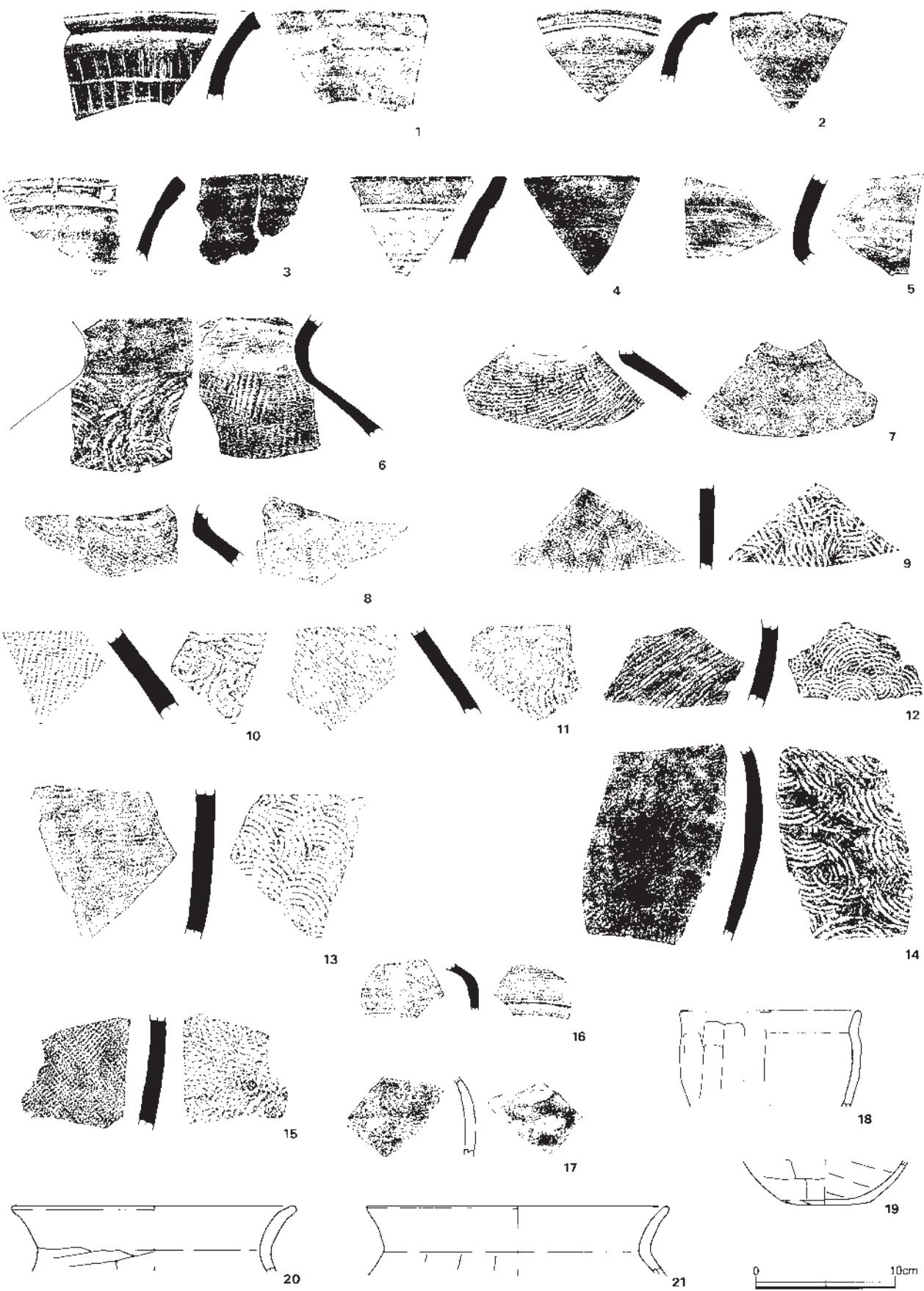
第105図 第11号溝出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
105図 28	SD11		土錘	長3.2	幅1.0	厚1.0	A C E	普	黒褐	100%	重さ 2.8g
29			土錘	長3.2	幅1.1	厚1.1	A C E	普	灰褐	100%	重さ 3.4g
30			土錘	長3.0	幅1.1	厚1.1	A C E	普	灰褐	100%	重さ 3.4g

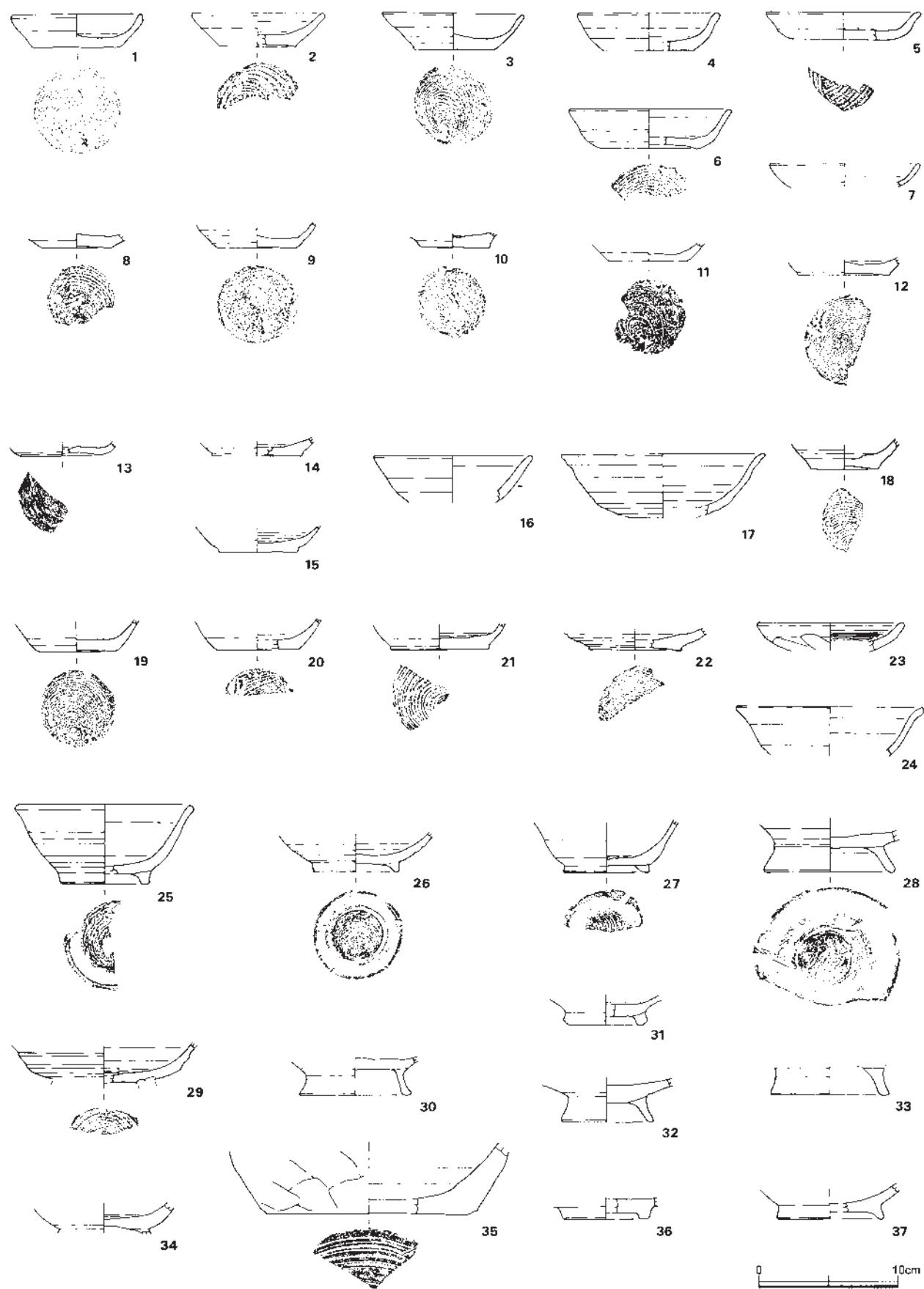
第40表 第11号溝出土遺物観察表 (2)



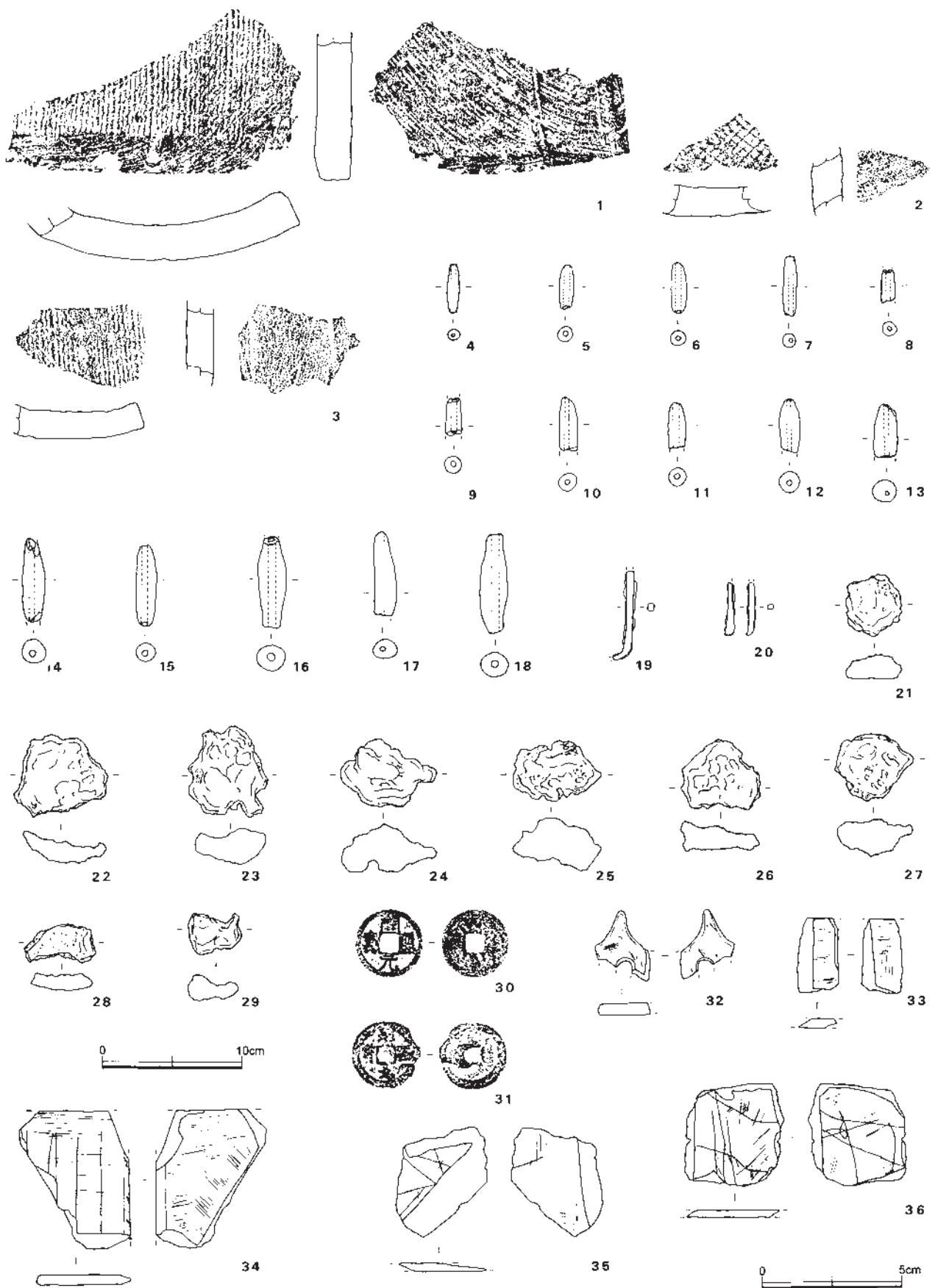
第106図 第4次調査区出土遺物 (1)



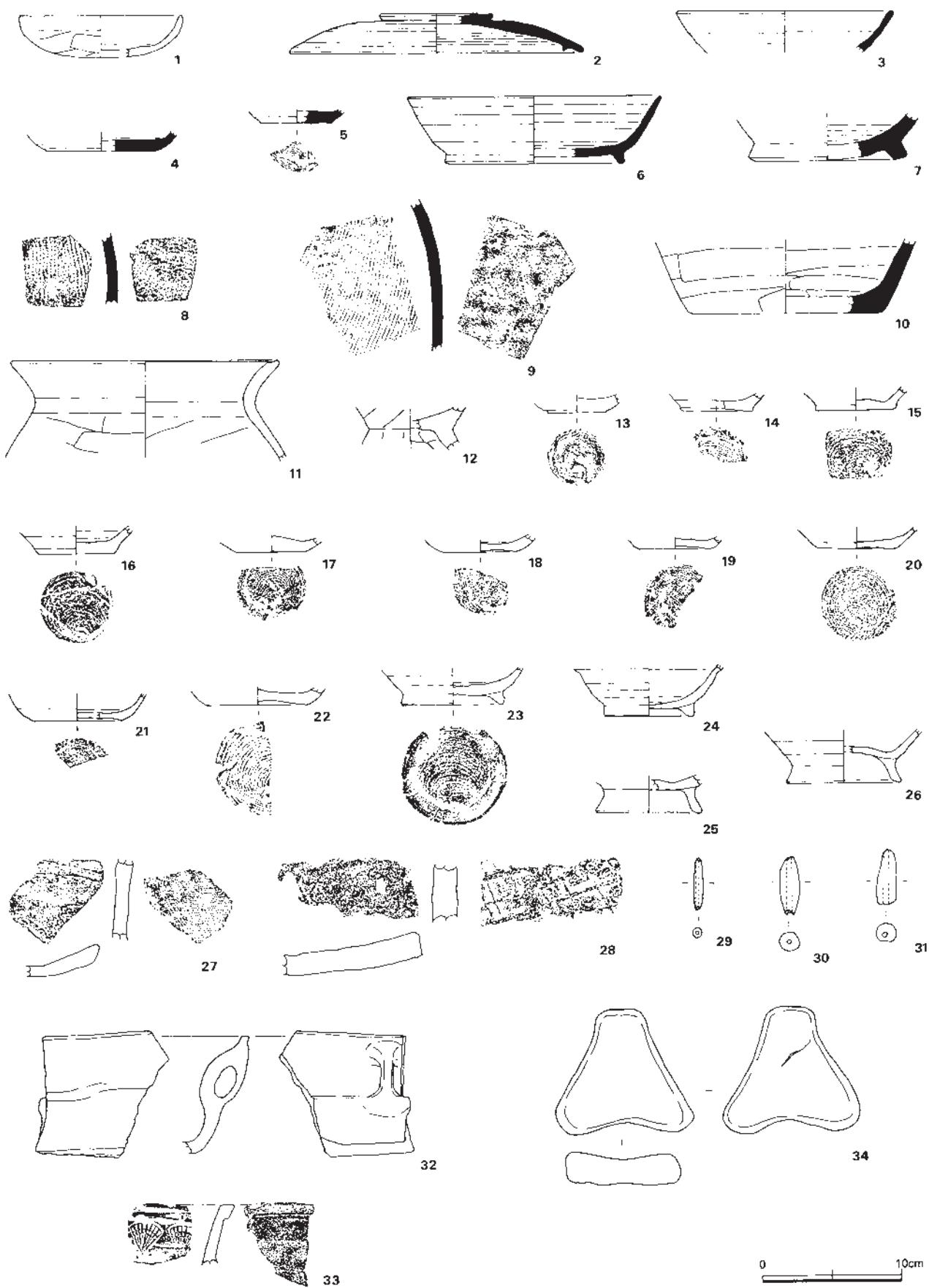
第107図 第4次調査区出土遺物 (2)



第108図 第4次調査区出土遺物 (3)



第109図 第4次調査区出土遺物 (4)



第110図 第18次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
106図	1	H	壺	(10.2)	3.6		A C E	不良	黒褐	50%	
	2	H	壺	(11.4)	(3.1)		A C E H	普	橙	25%	
	3	H	壺	(13.8)			A B C E	普	橙	15%	内面黑色処理
	4	H	壺	(14.9)			A C E	普	暗橙	20%	
	5	H	壺	(11.0)	(3.1)		A B C E	普	橙	30%	
	6	H	壺	(11.0)			A C E	普	暗褐	25%	
	7	H	壺	(11.2)	3.9		A B C E	普	橙	40%	
	8	H	壺	(12.3)	(3.4)		A C E	普	黒褐	25%	
	9	H	壺	(12.2)	(3.8)		A C E	普	赤褐	20%	
	10	H	壺	( 9.2)			A C E	普	橙	10%	
	11	H	壺	( 8.9)	(2.7)		A C E	普	赤褐	20%	
	12	H	壺	( 9.8)	(2.5)		A C E	普	橙	20%	
	13	H	壺	(13.4)			A C E	普	暗赤褐	25%	
	14	H	壺	(13.7)			A C E	普	橙	20%	
	15	H	壺	(11.0)			A B C E	普	赤褐	15%	
	16	H	壺	(13.0)	(3.4)		A B C E H	普	暗橙	25%	
	17	H	壺	(11.8)	(3.0)		A C E	普	暗橙	20%	
	18	H	壺	(12.8)	(2.5)		A B C E I	普	橙	20%	
	19	H	壺	(13.6)			A C E	普	暗褐	20%	
	20	H	壺	(15.4)			A B C E	普	橙	20%	内面黑色処理
	21	H	壺	12.2	4.5	4.7	A B C D E F H I	普	暗橙	60%	
	22	H	壺	11.5	4.1	7.0	A B C D E	普	暗橙	100%	口縁内面に油煙
	23	S	壺	(10.6)			A C	良	青灰	15%	
	24	S	壺	(10.8)	3.7		A C	普	青灰	25%	
	25	S	蓋	( 9.6)			A C	良	灰	15%	外面に自然釉
	26	S	蓋	(11.9)			A C H	良	灰	25%	
	27	S	蓋				A B C	普	灰白	5%	
	28	S	壺			7.4	A C G	普	灰褐	5%	底面に「×」の線刻
	29	S	壺			6.6	A C G H	良	青灰	25%	
	30	S	壺			7.8	A C G H	良	青灰	15%	
	31	S	壺			(7.8)	A C D G H	普	灰	15%	
	32	S	壺			7.4	A C G H	良	灰	15%	
	33	S	壺			9.0	A C G H	普	灰	20%	
	34	S	壺			(10.0)	A C G	普	灰	15%	
	35	S	壺	(13.8)			A C G	普	灰	15%	
	36	S	壺	(15.4)			A C G	普	灰	15%	
	37	S	壺			(7.4)	A C G	普	灰	15%	
	38	S	高台壺			5.8	A C G	良	青灰	20%	
	39	S	稜椀				A C G H	良	青灰	5%	
	40	S	壺			(6.0)	A C F H	良	青灰	15%	
	41	S	円面硯				A C G	良	青灰		外面に円形押文
	42	S	甕				A C D H	良	青灰		
	43	S	甕				A C F H	良	青灰		
107図	1	S	甕				A C	良	灰		
	2	S	甕				A C F H	良	灰		
	3	S	甕				A B C F H	不良	灰		
	4	S	甕				A C F H	良	青灰		
	5	S	甕				A C	普	灰		
	6	S	甕				A C H	普	灰		

第41表 第4次調査区出土遺物観察表(1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
107図	7	S	甕				A C F H	良	青灰		
	8	S	甕				A C	良	灰		
	9	S	甕				A C	良	灰		
	10	S	甕				A C F H	良	灰褐		
	11	S	甕				A C F H	良	青灰		
	12	S	甕				A C F H	良	青灰		
	13	S	甕				A C F H	良	青灰		
	14	S	甕				A C H	普	灰		
	15	S	甕				A C H	良	青灰		
	16	S	瓶				A C	良	灰		
	17	K	瓶	(12.8)			A C	良	灰		
	18	H	甕				A B C E H	普	暗褐	15%	
	19	H	甕				A C E	普	暗褐	10%	
	20	H	甕	(20.2)			A C E H I	普	橙		
	21	H	甕	(21.6)			A C E	普	橙	5%	
108図	1	R	小皿	9.3	2.5	6.1	A C E	普	暗橙	100%	
	2	R	小皿	(9.4)	2.4	5.4	A C E	普	暗褐	35%	
	3	R	小皿	10.0	2.7	5.6	A C E	普	橙	80%	
	4	R	小皿	(10.0)	2.7	(6.2)	A B C E	普	橙	40%	
	5	R	小皿	(10.8)	2.0	(7.5)	A B C E F	普	橙	25%	
	6	R	小皿	11.4	2.9	6.8	A B C D E	普	橙	50%	
	7	R	小皿	(10.6)			A C E	普	橙	20%	
	8	R	小皿			5.0	A B C E I	普	橙	20%	
	9	R	小皿			5.5	A B C E	良	橙	30%	
	10	R	小皿			4.8	A B C E	普	橙	20%	
	11	R	小皿			5.5	A C E H	普	橙	20%	
	12	R	小皿			6.5	A B C E	普	橙	20%	
	13	R	小皿			(5.6)	A B C E H	普	橙	15%	
	14	R	小皿			(6.4)	A B C E	普	橙	25%	
	15	R	小皿			(5.6)	A B C E	普	橙	15%	
	16	R	坏	(11.2)			A B C D E	普	橙	15%	
	17	R	坏	(14.4)	(4.5)		A C H	普	暗橙	20%	
	18	R	坏			(4.8)	A B C E H	普	橙	20%	
	19		坏			5.4	A B C E	普	橙	40%	
	20		坏			(5.6)	A B C E	普	暗橙	20%	
	21		坏			(6.8)	A B C D E	普	橙	15%	
	22		坏			6.6	A C E	普	暗橙	15%	
	23		坏	(10.4)			A C E	普	橙	15%	内面黒色処理
	24		椀	(13.4)			A B C E F	普	橙	15%	
	25		高台椀	(12.4)	5.7	(6.2)	A B C E	普	黑褐	40%	
	26		高台椀			6.0	A C E	普	暗褐	30%	
	27		高台椀			6.0	A C E	普	黄橙	20%	
	28		高台椀			9.0	A B C E	普	橙	30%	
	29		高台椀				A C E	普	橙	20%	
	30		高台椀			(7.8)	A B C F H I	普	橙	20%	
	31	R	高台椀			5.2	A C E	普	橙	15%	
	32	R	高台椀			6.4	A C E	普	暗橙	25%	
	33	R	高台椀			(8.4)	A C E H	普	橙	5%	
	34	R	高台椀				A B C E	普	黄橙	20%	

第42表 第4次調査区出土遺物観察表(2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考		
108図 35 36 37			甕			(14.6)	A B C	普	灰橙	10%	内外面に釉		
			青磁碗			(6.0)	A C	良	緑灰				
			陶器碗			7.5	A C	良	灰	10%			
109図 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36			瓦				A C F H	良	灰	15%			
			瓦				A B C H	普	灰橙	100%	重さ 2.0 g		
			瓦				A C H	普	灰橙				
			土錐	長 3.4	幅 0.9	厚 0.8	A B C E	普	橙				
			土錐	長 3.1	幅 1.0	厚 1.0	A C	普	にぶい橙	100%	重さ 2.42 g		
			土錐	長 3.6	幅 1.1	厚 1.1	A B C E	普	にぶい橙	100%	重さ 3.66 g		
			土錐	長 4.2	幅 1.0	厚 1.0	A B C E	普	暗褐	100%	重さ 4.65 g		
			土錐	幅 1.0	厚 1.0	A B C E	普	橙	50%	重さ 2.53 g			
			土錐		幅 1.1	A C E	不良	黄橙	50%	重さ 3.05 g			
			土錐	幅 1.3	厚 1.3	A C E	普	橙	60%	重さ 6.81 g			
			土錐	幅 1.2	厚 1.2	A B C E	普	橙	60%	重さ 4.74 g			
			土錐	幅 1.4	厚 1.4	A B C	普	暗褐	70%	重さ 9.23 g			
			土錐	幅 1.6	厚 1.6	A C H	普	赤褐	70%	重さ 9.79 g			
			土錐	幅 1.6	厚 1.6	A B C	普	橙	90%	重さ 14.67 g			
			土錐	長 5.7	幅 1.4	厚 1.3	A C E	普	橙	100%	重さ 11.22 g		
			土錐	幅 2.0	厚 1.8	A B C H	普	にぶい橙	95%	重さ 22.22 g			
			土錐		幅 1.7	A C H	普	暗橙	90%	重さ 13.35 g			
			土錐	長 7.0	幅 1.9	厚 1.8	A B C F H	良	暗橙	100%	重さ 24.82 g		
			釘	幅 0.5	厚 0.5	幅 0.4	厚 0.4			重さ 7.44 g			
			棒状鉄製品										
			鉄滓	長 4.3	幅 3.9	厚 1.7	幅 6.4	厚 1.5			重さ 45.42 g		
			椀形滓	長 5.5	幅 6.4	厚 1.5							
			鉄滓	長 6.0	幅 5.3	厚 2.5	幅 6.8	厚 3.3			重さ 110.68 g		
			鉄滓	長 4.9	幅 6.8	厚 3.3							
			鉄滓	長 4.2	幅 6.3	厚 2.9	幅 5.4	厚 1.6			重さ 87.14 g		
			鉄滓	長 4.5	幅 5.4	厚 1.6							
			鉄滓	長 4.7	幅 5.4	厚 2.5	幅 5.0	厚 1.1			重さ 53.90 g		
			鉄滓	長 2.4	幅 5.0	厚 1.1							
			鉄滓	長 2.9	幅 3.7	厚 1.8	幅 2.43	厚 0.08	「開元通宝」	唐	621年初鑄	重さ 24.58 g	
			錢	長 2.43	幅 2.43	厚 0.08							
			錢	長 2.39	幅 2.43	厚 0.09	石材 滑石	「祥符元宝」	北宋	1008年初鑄	重さ 2.50 g		
			石製模造品	厚 0.4									
			石製模造品	厚 0.4	石材 粘板岩	石材 粘板岩	石材 粘板岩	石材 粘板岩	重さ 2.39 g				
			石製模造品	厚 0.4	石材 粘板岩								
			石製模造品	厚 0.3	石材 粘板岩	石材 粘板岩	石材 粘板岩	石材 粘板岩					
			石製模造品	厚 0.3	石材 粘板岩								

第43表 第4次調査区出土遺物観察表 (3)

図示できた遺物は、第102図1～第104図63である。1～26はロクロ土師器で、1・3～5は小皿、2・6～9は壺、10～26は高台碗である。26は内面が黒色処理される。27～30は土師器で、27は壺、28・30は甕、29は台付甕である。31～42は須恵器で、31・32は蓋、33・35は瓶、34・36～41は甕、42は横瓶である。

43は石製硯、44は方形鉄製品、45は延板状鉄製品、46～49は椀形滓、50～63は鉄滓である。

#### 第11号溝 (第92～95図、第105図、第39・40表)

第4次調査区A・C区で確認された。第87・88・90号土坑に切られる。幅2.5～4mを測り、主軸方位は

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
110 図 1		H	壺	(11.6)	(3.1)		A C E	普	黒褐	25%	
2		S	蓋	(20.8)	2.9		A C H	普	灰	30%	
3		S	壺	(15.4)			A C F H	良	青灰	15%	
4		S	壺			(7.8)	A C H	良	青灰	20%	
5		S	壺			(5.0)	A C E	不良	灰	10%	
6		S	高台壺	(18.0)	4.9	(12.2)	A C H	不良	灰褐	25%	
7		S	瓶			(9.8)	A C	普	灰	5%	
8		S	甕				A C H	良	灰褐		内外面に自然釉
9		S	甕				A C H	良	灰		外面に自然釉
10		S	甕			(13.8)	A C F H	良	青灰		
11		H	甕	(19.0)			A B C E	普	橙	15%	
12		H	台付甕				A C E	不良	黒褐	5%	
13		R	小皿			4.0	A B C H	普	橙	25%	
14		R	小皿			(5.0)	A C E	普	橙	20%	
15		R	小皿			(5.8)	A C E	普	灰白	20%	
16		R	小皿			5.4	A B C I	普	橙	30%	
17		R	小皿			5.0	A B C E	普	黄橙	20%	
18		R	小皿			(5.2)	A C E	普	黄橙	20%	
19		R	小皿			(5.0)	A B C H I	普	橙	20%	
20		R	小皿			5.4	A B C E H	良	橙	30%	
21		R	小皿			(6.3)	A B C H I	普	橙	15%	
22		R	小皿			7.4	A B C E	普	暗橙	20%	
23		R	高台椀			7.2	A C E	普	黄橙	40%	
24		R	高台椀			6.2	A B C E H	普	橙	40%	
25		R	高台椀			(7.4)	A C E H	普	橙	15%	
26		R	高台椀			8.1	A C E	普	黄橙	30%	
27			瓦				A B C H	普	暗赤褐		
28			瓦				A C H	不良	灰		
29			土錘	長 3.7	幅 0.7	厚 0.7	A C	普	灰褐	95%	重さ 1.55 g
30			土錘	長 4.2	幅 1.4	厚 1.3	A C	普	黒褐	90%	重さ 5.98 g
31			土錘			幅 1.4	A B C E	普	赤褐	60%	重さ 6.23 g
32			焰烙				A B C H I	普	黒褐		
33			火鉢				A B C H	普	橙		
34			三叉状石製品	長 8.2	幅 9.9	厚 2.1	石材 砂岩				重さ 293.39 g

第44表 第18次調査区出土遺物観察表

N-70° -Wである。部分的な掘り下げであるが、確認面からの深さは80cmを測る。断面形態は椀形を呈する。

A区北西部では、第11号溝の覆土に黄褐色土が北から流れ込む形で確認された。また黄褐色土は、確認面においても第11号溝北半に及んでおり、第7号溝との間に存在したであろう土墨が崩れて堆積したものと考えられる。

図示できた遺物は、第105図1～30である。1～17はロクロ土師器で、1～7・9は小皿、8は壺、10

～17は高台椀、18は羽釜である。19は土師器の高台壺で、底面に「大」の墨書が認められる。20～26は須恵器で、20は蓋、21は壺、22・23は高台壺、24～26は甕、27～30は土錘である。

### 第38号溝

第18次調査区E区に位置する。幅2.7mを測り、主軸方位はN-70° -Wである。掘り下げは行っていない。

図示できる遺物は出土しなかった。

## 2 道路跡の調査 (第6・15・21次調査)

### a 概要

第6・15次調査区は正倉院（南）の南方の状況を確認する目的、及び存在が想定される道路跡の状況を確認する目的でE-II-50～E-II-173グリッドに、第21次調査区は道路跡或いは郡庁の確認を目的でD-II-355～E-III-89グリッドに設けた。共に遺跡の中央部に位置する。

確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡16棟、道路跡側溝を含む溝5条等である。調査区周辺の標高は約34mである。確認面までの深さは、約30cmを測る。

竪穴建物跡は、7世紀後半～末頃のものと10世紀代のもので、道路跡は7世紀代の竪穴建物跡を切って構築される。

### b 縄文時代の遺物

第111図1～4は縄文時代の遺物である。1・2は縄文土器である。1は押圧による刻みを伴う隆帶で区画する。地文にR Lの縄文が施される。2は地文に櫛歯状工具による条線が施される。共に中期後半の所産と思われる。3・4は黒曜石製の石鏃である。3は長さ2.9cm、幅1.8cm、厚さ0.3cmを測る。4は基部を欠損し、残存長3.3cm、幅2.0cm、厚さ0.7cmを測る。

### c 道路跡

#### 第1号道路跡（第114～117図、第45表）

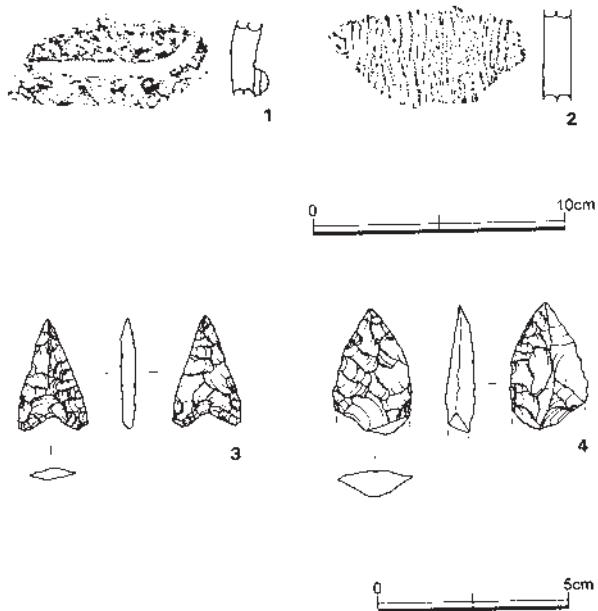
第6次調査区A区、第15次調査区、第21次調査区A区で確認された。第64・118～123号竪穴建物跡より新しく、第614・616号土坑に切られる。路面における硬化面や波板状の痕跡等は確認されなかったが、遺跡南西部の下郷遺跡第6次調査区（未報告）から幡羅遺跡第21次調査区まで、平行する溝が250mに亘って直

線的に続いていることから、道路跡と考えられる。主軸方位はN-67°-Eである。

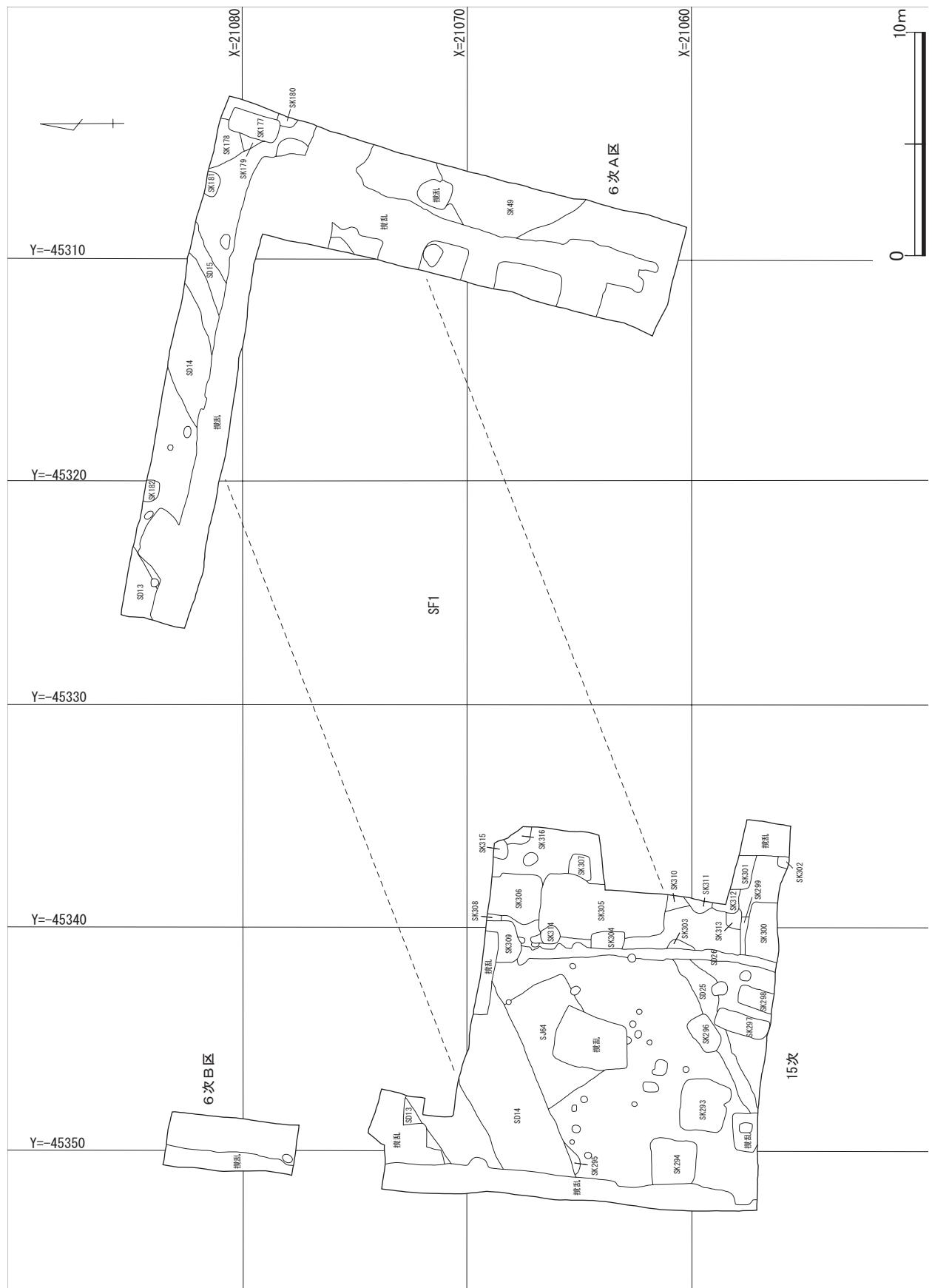
側溝は北が第14号溝、南が第25号溝である。路面幅は約8m、側溝の中心間距離が約9mを測る。第14号溝は幅2.1～3.2mを測り、断面形態は上部のやや広がる逆台形で、確認面からの深さは45～60cmを測る。覆土中層から上層に、硬化するやや厚い層が確認された。第25号溝は幅0.6mを測り、断面形態は皿状を呈し、確認面からの深さは15cmを測る。

両側溝の規模は大きく異なるが、北には正倉院（南）が広がること、及び正倉院拡張後の南辺区画溝と思われる第54号溝が道路跡の接点付近で途切れる事から、第14号溝は道路の北側に広がる正倉院等の官衙施設を広く区画するための溝も兼ねていた可能性を考えられる。

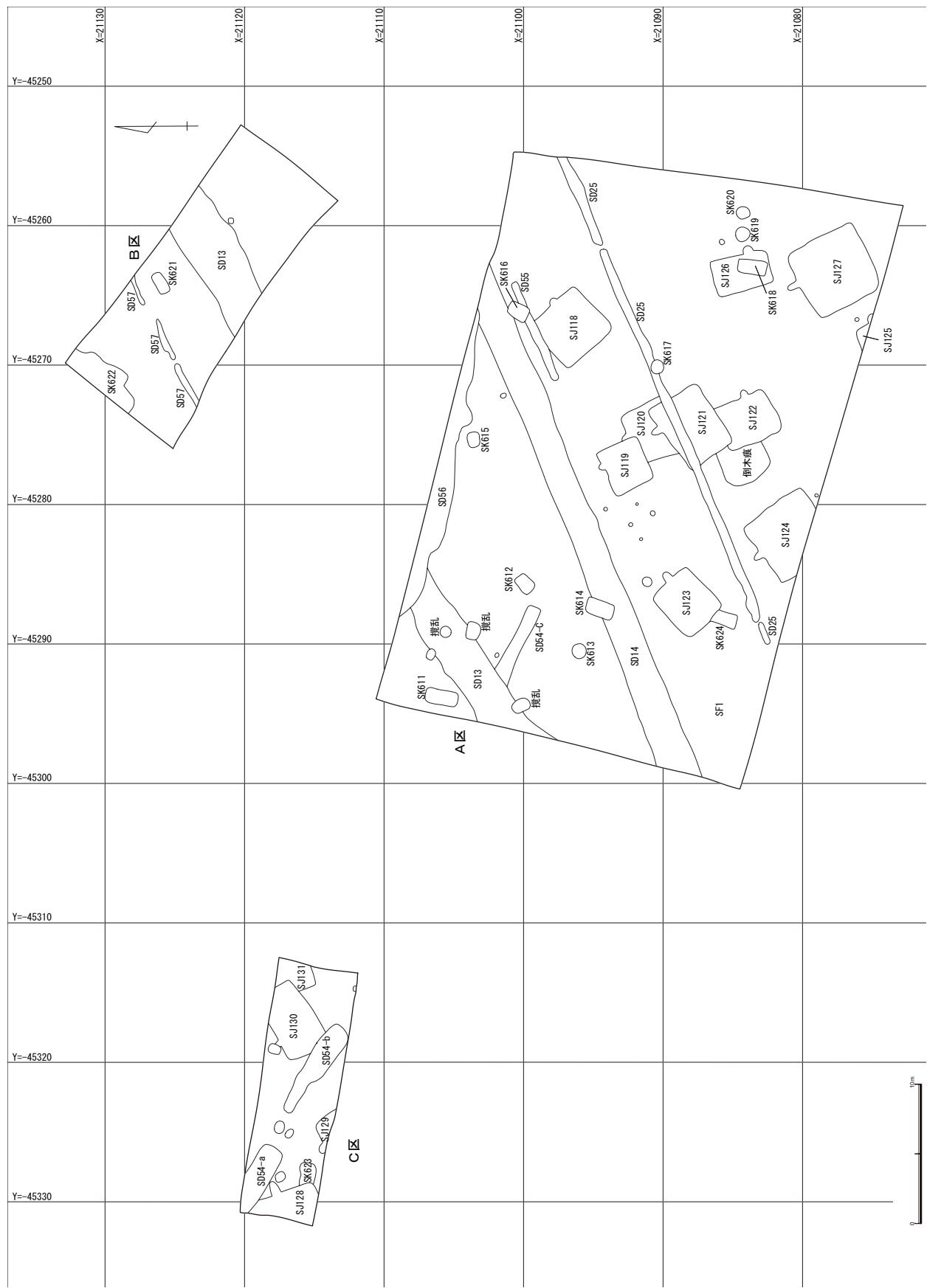
図示できた遺物は第117図1～12で、9は第6次調査区、1～3、5・7・10・12は第15次調査区、4・6・8・11は第21次調査区出土である。1～10は第14号溝出土で、1～4は北武藏型壺、5は暗文皿、6～9は須恵器で、6は高台壺、7は高台碗、9・10は甕である。11・12は第25号溝出土で、11は暗文壺、12は須恵器甕である。



第111図 縄文時代の遺物



第112図 第6・15次調査区全体測量図



第113図 第21次調査区全体測量図

## d 積穴建物跡

### 第49号建物跡（第118図、第119図1～11、第46表）

第6次調査区に位置する。平面形態は方形で、規模は不明である。主軸方位はN-30°-Wである。

床面は確認面から30cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは大部分が攪乱を受けているが、北西壁ほぼ中央に構築される。幅10cm、床面からの深さ8cmの壁溝が確認された。

図示できた遺物は、第119図1～11である。1～3は有段口縁壺、4は暗文壺、5・6は甕、7は須恵器甕、8は砥石、9～11は編物石である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

### 第64号建物跡（第119図12～14、第46表）

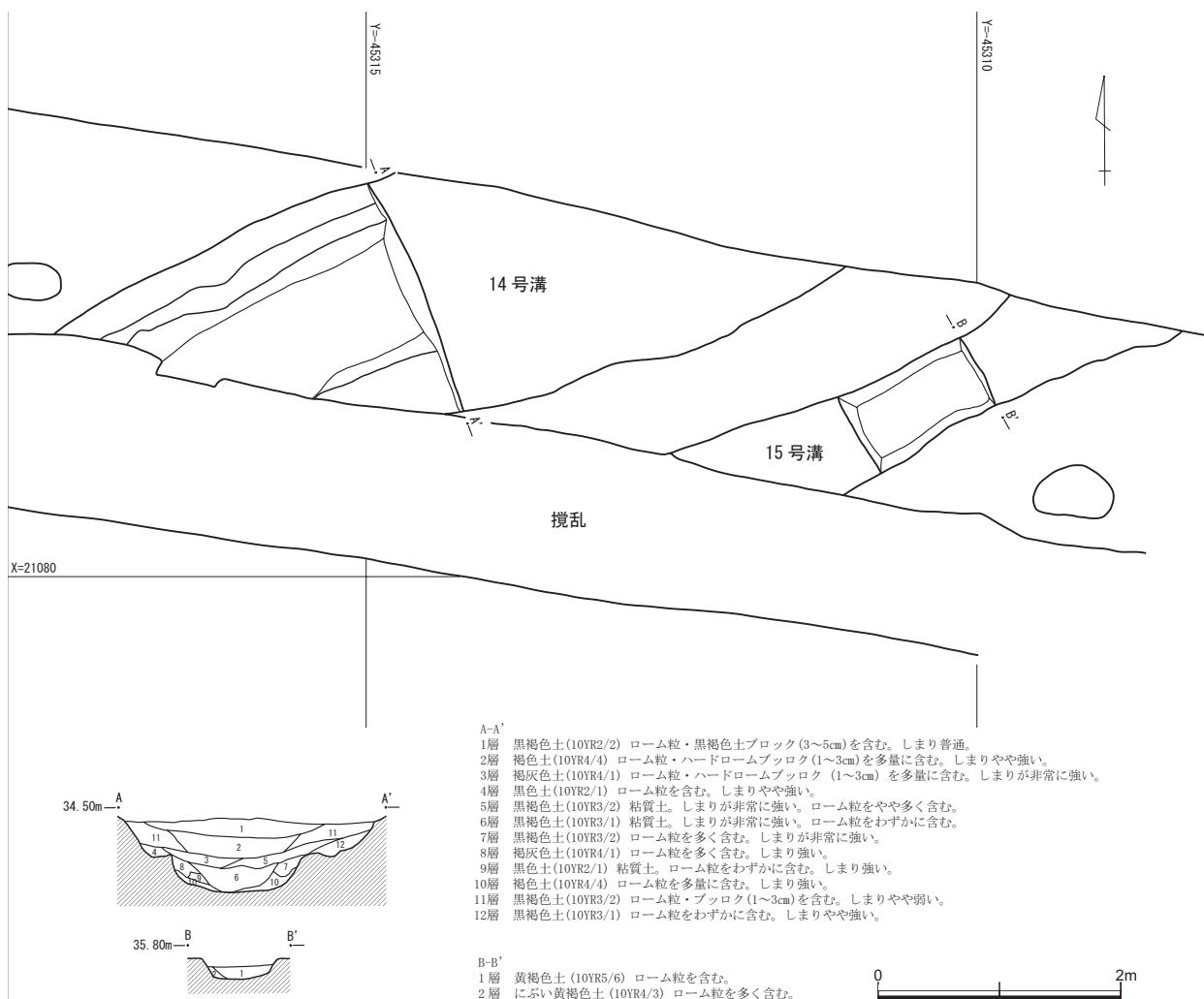
第15次調査区に位置し、第14号溝に切られる。平面形態は方形で、一辺4.9mを測る。主軸方位はN-35°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。図示できた遺物は、第119図12～14である。12・13は暗文甕、14は甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

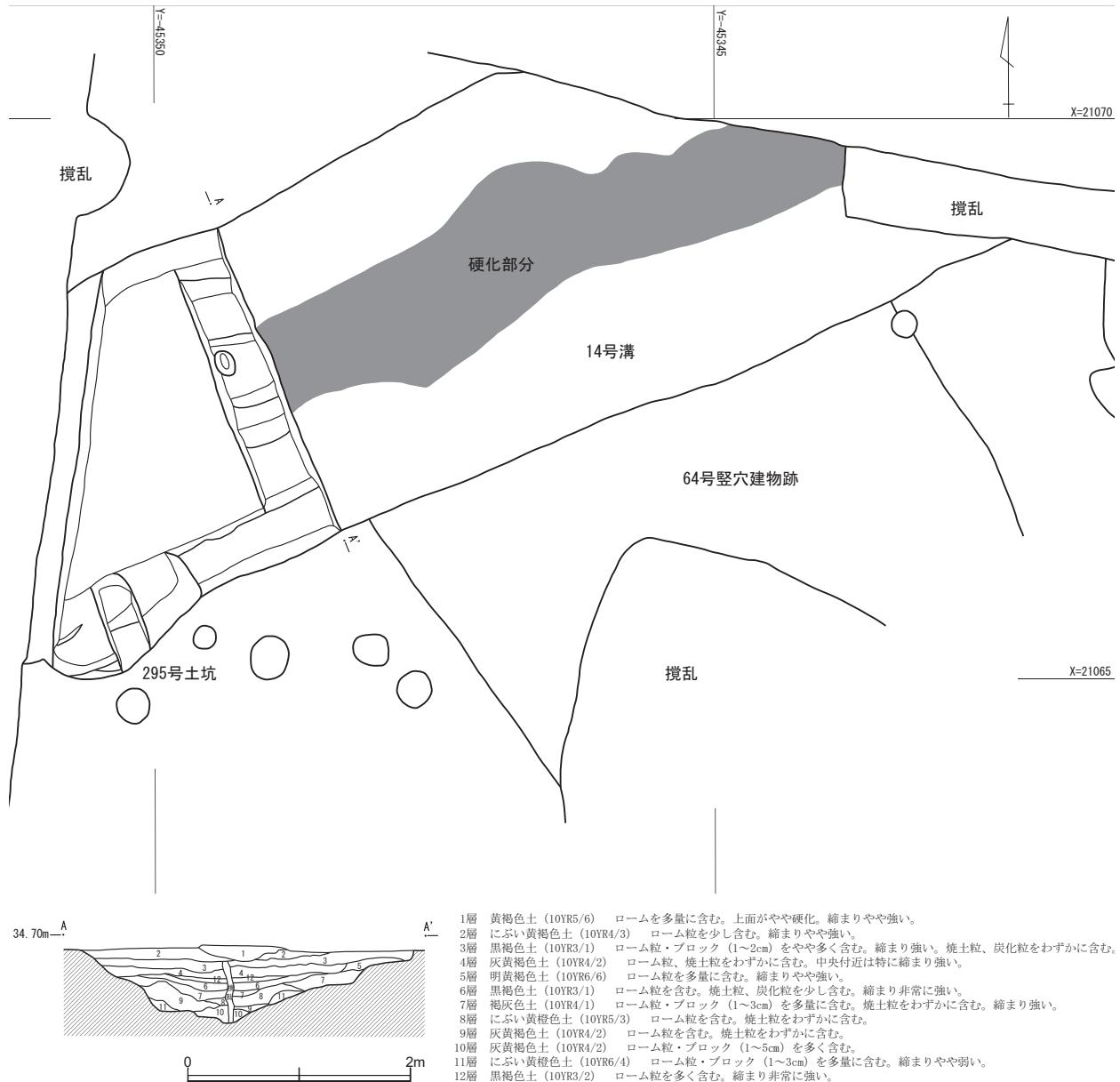
### 第118号建物跡（第120・121図、第47表）

第21次調査区A区に位置し、第55号溝に切られる。平面形態は方形で、長軸4.5m、短軸4.2mを測る。主軸方位はN-50°-Eである。

床面は確認面から20cmの深さで、壁はほぼ垂直に



第114図 第14・15号溝（第6次調査区）



第115図 第14号溝（第15次調査区）

立ち上がる。カマドは北東壁ほぼ中央に構築される。

幅10cm、床面からの深さ6cmの壁溝が確認された。

図示できた遺物は、第121図1~8である。1・2は北武藏型壺、3は暗文系無文壺、4~7は暗文壺、8は甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

#### 第119号建物跡（第122・123図）

第21次調査区A区に位置し、第120号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸3.5m、短軸3mを測る。

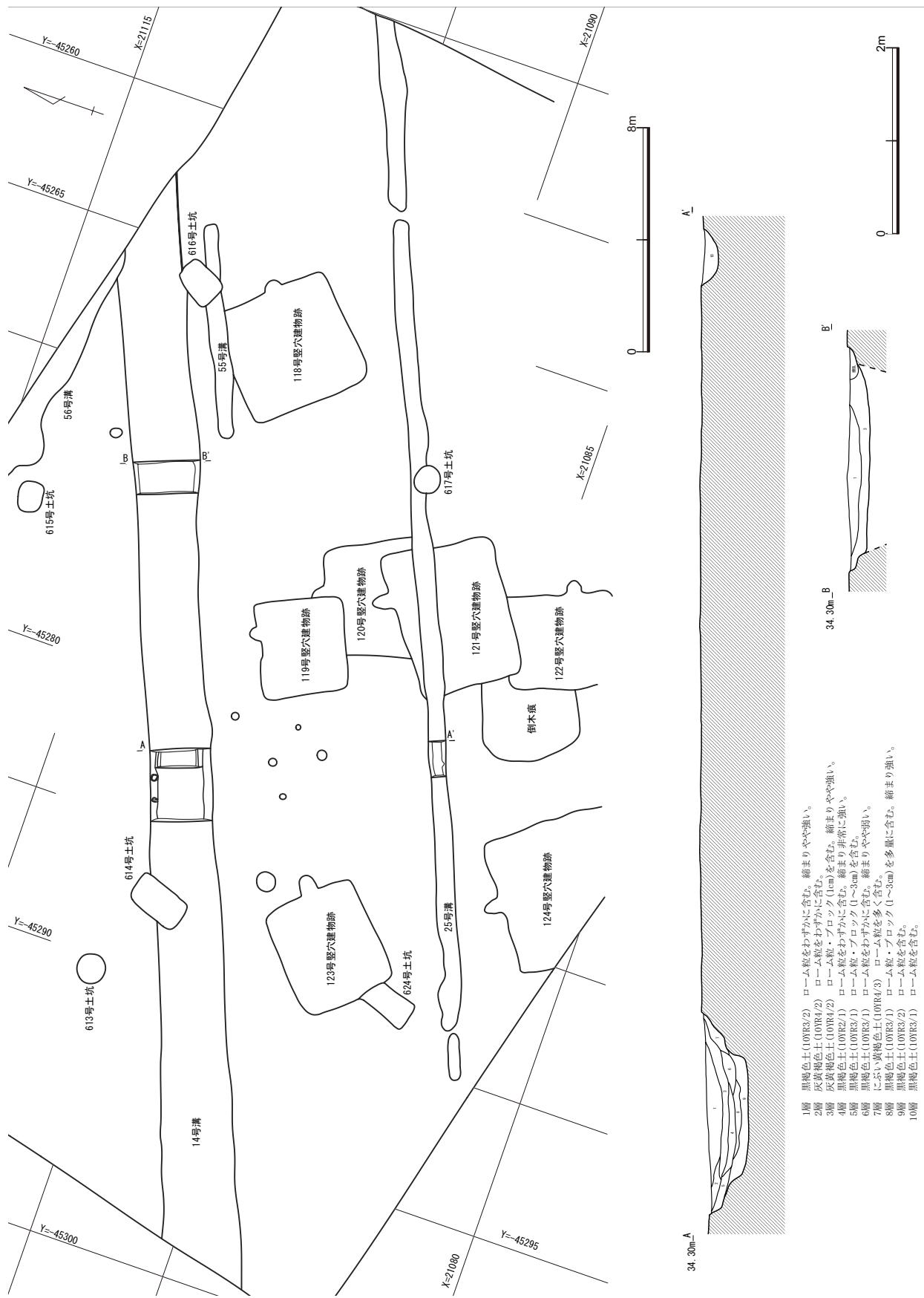
主軸方位はN-20°-Wである。

床面は確認面から30cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは北西壁やや北寄りに構築される。幅10cm、床面からの深さ5cmの壁溝が確認された。

図示できる遺物は出土しなかった。

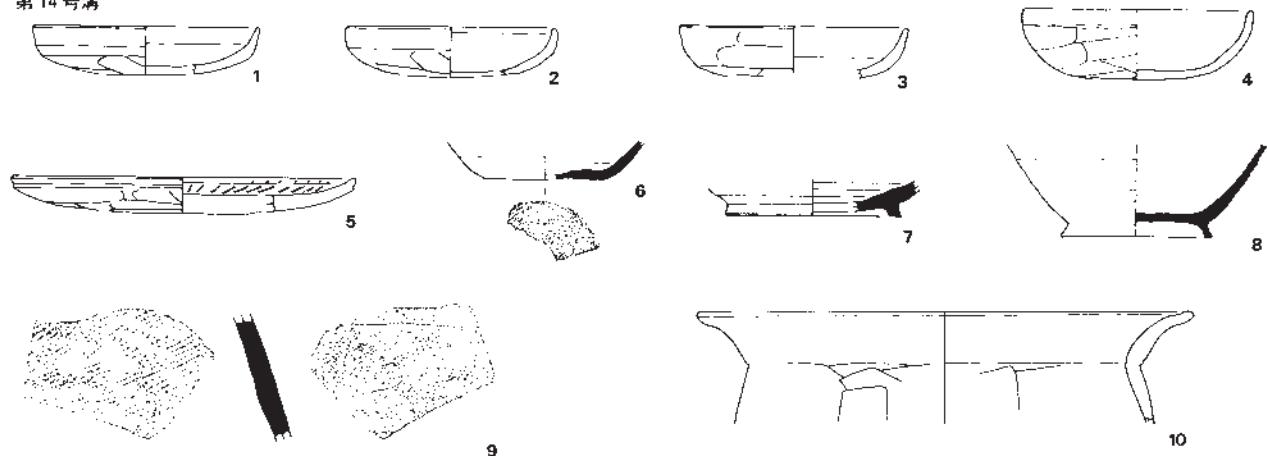
#### 第120号建物跡（第123図）

第21次調査区A区に位置し、第119・121号竪穴建物跡、第25号溝に切られる。平面形態は方形で、一辺4mを測る。主軸方位はN-20°-Wである。カマドは

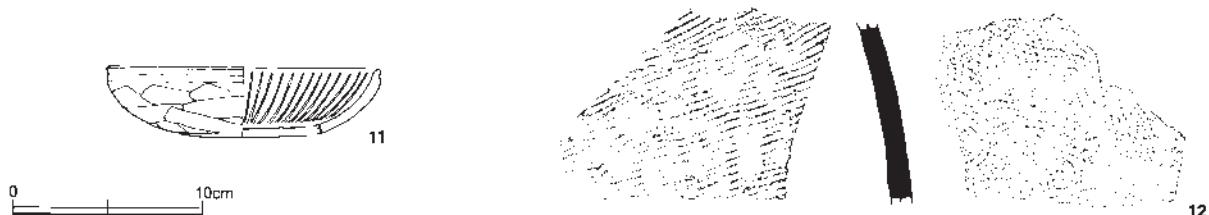


第116図 第1号道路跡（第21次調査区）

第14号溝



第25号溝



第117図 第1号道路跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
117図 1	SD14	H	壺	(11.8)	(2.6)		A B C E	普	橙	15%	
2		H	壺	(10.8)	(2.7)		A C D E	普	暗橙	15%	
3		H	壺	(11.8)			A C D E H	普	暗橙	15%	
4		H	壺	(11.9)	3.7		A C E	良	橙	40%	
5		H	皿	(18.0)	(1.9)		A B C E	普	橙	15%	
6		S	壺			(6.0)	A B C F H	普	灰	15%	
7		S	瓶			(9.2)	A C	良	灰		外面に自然釉
8		S	高台椀			8.0	A C F H	良	青灰	40%	
9		S	甕				A C G H	良	灰		
10		S	甕	(25.8)			A B C E H	普	橙	5%	
11	SD25	H	壺	(14.2)	(3.7)		A C E	普	橙	25%	
12		S	甕				A C H	普	青灰		

第45表 第1号道路跡出土遺物観察表

北西壁ほぼ中央に構築される。掘り下げはほとんど行

-30° -Wである。

なわなかつた。

床面は確認面から45cmの深さで、壁はほぼ垂直に

図示できる遺物は出土しなかつた。

立ち上がる。カマドは北西壁やや北寄りに構築される。

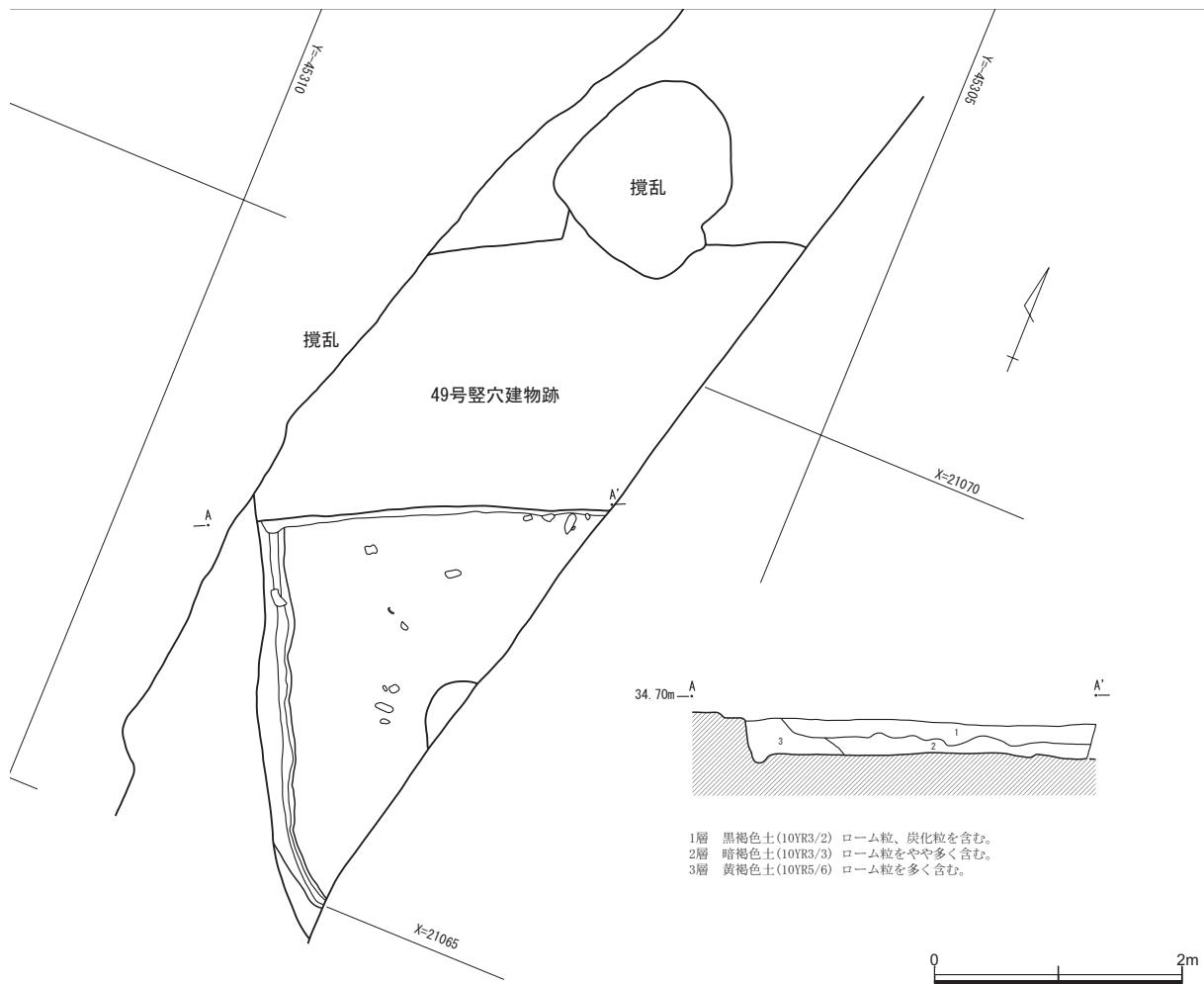
#### 第121号建物跡（第122～126図、第48・49表）

第21次調査区A区に位置し、第120・122号竪穴建物跡・倒木痕を切り、第25号溝に切られる。平面形態は方形で、長軸5.1m、短軸3.8mを測る。主軸方位はN

幅10cm、床面からの深さ7cmの壁溝が確認された。

図示できた遺物は、第125図1～第126図40である。

1は模倣壺、2～13は北武藏型壺、14～17は暗文壺、18は暗文皿である。19～22は須恵器で、19は高台壺、20は壺、21は長頸瓶、22は甕である。23～30は甕、



第118図 第49号竪穴建物跡

31は土錐、32～40は編物石である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

#### 第122号建物跡（第122～124図、第128図1～9、第50表）

第21次調査区A区に位置し、倒木痕を切り、第121号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸4.2m、短軸3.3mを測る。主軸方位はN-62°-Eである。

床面は確認面から35cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。幅10cm、床面からの深さ5cmの壁溝が一部で確認された。覆土にロームを多く含んでおり、埋め戻されたものと思われる。

図示できた遺物は、第128図1～9である。1・2は有段口縁壺、3は北武藏型壺、4・5は暗文壺、6・

7は須恵器で6は壺、7はフラスコ瓶と思われる。8は甌、9は編物石である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

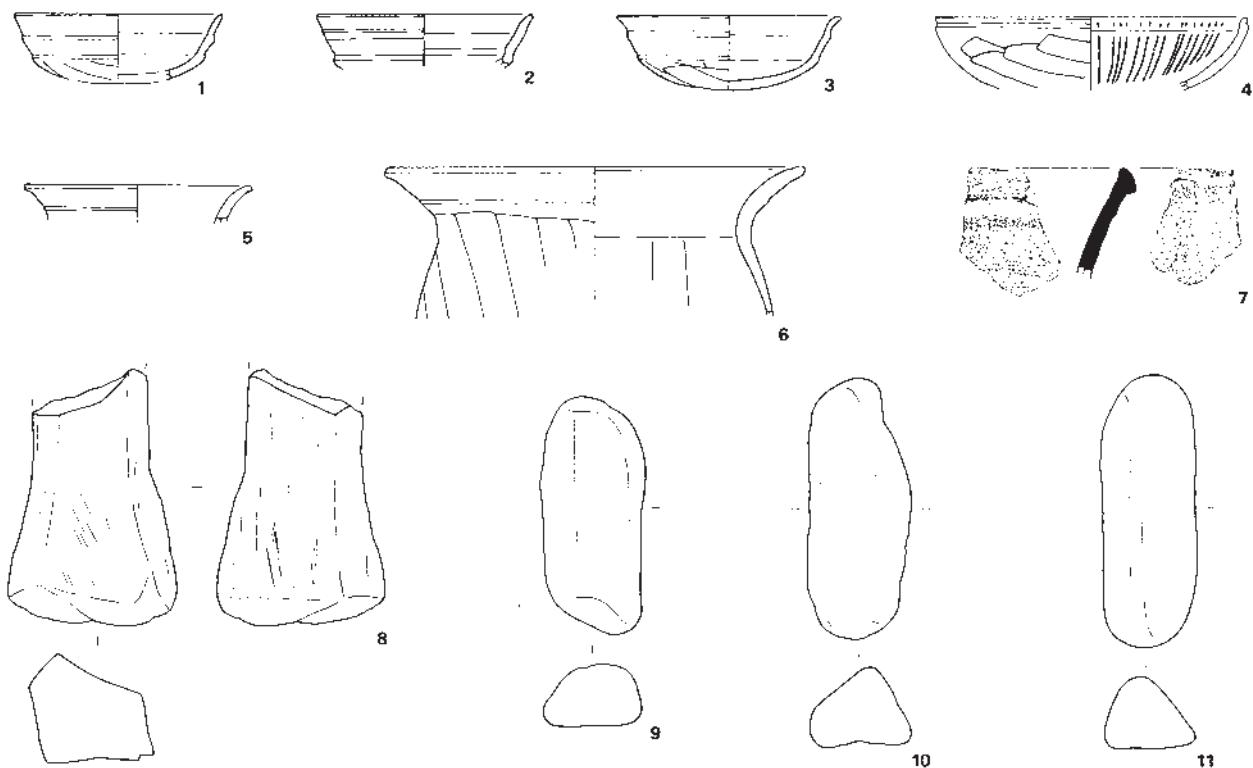
#### 第123号建物跡（第127図、第128図10～15、第50表）

第21次調査区A区に位置し、第624号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸4.1m、短軸3.5mを測る。主軸方位はN-45°-Eである。

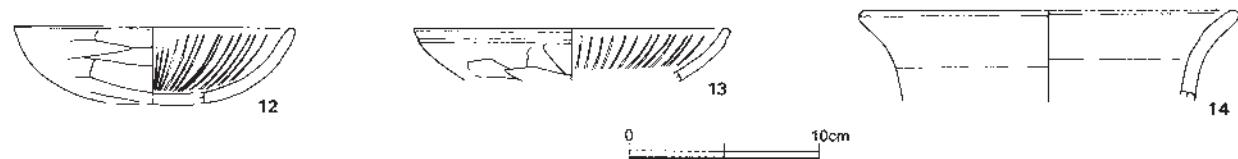
床面は確認面から35cmの深さで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは北東壁ほぼ中央に構築される。幅8cm、床面からの深さ3cmの壁溝が、北隅を除いて確認された。

図示できた遺物は、第128図10～15である。10は北武藏型壺、11は鉢、12～14は甌、15は編物石である。

第49号竪穴建物跡



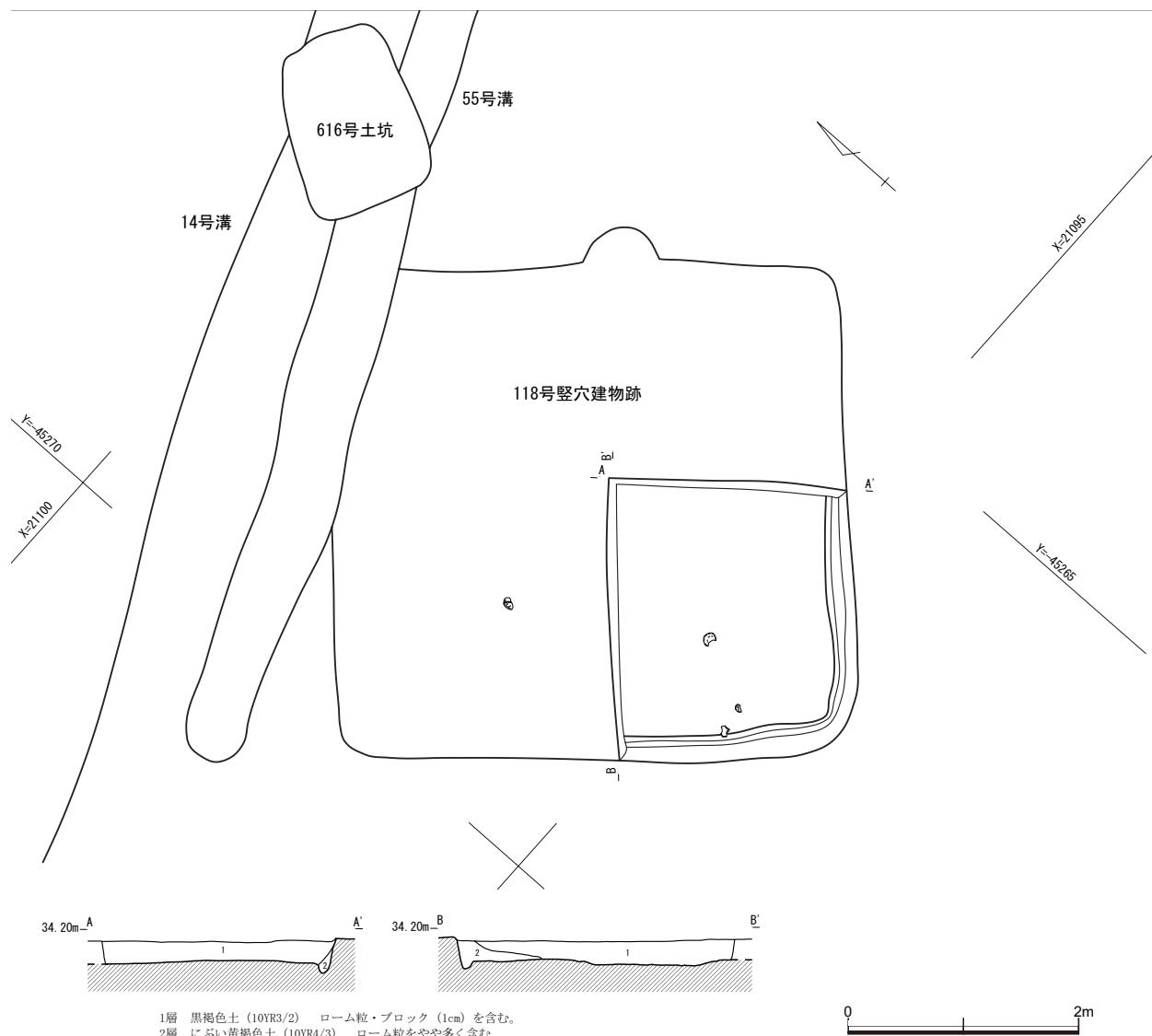
第64号竪穴建物跡



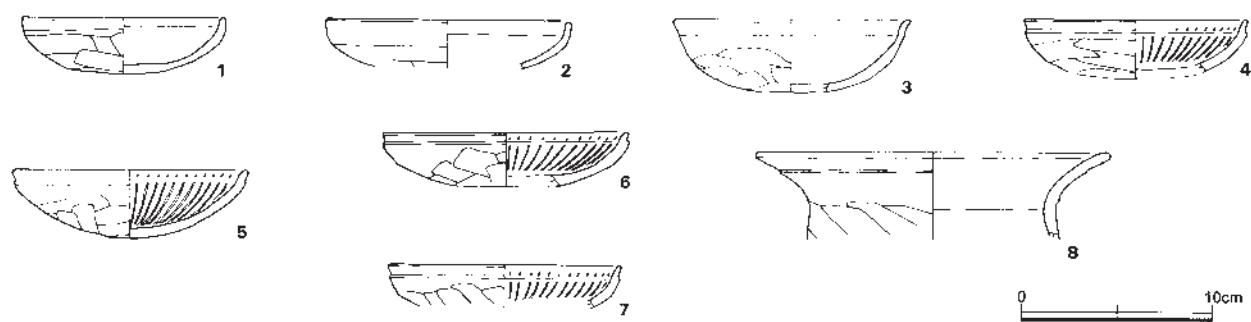
第119図 第49・64号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
119図	SJ49	H	壺	(10.8)	(3.7)		A B C E	普	黒褐	25%	
		H	壺	(11.2)			A B C E	普	橙	20%	
		H	壺	(11.6)	3.9		A B C E	普	灰褐	50%	
		H	壺	(16.2)			A B C E	普	赤褐	25%	
		H	甕	(11.8)			A C E	普	黄橙	5%	
		H	甕	(21.6)			A B C H	普	橙	20%	
		S	甕				A C	良	暗灰		
	8	砥石		幅 8.6	厚 5.7	石材 凝灰岩					
		編物石		長 12.2	幅 5.2	厚 3.2	石材 砂岩				重さ 370 g
		編物石		長 13.7	幅 5.3	厚 4.0	石材 砂岩				重さ 445 g
		編物石		長 14.4	幅 4.8	厚 3.8	石材 砂岩				重さ 435 g
12	SJ64	H	壺	(14.6)	(4.1)		A C E	普	赤褐	20%	
13		H	壺	(16.4)			A C E	普	暗褐	15%	
14		H	甕	(19.4)			A B C E H	普	橙	5%	

第46表 第49・64号竪穴建物跡出土遺物観察表



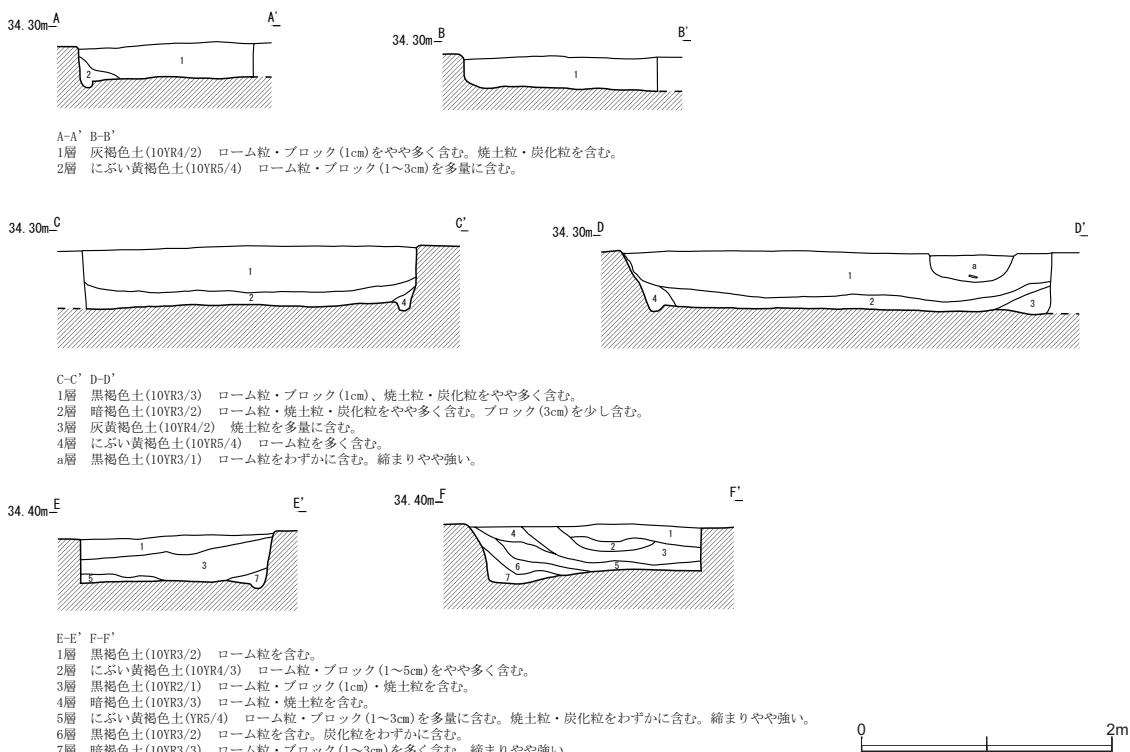
第120図 第118号竖穴建物跡



第121図 第118号竖穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
121図	SJ118	H	壺	10.6	3.0		A B C E	普	橙	80%	
			壺	(12.7)			A C E	普	橙	15%	
			壺	(12.2)	(3.7)		A C E	普	赤褐	30%	
			壺	(11.6)	(3.1)		A B C E H	普	赤褐	25%	
			壺	(12.2)	3.6		A C E	普	赤褐	40%	
			壺	(12.7)	(2.8)		A B C E H	普	暗褐	25%	
			壺	(12.0)			A C E	普	橙	20%	
			甕	(18.2)			A C E H I	普	暗橙	5%	

第47表 第118号竪穴建物跡出土遺物観察表



第122図 第119・121・122号竪穴建物跡土層断面

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

段口縁壺、17は須恵器壺である。

#### 第124号建物跡（第128図16・17、第51表）

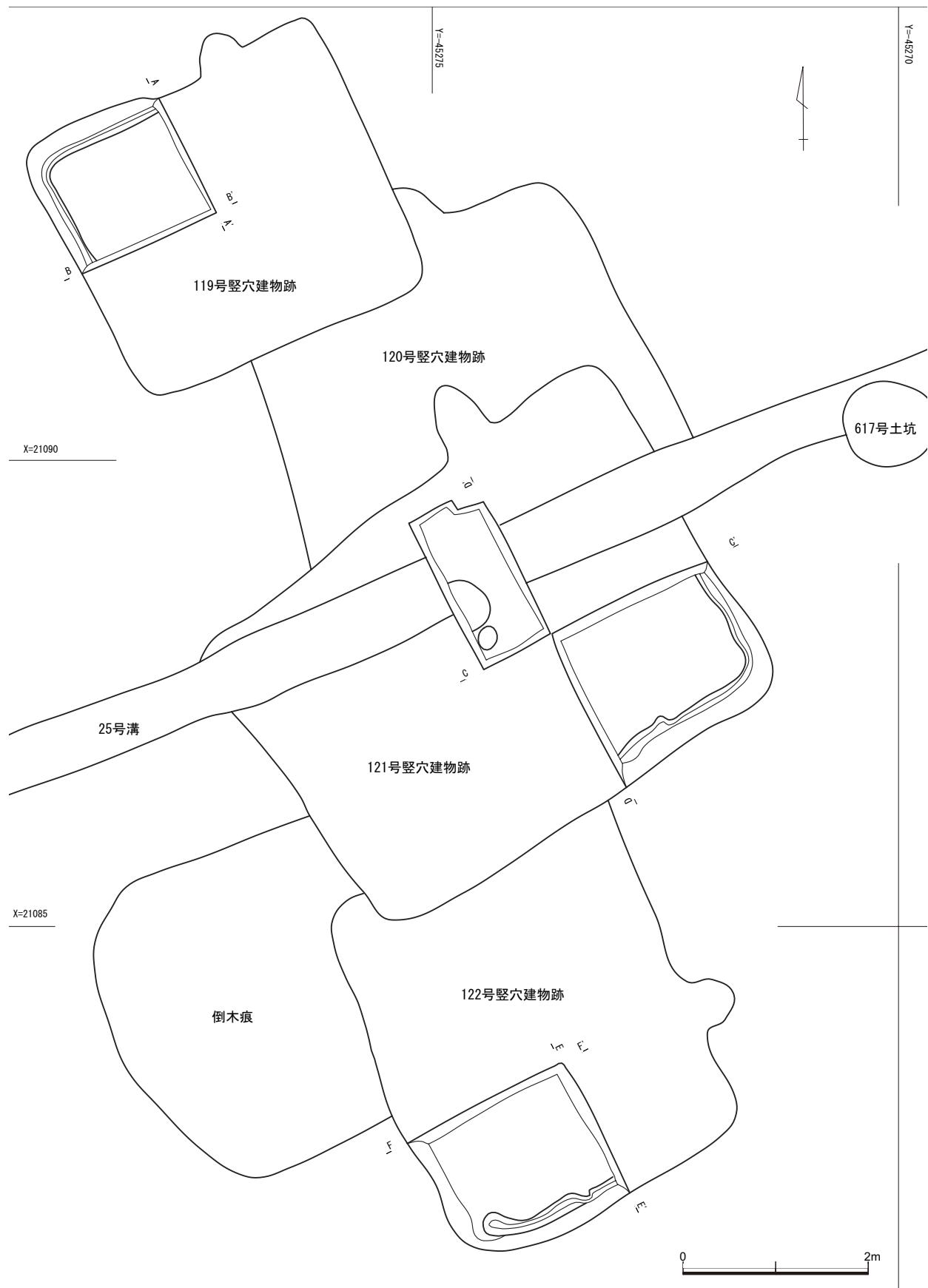
第21次調査区A区に位置する。平面形態は方形で、一辺5mを測る。主軸方位はN-40°-Wである。カマドは北西壁ほぼ中央に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第128図16・17である。16は有

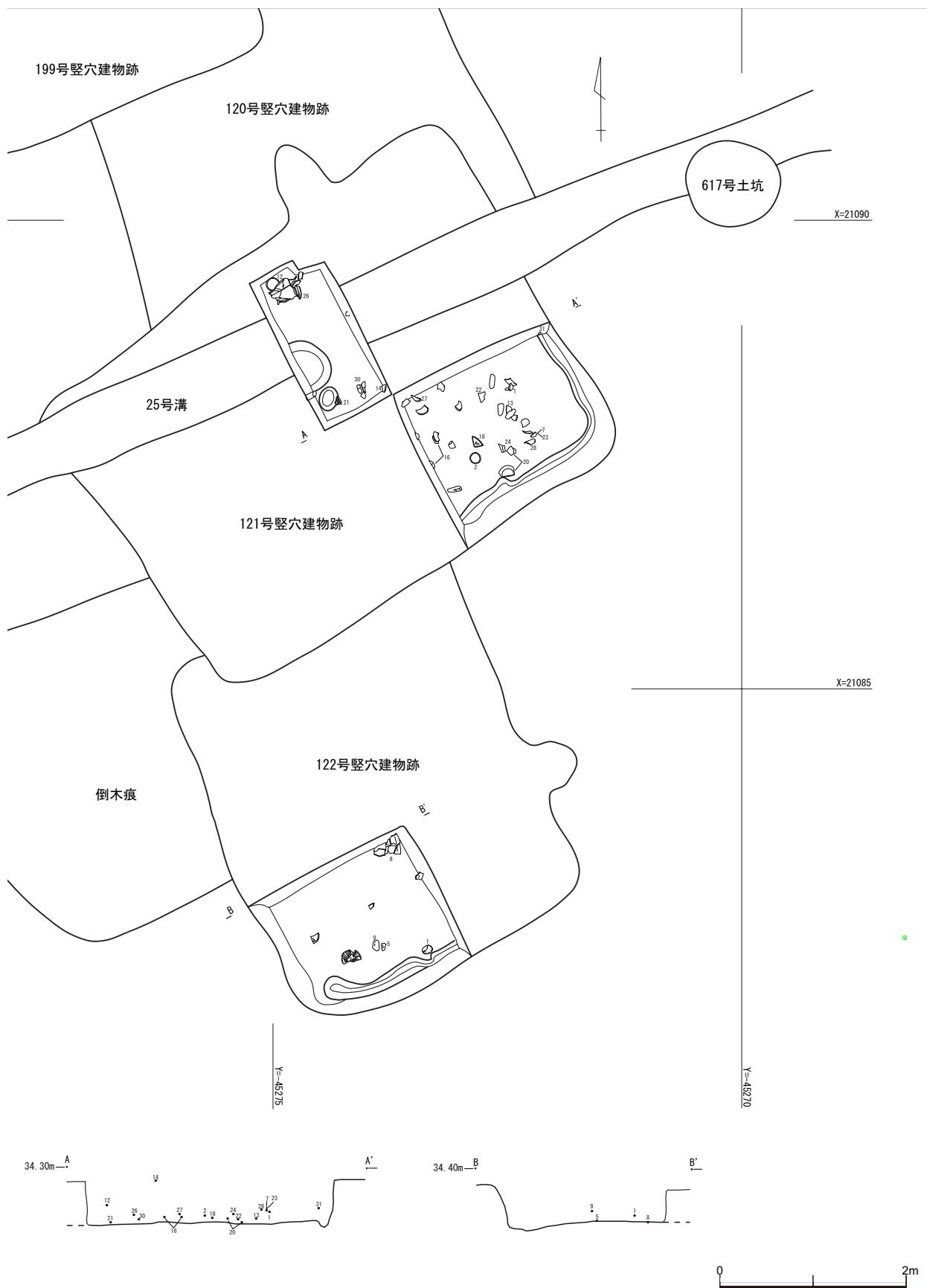
#### 第125号建物跡

第21次調査区A区に位置する。平面形態は方形で、主軸方位はN-70°-Eである。カマドは北東壁に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

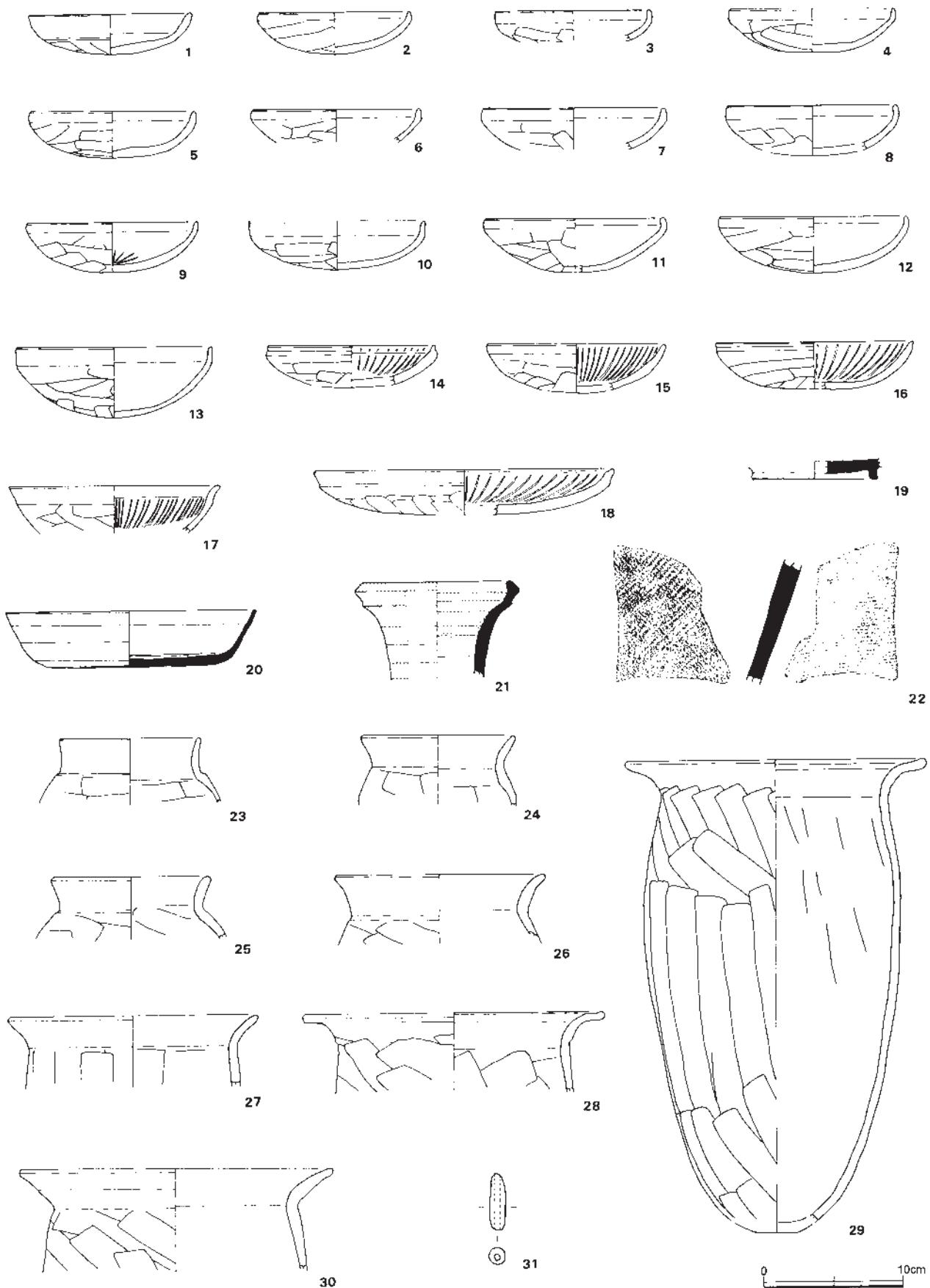
図示できる遺物は出土しなかった。



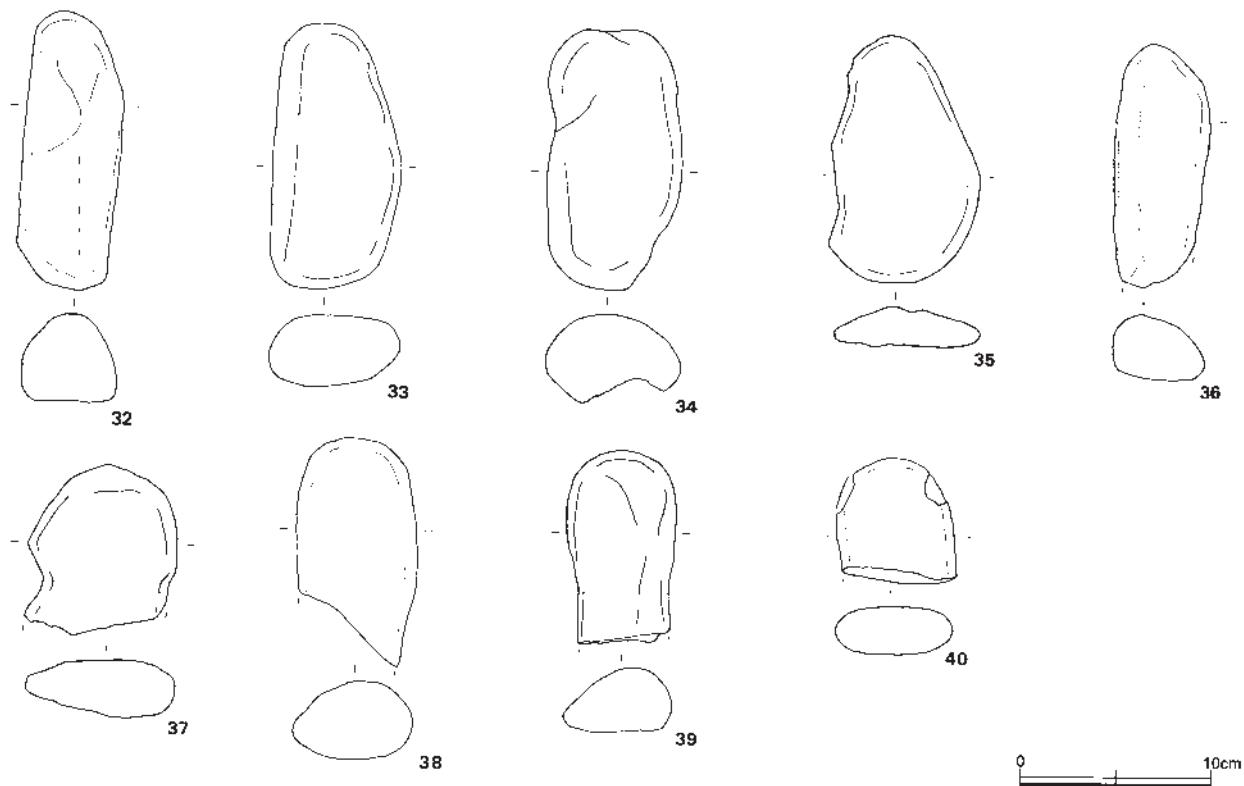
第123図 第119～122号竪穴建物跡



第124図 第121・122号竪穴建物跡遺物出土状況



第125図 第121号竖穴建物跡出土遺物 (1)



第126図 第121号竪穴建物跡出土遺物 (2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
125図 1	SJ121	H	壺	(11.5)	2.9		A B C E H	普	橙	30%	
2		H	壺	10.7	3.0		A C E H	普	橙	100%	
3		H	壺	(11.0)			A C E	普	橙	20%	
4		H	壺	(11.8)	3.1		A C E H	普	橙	50%	
5		H	壺	11.8	3.4		A C E	普	橙	95%	
6		H	壺	(11.8)			A C E I	普	橙	15%	
7		H	壺	(12.8)			A B C E I	普	橙	20%	
8		H	壺	(12.0)	(3.7)		A B C E	普	橙	20%	
9		H	壺	(12.2)	3.6		A C E H	普	暗橙	30%	内面に放射状の線刻
10		H	壺	(12.5)	3.5		A B C E	普	橙	40%	
11		H	壺	(12.8)	3.9		A C E	普	橙	40%	
12		H	壺	13.3	4.1		A C E H	普	暗橙	90%	
13		H	壺	(14.0)	5.0		A B C E H	普	橙	50%	
14		H	壺	(12.0)	(3.0)		A B C E	普	橙	25%	
15		H	壺	(12.6)	(4.0)		A B C E	普	橙	25%	
16		H	壺	(14.0)	3.4		A C E H	普	赤褐	40%	
17		H	壺	(15.0)			A B C E	普	橙	20%	
18		H	皿	(21.4)	(3.2)		A B C E	普	にぶい橙	25%	
19		S	高台壺			(8.8)	A C	良	灰	10%	
20		S	壺	17.8	4.0	12.0	A C F H	良	青灰	85%	
21		S	長頸瓶	(10.6)			A C	良	灰	5%	内外面に自然釉
22		S	甕				A C F H	良	灰		
23		H	甕	(10.0)			A C E	普	黒褐	10%	

第48表 第121号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
125 図 24 25 26 27 28 29 30 31	SJ121	H	甕	(10.8)			A C E	普	赤褐	15%	
			甕	(11.0)			A C E H	普	暗橙	10%	
			甕	(14.8)			A B C E	普	暗褐	10%	
			甕	(17.8)			A C E H	普	暗褐	15%	
			甕	(21.4)			A C E H	普	暗褐	15%	
			甕	21.2	(34.0)		A B C E H	普	橙	90%	
			甕	(22.4)			A B C E H	普	橙	15%	
			土錘	長 4.0	幅 1.1	厚 1.2	A C E	普	赤褐	70%	重さ 4.25 g
126 図 32 33 34 35 36 37 38 39 40	SJ121		編物石	長 4.6	幅 5.2	厚 4.6	石材 砂岩			重さ 484 g	
			編物石	長 14.0	幅 6.8	厚 3.8	石材 砂岩			重さ 533 g	
			編物石	長 13.6	幅 7.1	厚 4.3	石材 砂岩			重さ 556 g	
			編物石	長 12.9	幅 7.6	厚 2.0	石材 片岩			重さ 296 g	
			編物石		幅 4.6	厚 3.3	石材 砂岩			重さ 272 g	
			編物石		幅 7.8	厚 3.1	石材 砂岩			重さ 285 g	
			編物石		幅 6.2	厚 4.1	石材 砂岩			重さ 424 g	
			編物石		幅 5.7	厚 3.3	石材 砂岩			重さ 283 g	
			編物石		幅 6.1	厚 2.5	石材 砂岩			重さ 160 g	

第49表 第121号竪穴建物跡出土遺物観察表 (2)

棒状鉄製品、39～46は編物石である。

遺構の時期は、10世紀前半と推定される。

### 第126号建物跡

第21次調査区A区に位置し、第618号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸4.1m、短軸2.6mを測る。主軸方位はN-74°-Eである。カマドは東壁やや南寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかつた。

図示できる遺物は出土しなかつた。

### 第127号建物跡（第129～132図、第52～55表）

第21次調査区A区に位置する。平面形態は方形で、一辺5.4mを測る。主軸方位はN-28°-Wである。床面は確認面から45cmの深さで、壁は斜めに立ち上がる。カマドは北西壁ほぼ中央に構築される。床下土坑が確認された。

図示できた遺物は、第131図1～第132図46である。

1～11は口クロ土師器で、1・2は壺、3～11は高台椀である。12は有段口縁壺、13～16は北武藏型壺、17～20は暗文壺、21～27は須恵器で、21は蓋、22は壺、23は高台壺、24～26は甕、27は瓶である。28・29は甕、30は台壺甕、31・32は土錘、33～35は釘、36・38は

### 第128号建物跡

第21次調査区C区に位置し、第623号土坑を切り、第54(a)号溝に切られる。平面形態は方形で、主軸方位はN-68°-Eである。カマドは東壁ほぼ中央に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかつた。

図示できる遺物は出土しなかつた。

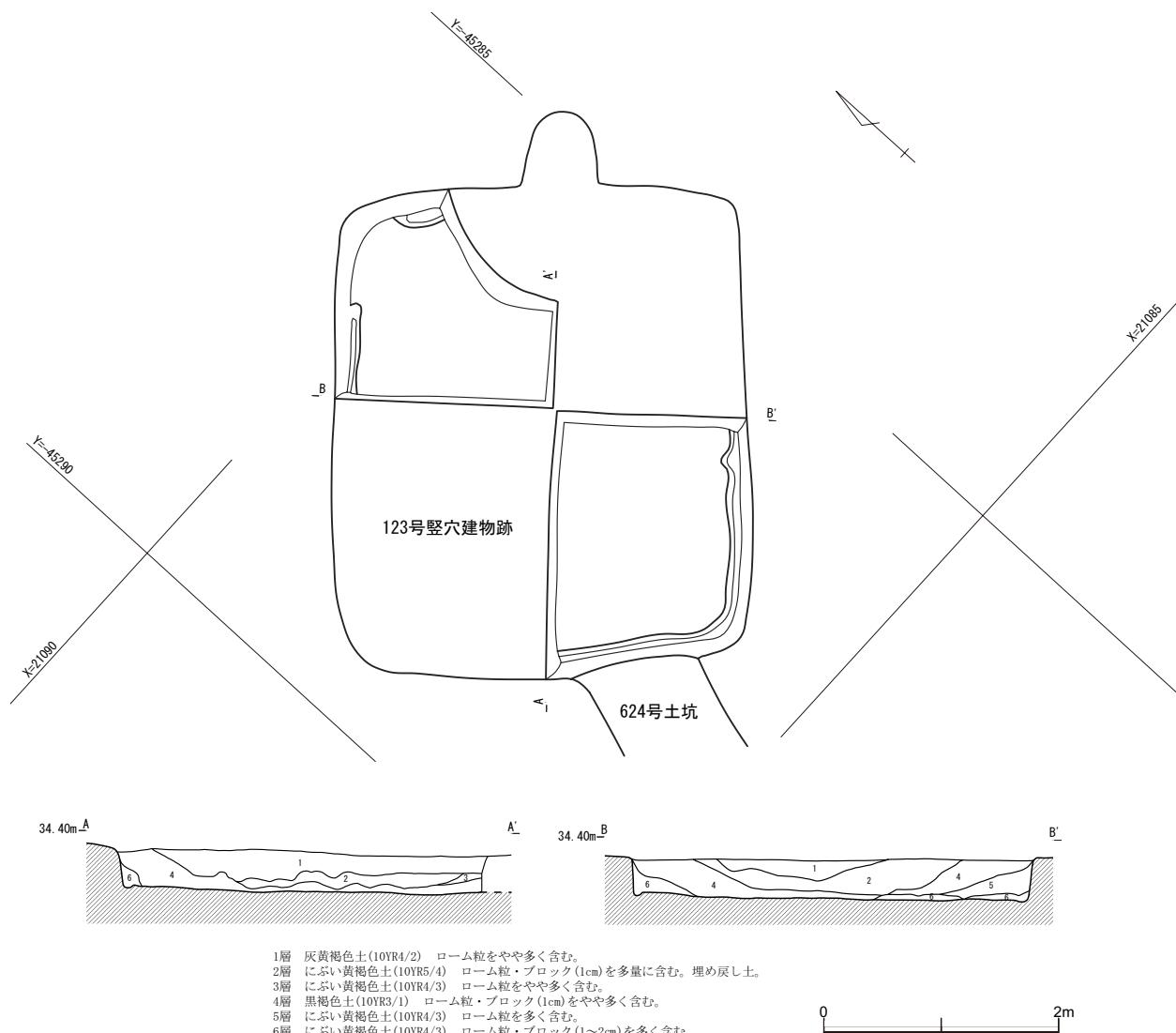
### 第129号建物跡

第21次調査区C区に位置する。平面形態は方形で、主軸方位はN-34°-Wである。カマドは北西壁に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかつた。

図示できる遺物は出土しなかつた。

### 第130号建物跡（第128図18、第51表）

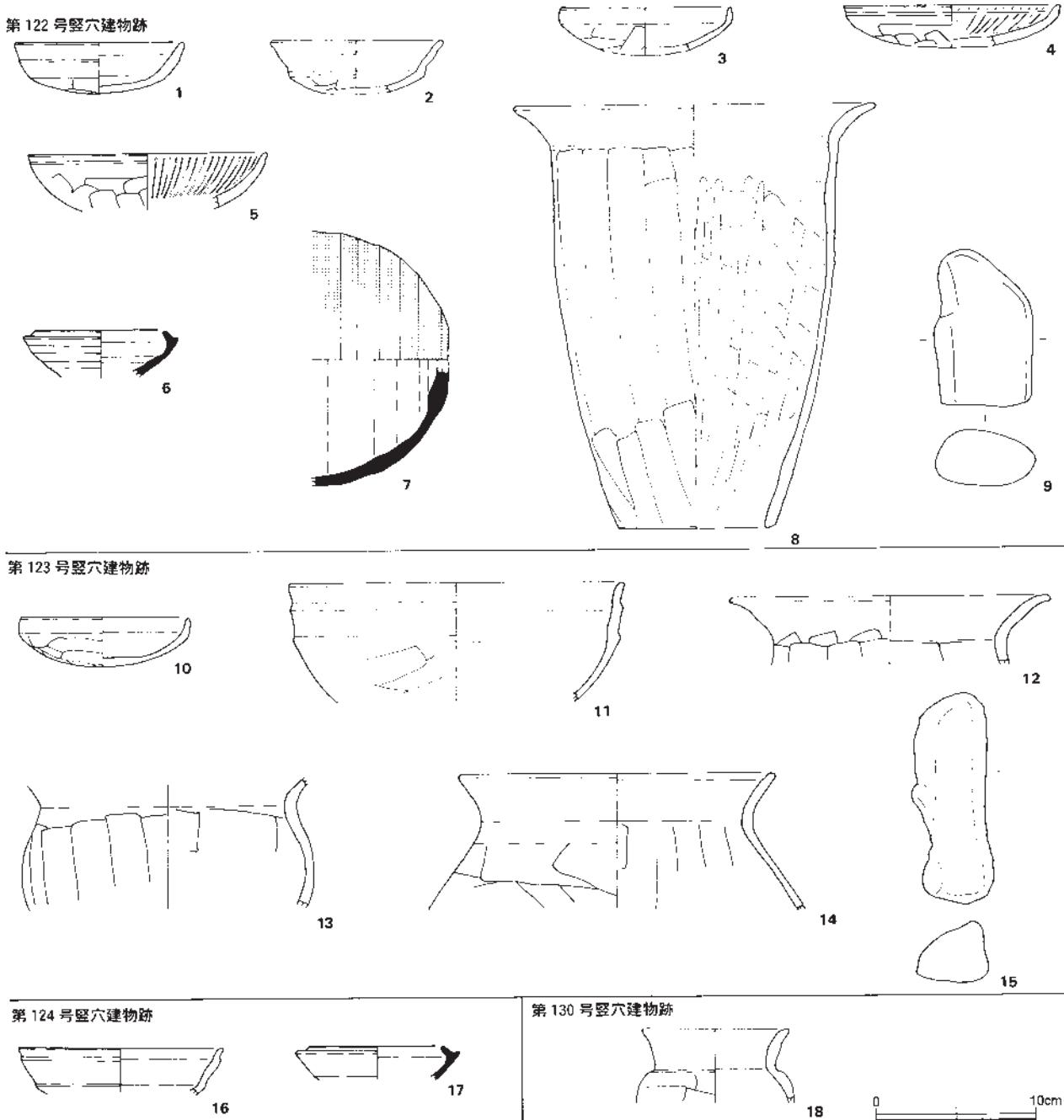
第21次調査区C区に位置し、第131号竪穴建物跡を切り、第54(b)号溝に切られる。平面形態は方形で、長軸5.3m、短軸3.2mを測る。主軸方位はN-32°-Wである。カマドは北西壁やや南寄りに構築される。



第127図 第123号竖穴建物跡

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
128図	SJ122	H	壺	10.4	3.2		A C E	普	赤褐	95%	
		H	壺	(10.6)	(3.4)		A B C E	普	橙	25%	
		H	壺	(10.5)	(3.0)		A C E H	普	橙	30%	
		H	壺	(13.4)	(2.6)		A B C E	普	橙	20%	
		H	壺	(14.8)			A C E	普	黄橙	25%	
		S	壺	(9.6)			A C	良	灰	20%	
		S	フタ口瓶				A C	良	灰	10%	外面に自然釉
		H	甕	(22.2)	26.6	9.4	A B C E	普	暗橙	30%	
			編物石		幅 6.1	厚 3.5	石材 砂岩				重さ 345 g
	SJ123	H	壺	10.4	3.1		A B C E	普	橙	60%	
		H	鉢	(20.6)			A B C E H	普	橙	15%	
		H	甕	(19.6)			A B C E	普	橙	5%	
		H	甕	(19.4)			A B C E	普	暗赤褐	10%	
		H	編物石	長 13.1	幅 4.5	厚 3.7	A B C H	普	橙	10%	重さ 381 g

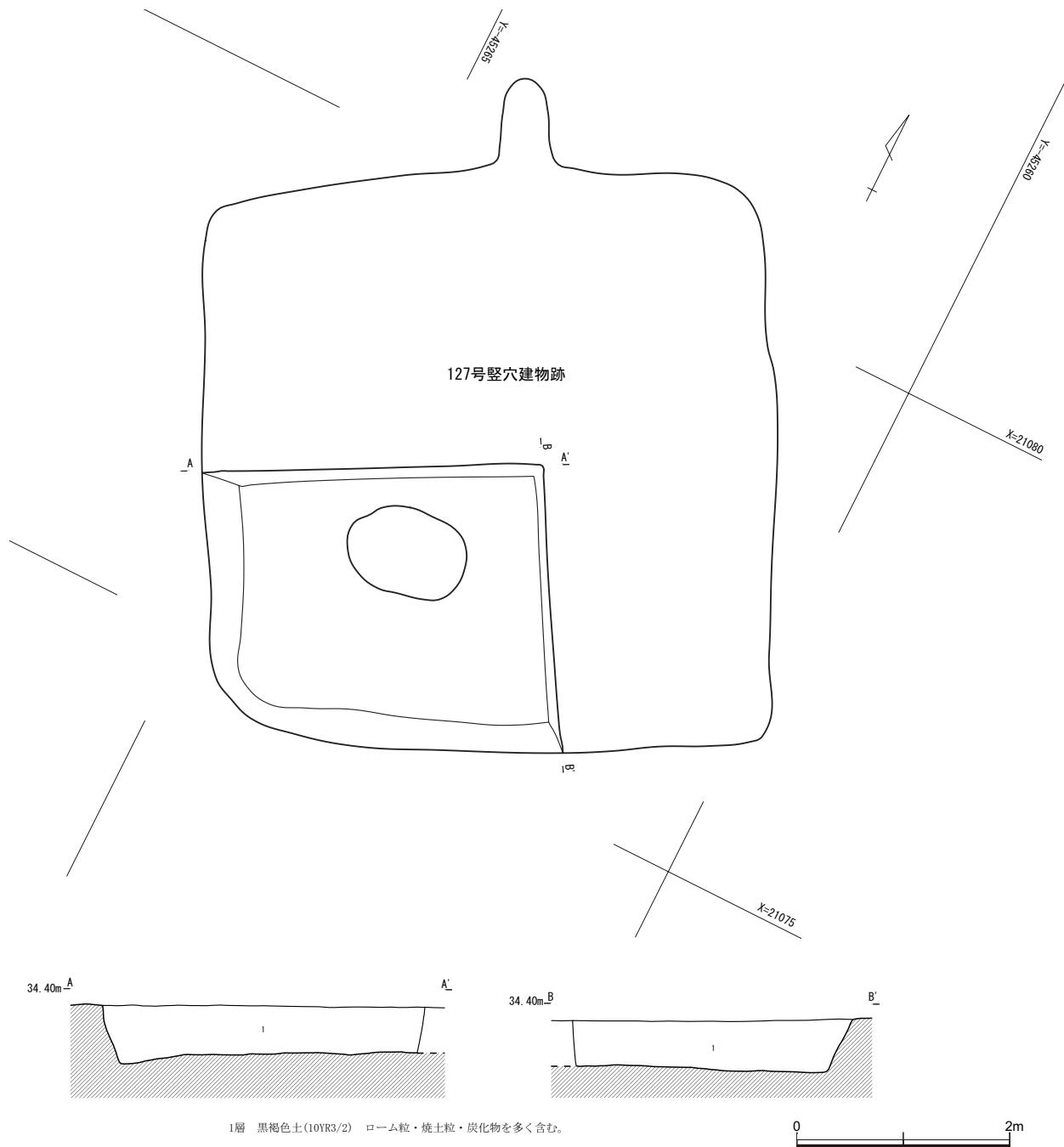
第50表 第122・123号竖穴建物跡出土遺物観察表



第128図 第122～124・130号竪穴建物跡出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
128図	16	SJ124	H	环	(12.6)		A B C	普	灰褐	10%	
	17	S	环	(10.0)			A C	良	灰	10%	
	18	SJ130	H	甕	(9.0)		A B C E	普	橙	10%	

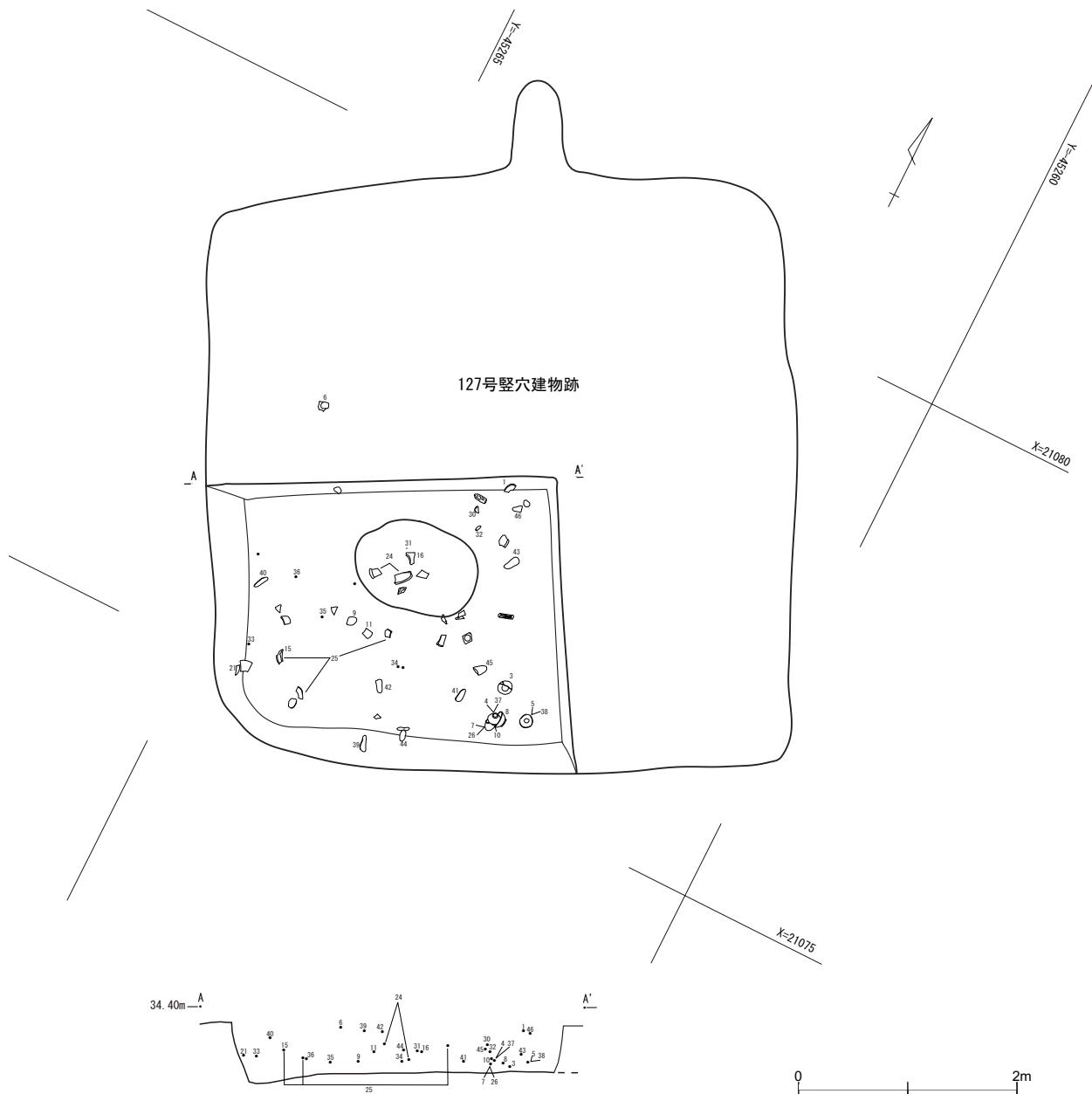
第51表 第124・130号竪穴建物跡出土遺物観察表



第129図 第127号竪穴建物跡

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
131図	SJ127	R	壺	11.8	4.9	5.4	A B C E	普	橙	80%	
		R	壺	13.2	4.4	5.0	A B C E	普	橙	75%	
		R	高台椀	12.8	5.1	6.0	A C F H I	普	暗褐	95%	
		R	高台椀	13.0	5.3	6.0	A B C H I	普	暗橙	95%	内外面に煤が付着
		R	高台椀	13.2	5.3	6.1	A B C E F H	普	橙	100%	
		R	高台椀	(14.2)	5.4	6.4	A B C E	普	橙	60%	
		R	高台椀	13.8	6.1	6.0	A B C E	普	橙	100%	

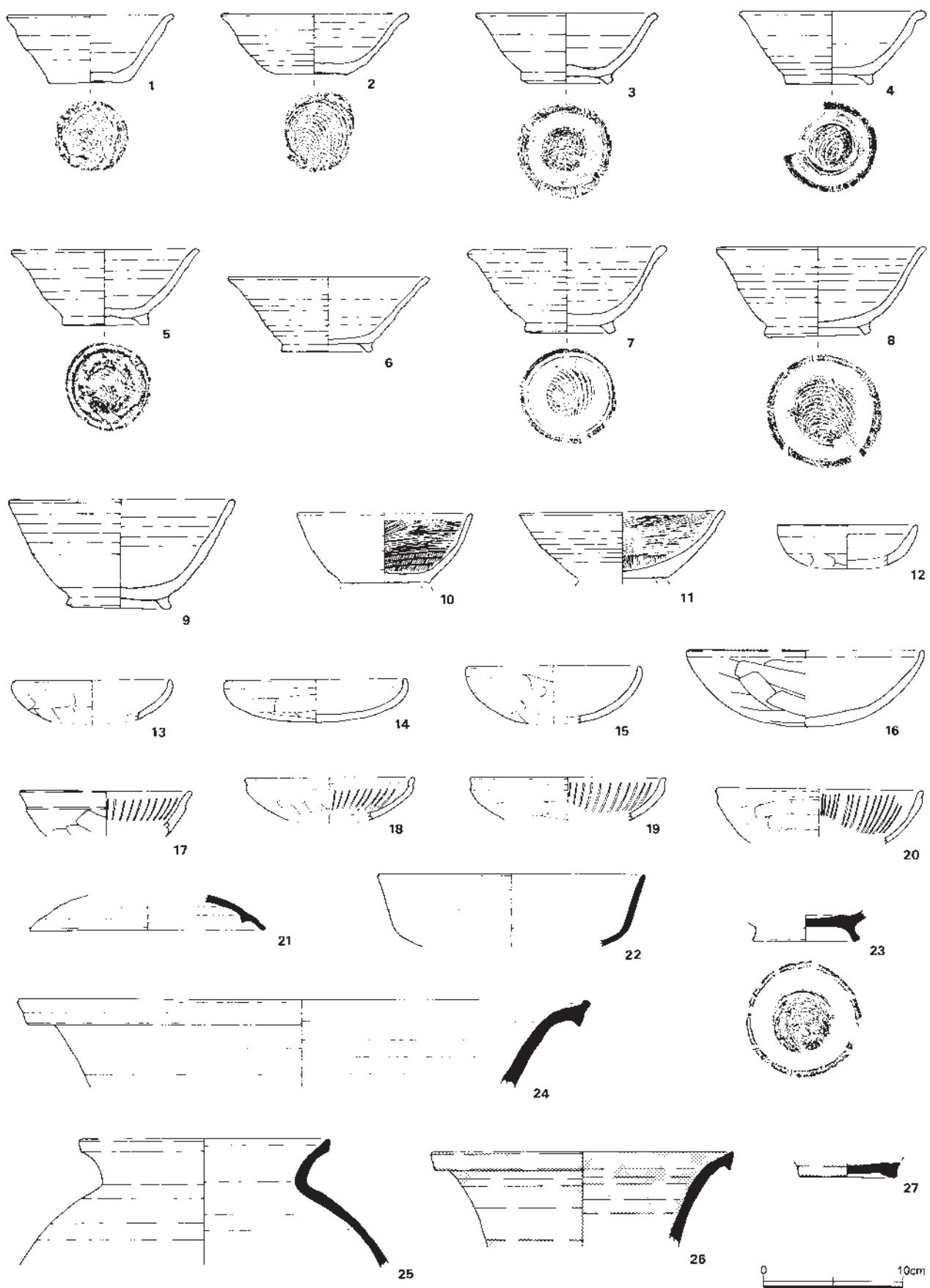
第52表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)



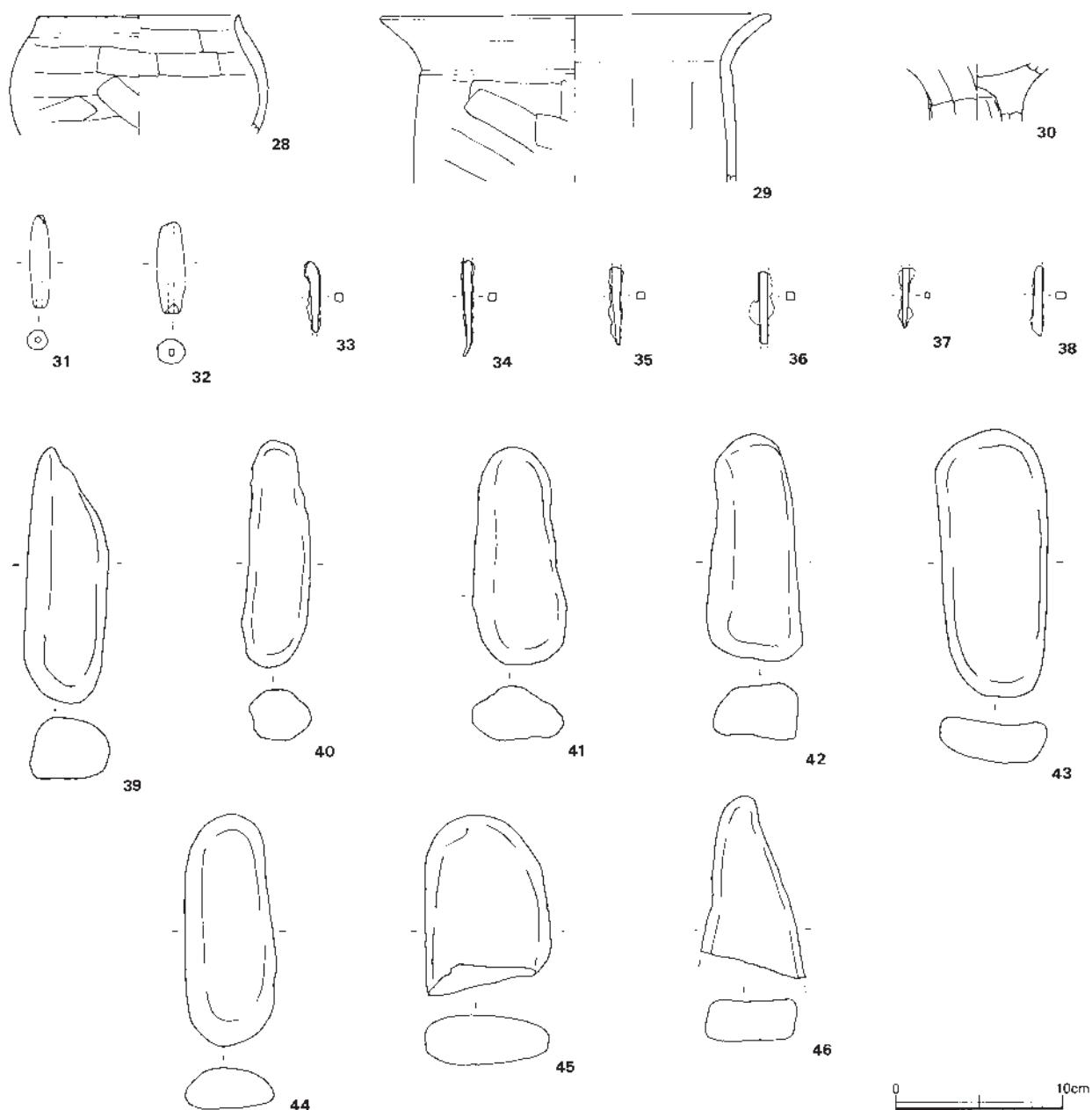
第130図 第127号竖穴建物跡遺物出土状況

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
131図 8	SJ127	R	高台椀	14.8	6.4	7.0	A C E	普	灰	100%	
9		R	高台椀	16.0	7.8	7.2	A B C E	普	橙	95%	
10		R	高台椀	12.4			A B C D E	普	暗褐	80%	
11		R	高台椀	(14.4)			A B C E F H	普	橙	25%	
12		H	坏	(9.8)	(3.2)		A C E	普	赤褐	20%	
13		H	坏	(11.1)	(3.2)		A C E	普	暗橙	20%	
14		H	坏	(12.8)	3.1		A C E	普	暗橙	25%	
15		H	坏	(12.2)	(4.2)		A B C E	普	橙	40%	
16		H	坏	(16.8)	5.6		A B C E	普	橙	40%	
17		H	坏	(12.2)			A B C E	普	橙	20%	

第53表 第127号竖穴建物跡出土遺物観察表 (2)



第131図 第127号竪穴建物跡出土遺物 (1)



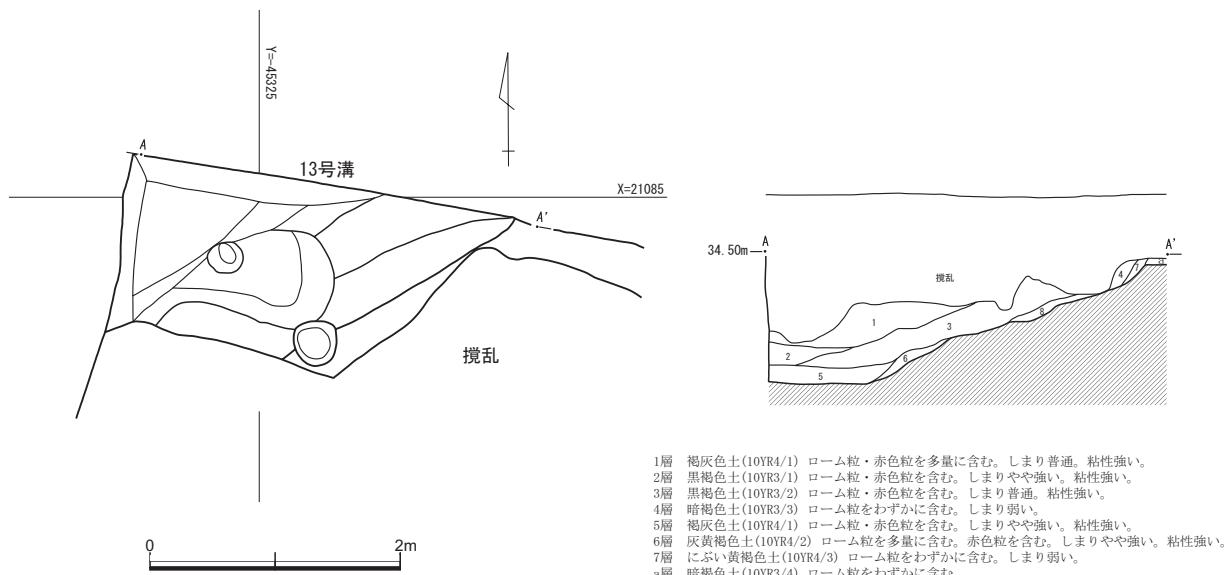
第132図 第127号竪穴建物跡出土遺物 (2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
131図	18	SJ127	H	坏	(12.0)	(3.3)	A B C E	普	赤褐	20%	
	19		H	坏	(13.8)		A C E	普	橙	20%	
	20		H	坏	(14.6)		A B C E	普	橙	20%	
	21		S	蓋	(16.8)		A C F H	良	青灰	20%	
	22		S	坏	(19.0)		A C F H	良	灰	15%	
	23		S	高台坏		7.2	A B C F H	普	灰	30%	
	24		S	甕	40.8		A C F H	良	青灰	5%	
	25		S	甕	17.6		A B C G	不良	灰橙	20%	
	26		S	甕	21.4		A C	良	灰	5%	内外面に自然釉
	27		S	瓶		(6.8)	A C H	良	灰		外面に自然釉

第54表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表 (3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
132図 28	SJ127	H	甕	(12.0)			A B C E	普	赤褐	20%	
29		H	甕	(23.0)			A B C E H	普	橙	5%	
30		H	台付甕				A B C E H	普	暗褐		
31			土錘	長 5.5	幅 1.2	厚 1.2	A C H	普	暗橙	95%	重さ 7.95 g
32			土錘	長 5.4	幅 1.7	厚 1.5	A B C E	普	暗赤褐	90%	重さ 14.78 g
33			釘		幅 0.5	厚 0.5					重さ 2.99 g
34			釘		幅 0.5	厚 0.5					重さ 3.21 g
35			釘		幅 0.5	厚 0.4					重さ 3.07 g
36			棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.5					重さ 4.25 g
37			釘		幅 0.3	厚 0.3					重さ 1.57 g
38			棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.4					重さ 1.81 g
39			編物石	長 15.1	幅 4.8	厚 3.6	石材 砂岩				重さ 452 g
40			編物石	長 13.5	幅 3.6	厚 3.0	石材 片岩				重さ 227 g
41			編物石	長 13.0	幅 5.5	厚 3.2	石材 片岩				重さ 333 g
42			編物石	長 13.5	幅 5.4	厚 3.4	石材 砂岩				重さ 400 g
43			編物石	長 15.9	幅 6.3	厚 2.3	石材 砂岩				重さ 535 g
44			編物石	長 13.8	幅 5.2	厚 2.4	石材 砂岩				重さ 259 g
45			編物石		幅 7.4	厚 2.9	石材 砂岩				重さ 385 g
46			編物石		幅 5.8	厚 2.4	石材 砂岩				重さ 233 g

第55表 第127号竪穴建物跡出土遺物観察表 (4)



第133図 第13号溝

掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第128図18の甕である。

## e 溝

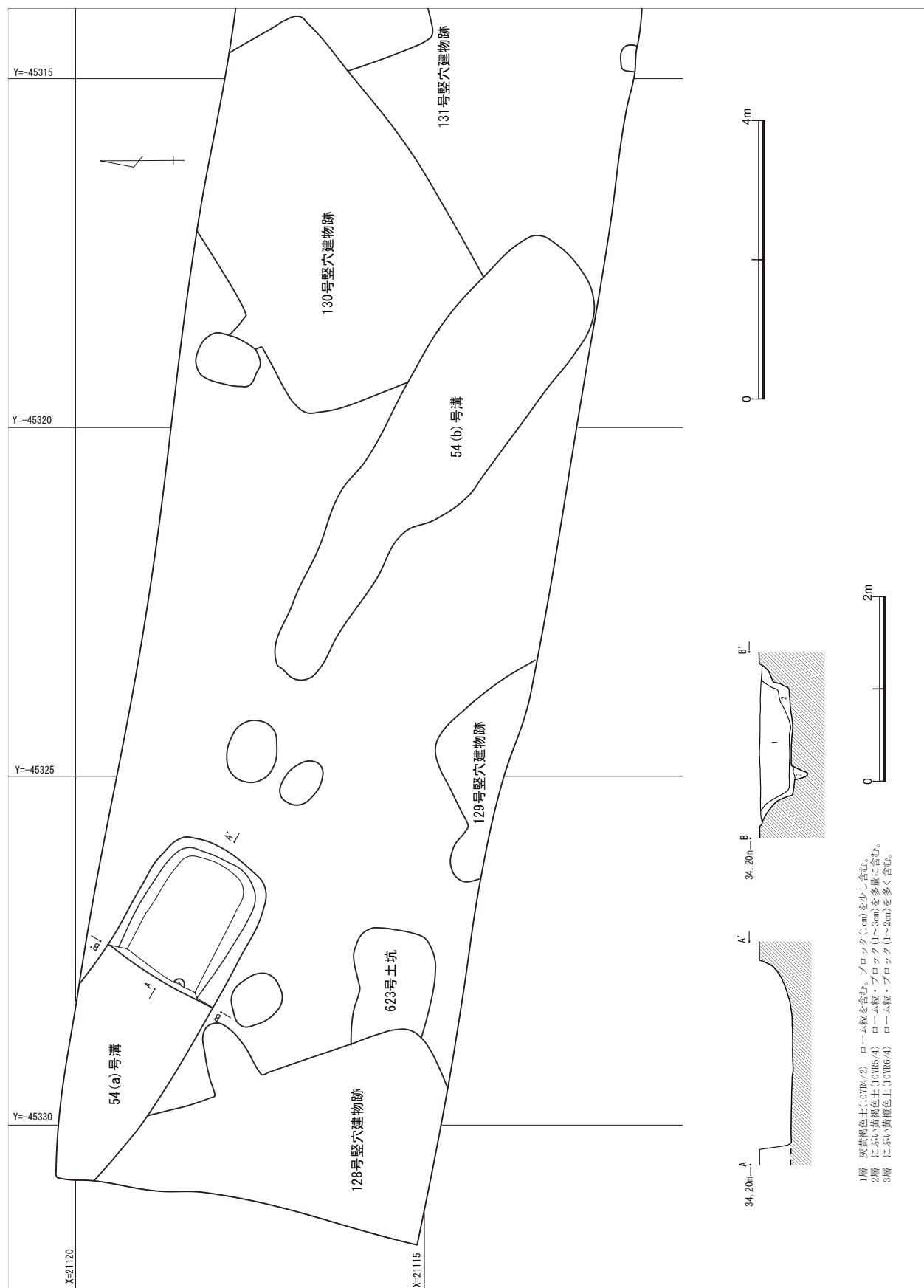
### 第131号建物跡

第21次調査区C区に位置し、第130号竪穴建物跡に切られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

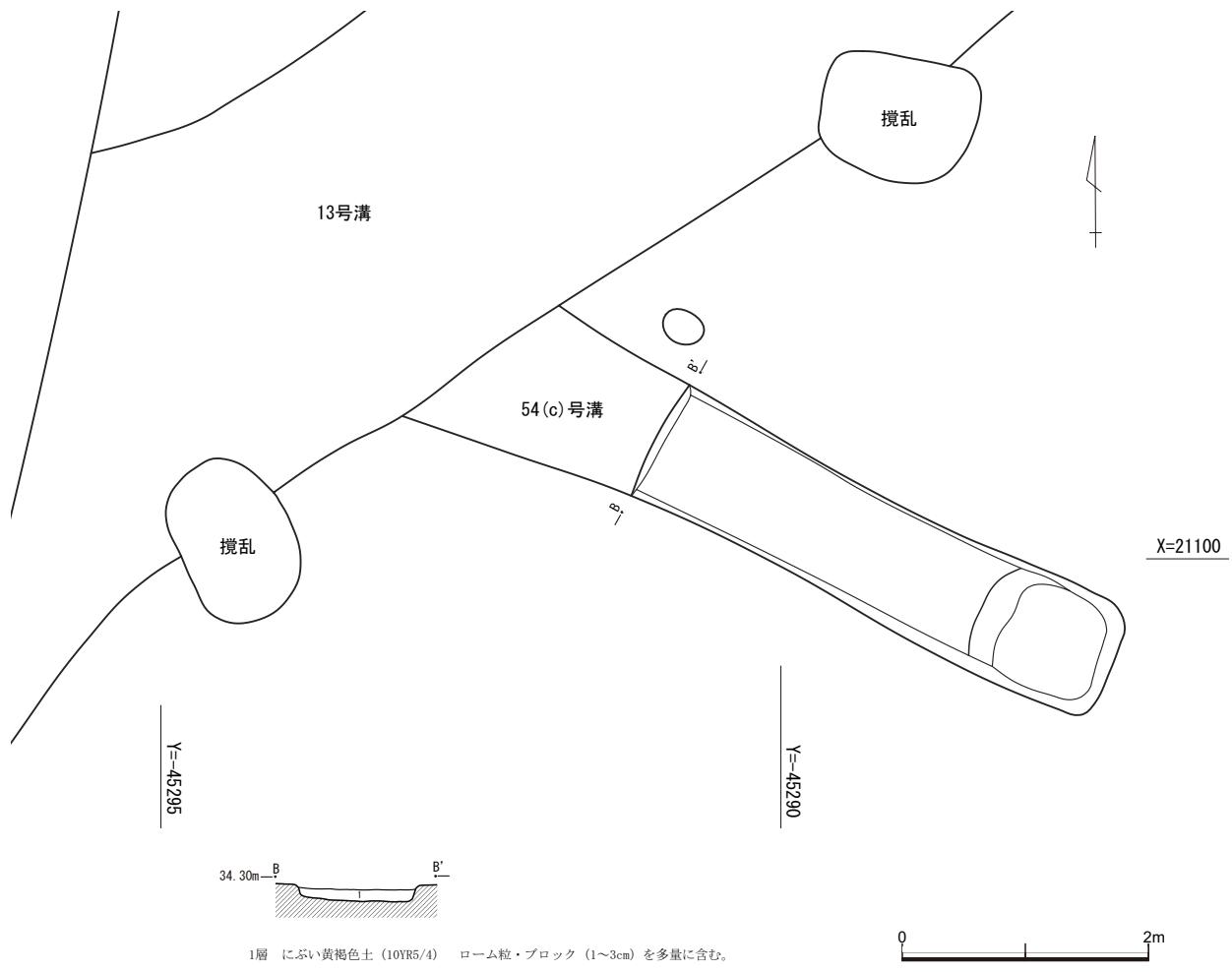
図示できる遺物は出土しなかった。

### 第13号溝 (第133図、第136図1・2、第56表)

第6次調査区A区、第15次調査区、第21次調査区A・B区で確認され、第54(c)号溝を切る。幅3~3.6mで、主軸方位はN-58°-Eである。確認面からの



第134図 第54号溝 (1)



第135図 第54号溝 (2)

深さは1mを測り、壁は斜めに立ち上がる。第7次調査区で調査されたものと同一で、古代末頃のものと思われる。

図示できた遺物は、第136図1・2である。1は須恵器甕、2は土錐である。

#### 第15号溝（第114図、第136図3、第56表）

第6次調査区A区で確認された。幅0.7m、確認面からの深さ20cmを測る。主軸方位はN-60°-Eである。

図示できた遺物は、第136図3の須恵器甕である。

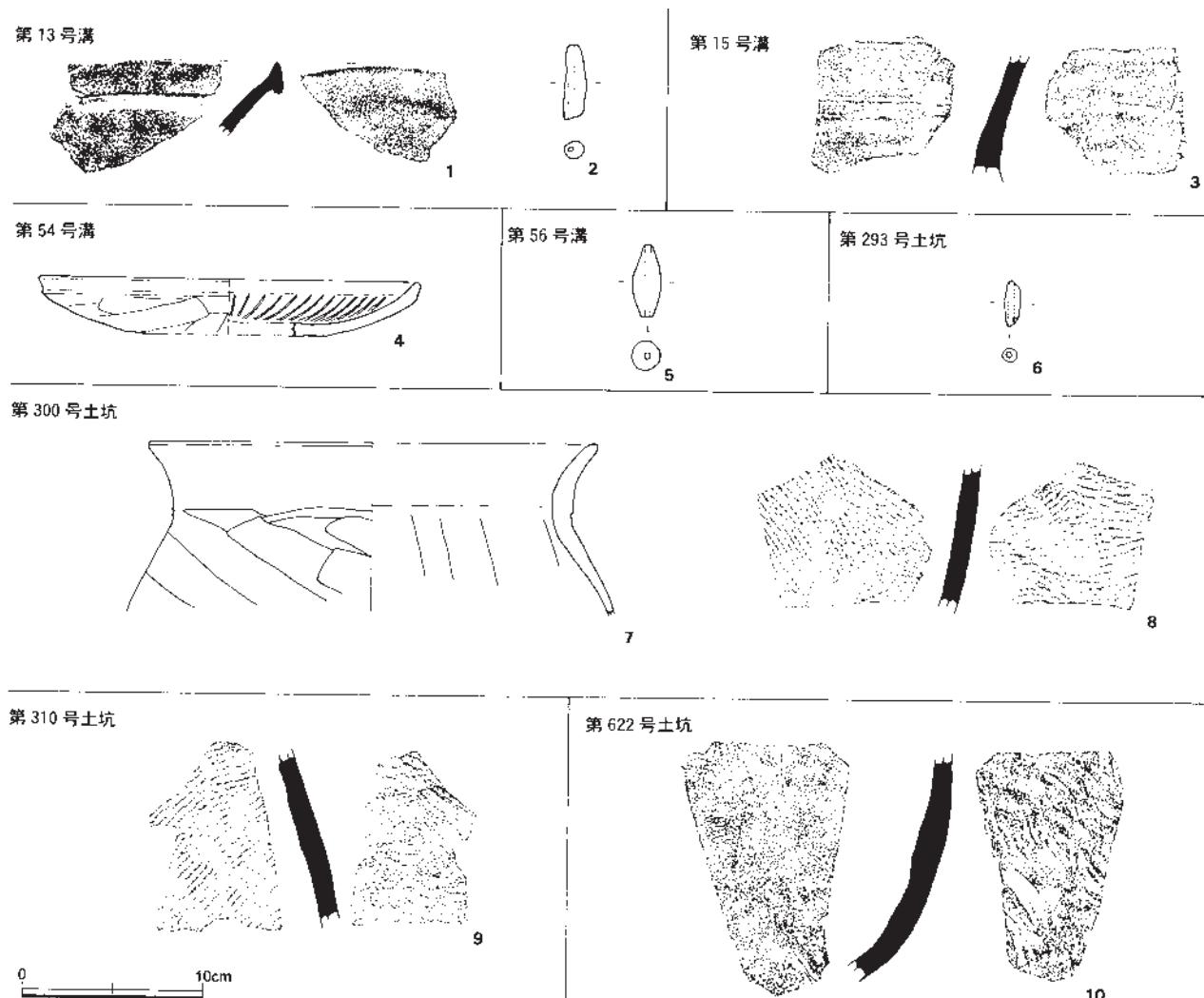
#### 第54号溝（第134・135図、第136図4、第56表）

第21次調査区A・C区で確認され、第128・130号堅

穴建物跡を切り、第13号溝に切られる。a・b・cの3つに分かれており、断続的に残る区画溝と考えられ、道路跡の所で途切れている。主軸方位はN-60°-Wである。aは幅1.8m、bは幅0.95~1.8m、cは幅0.9~1.2mを測る。aは断面形態が逆台形を呈し、上部がやや広がる。確認面からの深さは35cmを測る。cは確認面から10cmの深さである。

北側には正倉院（南）があり、正倉院の南辺区画溝は礎石建物に切られているため、8世紀末頃には正倉院が南に拡張されていることが推定される。主軸方位は正倉院と一致することから、この溝は拡張後の正倉院（南）南辺区画溝の可能性が高い。

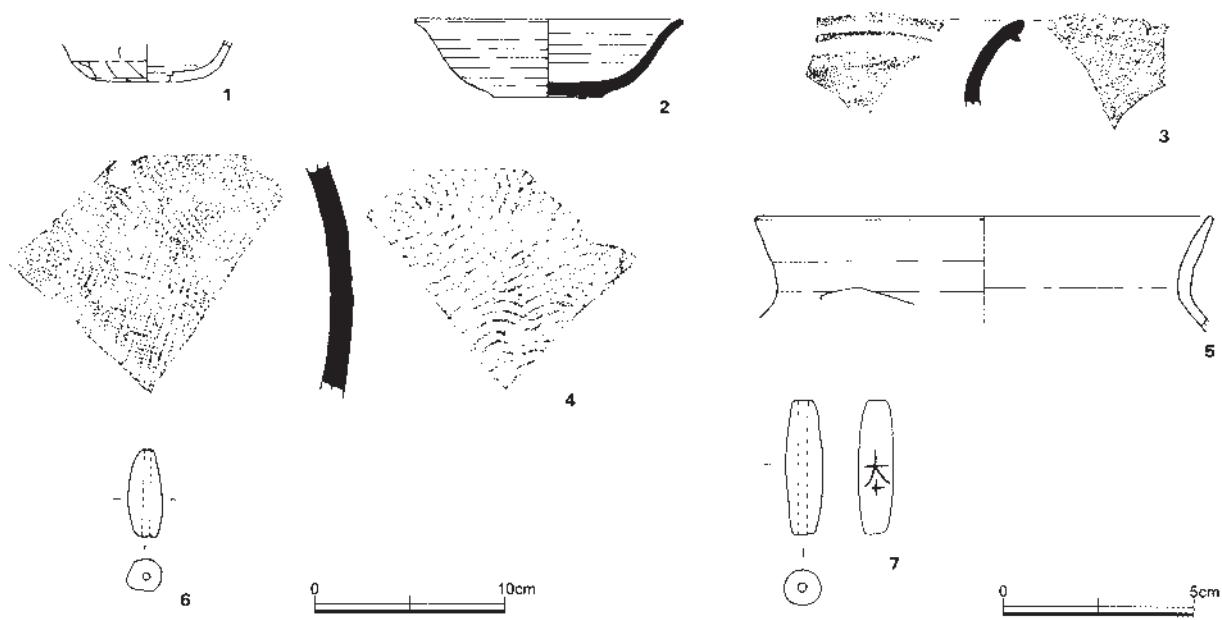
図示できた遺物は、第136図4の暗文皿である。第54(a)号溝から出土した。



第136図 溝・土坑出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
136図	1	SD13	S	甕			A C H	良	灰		内外面に自然釉
	2		土錘		幅 1.1	厚 1.0	A C E	普	橙	90%	重さ 5.31 g
	3	SD15	S	甕			A C H	良	青灰		
	4	SD54	H	皿	(20.8)	(3.0)	A C E	普	暗褐	25%	
	5	SD56		土錘	長 4.0	幅 1.5	厚 1.7	A C E	普	橙	95% 重さ 7.65 g
	6	SK293		土錘	長 2.5	幅 0.8	厚 0.8	A C E	普	橙	80% 重さ 1.65 g
	7	SK300	H	甕	24.5		A B C E	普	橙	20%	
	8	S	甕				A C F H	良	灰		
	9	SK310	S	甕			A C E H	良	青灰		
	10	SK622	S	甕			A C F H	普	青灰		

第56表 溝・土坑出土遺物観察表



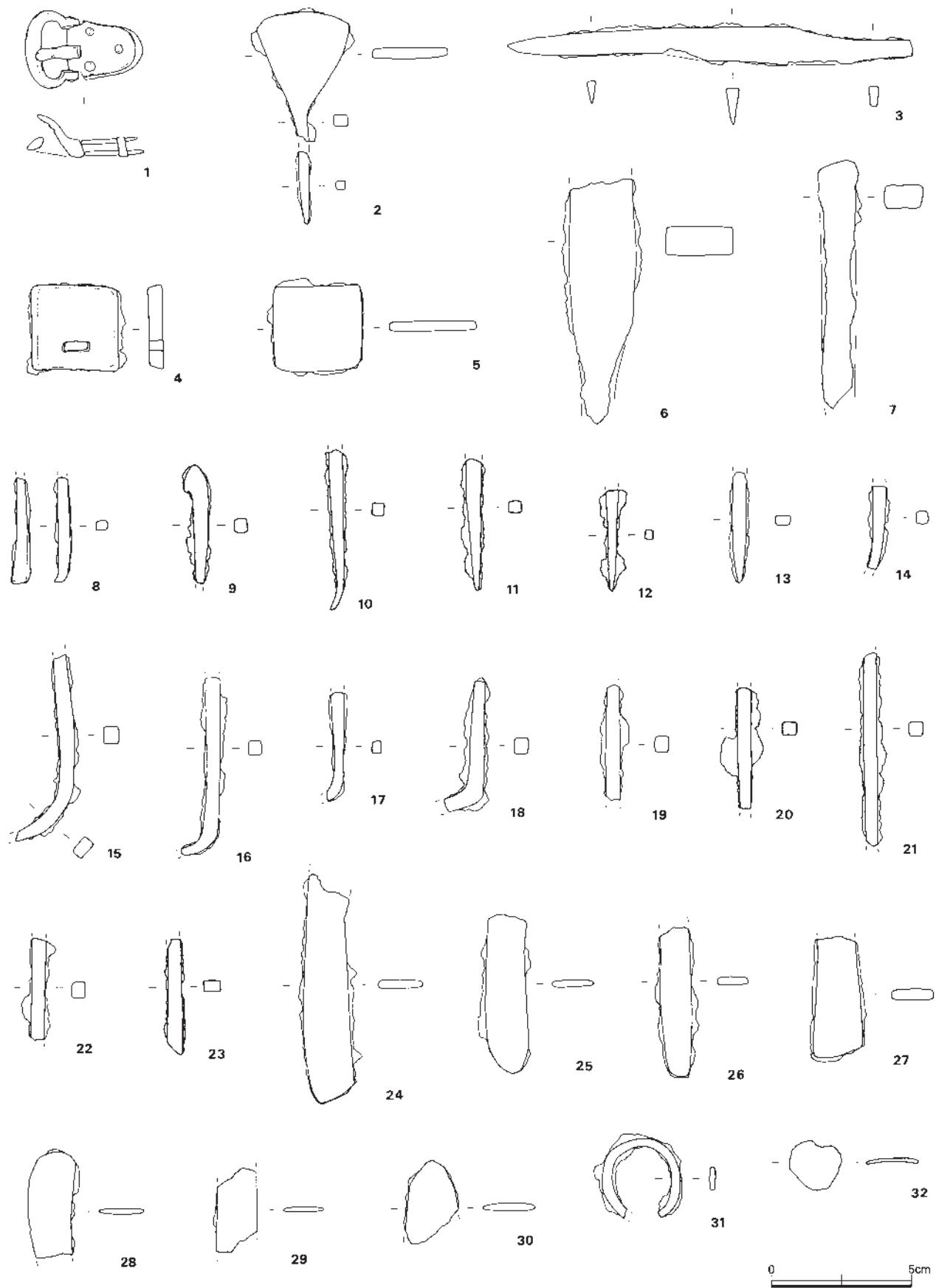
第137図 第6・15・21次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
137図 1		H	壺				A B C E	普	橙	15%	
2		S	壺	(13.8)	4.2	5.5	A C H	不良	灰	25%	
3		S	甕				A C	良	青灰		内外面に自然釉
4		S	甕				A C F H	普	灰		
5		H	甕	(23.6)			A C E	普	橙	10%	
6			土錘	長 4.6	幅 1.8	厚 1.7	A B C E	不良	にぶい橙	100%	重さ 13.74g
7			土錘	長 3.5	幅 1.0	厚 0.9	A B C E	普	橙	100%	重さ 3.10 g 「本」の刻字

第57表 第6・15・21次調査区出土遺物観察表



調査風景



第138図 金属製品集成

番号	種類	出土遺構	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
138 図 1	帶金具	SJ26	4.2	2.8	0.6	13.24 g	63 図 49
2	鉄鏃	SJ26	7.6	3.2	0.4	8.73 g	63 図 50
3	刀子	SJ25	14.4	1.3	0.4	13.66 g	55 図 45
4	方形鉄製品	SJ76	3.0	3.0	0.5	15.75 g	72 図 27
5	方形鉄製品	SD9	3.0	3.1	0.4	14.15 g	104 図 44
6	延板状鉄製品	SD9		2.4	1.0	91.85 g	104 図 45
7	棒状鉄製品	SJ29		1.3	0.8	21.63 g	66 図 18
8	棒状鉄製品	4次調査区	0.4	0.4		1.67 g	109 図 20
9	釘	SJ127		0.5	0.5	2.99 g	132 図 33
10	釘	SJ127		0.5	0.5	3.21 g	132 図 34
11	釘	SJ127		0.5	0.4	3.07 g	132 図 35
12	釘	SJ127		0.3	0.3	1.57 g	132 図 37
13	釘	SJ24		0.5	0.4	20.3 g	52 図 21
14	釘	SJ17		0.5	0.5	1.66 g	46 図 8
15	釘	SA1		0.5	0.6	12.33 g	30 図 12
16	釘	4次調査区		0.5	0.5	7.44 g	109 図 19
17	釘	SD7		0.4	0.4	2.13 g	100 図 43
18	棒状鉄製品	SJ21		0.5	0.6	5.24 g	49 図 17
19	棒状鉄製品	SJ13		0.5	0.6	3.28 g	39 図 138
20	棒状鉄製品	SJ127		0.5	0.5	4.25 g	132 図 36
21	棒状鉄製品	SJ13		0.5	0.5	8.25 g	39 図 139
22	棒状鉄製品	SJ13		0.5	0.6	3.42 g	39 図 137
23	棒状鉄製品	SJ127		0.5	0.4	1.81 g	132 図 38
24	延板状鉄製品	SJ26		1.7	0.3	16.05 g	63 図 51
25	延板状鉄製品	SJ26		1.5	0.2	7.35 g	63 図 52
26	延板状鉄製品	SJ29		1.1	0.2	6.19 g	66 図 17
27	延板状鉄製品	SD7		1.7	0.4	12.07 g	100 図 44
28	延板状鉄製品	SJ13		1.6	0.2	3.44 g	39 図 140
29	延板状鉄製品	SK75		1.4	0.2	1.81 g	85 図 196
30	延板状鉄製品	SJ21		1.9	0.2	2.60 g	49 図 16
31	輪状鉄製品	SJ26		2.7	0.2	4.02 g	63 図 53
32	銅片	SJ29	1.7	1.8	0.1	1.31 g	66 図 16

第58表 金属製品一覧表



# IV 調査のまとめ

## 1 はじめに

幡羅遺跡の官衙施設は大きく、北西部が正倉域、南東部が実務官衙域に分けられる。それを隔てているのは、遺跡の中央を走る道路跡である。今回報告したのは、道路跡と実務官衙域の一部で、確認された古代の主な遺構は、側柱式を主体とする掘立柱建物跡13棟、掘立柱塀跡3基、鍛冶工房跡を含む竪穴建物跡47棟、廃棄土坑や粘土採掘坑と考えられる土坑7基、道路側溝を含む溝7条、二重溝と土壙による区画等である。土坑は他に多数確認されているが、大部分は中世頃のものと思われる。

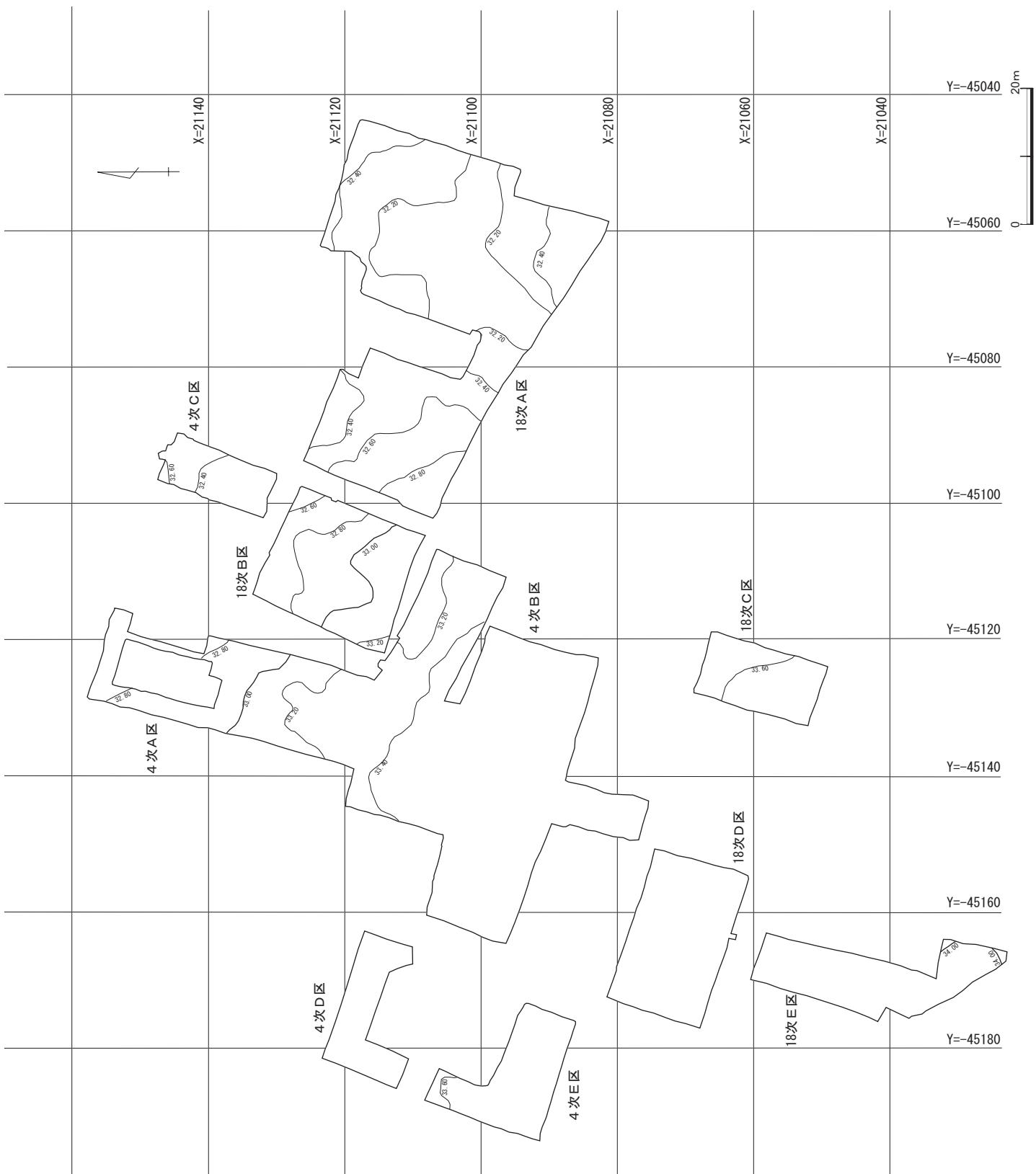
## 2 実務官衙域

現在までのところ、郡庁が確認されていないが、南東部に広がる実務官衙域の状況は、第4・18・19次調査によって概要が明らかになってきている。第19次調査区からは、四面庇建物を主殿とし塀で囲まれた施設、溝で囲まれた施設が東西に並んで確認されている。これについては、今後の報告時に取り上げることとし、ここでは今回報告分について検討したい。

第4・18次調査区は、実務官衙域の中でも外縁部に位置する。現在はほぼ平坦であるが、旧地形は起伏に富んでいる（第139図）。南部は高く、北部は急激に低くなり、第18次調査区A区において一部谷状となる部分も認められる。谷状となる部分は、現在でもわずかに低く、地元ではその周辺を「クボ」と呼んでいる。地形が低い部分には、中世の土坑が密集して認められる。古代の掘立柱建物跡・塀跡が認められるのは、第4次調査区A区とB区の境界部、第18次調査区B区、第18次調査区A区の南西部と南東部である。この立地は、比較的高い部分の先端部に当たり、低く傾斜していく等高線に沿っていると言える。第4次調査区B・D・E区、第18次調査区D・E区等は高く平坦な地形

であるが、掘立柱建物跡等は認められない。しかし、第4次調査区E区で第10号溝、第18次調査区D・E区で第49号溝が確認されており、区画溝の可能性を考えられる。いずれも7世紀末頃の竪穴建物跡に切られしており、7世紀後半のものと推定される。区画内部の状況は明らかではないが、遺跡成立当初の官衙等の施設であろう（第140図）。今回は、仮に7世紀後半頃をA期、7世紀末から二重溝と土壙による区画が成立するまでをB期、二重溝と土壙による区画の段階をC期と呼ぶこととし、第19次調査区等の検討時に改めて実務官衙域の変遷をまとめることにしたい。

B期の建物ブロックは第141図に示した。更に細分が可能であるが、今後の検討に委ねることとし、今回は大枠の中で捉えることにしたい。B期は特に7世紀末頃を中心に遺構が多い。掘立柱建物跡の一部の他に、鍛冶工房跡である第26号竪穴建物跡や廃棄土坑である第75号土坑、今回報告しなかったが第3～6号特殊土坑等がこの時期のものである。今後の検討を要するが、この時期を中心に機能すると思われる第19次調査区の塀で囲まれた施設の周辺ということが、7世紀末頃を中心とする遺構群が多く分布することに関係しているか。建物跡については、地形に沿ってほぼ一列に並ぶ。西ブロックは5×2間の第24・25号建物跡と3×2間の第26号建物跡がL字に、2×2間以上の第27号建物跡が平行に並ぶ。また、2×2間の小規模な倉庫跡を伴う。西ブロックは2時期あり、範囲は30×20mである。中ブロックは詳細は明らかではないが、建物跡の他に塀跡も認められる。中ブロックと東ブロックの間は谷状となり、東部で地形が再び高くなつたところで東ブロックに属する3棟の建物跡が重複して確認された。建物群は更に東へと広がっていると思われる。中ブロックの規模は、谷状地形との関係から、西ブロックとほぼ同じかやや小さいものと思われる。建物群の詳細な時期を決定することは困難であるが、第24・26号建物跡から出土した土師器坏（第30図1・4）が参



第139図 第4・18次調査区地形図



第140図 A期建物ブロック分布図



第141図 B期建物ブロック分布図



第142図 C期建物ブロック分布図

考になると思われる。2個体はほぼ同じ口径、器高で、共に底部付近に稜を持つ。底部は平底風で、9世紀前半に位置付けられると思われる。この遺物を評価すると、西プロックは1時期目が第25・27号建物跡が平行に並び、2時期目が第24・26号建物跡がL字に並ぶと推定される。第40号建物跡には建て替えが認められず、そのいずれかの時期に属すると思われる。2時期目の終わりは9世紀前半頃と推定される。

次にC期は第142図に示した。二重溝と土壙による区画が構築され、規模は一辺約120mの方形である。主軸方位はA・B期の50°前後の傾きとは異なり、20°前後の傾きとなる。区画には、第1号塀跡、第17・18・65～69号竪穴建物跡が伴うと思われる。区画の中心部は全く調査されていないので、その性格は不明である。成立時期は明確ではないが、B期西プロックの最終時期が9世紀前半頃であるため、最も早く9世紀前半～中葉と考えられる。廃絶時期は11世紀前半頃と推定される。

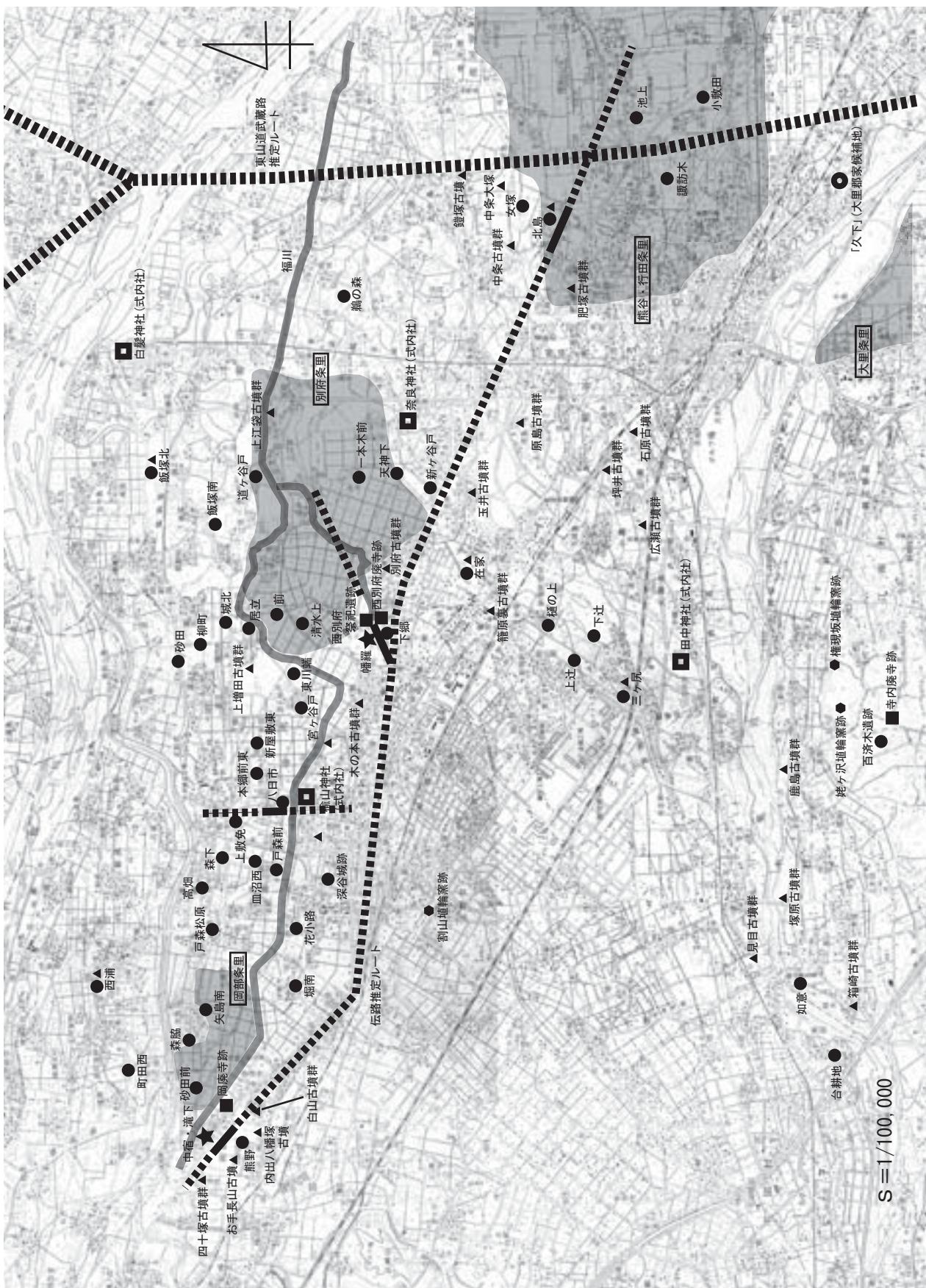
方一町程度の区画施設は、近辺では熊谷市北島遺跡、諫訪木遺跡、飯塚北遺跡で確認されている。北島遺跡と諫訪木遺跡は二重溝で、飯塚北遺跡は1本の溝で区画される。北島遺跡と諫訪木遺跡の区画内には、四面庇建物を中心とする建物群が造られる。その中には竪穴建物も含まれる点が、幡羅遺跡と共通している。また、飯塚北遺跡では、多量の施釉陶器が出土している。これらの遺跡は、居宅的な性格である可能性が最も高いと考えられる。これら3遺跡の時期は概ね9世紀前半～10世紀と推定されており、幡羅遺跡のものとほぼ同時期と考えられる。そうしたことから考慮すると、C期の区画施設の成立を9世紀前半～中葉とすることができる。幡羅郡家の施設では、正倉が10世紀前半で廃絶することが明らかになっているが、C期の区画施設は、それ以後も継続すると考えられる。郡家内の施設ではあるが、律令体制が揺らいでいく過程にあり、郡家の変質を示す例として捉えられるのではないだろうか。

### 3 道路跡

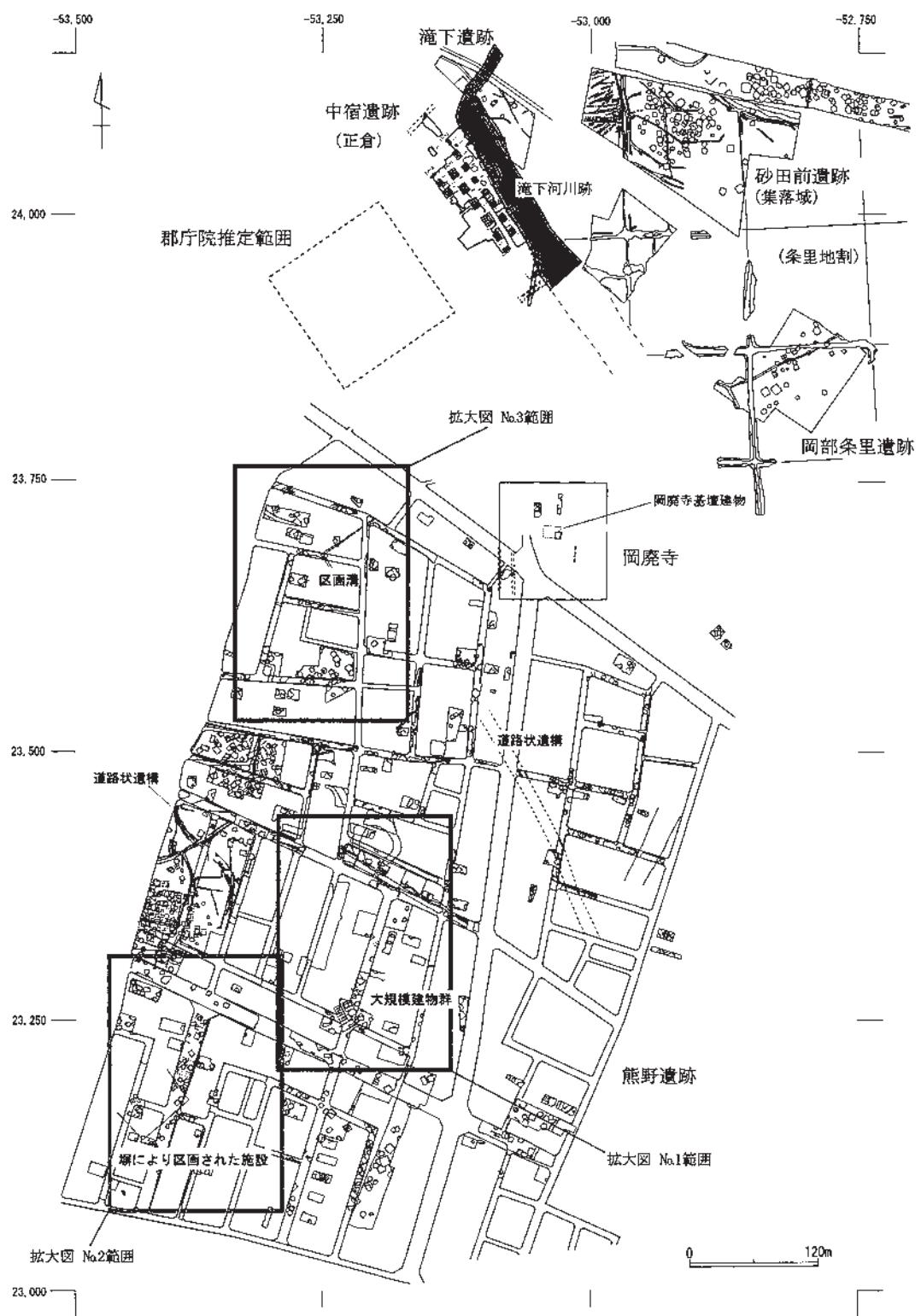
確認された道路跡は、下郷遺跡第6次調査区から幡羅遺跡第21次調査区まで約250mにわたり平行する溝が続くもので、路面幅約8mと大規模なものである。それより南西には同方向の現道が延び、古代の道路の名残りと思われる。また、北東は道路の痕跡が不明瞭となるが、西別府祭祀遺跡の方向へ向かっており、西別府祭祀遺跡との合流箇所に、台地から低地へ降りる切り通しが存在する。こうしたことから、道路は少なくとも西別府祭祀遺跡までは延びるものと思われる。西別府祭祀遺跡の性格については、現在のところ明らかではないが、深谷市榛沢郡家跡（中宿遺跡）と運河跡と考えられる滝下遺跡の関係を参考にすると、同じような景観が浮かび上がる。道路跡はそこから更に北西に延びることが充分に考えられる。なお、西別府祭祀遺跡より更に北西に、直線的に延びるとすれば、東山道武藏路の利根川推定渡河点の一つである「古海」周辺（小宮2002他）に至る点は興味深い。

道路の建設時期については、道路跡と切り合い関係を持つ竪穴建物跡出土遺物が指標となる。その中でも最も良好な資料は第121号竪穴建物跡出土土器で、富田和夫氏による熊野遺跡出土土器分類（富田2002）に照らすと、熊野II期古相に相当すると思われる。推定される年代は7世紀末～8世紀初頭であり、正倉成立とほぼ同時期である。主軸方位は大きく異なるが、道路と正倉はほぼ同時に建設されたものと考えたい。

次に廃絶時期については、それと重複する8世紀以降の遺構が無いことから、明らかではない。8世紀末頃に正倉院（南）が南に拡張しており、第21次調査区第54号溝が拡張後の南辺区画溝と考えられるが、第54号溝は道路跡の手前で途切れている。正倉院（南）は道路に接続するような状態で方形区画はなっていない。また道路の北西側溝が正倉等の敷地を大きく区画するための溝を兼ねているためか、南東側溝よりも規模が大きい。正倉区画溝が正倉廃絶まで機能していた可能性は必ずしもないが、正倉が廃絶する10世紀前



第143図 幡羅遺跡周辺の交通網（1/100,000）



第144図 熊野・中宿遺跡の周辺 (深谷市教育委員会2006より転載)

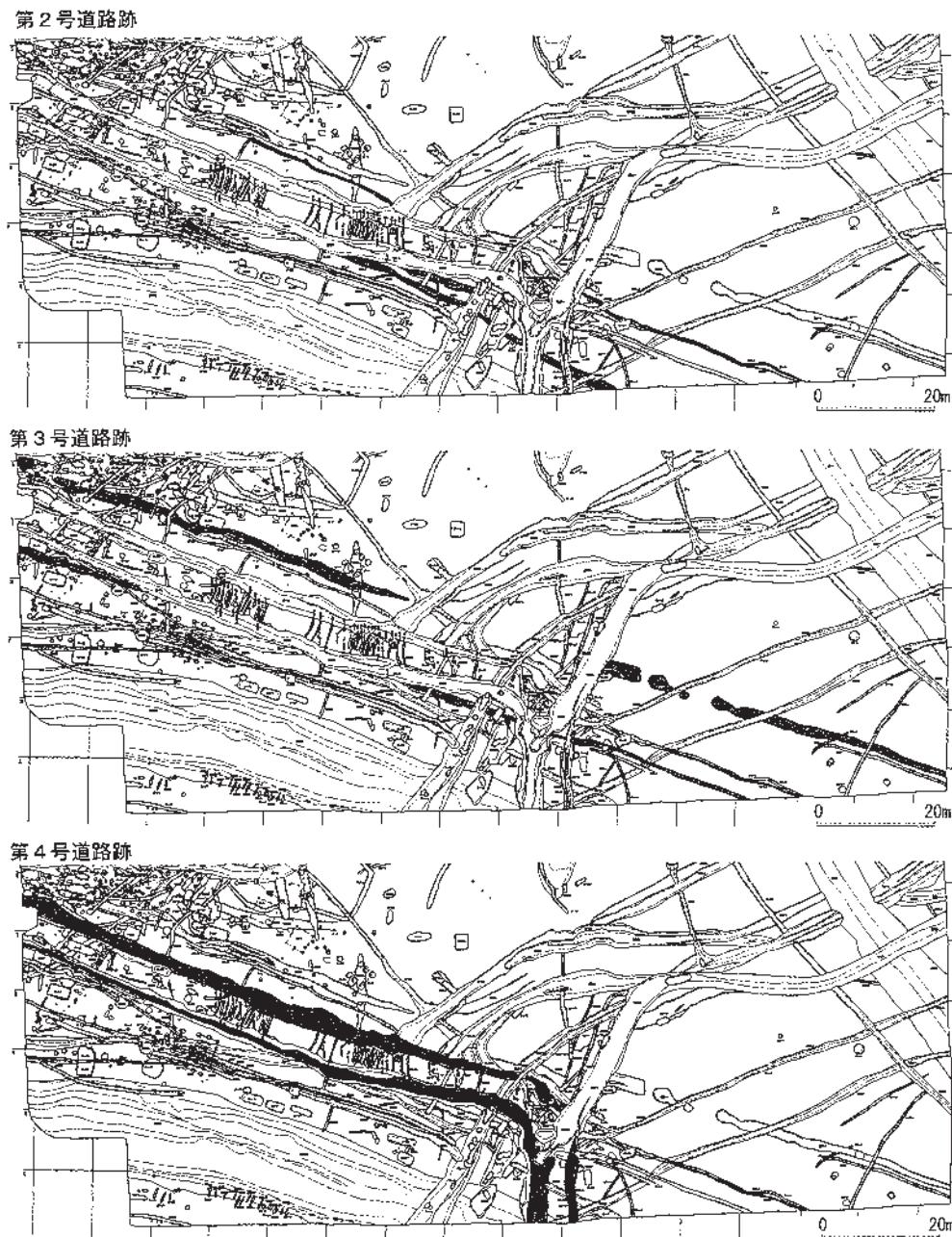
半頃まで道路が存続していた可能性は充分に考えられる。10世紀前半頃の第127号竪穴建物跡が道路に規制されるように同じ方位で、道路からやや離れた位置に造られることは、道路の存続を示唆しているのかも知れない。しかし、二重溝と土塁による区画の北西隅と重なっており、この区画が成立する9世紀前半～中葉以降は、区画を迂回していたことも考えられよう。

郡家は交通の要衝に建設されることが多いと考えられる。今回確認された道路跡は、方向的に西別府祭祀遺跡、そして利根川推定渡河点（第143図）へと向かっている。西別府祭祀遺跡に津の機能があると推定するなら、津からの搬入路としての機能があったと思われる。また、利根川推定渡河点へと延びるとするなら、上野へのショートカットの道を考えることができる。この道路の他に、埼玉郡、榛沢郡とを結ぶ伝路（郡間道路）が近くにあったと想定される。埼玉郡に属すると思われる北島遺跡、榛沢郡の熊野遺跡で、伝路と考えられる道路跡が確認されており（第144～146図）、

その中間に位置する幡羅郡家付近にも東西に走る道路があったはずである。熊野遺跡で確認された道路跡は、旧中山道とほぼ同じルートであり、旧中山道と一部重なる古代の道路が想定されよう（鳥羽1998）。幡羅郡家は、伝路と上野方面への道路との分岐点に位置し、更に水上交通の津が台地下にあるという景観が想定される。位置的にも幡羅郡の中心部に位置し、交通の面から見ても、複数の道の集合点に幡羅郡家は建設されていることが指摘できる。ただし、榛沢郡の滝下遺跡の整備は7世紀末頃と推定され、滝下遺跡と繋がる幡羅遺跡の台地下についても整備時期は同様である可能性が高い。また、今回報告した道路跡についても、遺跡が成立した当初からあった訳ではなく、正倉等が整備される7世紀末頃に建設されたと考えられる。一方、熊野遺跡で確認された伝路と考えられる道路跡のうち道路遺構Ⅰ・Ⅲは、主軸方位や切り合い関係等から、遺跡が成立した当初である7世紀後半から機能していたと考えられている。道路網の関係については、更に



第145図 熊野遺跡の道路跡（深谷市教育委員会2006より転載）



第146図 北島遺跡の道路跡（田中2004より転載）

整理して考える必要があるが、評家間を結ぶ道路等の主要道路が最初に存在し、その後、7世紀末頃を中心にして水上交通路やその他の交通路が整備されていくものと考えられる。ただし、水上交通路については、既存のものを改修した可能性が考えられる。幡羅郡と榛沢郡の境界付近に位置する八日市遺跡で確認された古代の道路跡もまた、上野方面へのショートカットの可能性が考えられる。こういった道路の建設により、拠点間を結ぶ交通網は充実していったと思われる。

#### 4 遺構の主軸方位

道路跡と正倉、実務官衙施設の関係は、それぞれが異なる方位をとっており、あまり計画性や規制関係は認められない。遺跡の成立から時期を追っていくと、遺跡が成立する7世紀後半には、実務官衙域には既に官衙施設があったと思われる。その後、実務官衙域の北西に道路跡、更に北西に正倉院（南）が建設される。実務官衙域と道路、そして正倉域の主軸方位は、

前述した通り全て一致しない。道路跡と主軸方位を等しくするのは、遺跡南西部の道路跡周辺に限られる。ここについては、主軸方位を道路に規制されていると考えることもできる。しかし注目したいのは、遺跡成立頃、つまり道路や正倉が建設される前の堅穴建物跡を中心とする7世紀後半の遺構の主軸方位である。正倉域について見ていくと、第3次調査区周辺では、その後の正倉の主軸方位と同じあり方である。また、実務官衙域についても同様に、その後の遺構のあり方と同じと言える。つまり、主軸方位のあり方は、郡家が整備される7世紀末頃の前後で基本的な変化は認められないということである。この理由として考えられるのは、地形等の自然的要因である。現状では平坦に近いが、旧地形は起伏に富んでおり、実務官衙域の北部において顕著である。実務官衙域の建物ブロックは地形に沿って構築されており、それは他の地区においても言えるのではないだろうか。主軸方位のあり方が自然的要因に基づくことは、正倉と同じ主軸方位をとる第3次調査区と、道路跡と同じ主軸方位をとる遺跡南西部との中間にあら第5次調査区で確認された堅穴建

物跡が様々な方位を向くことからも肯定されよう。

## 5 おわりに

今回の報告では、実務官衙域の一部と道路跡について述べてきた。これによって遺跡全体の様相が垣間見えてきた感がある。しかし、四面庇建物を主殿とし屏で囲まれた施設周辺が整理中であり、また郡庁が未確認であるなど、中枢的な施設についてはまだほとんど明らかになっていない。今後の調査、検討に残された課題は非常に多いと言わざるを得ない状況である。

発掘調査から報告書の刊行を行うにあたり、埼玉県発掘調査評価・指導委員会の須田勉氏、山中敏史氏、佐藤信氏、大橋泰夫氏には多くのご教示を頂いた。

最後に改めて、この発掘調査に深いご理解とご協力を頂いた地権者の方々を始め、幡羅遺跡の発掘調査、整理作業に携わり、文化財を後世に残すことにご尽力頂いた皆様に敬意を表したい。

### 〈参考文献〉

- 赤川正秀 2000 「筑後国御原郡衙の正倉」『郡衙正倉の成立と変遷』奈良文化財研究所  
青木克尚 2004 『下郷遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第72集  
青木克尚他 2006 『幡羅遺跡Ⅰ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第75集  
板橋正幸 2007 『長者平遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第300集  
江口 桂 2004 「武藏国」『日本古代道路辞典』古代交通研究会  
大橋泰夫 2001 『那須官衙関連遺跡VII』栃木県埋蔵文化財調査報告第249集  
岡部町教育委員会 2002 『古代の役所』  
小宮俊久 2002 「上（毛）野国の古代交通網と官衙」『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古別冊6  
田中広明他 1997 『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集  
田中広明 2002 「埼玉郡－北島遺跡周辺－」『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古別冊6  
田中広明 2002 『北島遺跡V』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第278集  
田中広明 2004 『北島遺跡IX』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第293集  
知久裕昭 2002 「幡羅郡－幡羅郡家周辺の遺跡群－」『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古別冊6  
知久裕昭 2003 『八日市遺跡』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第68集

- 知久裕昭 2005 「幡羅遺跡の発掘調査」『武藏野』第341号
- 知久裕昭 2006 「武藏国幡羅郡家跡の調査」『条里制・古代都市研究』第22号
- 知久裕昭 2007 「幡羅遺跡発掘調査の概要」『第33回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会
- 知久裕昭 2007 『居立（第2次）／森吉古墳／下郷』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第92集
- 知久裕昭 2008 『幡羅遺跡II』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第88集
- 鳥羽政之他 1995 『中宿遺跡』埼玉県岡部町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 鳥羽政之他 1997 『熊野遺跡発掘調査概要報告書』岡部町遺跡調査会報告書第6集
- 鳥羽政之他 1998 「律令期集落の成立と変貌（上）－北武藏の7、8世紀の事例を中心として－」『土曜考古』第22号
- 鳥羽政之他 1999 『中宿遺跡III』埼玉県岡部町埋蔵文化財調査報告書第4集
- 鳥羽政之他 2001 『熊野遺跡I』岡部町遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第9集
- 鳥羽政之他 2002 「榛沢郡家と幡羅郡家」『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古別冊6
- 鳥羽政之 2003 『東国における郡家形成の過程』『古代武藏国を考える』古代武藏国研究会
- 鳥羽政之他 2004 『熊野遺跡III』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集
- 鳥羽政之 2006 「地方官衙遺跡の調査事例」『掘立柱・礎石建物建築の考古学資料集』帝京大学山梨文化財研究所
- 富田和夫 2000 『大寄遺跡I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第268集
- 富田和夫 2002 『熊野遺跡（A・C・D区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集
- 中山浩彦 1995 『宮ヶ谷戸／根岸／八日市／城西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第172集
- 根本 靖 2002 「東山道武藏路と交通施設」『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古別冊6
- 深谷市教育委員会 2006 『岡部町史－原始・古代資料編－』
- 福田 聖他 2002 『大寄遺跡II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第280集
- 松田 哲他 2000 『西別府祭祀遺跡』平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 宮本直樹 1997 『滝下遺跡』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第2集
- 山中敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
- 山中敏史他 2003 『古代の官衙遺跡I 遺構編』奈良文化財研究所
- 山中敏史他 2004 『古代の官衙遺跡II 遺物・遺跡編』奈良文化財研究所
- 山本 稔 2005 『飯塚北遺跡I』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第306集
- 山本 稔 2006 『飯塚北II／飯塚古墳群II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第321集
- 吉野 健 1992 『西別府廃寺』平成3年熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 吉野 健 1994 『西別府廃寺（第2次）』平成5年熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 吉野 健 2001 『諏訪木遺跡』熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書



# 写 真 図 版



図版 1



第4次調査区A・B区



第4次調査区B区



第4次調査区C区

## 図版 2



第4次調査区 E区



第18次調査区 A区 (1)



第18次調査区 A区 (2)

図版 3



第18次調査区 B 区



第18次調査区 C 区



第18次調査区 E 区

## 図版 4



第24・25号建物跡



第26号建物跡



第27号建物跡

図版 5



第34～36号建物跡



第34号建物跡



第35・36号建物跡

## 図版 6



第18次調査区 A 区南西部 (1)



第18次調査区 A 区南西部 (2)



第39号建物跡



第40号建物跡



第2・3号壠跡



第3号壠跡

## 図版 8



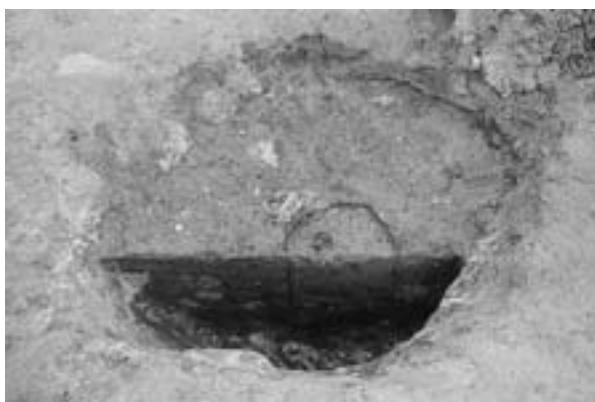
第24・25号建物跡 A - A'



第24・25号建物跡 B - B'



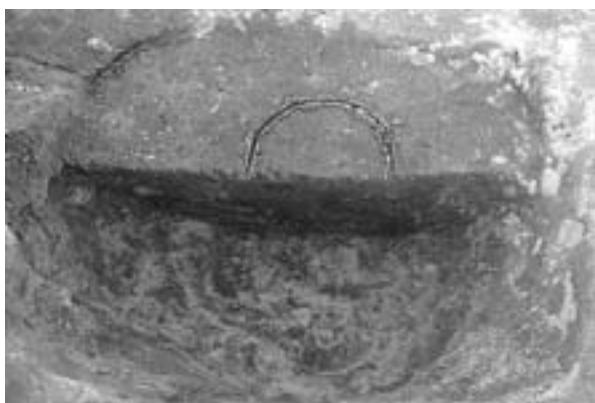
第26号建物跡 B - B'



第26号建物跡 A - A'



第27号建物跡 A - A'



第36号建物跡 A - A'



第36号建物跡 B - B'



第1号塙跡 A - A'



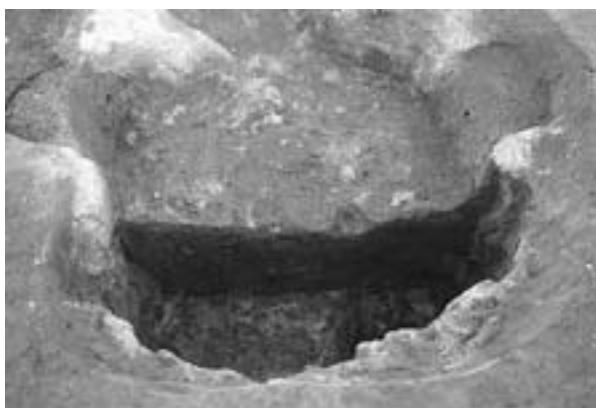
第1号塙跡B-B'



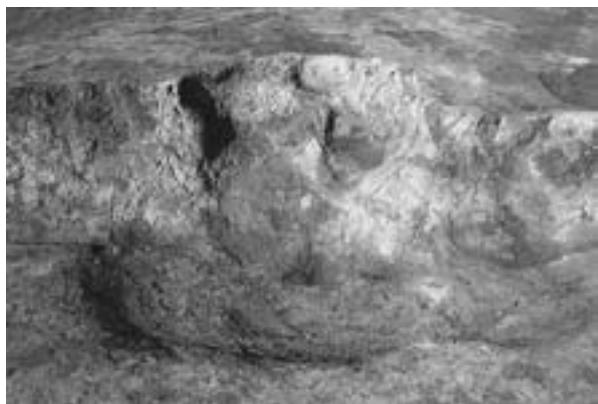
第2号塙跡A-A'



第2号塙跡C-C'



第3号塙跡A-A'



第13号竪穴建物跡カマド2



第21号竪穴建物跡遺物出土状況



第15号竪穴建物跡遺物出土状況



第15号竪穴建物跡

## 図版 10



第13号竪穴建物跡



第13号竪穴建物跡遺物出土状況



第13号竪穴建物跡カマド 1

図版 11



第14号竪穴建物跡



第14号竪穴建物跡カマド



第16号竪穴建物跡

## 図版 12



第26号竪穴建物跡



第26号竪穴建物跡遺物出土状況（1）



第26号竪穴建物跡遺物出土状況（2）

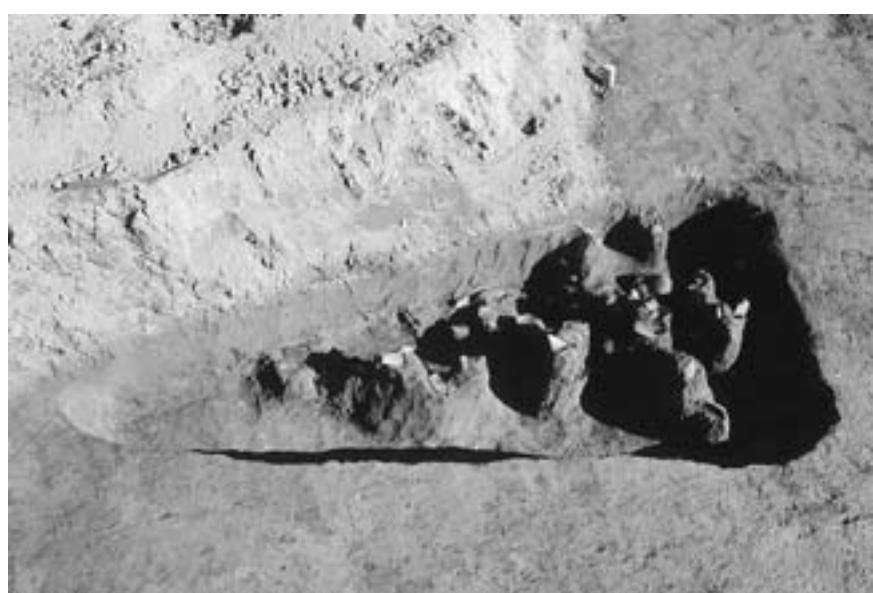
図版 13



第26号竪穴建物内鍛冶炉



第20・21号竪穴建物跡



第25号竪穴建物跡

## 図版 14



第69号竪穴建物跡



第75号土坑



第75号土坑遺物出土状況

図版 15



第94号土坑



第10号溝



第49号溝（1）

## 図版 16



第49号溝（2）



第7号溝（4次A区西）



第7号溝（4次A区東）



第8・9号溝（4次B区）



第9(a)号溝



第9号溝（18次E区）

## 図版 18



第8・9号溝（18次D区）



第8号溝（18次D区）



第9号溝（18次D区）



第28・29号竪穴建物跡



第27・28号竪穴建物跡、第10号溝



第26号竪穴建物跡鉄鏟出土状況



第70号土坑



第75号土坑



第7号溝（4次A区）



第11号溝（4次A区）



調査風景

## 図版 20



第6次調査区北部



第6次調査区東部



第13号溝（6次）



第14号溝（6次）(1)



第14号溝（6次）(2)

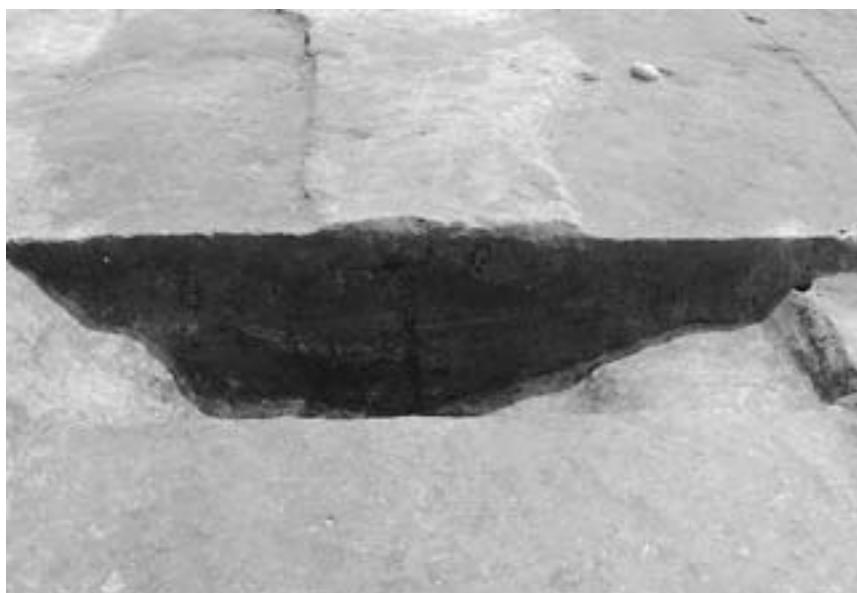


第49号竪穴建物跡

## 図版 22



第15次調査区



第14号溝（15次）



第21次調査区 A 区



第21次調査区



第1号道路跡（1）

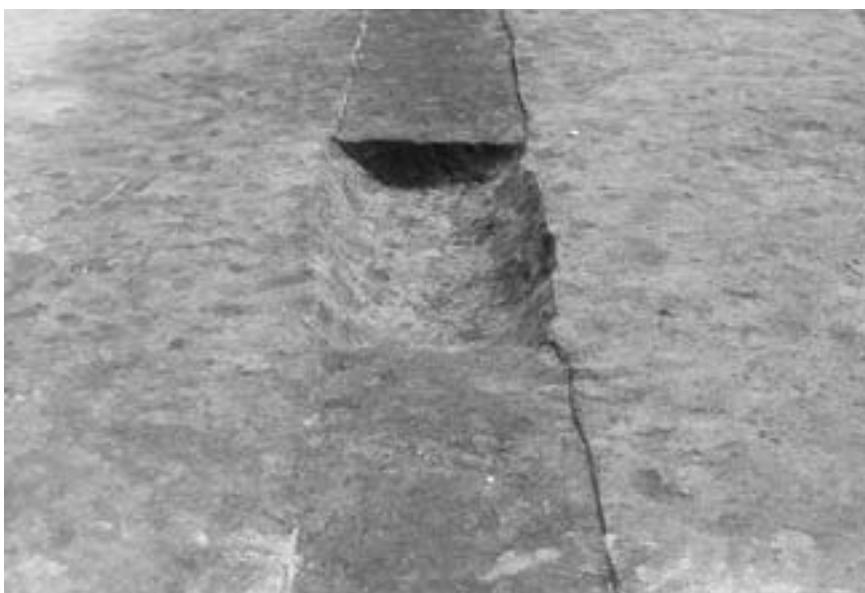


第1号道路跡（2）

## 図版 24



第14号溝（21次）



第25号溝（21次）



第1号道路跡（3）



## 図版 26



第122号竪穴建物跡



第123号竪穴建物跡



第127号竪穴建物跡



第127号竪穴建物跡遺物出土状況



第21次調査区 B 区



第21次調査区 C 区

## 図版 28



第54(a)号溝



第54(c)号溝



調査風景



## 図版 30



第34図39 (S J 13)



第35図43 (S J 13)



第35図44 (S J 13)



第35図48 (S J 13)



第35図49 (S J 13)



第35図51 (S J 13)



第35図52 (S J 13)



第35図53 (S J 13)



第35図55 (S J 13)



第35図56 (S J 13)



第35図57 (S J 13)



第35図59 (S J 13)



第35図63 (S J 13)



第35図67 (S J 13)



第35図69 (S J 13)



第35図70 (S J 13)



第35図71 (S J 13)

# 図版 31



第35図72 (S J 13)



第35図73 (S J 13)



第35図74 (S J 74)



第35図75 (S J 13)



第35図79 (S J 13)



第35図81 (S J 13)



第35図82 (S J 13)



第36図83 (S J 13)



第36図84 (S J 13)



第36図88 (S J 13)



第36図89 (S J 13)



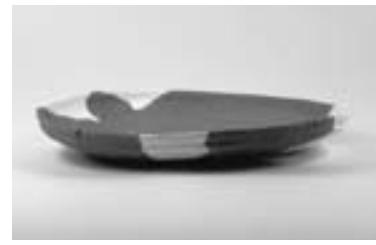
第36図90 (S J 13)



第36図91 (S J 13)



第36図92 (S J 13)



第36図100 (S J 13)



第36図96 (S J 13)



第36図97 (S J 13)

## 図版 32



第36図102 (S J 13)



第36図104 (S J 13)



第36図105 (S J 13)



第36図106 (S J 13)



第36図107 (S J 13)



第36図108 (S J 13)



第36図112 (S J 13)



第36図113 (S J 13)



第36図114 (S J 13)



第36図116 (S J 13)



第36図119 (S J 13)



第37図120 (S J 13)

図版 33



第37図121 (S J 13)



第37図122 (S J 13)



第37図123 (S J 13)



第38図126 (S J 13)



第38図127 (S J 13)



第41図 7 (S J 14)



第41図 2 (S J 14)



第41図 4 (S J 14)



第41図 5 (S J 14)

## 図版 34



第43図 1 (S J 15)



第43図 2 (S J 15)



第47図 3 (S J 18)



第47図 5 (S J 18)



第47図 11 (S J 18)



第49図 3 (S J 21)



第49図 4 (S J 21)



第49図 9 (S J 21)



第49図 8 (S J 21)



第49図 10 (S J 21)



第49図 15 (S J 21)

## 図版 35



第52図12 (S J 24)



第54図 2 (S J 25)



第54図 3 (S J 25)



第54図 8 (S J 25)



第54図 9 (S J 25)



第54図13 (S J 25)



第54図19 (S J 25)



第54図21 (S J 25)



第54図23 (S J 25)



第54図24 (S J 25)



第54図29 (S J 25)



第54図31 (S J 25)



第54図32 (S J 25)



第55図36 (S J 25)



第61図10 (S J 26)



第61図13 (S J 26)



第61図17 (S J 26)



第61図18 (S J 26)

## 図版 36



第61図20 (S J 26)



第61図23 (S J 26)



第61図31 (S J 26)



第62図41 (S J 26)



第66図 4 (S J 29)



第66図 5 (S J 29)



第66図 6 (S J 29)



第66図 9 (S J 29)



第66図12 (S J 29)



第67図20 (S J 68)



第69図 1 (S J 69)



第72図 2 (S J 73)



第72図 3 (S J 73)



第72図18 (S J 76)



第72図21 (S J 76)

## 図版 37



第78図2 (SK75)



第78図3 (SK75)



第78図4 (SK75)



第78図6 (SK75)



第78図7 (SK75)



第78図11 (SK75)



第78図12 (SK75)



第78図13 (SK75)



第78図19 (SK75)



第78図23 (SK75)



第75図25 (SK75)



第78図31 (SK75)



第78図34 (SK75)



第78図36 (SK75)



第78図42 (SK75)



第79図54 (SK75)



第79図55 (SK75)



第79図56 (SK75)

## 図版 38



第79図57 (S K 75)



第79図61 (S K 75)



第79図63 (S K 75)



第79図70 (S K 75)



第79図71 (S K 75)



第79図72 (S K 75)



第79図73 (S K 75)



第79図75 (S K 75)



第79図77 (S K 75)



第79図81 (S K 75)



第80図88 (S K 75)



第80図89 (S K 75)



第80図90 (S K 75)



第80図91 (S K 75)



第80図96 (S K 75)

図版 39



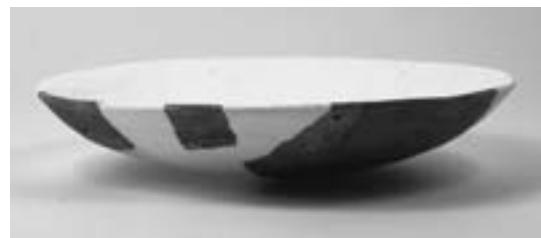
第80図100 (SK 75)



第80図102 (SK 75)



第80図103 (SK 75)



第80図104 (SK 75)



第80図106 (SK 75)



第80図107 (SK 75)



第80図110 (SK 75)



第80図111 (SK 75)



第80図114 (SK 75)



第81図118 (SK 75)



第81図121 (SK 75)



第81図123 (SK 75)



第81図124 (SK 75)



第81図127 (SK 75)



第81図129 (SK 75)

## 図版 40



第81図134 (SK 75)



第81図136 (SK 75)



第81図138 (SK 75)



第81図139 (SK 75)



第81図140 (SK 75)



第82図149 (SK 75)



第82図150 (SK 75)



第82図154 (SK 75)



第83図176 (SK 75)



第84図179 (SK 75)



第84図183 (SK 75)

図版 41



第84図184 (S K 75)



第84図186 (S K 75)



第85図193 (S K 75)



第88図 1 (S K 70)



第88図 2 (S K 70)



第99図 4 (S D 7)



第99図 6 (S D 7)



第99図33 (S D 7)



第100図 3 (S D 8)



第100図 4 (S D 8)



第102図10 (S D 9)



第102図 2 (S D 9)



第102図 6 (S D 9)



第102図11 (S D 9)



第102図12 (S D 9)



第102図29 (S D 9)

## 図版 42



第105図1 (S D 11)



第105図2 (S D 11)



第105図12 (S D 11)



第105図19 (S D 11)



第105図19 (S D 11)



第106図1 (第4次調査区)



第106図41 (第4次調査区)



第106図21 (第4次調査区)



第106図22 (第4次調査区)



第108図1 (第4次調査区)



第108図3 (第4次調査区)



第108図6 (第4次調査区)



第117図8 (S D 14)



第119図6 (S J 49)



第119図8 (S J 49)



第121図1 (S J 118)



第125図2 (S J 121)



第125図5 (S J 121)

図版 43



第125図12 (S J 121)



第125図29 (S J 121)



第128図 8 (S J 122)



第128図 1 (S J 122)



第128図10 (S J 123)



第131図 1 (S J 127)



第131図 2 (S J 127)



第131図 3 (S J 127)



第131図 4 (S J 127)



第131図 5 (S J 127)



第131図 6 (S J 127)



第131図 7 (S J 127)



第131図 8 (S J 127)



第131図 9 (S J 127)



第131図10 (S J 127)

## 図版 44



第136図 7 (S K 300)



第137図 7 (第15次調査区)



第34図 5 (S J 13)



第55図 46 (S J 25)



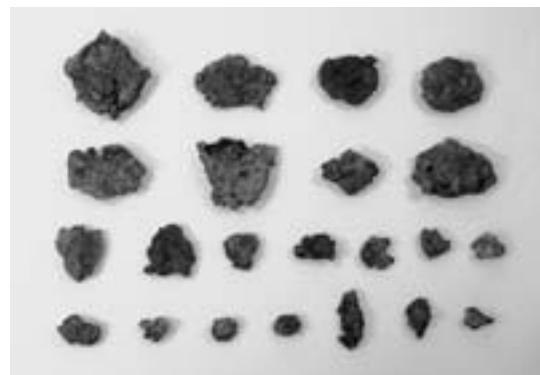
第63図 49 (S J 26)



第63図 49 (S J 26)



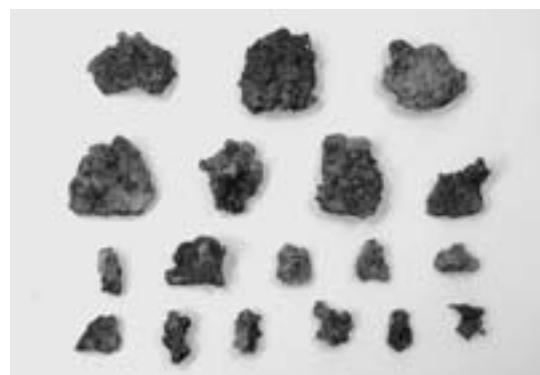
第63図 54 ~ 56 (S J 26)



第63図 57 ~ 78 (S J 26)



第62図 48 (S J 26)



第104図 46 ~ 63 (S D 9)



金属製品



錢貨



瓦



第13号竪穴建物跡出土編物石



第16号竪穴建物跡出土編物石



第121・127号竪穴建物跡出土編物石

## 図版 46



第109図32～36（第4次調査区）



第17図1・2（第4次調査区）



第17図3～5（第4・18次調査区）



第111図3・4（第21次調査区）



第111図1・2（第21次調査区）

# 報告書抄録

ふりがな	はらいせき さん						
書名	幡羅遺跡 III						
副書名	実務官衙域の調査(1)、道路跡の調査						
卷次							
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第99集						
編著者名	知久裕昭						
編集機関	深谷市教育委員会						
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL 048-572-9581						
発行年月日	2008年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村	北緯 (°,")	東経 (°,")	調査期間	調査面積	調査原因
幡羅遺跡 (4次)	深谷市東方 字辻3042、 3043、3045-1	11218	271	36 11 21	139 19 53 20030910 ↓ 20040210	2,000 m <sup>2</sup>	
幡羅遺跡 (6次)	深谷市東方 字辻3070-1	11218	271	36 11 20	139 19 45 20040907 ↓ 20041029	200 m <sup>2</sup>	
幡羅遺跡 (15次)	深谷市東方 字辻3070-1 3071-1	11218	271	36 11 19	139 19 44 20050516 ↓ 20050601	200 m <sup>2</sup>	
幡羅遺跡 (18次)	深谷市東方 字辻3026、 3040、3045-1	11218	271	36 11 21	139 19 54 20050901 ↓ 20051215	2,700 m <sup>2</sup>	
幡羅遺跡 (21次)	深谷市東方 字辻3057-1	11218	271	36 11 20	139 19 47 20070411 ↓ 20070629	1,400 m <sup>2</sup>	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
幡羅遺跡	官衙跡 集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	掘立柱建物 13棟 掘立柱壙跡 5棟 竪穴建物跡 33棟 正倉院区画溝 土坑 307基 溝 11条 井戸 1基 二重溝と土塁による区画	縄文土器 石器 土師器 須恵器 鐵製品 銅製品	幡羅郡家跡の実務官衙域外縁部を確認した。 道路跡を確認した。		

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第99集

幡 羅 遺 跡 III

印 刷 平成20年3月28日  
発 行 平成20年3月31日

発 行 埼玉県深谷市教育委員会

---

---